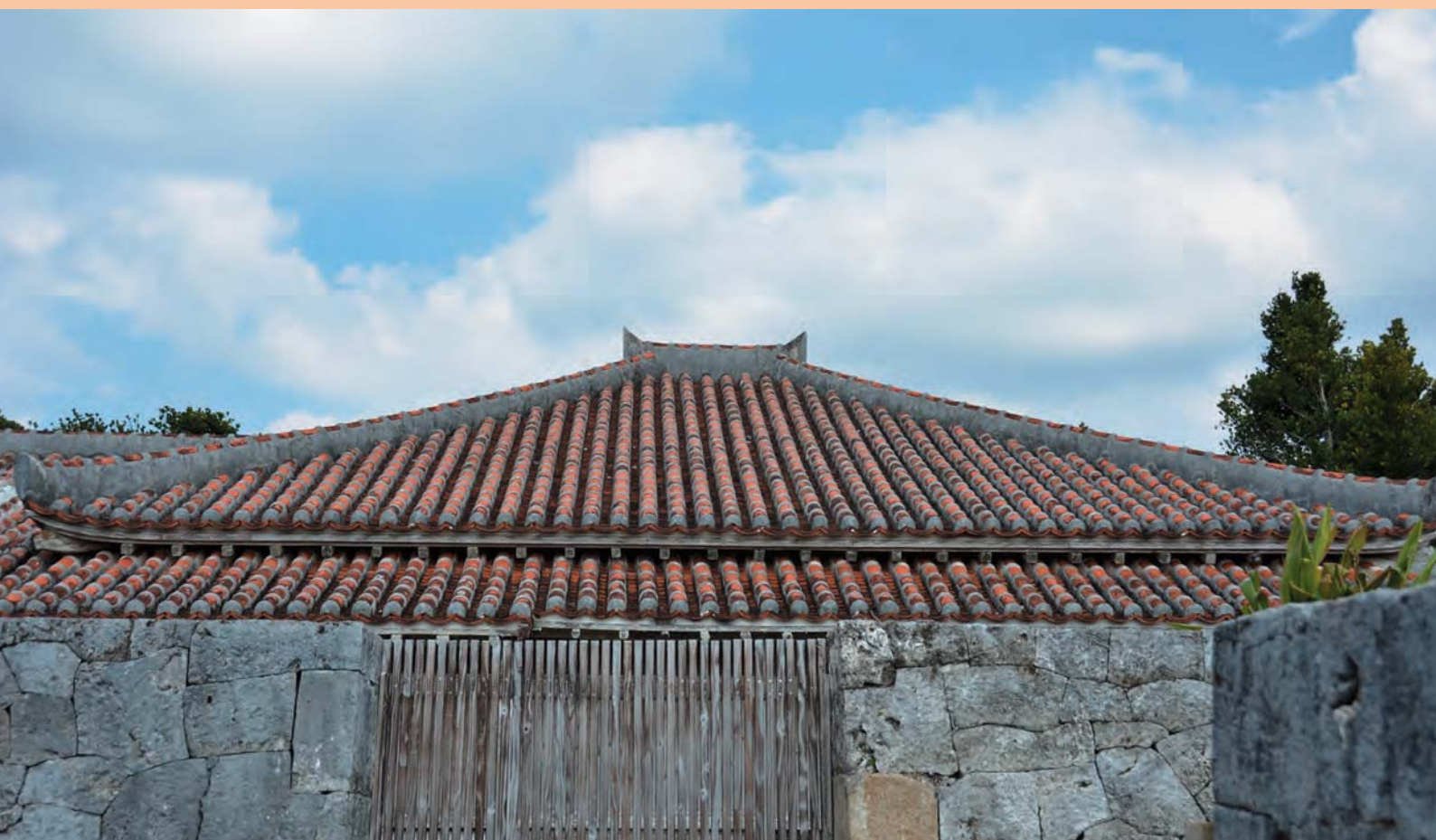


国立国語研究所学術情報リポジトリ

Research Report on Kumejima Dialect : General Study for Research and Conservation of Endangered Dialects in Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002445



消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究
久米島方言調査報告書



木部暢子 [編]

2017年3月

はじめに

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年10月にスタートしました。2010年度からは毎年、共同研究者や若手研究者が1カ所に集まって共同で調査を行う合同調査を実施しています。これまで、沖縄県宮古島・久米島、鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島、東京都八丈島、島根県出雲・隠岐の島、宮崎県椎葉村で合同調査を行なってきました。本書は、そのうちの、沖縄県久米島方言調査(2013年12月)の報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか、公民館まで足を運んでくださり、親切に方言を教えてくださいました。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。また、教育長をはじめ教育委員会のみなさん、久米島町博物館のみなさんには、調査の準備の段階から、実施、国立国語研究所セミナー「久米島・島ことば調査のつどい」に至るまで、大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、久米島方言全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、方言の研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。なお、プロジェクトは2016年から「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」としてリニューアルしました。この報告書も国立国語研究所ホームページの中の上記プロジェクトのページでPDF版を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2017年3月

国立国語研究所 木部 暢子

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 久米島方言調査報告書

目次

はじめに

プロジェクトの概要 -----	1
調査の概要 -----	3
久米島方言の下位区分（仲原穰） -----	7
久米島方言の音韻（木部暢子） -----	25
久米島方言のアクセント資料（上野善道） -----	43
沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形（ハイス・ファン・デル・ルベ） -----	63
久米島方言データ集	
久米島方言データ集の表記について -----	95
久米島方言 基礎語彙集（音声記号） -----	99
久米島方言 基礎語彙集（かな） -----	121
久米島方言 文法例文集（音声記号） -----	145
久米島方言 文法例文集（かな） -----	159
「久米島・島ことば調査のつどい」講演記録 -----	173

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年にスタートしました。プロジェクトの目的は以下のとおりです。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

(国立国語研究所ホームページより)

2 これまでの調査

2010年度から2015年度までの6年間に11回の調査を行いました。その概要は次のとおりです。★については、報告書をウェブで公開しています。また、☆については基礎語彙の音声をウェブで公開しています。

・鹿児島県喜界島方言（奄美語）	2010年9月9日～15日	★ ☆
・沖縄県宮古方言（宮古語）	2011年9月4日～7日	★
・東京都八丈島方言（八丈語）	2012年9月5日～10日	★ ☆
・鹿児島県与論島方言・沖永良部島方言（国頭語）	2012年12月1日～6日	★ ☆
・沖縄県久米島方言（沖縄語）	2013年12月1日～5日	
・島根県出雲方言	2014年8月17日～21日	★
・宮崎県椎葉村（尾手納・日当）方言	2014年9月1日～6日	
・宮崎県椎葉村（日添）方言	2015年3月9日～13日	
・宮崎県椎葉村（小崎）方言	2015年5月8日～11日	
・宮崎県椎葉村（梅尾）方言	2015年9月6日～11日	
・島根県隠岐の島方言	2015年11月8日～11日	

3 共同研究者

プロジェクトの共同研究員は以下のとおりです。(2016年2月1日現在)

研究代表者：木部暢子（国立国語研究所）

共同研究員：五十嵐陽介（一橋大学），井上文子（国立国語研究所），ウエイン・ローレンス（オークランド大学），上野善道（東京大学名誉教授），大西拓一郎（国立国語研究所），小川晋史（熊本県立大学），荻野千砂子（福岡教育大学），金田章宏（千葉大学），狩俣繁久（琉球大学），久保智之（九州大学），久保蘭愛（愛知県立大学），窪蘭晴夫（国立国語研究所），熊谷康雄（国立国語研究所），クリス・デイビス（琉球大学），小西いずみ（広島大学），小林隆（東北大学），佐々木冠（札幌学院大学），重野裕美（広島経済大学），下地賀代子（沖縄国際大学），下地理則（九州大学），田窪行則（京都大学），竹田晃子（国立国語研究所），ダニエル・ロング（首都大学東京），トマ・ペラル（フランス国立科学研究所），中島由美（一橋大学），仲原穰（琉球大学），西岡敏（沖縄国際大学），新田哲夫（金沢大学），日高水穂（関西大学），ブガエワ・アンナ（国立国語研究所），又吉里美（岡山大学），町博光（安田女子大学），松浦年男（北星学園大学），松田美香（別府大学），松本泰丈（別府大学），松森晶子（日本女子大学），三井はるみ（国立国語研究所），山田真寛（京都大学）（五十音順）

プロジェクト研究員：乙武香里（プロジェクトPD），坂井美日（プロジェクトPD），盛思超（プロジェクト非常勤研究員）

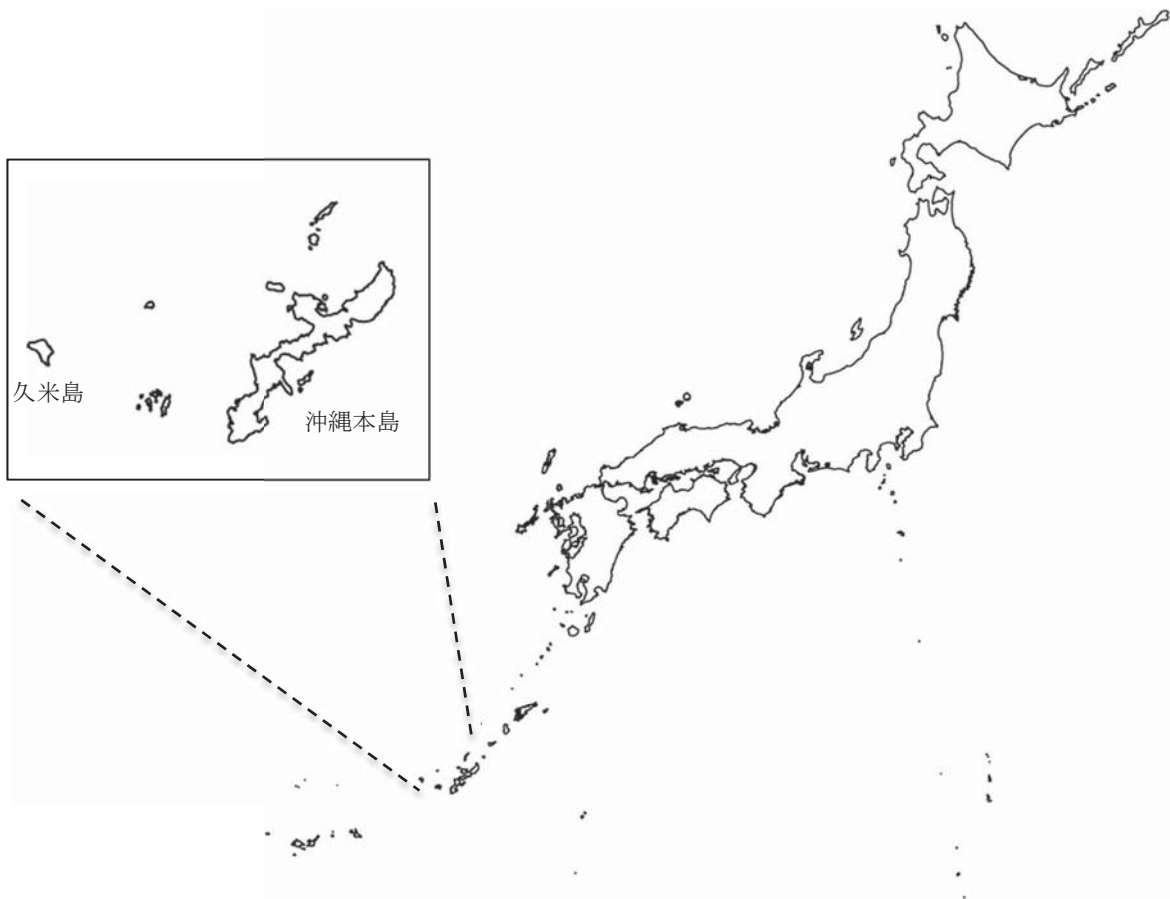
調査の概要

1 調査地点の概要

沖縄県久米島町は久米島本島、奥武島、鳥島、硫黄鳥島、オーハ島の五つの島より構成され、沖縄本島那覇市の西方海上約100kmに位置し、総面積は63.5km²、人口は8,112人（2016年11月現在）である。

一年中温暖な気候で、主な産業はさとうきびやゴーヤ、さやいんげん、さといもなどの栽培、肉用牛の飼育、栽培漁業、観光である。久米島のまわりに畳石、砂州が広がり、また隆起珊瑚礁が延び、美しい海岸線をつくっている。

島への交通手段は、那覇空港から久米島空港へ入る方法と、フェリーで沖縄本島の泊港から久米島の兼城港へ渡る方法がある。



地図1 久米島の位置



地図2 調査地点の位置

2 調査の概要

2.1 調査地点

調査は2013年12月1日～12月5日に行った。調査地点と調査内容、調査担当者は以下の通りである。

日時・地域	地区名	調査内容	調査担当者
12月2日 午前	比嘉	語彙 a 前半	徳永, ペラール
		語彙 b 前半	ローレンス, 又吉, 林, 中島
		語彙 ab 後半	木部, 山田
		文法前半	田窪, 當山, 白田, 小川
		文法後半	金田, 松本, 仲原, ルベ, 乙武
		アクセント	上野, 荻野, 金, 中澤
午後	儀間	語彙 a 前半	ペラール, 徳永, 木部
		語彙 b 前半	ローレンス, 林
		語彙 ab 後半	中島, 又吉
		文法前半	田窪, 當山, 白田, 新田
		文法後半	松本, 金田, 仲原, 乙武
		アクセント	上野, 荻野, 金, 中澤
		談話	山田, ルベ, 小川

12月3日 午前	真謝	語彙 a 前半	ローレンス, 林
		語彙 b 前半	中澤, 白田, 徳永, ペラール
		語彙 ab 後半	又吉, 中島, 木部
		文法前半	金田, 松本, 仲原, 乙武
		文法後半	田窪, 當山, ルベ, 山田, 小川
		アクセント	上野, 荻野, 金, 新田
午後	西銘	語彙 a 前半	ローレンス, 林
		語彙 b 前半	中澤, 徳永, ペラール, 白田
		語彙 ab 後半	木部, 中島, 又吉
		文法前半	金田, 松本, 仲原, 乙武
		文法後半	田窪, 白田, 當山
		アクセント	上野, 新田, 荻野, 金
		談話	ルベ, 山田, 小川

2.2 調査者

調査参加者は以下の23名である（所属は調査当時である）。

上野善道（国立国語研究所客員教授），小川晋史（国立国語研究所PDフェロー），荻野千砂子（大分大学），乙武香里（国立国語研究所PDフェロー），金田章宏（千葉大学），木部暢子（国立国語研究所），金娥璘（九州大学博士後期課程），白田理人（京都大学博士後期課程／日本学術振興会DC），田窪行則（京都大学），當山奈那（琉球大学博士後期課程／日本学術振興会DC），徳永晶子（一橋大学博士後期課程／日本学術振興会DC），中澤光平（東京大学博士後期課程／日本学術振興会DC），中島由美（一橋大学），仲原穰（琉球大学非常勤講師），新田哲夫（金沢大学），トマ・ペラール（フランス国立科学研究所常勤研究員），林由華（日本学術振興会特別研究員／大阪大学），又吉里美（岡山大学），松本泰文（別府大学），三樹陽介（国立国語研究所非常勤研究員），山田真寛（広島大学），ハイス・ファン・デル・ルベ（琉球大学博士前期課程），ウェイン・ローレンス（オークランド大学）

〔五十音順〕

2.3 話者

話者は以下の方々である（年齢は調査当時である）。

比嘉 儀間光明さん（76歳），宮平ヨネさん（79歳），与座良子さん（82歳），
平良曾清さん（84歳），島袋ノブ子さん（85歳），宇江城昌周さん（85歳），
高嶺清子さん（82歳），江洲良徳さん（83歳），宇江城サダエさん（82歳）

儀間 宇久村文江さん（83歳），上里初子さん（85歳），山城恵美子さん（77歳），
大田安晴さん（68歳），大道スミ子さん（80歳），山城昌盛さん（76歳），
玉城弘さん（72歳），高江洲猛さん（74歳），嘉味田ミツ子さん（80歳），

譜久島総考さん（79歳）、平田清信さん（72歳）、新垣エミさん（78歳）、
新垣盛秀さん（84歳）、日高清有さん（61歳）、高江洲清（76歳）、
高江洲ヤスさん（75歳）

真謝 崎原朝裕さん（73歳）、仲原健さん（76歳）、上原仁栄さん（87歳）、
稲嶺ケイ子さん（67歳）、平田ヨシさん（85歳）、新垣清昂さん（72歳）、
前里留美子さん（76歳）

西銘 喜友村宗盛さん（76歳）、上江洲仁直さん（83歳）、内間文さん（89歳）、
仲村昌久さん（87歳）、譜久里廣貞さん（84歳）、盛吉秀雄さん（79歳）、

喜友村清子さん（70歳）、盛吉洋子さん（79歳）、山里敬子さん（78歳）、
喜久永米正さん（82歳）、上江洲正義さん（80歳）、上江洲千代さん（79歳）

謝辞

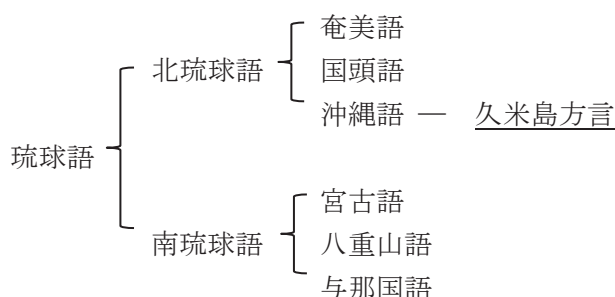
お忙しい中、本調査に協力していただき、ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

久米島方言の下位区分

仲原 穰*

1 はじめに

久米島方言は沖縄語に属する方言の一つである¹。しかし、沖縄中南部の諸方言と共通する特徴がかなりみられる。その一方で、久米島方言だけの特有の特徴も有していること、さらに久米島内に鳥島方言のように沖縄語とは異なる特徴の方言が存していることもこれまでに論じられた通りである²。



久米島方言が「久米島系統」と「その他」の系統に大別できることについては、すでに仲原 2015 で示したが、「久米島系統」の各方言（仲村渠・具志川・仲地・山里・上江洲・西銘・久間地・兼城・大田・嘉手苺・儀間・山城・島尻・比嘉・謝名堂・泊・宇根・真謝・下阿嘉・上阿嘉・比屋定・宇江城）の下位区分については論じることができなかつた。また、「その他」に分類される方言（鳥島、銭田、真我里、仲泊、大原、北原、真泊、奥武島、オーハ島）の具体的な記述がなかつたこともあり、説明が不十分であつた。

* 琉球大学・沖縄県立芸術大学・名城大学・沖縄国際大学・沖縄大学・沖縄キリスト教短期大学 非常勤講師

- 1 2009年2月19日、ユネスコが消滅の危機に瀕する言語とした言語の一つが「沖縄語」（「沖縄中南部方言」とも称する）である。奄美語、国頭語、沖縄語は「北琉球語」、宮古語、八重山語、与那国語は「南琉球語」という。なお、これらの総称を「琉球語」または「琉球諸語」という。本稿では「琉球語」と称する。

なお、中本（1981b）や上村（1992）など、ほとんどの先行研究で「久米島方言」を「沖縄中南部方言」に分類している。

- 2 鳥島方言については、中本（1981a）、内間（1981a）、野原（1981）、野原（1982）、津波古（2001）、津波古（2009）、かりまた（2015）などの報告がある。概ね沖縄北部方言との関係を述べているが、中本（1981：13）は「f^マini（脚全体）」で「本来『脛』を表すf^マiniが「脚全体」を表すようになってるのは奄美德之島にも見られる現象であり、鳥島方言が奄美系の一方言であることを称するものにはほかならない。」と述べている。これに対して、かりまた（2015：184）では、「内間直仁（1980）は鳥島方言と徳之島方言との関係について述べているが、母音および子音の特徴から徳之島方言との強い関係性はみいだせない。母音体系、子音体系をみると、与論方言を除く南奄美沖縄北部諸方言的である。」と否定的な見解を示している（なお、文中の内間（1980）は中本（1981）の誤りであろう）。

このほか、これまでの久米島方言に関する多くの先行研究も各方言の報告が中心であり、久米島方言の下位区分については詳らかになっていない³。

そこで本稿では、国立国語研究所の今回の久米島方言調査の4集落（西銘・儀間・比嘉・真謝）の言語資料のうち、本報告書に掲載されている「基礎語彙」と「文法」の資料を用いて久米島方言の特徴や方言間で異なる特徴について述べ、さらに先行研究のデータなどを補助的に用いることにより、久米島方言の下位区分を行いたい。

2 久米島方言の特徴と言語差

久米島方言は「沖縄語」に属する方言であるが、沖縄本島から約100kmも離れており、さらに人々の交流を阻む「海」に隔てられているため、「沖縄語」とは異なる特徴も持っている。

2. 1 久米島系統の方言の特徴

先に述べたように久米島方言と沖縄語の沖縄本島中南部方言とは音韻・文法・語彙など総合的に似た特徴を持っている。特に語彙は両者とも似た語形になることが多い。表1は本報告書の「基礎語彙」のうち、久米島方言と那覇方言⁴で同じ語形になるものの一部を挙げたものである（本稿では、簡易式のカタカナ音韻表記で表記する。ただし、アクセント記号は省いた）。

母音の特徴（e→i, o→u, 「す・ず・つ」→「シ・ジ・チ」, 1拍語→長音化）や子音の特徴（「き・ぎ」→「チ・ヂ」, awa→aa, 語中「り」→「イ」）に共通性があることがわかる。

3 久米島方言の言語差に着目したのものとして、高橋ゼミ（1991）、野原（1982）、西岡・仲原（2010）がみられる。高橋ゼミ（1991）は久米島の25地点（仲村渠・具志川・仲地・山里・久間地・西銘・上江洲・鳥島・仲泊・大田・兼城・嘉手苺・儀間・山城・島尻・善田・真我里・比嘉・謝名堂・泊・宇根・真謝・阿嘉・比屋定・宇江城）の言語地図を作成し、その分布状況から「具志川村中心部」「具志川村南部」「具志川村全体」「仲里村中心部」「仲里村全域」「久米島北部」「久米島南部」「鳥島地区」を地域的なまとまりとして示したものである。後者は久米島西部の「上江洲」と久米島東部の「真謝」、さらに系統の異なる「鳥島」の3地点の助詞を比較しながら久米島方言の助詞を概観したものである。このうち、方言差のみられる「～へ」「～で」「～も」「ばかり」に対応する助詞については14地点（具志川・仲地・上江洲・大田・嘉手苺・儀間・比嘉・島尻・謝名堂・真謝・下阿嘉・比屋定・宇江城・鳥島）の例文を挙げ、3枚の言語地図を掲載したものである。先行研究のなかで、地域性の共通性に着目したのが西岡・仲原（2010）である。久米島方言の地域差として50単語の調査を実施し、久米島内の16地点（比屋定、上阿嘉、真謝、宇根、泊、謝名堂、比嘉、儀間、嘉手苺、兼城、大田、仲泊、西銘、仲地、具志川、仲村渠）の言語地図（「鎌」「裸」「ひもじい」「行くよ」「泥棒」「土」「言う」）を示し、久米島方言内の言語差に着目し、その特徴を述べたものである。①頭化音の喪失、②ダ行音のラ行音化（r音化）、③サ行音のハ行音化（h音化）、④不完全な撥音化（古径の残存）、⑤終止形・否定形に「ン」が付かない地域、⑥長音化（長母音化）・音挿入、沖縄中南部方言ではめずらしい語形、⑦「ス」か「シ」か、などの特徴のほか、野原（1982）の地域差の資料提示、調査語彙のなかで言語差がみられた語例を示したものである。

4 那覇方言の用例は内間・野原（2006）からの引用である。

表1 久米島方言と那覇方言の共通性

語	真謝	比嘉	儀間	西銘	那覇
風(かぜ)	カジ	カジ	カジ	カジ	カジ
米(こめ)	クミ	クミ	クミ	クミ	クミ
臼(うす)	ウーシ	ウーシ	ウーシ	ウーシ	ウーシ
水(みず)	ミジ	ミジ	ミジ	ミジ	ミジ
爪(つめ)	チミ	チミ	チミ	チミ	チミ
肝(きも)	チム	チム	チム	チム	チム
麦(むぎ)	ムジ	ムジ	ムジ	ムジ	ムジ
皮(かわ)	カー	カー	カー	カー	カー
埃(ほこり)	フクイ	フクイ	フクイ	フクイ	フクイ

2. 2 久米島方言の特色

(1) 語彙的特徴

一方、久米島方言には、表2に示すように沖縄中南部方言とは異なる語形になるものもいくつかみられる。

表2 久米島方言の特徴的な語彙

語	真謝	比嘉	儀間	西銘	那覇
頭(あたま)	チンブル	チンブル	チンブル	チブル	チブル
髪の毛	カーラジ(ギー)	カーラジ	カーラジ	カーラジ	カラジ
唾(つば)	トゥンペー	トゥンペー	トゥッペー	トゥッペー	チンペー
味噌(みそ)	ミス	ミス	ミス	ミス	ンース
やどかり	アマンム	アマンム	アマンム	NR	アーマン
今日(きょう)	キー	キー	キー	キー	チュー
昨日(きのう)	キヌー	キヌー	チヌー	チヌー	チヌー
ミカン	クルブ	クルブ	クルブ	クルブ	クニブ

今回調査を実施した4地点のうち、西銘方言や儀間方言のなかには那覇方言と同じ語形のものもみられる。ただし、当該方言の「髪の毛」「唾」「味噌」「やどかり」「今日」「ミカン」などは久米島特有の単語である。

「唾」の「トゥンペー」と「トゥッペー」, 「昨日」の「キヌー」と「チヌー」のように、久米島内には地域ごとに異なる語形を用いるものもあり、このように地域的な違いを示す語形をなるべく多く集めることで、どの方言とどの方言が似た特徴を持ち、人々の交流があるのかという推論を立てることが可能であり、より複合的にみることで地域間の言語差、すなわち、下位区分が可能になるのである。

(2) 文法的特徴

① 活用語尾「～ン」

久米島方言は沖縄本島中南部方言と文法的に異なるものが単語よりも多くみられる。特に注目してほしいのが、表3の「西銘（西）」の「イツ（行く）」である。客観的に述べる際に「ン」が消失するが、話し手の主観的な意思が表現される場合や終助詞が後接する場合には「ン」の消失はみられない。また、他の地域では語末の「～ン」の付いた「イチュン」「イツン」になることからわかるように、この現象は久米島全域のものではなく、西部地域の特徴である。

今回の調査資料では、儀間方言では語末「～ン」の消失の例があまりみられないが、内間（1981b: 94）では儀間方言の例として「ジー カツ（字を書く）」（原文は音声表記）のような文も挙げられている。

ちなみに、動詞だけでなく、形容詞でも語末の「ン」が消失する（表4）。なお、動詞の過去形でも表5のように過去形でも語末「ン」の消失がみられる。

表3 久米島方言の動詞の語末「ン」

共通語	うん・畑へは おれが いく。
真謝	ンー {ハタキヤ/ハタチェー} ワンガ イチュン。
比嘉	ウン ハタキ {カチェー/カイヤ} ワンガ {イツン/イツハ}。
儀間	ウン ハタケワ ワンガ イツン。
西銘	(西)ウン ハタキカチェー ワンガ イツ。 (東)ウン ハタキカイヤ ワンガ イツッサ。

表4 久米島方言の形容詞の語末「ン」

共通語	おれは きょうは いそがしい
真謝	ワノー キーヤ イツナハン。
比嘉	ワンヤ キーヤ イチナサン。
儀間	ワンヤ {キーヤ/チューヤ} イツナサン。
西銘	(西)ワノー キーヤ イツナサ。 (東) ワンネー チューヤ イツナサンロー。

表5 久米島方言の動詞・過去形の語末「ン」

共通語	おれは きのは 新聞を よまなかつた。
真謝	ワノー キヌーヤ シンブン ユマナータン。
比嘉	ワンヤ キヌーヤ シンブン ユマナータン。
儀間	{ワンヤ / ワノー} チヌー シンブン ユマナータン《ロー》。
西銘	(西)ワンヤ チンヌーヤ シンブン {ユマンター/ユマンタン}。

② 「～より」

表6をみると、日本語の「より」に対応する久米島方言の語形が「ユカ」「ユカー」「ユカン」「ヨーカー」であることがわかる。これらは「よるか」「よりかは」「よりかも」からの変化とみられる。このうち、西銘方言の「ヨーカー」は沖縄北部方言との共通性も指摘されている⁵。野原(1982:755)によれば、西銘に隣接する上江洲でも「シシヨーカ イユガル タカサール(肉より 魚がぞ 高い)」のように「ヨーカ」を使用するようである(原文は音声表記)。

表6 久米島方言の「より」「強かった」の比較

共通語	きのうは 今日 <u>より</u> 風が <u>強かった</u> 。
真謝	キヌーヤ キー <u>ユカン</u> カジガ <u>ツーハータン</u> 。
比嘉	キヌーヤ キー { <u>ユカ</u> /ウカ} カジガ { <u>ツーサータン</u> / <u>ツーハータン</u> }。
儀間	チヌーヤ キー <u>ユカー</u> カジガ <u>ツーサッサ</u> 。
西銘	(西) チンヌーヤ キー <u>ヨーカー</u> カジヤ <u>ツーサーター</u> 。 (東) チヌーヤ <u>ツーヨーカー</u> {カジェー/カジヤ} <u>ツーサタン</u> 。

③ 形容詞語尾の/s/→/h/化

表6の「強かった」の部分も西銘(東)では「ツーサタン」、真謝と比嘉では「ツーハータン」を使用し、比嘉では「ツーサータン」の語形も併用されるなど、沖縄本島中南部方言の那覇方言などと同じ「～サン」語尾のほかに、方言によっては「～ハン」語尾も使用されていることがわかる。このように「～サン」と「～ハン」を併用する方言は、沖縄本島中部の石川方言、恩納方言や沖縄南部の具志頭方言と共通する特徴である。

3 久米島方言の下位区分

久米島には約30の集落が存在しているが、島の中央部に集落はみられない。人々が往来する際に利用しているのは久米島の1周道路である⁶。

5 那覇方言では「チルーヤカ ウトゥーヤ チュラサン(チルーさんよりウトゥーさんは美人だ)(内間・野原2006:282の「ヤカ」の例文より引用)のように「ヤカ」を使用する。なお、野原(1986:76)では「ヤカの出自は『よるか』だといわれる。ヤカの前の形はユカであった可能性もあるが、沖縄南部一帯はヤカが優勢であるから、首里方言とは異なり、もともとヤカであったとも考えられる。沖縄北部方言はヨーカが優勢である。少し古い首里方言のユカに繋がる形かもしれない。」と述べている。なお、同書(野原1986:14)によれば、「B よるか系」のうち、「jo:ka」には「仲宗根(今帰仁村)」、「jo:ka:」には「伊豆味(本部町)の地名が下に記されている。また、「juka:」には「真謝(久米島)」、「juka」には「首里」としている(現代首里方言では「ヤカ」を使用するが、野原(1986:78)の注13では『南島八重垣』に「今の人この語をヤカといへども、言語の道をしらべたる古老は皆ヨカといへり」とあることや『沖縄語辞典』の「juka」に「老人が言う」とあると記している。よって、この「juka」は首里方言の古形と考えてよいだろう。4

6 ただし例外もある。例えば仲地で聞き取りをしていると、山中には真謝へ向かう山道があり、仲地と真謝をたびたび往来していたという。これは門中の本家が真謝にあることから、仲地から真謝へと行く必要性があり、近道の一つとして利用されていたようである。

現在も隣り合わせの二つの集落を「ロー、ハーザー」（宇江城、比屋定）、「ウチャム、マージャ」（宇根、真謝）のように称することから、昔から隣り合う集落のうち、互いによく交流している集落という意識があるのではないだろうか。このような併称と集落との関わりについて考えるためにも、まずは久米島方言の下位区分について分析する必要がある。

3. 1 語彙資料にみられる地域差

ここで示す言語地図は、西岡・仲原（2010）で作成した16地点の言語地図をもととし、それに仲原の補足調査で得られた5地点のデータを加え、語形の示し方（記号や配色）を見直して再度作成したものである。地点の数は図1に示す21地点である。



図1 久米島言語地図 調査地点

(1) 久米島方言の多様性（「鎌」） 図2

農業が基幹産業の久米島では、農具の「鎌（かま）」は必需品であり、さらに自分では生産できない特殊な道具でもある。買い求めることによって得られる道具であるため、「もの」とともに製品名である「ことば」も広まりやすい単語でもある。そのためだろうか、広い範囲で似たことばが使用されている。

図2のように広い地域で使用される「イレーラ」は、久米島の東側半分を占め、さらに西側の一部にも勢力を広げている。沖縄本島からの移住集落といわれる銭田や真我里でも出自である那覇方言で使用される「イラナ」は使わず、周辺の集落と同じ「イレーラ」を使用している。一方、「イレーナ」は儀間・嘉手刈、「イリナ」は兼城・大田、「イラナ」は仲泊・西銘、「エレナ」や「エレラ」は仲地・具志川・仲村渠など、隣り合う集落でのみ使用される語形であり、同じ語

形を使っている集落の人々の何らかの接触（交流，売買）があったことが推察される。

(2) 久米島北部，東部グループ（「冬瓜」「舌」「小便」「～の(は)」）図3～図6

久米島東部と中南部の方言が同じ分布になる地図がある。沖縄中南部方言の首里方言や那覇方言で「シ～」と発音される「冬瓜」「舌」「小便」などの単語の分布は，久米島北部（宇江城，比屋定）と久米島東部（真謝，宇根，泊，謝名堂，比嘉，島尻）では「ス～」と発音され，同じ特徴を持つグループである（図3，図4参照）。

なお，図4の「舌」の地図では，北部の宇江城と比屋定にだけ特殊な語形「チャングワー」が使用されており，この地域も東部とは異なる特徴を有することもわかる。

さらに図3，図4と同じ特徴を持つのが「小便」の言語地図である（図5）。この地図では島尻が「ス～」ではなく，「シ～」になっている。一方，山城は「ス～」になっており，島尻や山城では比嘉や謝名堂との交流によって，「ス～」と「シ～」で揺れ動いている（図3～5を参照）。

なお，図6の「～の／～のは」が「～ヒ」「～へー」になる地図であるが，これは久米島東部の（真謝，宇根，泊，謝名堂，比嘉）にしかみられない特徴である。

(3) 久米島東部グループの分類（「泥棒」「私」）図7～図8

図3～6で示したグループは，図7「泥棒」の言語地図によって，さらに「比嘉，謝名堂」と東部の「真謝，宇根，泊，謝名堂」に下位区分することができる。活用語のサ行→ハ行の変化は久米島の広い地域で起こる変化であるが，『日葡辞書』などに用例がみられる日本語「ぬすど（盗人）」に対応する語形で，沖縄語の多くの方言では「ヌストゥ」「ヌスル」であり，「ヌフル」は少数派である。また，図8の「ワヌ」を使用する地域のうち，東部の4集落（真謝，宇根，泊，謝名堂）が図7と重なっており，この地域が似た特徴を持つ方言であることを示している。

(4) 久米島西部グループと下位区分（「土」「天」「しない」）図9～図11

久米島西部地域で同じ語形を使用しているのが，図9「土（つち）」の語形である。語形から「つち」でなく，「みた」（日本古語の「にた」とつながる語）に遡ることがわかるが，久米島西部では語頭が「み」の語形が使用されている。南側の境界線にあたる儀間，嘉手苅のことばである。儀間以外の集落は久米島町に合併するまでは旧具志川村の集落である⁷。

図10「天（てん）」をみると，久米島西側の中心地である（仲地，西銘，仲泊，大田，兼城）にも共通する特徴があることがわかる。首里王府が編纂した琉球国の祭祀歌謡『おもろさうし』では「天」のことを「てに」と表記している。この西部地域の方言語形「ティンニ」は「てに」が「ティニ」に変化した後で，「～ン～」が挿入されたものであろう。

このような特殊変化によって生じた語形であることや使用範囲が限定されていることも考慮す

7 『久米具志川間切旧記』によれば「一 仲里間切嘉手苅村具志川間切山城村繰替訴_ニ付言上乾隆九年子年下日記_ニ相見得申候」とある。これによれば，乾隆9（西暦1744）年まで，嘉手苅は仲里間切に属しており，繰り替えの訴えによって具志川間切に嘉手苅，仲里間切に山城が属するようになった。

ると、この西部地域内で人々が互いに交流しあっていることが推察される。さらに、図11の「しない」では、この地域が地理的な関係によって、山手側の仲地、西銘と平地の仲泊、大田、兼城に分類できることがわかる。図11をみると「しない」にあたる語形は久米島西部地域を4種類に区分けできることわかる。すなわち、山奥（仲村渠、具志川）では「サン」を使用し、山岳地（仲地、山里）では「ハー」「ハ」、傾斜地～低地（西銘、仲泊、兼城）では「サン」「サー」である。さらに港周辺部（大田、嘉手苺、儀間）である。西部地域の傾斜地から低地（西銘、仲泊、兼城、大田）は、図1の「鎌」の言語地図を参考に分析すると、「西銘、仲泊」「兼城、大田」「嘉手苺」「儀間」に下位分類した方が適していることがわかる。

(5) 久米島方言の下位区分（「唾」）

「唾」の久米島方言の単語については国立国語研究所の語彙データから表2でとりあげたが、今回の調査地点の4集落に限定されていた。そこで筆者が調査したデータを中心に言語地図を作成したものを掲載する。筆者の調査データでは、真謝方言の「唾」は「トゥンパイ」であるが、「基礎語彙」では「トゥンペー」となっている。真謝方言とほぼ同じ方言である宇根方言でも「トゥンパイ」であることから、本稿の言語地図では「トゥンパイ」で作図を行う。

「唾（つば）」は、久米島方言のなかでも多くの語形を持つ単語の一つである。久米島東部の諸方言と北部地域の諸方言とも、語頭が「トゥ」になる語形（トゥンパイ、トゥンペー、トゥペーなど）が使用されている（地図ではひらがなで表記）。なお、「トゥーツペー」は儀間と嘉手苺でのみ使用が確認された語形で、両方言の影響関係がうかがえる⁸。

なお、久米島西部や北部の一部の方言に分布する「チンペー」「チップエイ」「ツッペー」は首里方言や那覇方言の「チンペー」と同じく「破擦音」の系統である（地図ではカタカナで表記）。

3. 2 その他のデータにみる地域差

今回の国立国語研究所の久米島方言調査では4集落の詳しい調査を行ったが、久米島方言の下位区分を考えるためには、より多くの集落の言語データの情報が不可欠である。しかしながら、筆者がこれまでに行った調査は、久米島方言の一部に限られており、調査データが十分にある地点と無い地点がある。そこで、これまでに明らかにされた先行研究の言語データも利用して、久米島方言の言語差を示したものが表7である⁹。

8 図11をもとに、久米島方言を分類すると①（北部：宇江城，比屋定，上阿嘉）③（南部：謝名堂，比嘉，真我里，銭田）⑩（仲地）トゥンペー，②（真謝，宇根，泊）トゥンパイ，④（山城）トゥッパイ，⑤（島尻）トゥンペヘー，⑥（儀間，嘉手苺）トゥーツペー，⑦（大田，兼城）チンペー，⑧（仲泊）チップエイ，⑨（西銘）チンペー，⑪（具志川）ツッペー，⑫（仲村渠）トゥヘー，トゥフェーの12種類に分類できる。

9 表7の資料は西岡・仲原（2010）とその後の補足調査で得られたものが中心であるが、今回の国立国語研究所の「基礎語彙」「文法」の資料から補ったものもある。他に「助詞」のデータを野原（1982），高橋ゼミ（1991）から「ヤモリ」の言語地図，沖縄言語研究センター（1985）から「虹」のデータを補った。なお，鳥島方言のデータは先行研究の論文の例文や語彙資料から補っている。

表7 久米島方言の特徴（分類）

集落名	①代名詞	②助詞	③助詞	④助詞	⑤語末「も」	⑥語頭「み」	⑦語末「み」	⑧特殊単語	⑨語中/s/の対応	⑩語末「ん」
	お前(目下へ)	～へ	～で	～も	蚊「がじゃも」	土「みた」	鉄「はさみ」	鎌「いらな」	盗人「ぬすど」	天「てん」「てに」
宇江城	ヤル	カチ	サーニ／シ	レー	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル	テイントー
比屋定	ヤン	カチ	サーニ	レー	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル	テイントー
上阿嘉	ヤー	(カチ)	(サーニ)	(レー)	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル	テイントー
真謝	ヤー	カチ	チ	ンテー	ガザン	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌフル	テイン／テイントー
宇根	ヤー	カチ	ー	ー	ガザン	ンツァ	ハサミ	イレーラ	ヌフル	テイン
真泊	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
泊	ヤー	ー	ー	ー	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル／ヌフル(古)	テイントー
謝名堂	ヤー	ンガティ	チ	ロー	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌフル	テイントー
奥武島	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
オーハ島	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
島尻	ヤー	ンガティ	ー	ロー	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル	テイン
比嘉	ヤー	カチ	チ	ロー	ガジャン	ンチャ	ハサン	イレーラ	ヌスル	テイン
銭田	ツヤー	ー	ー	ー	ガジャン	ンチャ	ハサン	イラナ	ヌスル	テイン
真我里	ヤー	ー	ー	ー	ガジャン	ンチャ	ハサン	イラナ	ヌスル	テイン
山城	ヤー	カティ	サーニ	ロー	ガジャム	ンチャ	ハサミ	イネーラ	ヌスル	テイン
儀間	ヤー	カティ	サーニ	ロー	ガザン	ミチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル	テイン
嘉手苅	ヤー	カチ	サーニ	ッテー	ガザム	ミチャ	ハサミ	イレーラ	ヌスル	テイン
兼城	ヤー	ー	ー	ー	ガザム	ンチャ	ハサミ	イリナ	ヌスル	テイン
大田	ヤー	カティ	サーニ	テー	ガザム	ミチャ	ハサミ	イリナ	ヌスル	テインニ
鳥島	ツウワー／ツワー／ツウエー	ー	ンカー／シニ	ンテー	ガジャン	ンチャ	ー	カマ	ー	テイン
仲泊	ヤン	ー	ー	ー	ガジャン	ミチャ	ハサミ	イラナ	ヌスル	テインニ
上江洲	ヤール	カティ	サーニ	テー	ー	ー	ー	イレナ	ー	ー
西銘	ヤルー	ー	ー	ー	ガジャム	ミチャ	ハサン	イラナ	ヌスル	テインニ
久間地	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	イレーラ／イラナ	ー	ー
山里	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	エレナ	ー	ー
仲地	ヤル	カティ	ー	テー	ガジャム	ミチャ	ハサミ	エレナ	ヌスル	テインニ
具志川	ヤー	カティ	チ	テー	ガジャム	ミチャ	ハサン	エレナ	ヌスル	テイントー
仲村渠	ヤー	ー	ー	テン	ガザム	ミチャ	ハサミ	エレラ／エレナ	ヌスル	テイン
北原	ツヤー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	イラナ	ー	ー
大原	ツヤー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	イラナ	ー	ー

※表の「ー」は「データが見つからない」ことを意味し、今後の補足調査が必要な部分である。
ただし、奥武島や東奥武島など、話者そのものがみつからない集落、下阿嘉のように話者が高齢化し、調査に耐えられないなどの理由で調査が困難な集落も存在する。

集落名	⑪語末「ん」	⑫特殊単語	⑬特殊語彙	⑭特殊語彙	⑮特殊語形	⑯語頭「し」	⑰語頭「し」	⑱動詞	⑲動詞	⑳形容詞
	銭「ぜに」	唾(つば)	虹「のじ」	家守(やもり)	角「つの」	小便「すへばり」	舌「しば」	する(断定・非過去)	しない(否定)	ひもじい(断定・非過去)
宇江城	ジン	トウンペー	オーナジヤ	ヤールー	クノー	スパイ	チャングワー／シバ	スン	ハン	ヤーハン
比屋定	ジン	チンペー	ニジ	ヤールー	クノー	スパイ	チャングワー	スン	ハン	ヤーハン
上阿嘉	ジン	チンペー	—	—	—	シーバイ	シバ	スン	サン	ヤーハン
下阿嘉	—	—	オンナジャー	—	クノー	—	—	—	—	—
真謝	ジニ	トウンパイ／トウンペー	コンナジ	ヤールー	クヌ	スパイ	スバ	スン	サン	ヤーハン
宇根	ジニ	トウンパイ	コーナジ	ヤールー	クヌ	スパイ	スバ	スン	サン	ヤーハン
真泊	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
泊	ジニ	トウンパイ	—	ヤールー	クヌ	スパイ	スバ	スン	サン	ヤーハン
謝名堂	ジニ	トウンペー	ゴーナジ	ヤールー	クヌ	スパイ	スバ	スン	サン	ヤーハン
奥武島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オーハ島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
島尻	ジン	トウンペヘー	ゴンナジ	ヤールー	クヌ	シーベアー／ユスベアー	スバ	スン	サン	ヤーサン
比嘉	ジン	トウンペー	ゴーナジ	ヤールー	クヌ	スパイ	スバ	スン	サン	ヤーハン
銭田	ジン	トウンペー	—	ヤールー	チヌ	シーバイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
真我里	ジン	トウンペー	—	ヤールー	チヌ	シーバイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
山城	ジニ	トウツパイ	ゴンナジ	ヤールー	クヌ	スパイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
儀間	ジン	トウツペアー	ゴンナジャー	ヤールー	チノー	シーバイ	シバ	スン	ハン	ヤーサン
嘉手苺	ジン	トウツペアー	クンナジャー	ヤールー	チノー	シーバイ	シバ	スー／スン	ハー	ヤーサー
兼城	ジニ	トウツパイ	ゴーナジ	ヤールー	ツイヌ	スパイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
大田	ジン	チンペー	ゴーニジ	ヤールー	ツイヌ	シーバイ	シバ	スン	ハー	ヤーサン
鳥島	ジン	トウンペー	ヌジ／ニジ	ヤルマムワー	ツイヌ	シーベアー	シチャ	—	—	—
仲泊	ジン	チツペイ	—	ヤールー	チヌ	シーベイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
上江洲	—	—	ニジ	ヤールー	チヌ	—	—	—	—	—
西銘	ジン	チンペイ	ゴーニジ	ヤールー	チヌ	シーベイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
久間地	—	—	—	ヤールー	チヌ	—	—	—	—	—
山里	—	—	ゴーナジ	ヤールー	チヌ	—	—	—	—	—
仲地	ジニ	トウツペイ	ゴーナジ	ヤードウー	チヌ	シーベイ	シバ	スー	ハー	ヤーサヌ
具志川	ジニ	ツッペアー	ネージャアー	ヤードウー	チノー	ツッペアー	シバ	スン	サン	ヤーサン
仲村渠	ジニ	トウヘアー	ネージャアー	ヤードウイ	チノー	シバイ	シバ	スン	サン	ヤーサン
北原	—	—	ヌージ	—	チヌ	—	—	—	—	—
大原	—	—	ヌージ／ノージ	—	チヌ	—	—	—	—	—

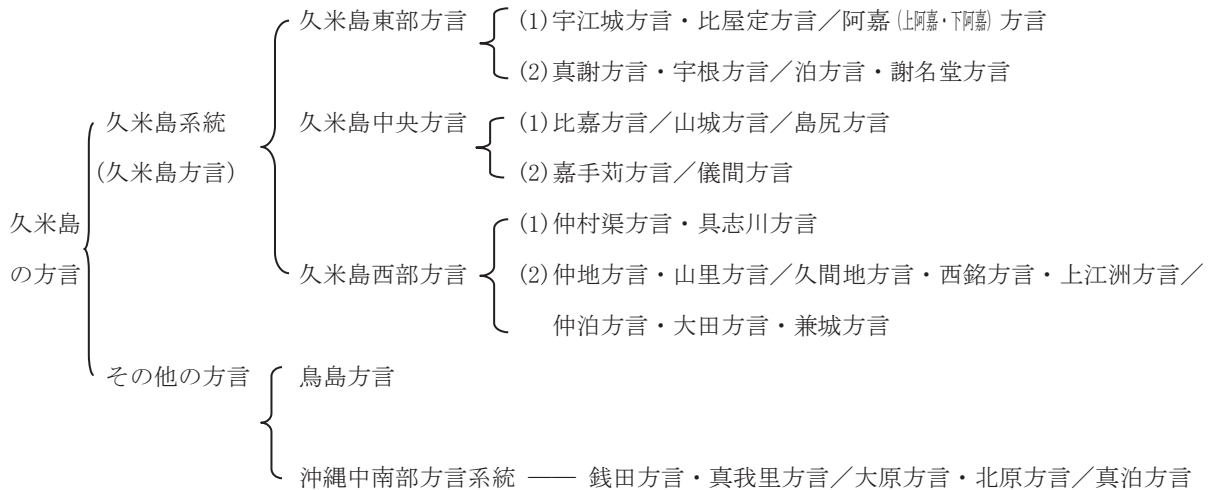
表7は、3.1で示した久米島方言の言語地図では地図化できなかった地点の語形が入っているため、3.1で地図化したデータが入っていない「久米島系」の「下阿嘉」「久間地」「山里」や「その他」に属する「鳥島」「北原」「大原」の分類はできそうである。なお、表7のうち、「真泊」「奥武島」「オーハ島」のデータは管見ではみつからなかった。この表7から、集落間の言語の親近性についてまとめたものを表8として挙げた。

表8 久米島の集落間の言語の親近性

番号	単語(辞)	宇江城	比屋定	上阿嘉	下阿嘉	真謝	宇根	泊	謝名堂	鳥尻	比嘉	銭田	真我里	山城	儀間	嘉手苅	兼城	大田	鳥島	仲泊	上江洲	西銘	久間地	山里	仲地	具志川	仲村渠	北原	大原	備考
①	お前	○	○																		○	○			○					ヤ(-)ル(-)で目下の意になる。
②	～へ													○	○			○							○	○				カテイを使用
③	～へ	○	○		○	○	○									○														カチを使用
④	～で					○			○																	○				チを使用
⑤	～も	○	○																											レーを使用
④	～も								○	○	○			○	○															ローを使用
⑤	蚊	○	○	○				○	○	○				○		○	○	○				○			○	○	○			ガジャム/ガザムを使用する地域
⑥	土														○	○		○		○		○			○	○	○			ミチャを使用
⑦	鉄										○	○	○									○								ハサンを使用
⑧	鎌	○	○	○		○	○	○	○	○																				イレラを使用
⑨	鎌											○	○								○	○						○	○	イラナを使用
⑧	鎌														○	○														イレナを使用
⑧	鎌																○	○												イリナを使用
⑧	鎌																							○	○	○	○			エレナを使用
⑩	泥棒					○	○	○	○																					ヌフルを使用
⑪	天 <small>テ</small>																	○		○		○			○					テニニを使用
⑫	銭 <small>ゼ</small>					○	○	○	○								○								○	○	○			ジニを使用
⑬	唾	○				○			○		○	○	○																	トゥンペーを使用
⑭	虹	○	○																											オーナジャ(-)を使用
⑮	虹								○		○						○								○	○				ゴーナジを使用
⑯	虹									○																				ゴンナジを使用
⑰	虹																	○				○								ゴーニジを使用
⑱	ヤ <small>ヤ</small>																		○											ヤルマムワーを使用
⑲	角	○	○		○																									クノーを使用
⑲	角					○	○	○	○	○	○			○																クヌを使用
⑲	角														○	○														チノーを使用
⑲	小便	○	○			○	○	○	○		○			○																スパイを使用
⑲	小便																			○		○			○					シーベイを使用
⑲	舌	○	○																											チャングワーを使用
⑲	舌					○	○	○	○	○	○																			スバを使用
21	動詞															○									○					語末「ン」が脱落し、長音化する。
22	動詞	○	○												○	○		○							○					「しない」の意で「ハン」「ハー」を使用
23	形容詞	○	○	○		○	○	○	○	○																				ヤーハン(ひもじい)を使用

3. 3 久米島の方言区画

3. 1の久米島方言の言語地図、3. 2の表7、表8により、久米島の方言を以下のように分類することができる。



久米島の方言は「久米島系統 (久米島方言)」と「その他の方言」に大別される。ここまではほとんどの研究者もさほど異論はないと思われる。問題は下位区分である。

「久米島系統」の言語を今回は3つに分類 (東部・中央・西部) する案を提示した。久米島北部は山手であり、南部の平地に暮らす人々との交流はそれほど行われていない。また、東部と西部とは間に山があるため、車を利用してもすぐには行き来できない。このような地理的な条件を持つ久米島方言は単語ごとにさまざまな分布を示す。このことが久米島方言に中央方言を設けた理由である。中央部の嘉手苅・儀間、山城・比嘉・島尻は東部方言とも西部方言にも似た特徴を持っている。

一方、「その他の方言」には「国頭語」 (沖縄島北部方言, 与論・沖永良部方言, 喜界島) 系統とみられる「鳥島方言」のほか、沖縄本島 (那覇系) からの移住集落である「錢田」「真我里」、開墾のために沖縄本島 (中部地域) から入植したとされる「大原」 (後に北部地域が「北原」になる)、糸満の漁師らで作ったとされる「真泊」の各集落のことばが属している。特に「真泊」は魚名のデータ以外はデータがなく、今回は全く分析できなかったが、現在も話者になり得る人々が生活しているため、区画にも入れておいた。その一方で渡名喜島など周辺の島からの移住者が住んでいたといわれるオーハ島や沖縄本島からの入植した人が住んでいたといわれる奥武島は、現在話者を探すことができないため、今回の方言区画から省いている。

4 おわりに

本稿は久米島で使用される方言の下位区分として、言語地図とわずかな資料を頼りに方言区画を行った。久米島方言の特徴を概観し、久米島方言の下位分類を行う、という目標はたどり着く

ことができた。

久米島方言はこれまであまり注目されず、限られた集落しか調査データが残っていない。そのため、今回の久米島方言調査にて得られた4地点のデータは非常に貴重な記録である。しかしながら、それでも久米島方言の全体像を探るには十分とはいえない。語彙も文法も補足調査が必要である。

さらに約30地点の集落のなかには、データがほとんどない集落もあり、今後取り組むべき課題が多く見つかる調査にもなった。今後、一層の努力を持って久米島方言の記録・保存、次世代への継承に取り組んでいきたい。

参考文献

- 池間恵理子・前田舟子・岡田奈央美 (2011) 「島尻方言の動詞」『琉球方言研究』創刊号特集 久米島方言 (琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室)
- 上村幸雄 (1992) 「琉球列島の言語 (総説)」『言語学大辞典』第4巻 (三省堂)
- 内間直仁 (1969) 「沖縄久米島仲里村儀間方言の音韻体系」『都立大論集』第8号 (東京都立大学国語国文学会)
- 内間直仁 (1981a) 「久米島鳥島方言の文法」『琉球の方言6号—久米島鳥島—』(法政大学沖縄文化研究所)
- 内間直仁 (1981b) 「久米島仲里村儀間方言の文法」『琉球の方言6号—久米島鳥島—』(法政大学沖縄文化研究所)
- 内間直仁・野原三義 (2006) 『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』(研究社)
- 沖縄久米島調査委員会 (1983) 『沖縄久米島 資料編—「沖縄久米島の言語・文化・社会の総合的研究」』(弘文堂)
- 沖縄言語研究センター (1985) 『久米島方言全集落調査』(「琉球列島の言語の記録保存」久米島(仲里村, 具志川村)方言全集落調査)《検討用資料》
- 生塩睦子 (1984) 「沖縄諸島(属島)の方言」『講座方言学10—沖縄・奄美地方の方言—』(国書刊行会)
- 嘉味田宗栄 (1962a) 「真謝・首里方言と標準日本語—比較考察の地ならしの一例として—(その1)」『沖縄文化』第6号 (沖縄文化協会)
- 嘉味田宗栄 (1962b) 「真謝・首里方言と標準日本語—比較考察の地ならしの一例として—(その2)」『沖縄文化』第7号 (沖縄文化協会)
- かりまたしげひさ (2015) 「硫黄島方言の簡易文法記述—名詞の格—」『琉球諸語 記述文法I』(消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究 [代表: 狩俣繁久])
- 国立国語研究所 (1963) 『沖縄語辞典』(大蔵省出版局)
- 平良美由紀・當山奈那 (2011) 「山城方言の動詞」『琉球方言研究』創刊号特集 久米島方言 (琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室)
- 高橋ゼミ (1991) 『沖縄方言研究 第11号—久米島方言の言語地理学的研究—』(沖縄国際大学 高橋ゼミ報告書)
- 高橋ユキ (2011) 「久米島方言の名詞」『琉球方言研究』創刊号特集 久米島方言 (琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室)
- 高橋ユキ・砂辺祥子・山川麻里 (2011) 「比屋定方言の動詞」『琉球方言研究』創刊号特集 久米島方言 (琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室)
- 武永睦子 (1966) 「沖縄久米島真謝方言の程度副詞」『方言研究年報』第9号
- 知念桃子・當銘千怜・松岡美里 (2011) 「嘉手苺方言の動詞」『琉球方言研究』創刊号特集 久米島方言 (琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室)
- 津波古敏子 (1992) 「琉球列島の言語 (沖縄中南部方言)」『言語学大辞典』第4巻 (三省堂)
- 津波古敏子 (2001) 「硫黄島方言の音韻—久米島具志川村鳥島の方言—」真田信治[編]『日本語の消滅に瀕した

- 方言に関する調査研究』(A4-001) (文科省特定領域研究)
- 津波古敏子 (2009) 「第五章 硫黄島方言の諸相—硫黄島方言はどの方言圏に属するか」『鳥島移住百周年記念誌』字島島移住百周年記念事業実行委員会
- 仲原 穰 (1999a) 「沖縄久米島真謝方言における親族語彙」『琉球方言音韻・文法・語彙の研究—周辺諸方言との比較研究も含めて〈その1〉』(千葉大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト報告書 第2集)
- 仲原 穰 (1999b) 「沖縄久米島真謝方言の音韻研究」『沖縄文化』通巻90号 (沖縄文化協会)
- 仲原 穰 (2001) 「久米島真謝方言の助詞」『琉球方言音韻・文法・語彙の研究—周辺諸方言との比較研究も含めて〈その2〉』(千葉大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト報告書 第3集)
- 仲原 穰 (2002) 「沖縄久米島嘉手苅方言の音韻」『社会文化科学研究』6号 (千葉大学大学院社会文化科学研究科)
- 仲原 穰 (2003) 「久米島真謝方言の音韻対応」『日中両言語における代名詞及び親族語彙の対照研究—琉球方言との比較研究も含めて—』(千葉大学大学院社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書)
- 仲原 穰 (2004) 「久米島真謝方言動詞の活用」『琉球の方言』28号 (法政大学沖縄文化研究所)
- 仲原 穰 (2006) 「久米島真謝方言の名詞のアクセント—「類別語彙」1・2音節名詞を中心に」『琉球の方言』30号 (法政大学沖縄文化研究所)
- 仲原 穰 (2014) 「沖縄県久米島方言」『文化庁委託事業 危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究 (八丈方言・国頭方言・沖縄方言・八重山方言) 報告書』(国立大学法人琉球大学国際沖縄研究所)
- 仲原 穰 (2016) 「久米島真謝方言の簡易文法 一名詞の格—」『琉球諸語 記述文法Ⅱ』(消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究 [代表: 狩俣繁久])
- 西岡敏・仲原穰 (2010) 「久米島の言語地図にみる地域性—中間報告—」『久米島調査報告書(2)—地域研究シリーズ No. 37』(沖縄国際大学南島文化研究所)
- 仲宗根政善 (1987) [1960] 「沖縄方言の動詞の活用」(『琉球方言の研究』, 新泉社)
- 名嘉真三成 (1980) 「久米島真謝方言の音韻」『沖縄久米島における言語・文化・社会の総合的研究 (中間報告)』(法政大学沖縄文化研究所)
- 名嘉真三成 (1982) 「久米島真謝方言の音韻」『沖縄久米島』(弘文堂)
- 名嘉真三成 (1992) 「音韻の記述的研究 9. 具志川村西銘方言」『琉球方言の古層』(第一書房)
- 中本正智 (1981a) 「鳥島方言の語彙」『琉球の方言 6号—久米島鳥島—』(法政大学沖縄文化研究所)
- 中本正智 (1981b) 『図説 琉球語辞典』(金鶏社)
- 中本正智 (1982) 「沖縄久米島における国語教育」『沖縄久米島』(弘文堂)
- 中本正智 (1990) 『日本列島言語史の研究』(大修館書店)
- 波平憲一郎 (2004) 『久米島町字儀間 しまくとぅば辞典』(自家出版物)
- 西岡敏・仲原穰 (2010) 「久米島の言語地図にみる地域性—中間報告—」『久米島調査報告書(2)』地域研究シリーズ No. 37 (沖縄国際大学南島文化研究所)
- 日本放送協会編 (1972) 「3 具志川村仲泊 (久米島)」『全国方言資料』第11巻琉球編Ⅱ (日本放送出版協会)
- 野原三義 (1982) 「久米島具志川村鳥島方言の文例」『琉球の方言 6号—久米島鳥島—』(法政大学沖縄文化研究所)
- 野原三義 (1982) 「久米島方言の助詞」『沖縄久米島』(弘文堂)
- 野原三義 (1985) 「久米島仲里村真謝方言の助詞・助動詞」(『琉球の方言』第9号, 法政大学沖縄文化研究所)
- 野原三義 (1986) 『琉球方言助詞の研究』(武蔵野書院)
- 平山輝男・大島一郎・中本正智 (1966) 『琉球方言の総合的研究』(明治書院)
- 藤原敬治 (1982) 「久米島方言の音韻—西銘方言を中心に—」『沖縄久米島』(弘文堂)
- 宮平飛鳥 (2011) 「久米島紬と方言」『琉球方言研究』創刊号特集 久米島方言 (琉球大学法文学部国際言語文化学 科琉球方言研究室)
- 屋比久浩 (1982) 「久米島方言の動詞・形容詞の構造について」『沖縄久米島』(弘文堂)

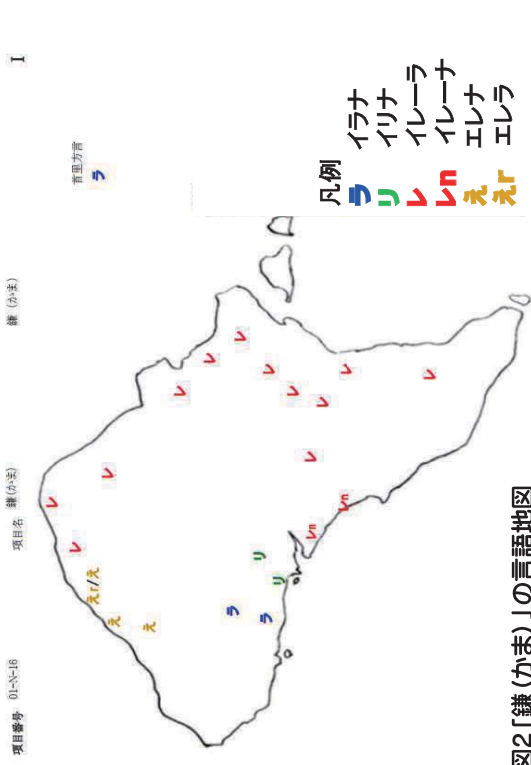


図2「鎌(かま)」の言語地図

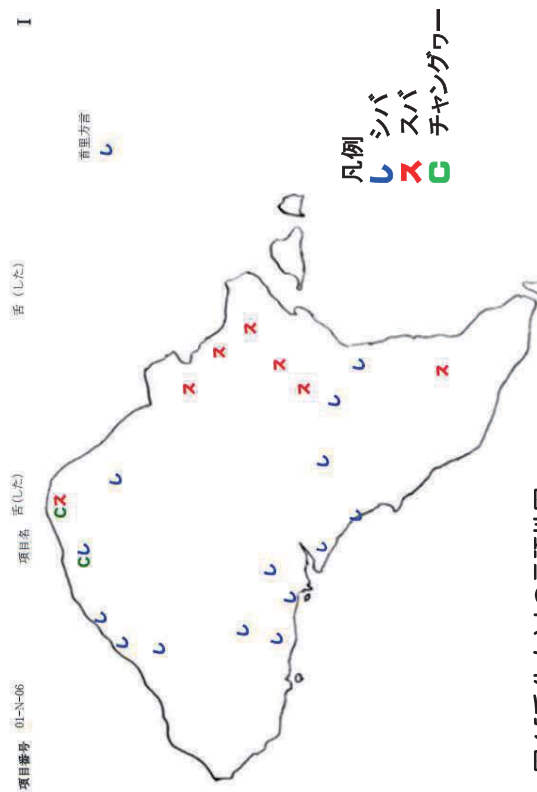


図4「舌(した)」の言語地図



図1 久米島言語地図 調査地点

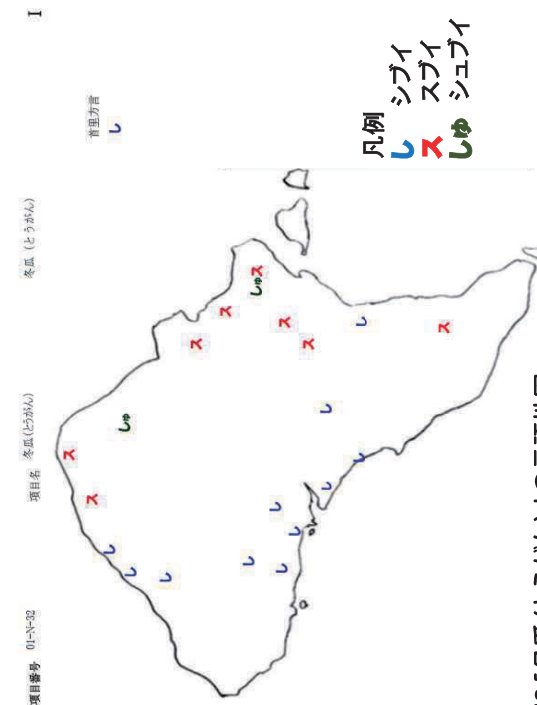


図3「冬瓜(とうがん)」の言語地図

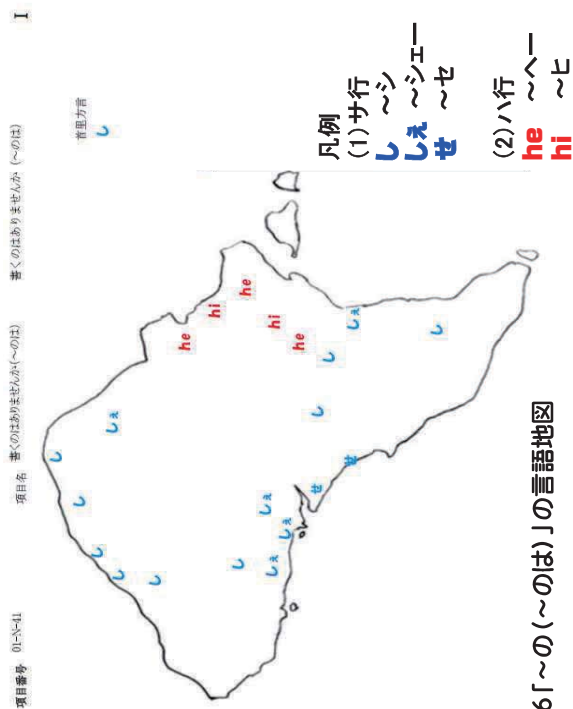


図6「〜のは(〜のは)」の言語地図

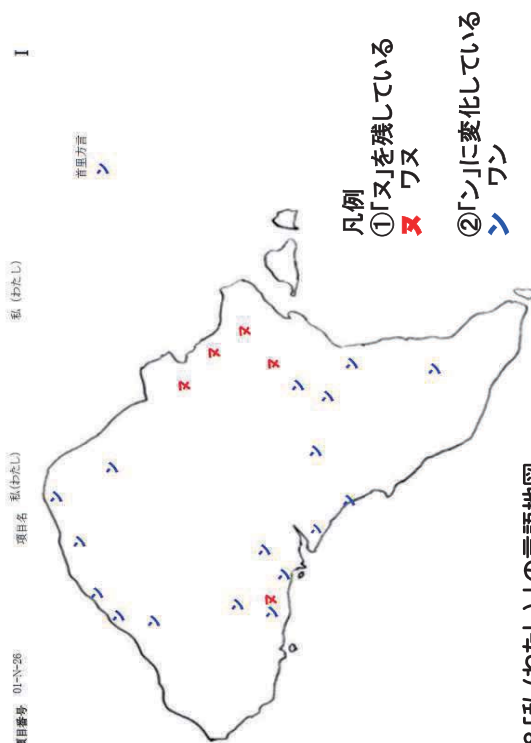


図8「私(わたし)」の言語地図

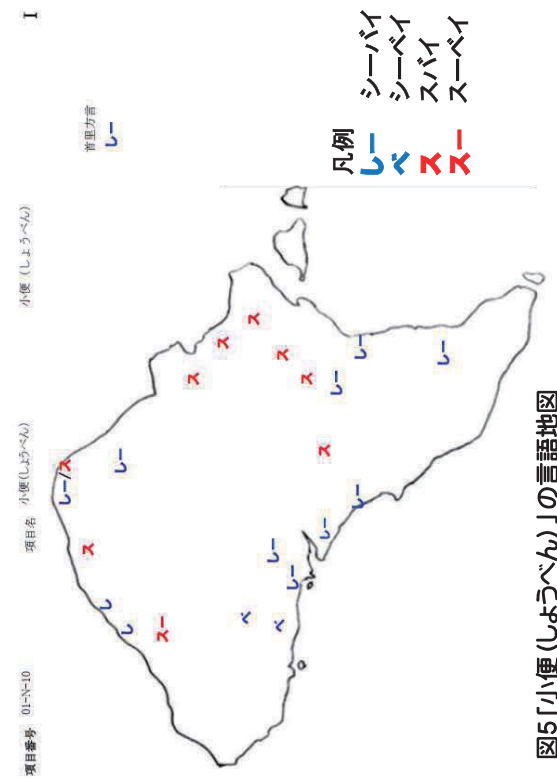


図5「小便(しょうべん)」の言語地図

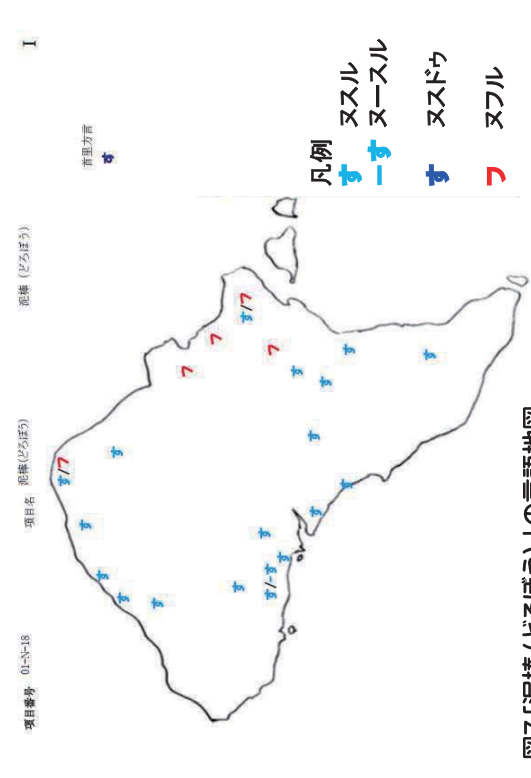


図7「泥棒(どろぼう)」の言語地図

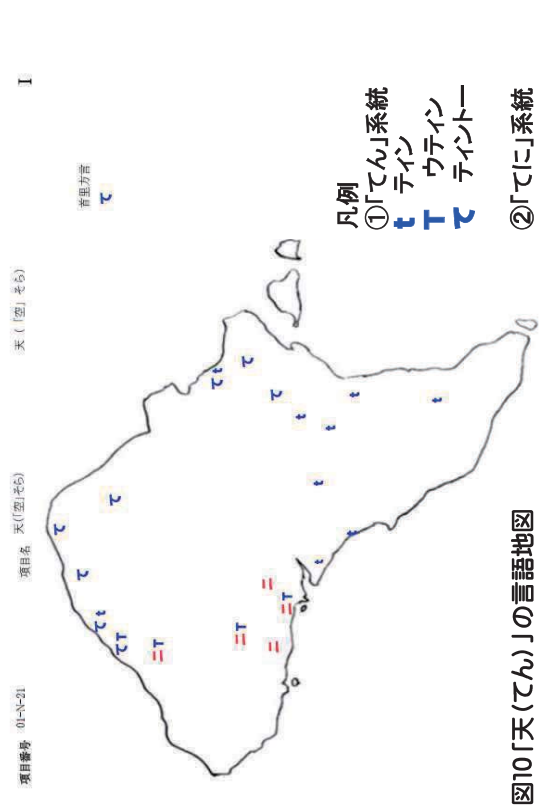


図10「天(てん)」の言語地図

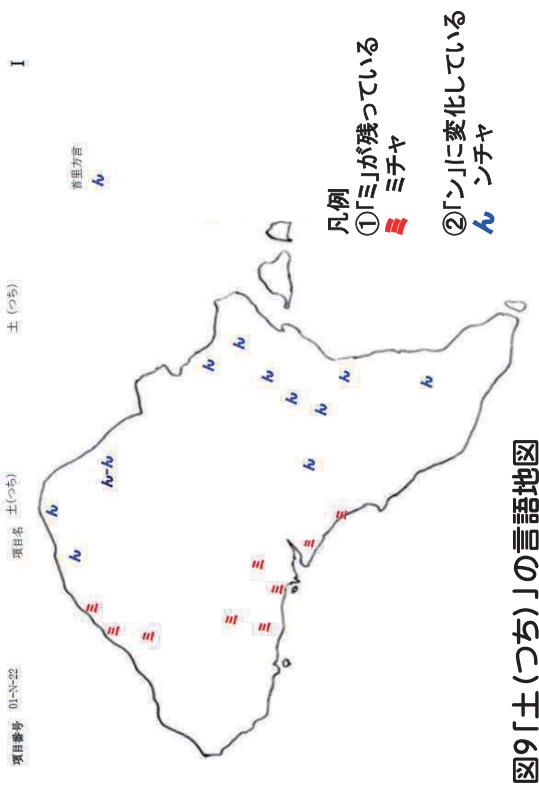


図9「土(つち)」の言語地図



図12「唾(つば)」の言語地図

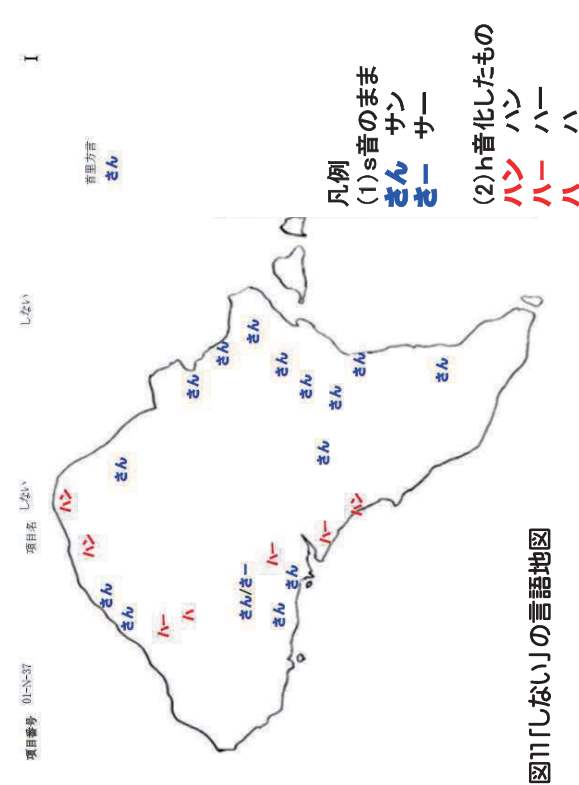


図11「しない」の言語地図

久米島方言の音韻

木部 暢子*

1 はじめに

2013年12月の調査では、比嘉、儀間、真謝、西銘の4地域で方言の録音と調査を行った。本稿は、そのデータのうち基礎語彙調査と文法項目調査のデータをもとにして、4地域の音韻の特徴をまとめたものである。

2 母音

2.1 短母音

久米島方言の短母音は /a/, /i/, /u/ の3つである。/a/ (あ) は標準語の /a/ (ア) に対応し、/i/ (い) は標準語の /i/ (イ) と /e/ (エ) に対応し、/u/ (う) は標準語の /u/ (ウ) と /o/ (オ) に対応している。表1に用例をあげておこう。

表1 短母音 /a/, /i/, /u/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a	ほくろ	adza (あざ)	aza (あざ)	aza (あざ)	a ^d za~aza (あざ)
	欠伸(あくび)	akubi (あくび)	akubi (あくび)	akubi (あくび)	akubi (あくび)
	汗(あせ)	aei: (あしー)	aei (あし)	aei (あし)	aei (あし)
	明かり	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)
i	海老(えび)	jebi (いえび)	ibi (いび)	ibi (いび)	ibi (いび)
	西(にし)	iri (いり)	iri (いり)	iri (いり)	iri (いり)
	板(いた)	ita (いた)	ita (いた)	ita (いた)	ita (いた)
u	口(くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)
	腿(もも)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)
	内(うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)
	奥(おく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)
	一昨日 (おととい)	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとい)	utti: (うっていー)
	親(おや)	uja (うや)	uja (うや)	uja (うや)	uja (うや)

短母音の /e/ と /o/ は、久米島方言ではほとんど使われない。調査した基礎語彙 560 語のうち、[e] と [o] が現れたのは、標準語的な発音が回答されたケース (表2) と、表3にあげた語 (網

* きべ のぶこ：国立国語研究所・教授

掛け部分) だけである。表3のうち、「蜻蛉」の a:kedzu (あーけづ) <比嘉>, akedzu (あけづ) <儀間>, 「鎌」の erena (えれな) <西銘>, 「蟻」の aiko (あいこ) <比嘉> は, 他の地域では長母音の [e:], [o:] で発音されているので, もともと長母音だったものが短く発音されたのではないかと思われる。

表2 短母音 /e/, /o/

e	çit̥ude (ひとうで), çimo (ひも, 紐), wakame (わかめ, 若芽), mei (めい, 姪)
o	oi (おい, 甥), kaiko (かいこ, 蚕), zizo (じじよ, 次女), sanzo (さんじよ, 三女), jonzo (よんじよ, 四女), rokuniN (ろくにん, 六人), joku (よこ, 横), hoka (ほか, 外), tonai (とない, 隣)

表3 短母音 /e/, /o/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
e	襟(えり)	jeri (いえり)	teinnukubi (ちんぬくび)	jeri (いえり)	jeri (いえり)
	鼠(ねずみ)	entsu (えんつ)	jentsu (いえんつ)	qentsu (いえんつ)	wentsu (うえんつ)
	臍(へそ)	φusu (ふす)	φusu (ふす)	φusu (ふす)	tembusu (てんぶ す)(でべそ)
	尿(にょう)	ei:bei ~ subei (しべい ~ すべい)	ei:bai (しーばい)	subai (すばい)	subai (すばい)
	蜻蛉(とんぼ)	ma:re: (まーれー)	akedzu (あけづ)	a:kedzu (あーけづ)	akke:zu: (あつけーずー)
	鎌(かま)	erena (えれな)	ine:ra (いねーら)	ire:ra (いれーら)	ire:ra (いれーら)
o	台所(だいどころ)	tong ^w a (とんぐわ)	tong ^w a (とんぐわ)	tung ^w a (とんぐわ)	tong ^w a (とんぐわ)
	虹(にじ)	nizi (にじ)	nizi (にじ)	nizi (にじ)	konnazi (こんなじ)
	蟻(あり)	ai (あい)	aiko: (あいこー)	aiko (あいこ)	aiko: (あいこー)

2. 2 長母音

短母音が /a/, /i/, /u/ の3つであるのに対し, 長母音は /a:/, /i:/, /u:/, /e:/, /o:/ の5つである。長母音は, 次のような語に現れる。

①標準語の1モーラ(拍)自立語。久米島方言では, 自立語はすべて2モーラ以上の長さで発音される。そのため, 標準語の1モーラ自立語は, 久米島方言では ta: (たー)(田), tei: (ちー)(血) のように長母音を含む2モーラで発音される。その例を以下にあげる。

表4 1音節2モーラ自立語

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a:	田(た)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)
	菜(な)	na: (なー)	o:ha (おーは)	na: (なー)	na: (なー)
i:	血(ち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)

	木(き)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
	毛(け)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)
u:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
	穂(ほ)	φu: (ふー)	φu: (ふー)	φu: (ふー)	φu: (ふー)

②金田一のアクセント類別語彙の2拍名詞3・4・5類語の一部。北琉球では2音節名詞の一部がka:mi(かーみ)(瓶), u:ei(うーし)(臼)のように第1音節目を長く延ばして発音される。服部(1932)は、このような語が金田一のアクセント類別語彙表の2拍名詞第3類(「山・犬」の類), 第4類(「松・笠」の類), 第5類(「春・雨」の類)に所属する語の一部であることを指摘し(表5参照), 琉球語ではもともと第1音節目の母音の長短により, 3・4・5類語が2つのグループに分かれていたと推定した。その後, 松森氏は琉球各地のアクセントを調査し, 琉球語にA系列, B系列, C系列の3つのアクセント語グループ(「系列別語彙」)を設定した(松森2000, 2012)。第1音節目が長く発音される語は, このうちC系列に属している。久米島方言でもC系列に属する語は第1音節目が長母音で発音される。

表5 2拍名詞3・4・5類語の対応

類	3類語		4類語		5類語	
	山	瓶	笠	松	雨	桶
単語						
京都方言	ヤ`マ	カ`メ	カ`サ	マ`ツ	ア`メ	オ`ケ
東京方言	ヤ`マ	カ`メ	カ`サ	マ`ツ	ア`メ	オ`ケ
首里方言	jama (やま)	ka:mi (かーみ)	kasa (かさ)	ma:tei (まーち)	ami (あみ)	u:ki (うーき)
第1音節の長短	短母音	長母音	短母音	長母音	短母音	長母音

※ ` は音調の上がり目を, ` は音調の下がり目を表す。

今回の調査語の範囲で第1音節が長母音で発音されたのは, 表6にあげた語である。地点により第1音節の母音の長短に違いがある場合は, 表6では, 長母音で発音された地点の名称を<>の中に記入している。地点名を明記していない語は, 4地点とも第1音節が長母音で発音された語である。

表6 第1音節が長母音で発音される語

3類語 bi:bi(びーび)(指), ka:mi(かーみ)(瓶), nu:mi(ぬーみ)(蚕), ha:tei(はーち)(鉢), ha:ma(はーま)(浜)<比嘉・儀間・西銘>, φu:ni(ふーに)(骨), ma:mi(まーみ)(豆)<比嘉>

4類語 a:tu(あーとう)(跡), i:tei(いーち)(息), u:ei(うーし)(臼), u:mi(うーみ)(海), u:bi(うーび)(帯), na:ka(なーか)(中), nu:mi(ぬーみ)(鑿)<比嘉>, ha:i(はーい)(針), ha:ei(はーし)(箸), ma:tei(まーち)(松)

5類語 u:ki(うーき)(桶), ka:gi(かーぎ)(蔭), ta:bi(たーび)(足袋), mu:ku(むーく)(婿), ma:ju(まーゆ)(眉)<真謝>

その他 i:ri(いーり)(錐)<比嘉>, u:nu(うーぬ)(斧), u:ru(うーる)(布団), ku:ga(くーが)(卵), gu:φu(ぐーふ)(たんこぶ)<比嘉, 儀間>, sa:zi(さーじ)(手拭い), ei:gu(しーぐ)(小刀),

ei:za (しーざ) (年上), ei:ei (しーし) (煤), ei:za (しーじゃ) (年上), su:ra~su:da (すーら~すーだ) (砂糖黍の先端) <比嘉, 儀間>, ti:da (ていーだ) (太陽), ti:ru (ていーる) (籠), dzi:ru (ぢーる) (囲炉裏) <真謝, 西銘>, na:ba (なーば) (茸), ni:bu (にーぶ) (ひしゃく), ne:bi (ねーび) (真似), ci:tu (ひーとう) (海豚) <真謝, 儀間, 西銘>, fu:ru (ふーる) (便所), he:ra (へーら) (籠), ho:tu (ほーとう) (鳩), ma:i (まーい) (肛門) <比嘉, 儀間>, ma:su (まーす) (塩), ja:ni (やーに) (来年), je:ku (いえーく) (櫛)

③連母音が融合して生じた長母音。例えば、表7の a: (あー) (泡) は *awa > *aa > a: のような変化により生じた長母音, kwi: (くいー) (声) は *koe > *kui > kwi: のような変化により生じた長母音である (* は想定した形であることを表す)。

表7 長母音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a:	泡(あわ)	awa (あわ)	a: (あー)	a: (あー)	a: (あー)
	俵(たわら)	ta:ra (たーら)	ta:ra (たーら)	ta:ra: (たーらー)	ta:ra (たーら)
i:	声(こえ)	kwi: (くいー)	kwi: (くいー)	kqi: (くいー)	kwi: (くいー)
	一昨日	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとうい)	utti: (うっていー)
e:	苗(なえ)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)
	蠅(はえ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
	前(まえ)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)
	青年(せいねん)	ni:se: (にーせー)	niece:~nise: (にし えー~にせー)	ninse: (にんせー)	ni:ee:ta (にーせーた)
o:	竿(さお)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)
	青い(あおい)	o:ru: (おーるー)	o:ru: (おーるー)	o:ru: (おーるー)	o:ru: (おーるー)
	麴(こうじ)	ko:zi (こーじ)	ku:dzi (くーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)

④その他, maja:(まやー) (猫), ma:ze:(まーぜー) (ぼった), habe:ru (はべーる) (蝶々), garasa: (がらさー) (鳥) などの動物名や ti:tei (ていーち) (一つ), ta:tei (たーち) (二つ) などの数詞, その他, 表8に示したような語に長母音が現れる。

表8 その他の長母音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a:	髪の毛	ka:radzi (かーらぢ)	ka:radzi (かーらぢ)	ka:radzi (かーらぢ)	ka:radzi~ka:ragi: (かーらぢ~からぎー)
	モッコ	o:da: (おーだー)	o:ra: (おーらー)	o:ra (おーら)	o:ra: (おーらー)
	蛙(かえる)	atabi:(あたびー)	atabiku: (あたびくー)	atabitea: / atabi: (あたびちやー/ あたびー)	atabi: / atabitea: (あたびー/ あたびちやー)
i:	餅(もち)	mutei~mu:tei: (むち~むーちー)	muttei: (むっちー)	mutei: (むちー)	mutei: (むちー)

	亀(かめ)	ka:mi: (かーみー)	ka:mi: (かーみー)	ka:mi: (かーみー)	ka:mi: (かーみー)
u:	筵(むしろ)	mu:su (むーす)	mu:iru (むしろ)	mu:su (むーす)	mu:su (むーす)
	蓬(よもぎ)	ɸu:teiba: (ふーちばー)	ɸu:teiba: (ふーちばー)	ɸuteiba: (ふちばー)	ɸu:teiba: (ふーちばー)
o:	笹(ざる)	so:ki (そーき)	so:ki (そーき)	so:ki (そーき)	so:ki (そーき)

2.3 二重母音

二重母音には, /ai/, /ui/ がある。二重母音の後部母音の i は, ri が変化したものである。以下に例をあげる。

表9 二重母音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ai	左(ひだり)	ɕizai (ひざい)	ɕizai (ひざい)	ɕizai~ɕizai (ひざい~ひじやい)	ɕizai (ひじやい)
	明かり	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)
	果物(くだもの)	naimun (ないむん)	naimun (ないむん)	naimun (ないむん)	nai (ない)
ui	鳥(とり)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)
	一人(ひとり)	tsui (つui)	tsui (つui)	teui (ちゆい)	teui (ちゆい)
	踊り(おどり)	urui (うるい)	udui (うどうい)	udui (うどうい)	urui (うるい)

3 子音

3.1 両唇音

両唇音には無声閉鎖音の /p/, 有声閉鎖音の /b/, 鼻音の /m/ がある。/p/ は一般の語にはほとんど現れない。調査語の範囲では以下のような語に /p/ が現れた。

表10 両唇音 /p/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
pa	鼓(つづみ)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)	p ^h araŋku: (へばらんくー)	te:ku / teizimi (てーく / ちじみ)
pe:	唾(つば)	tuppe: (とっぺー)	tuppe: (とっぺー)	tumpe: (とんぺー)	tumpe: (とんぺー)

/b/ は語頭には立たず、語中に現れる。調査語の範囲では、ba:ki (ばーき) (芋を洗う笹、目の粗い笹)」の1語に語頭の /b/ が現れた。

表11 両唇音 /b/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ba:	笹(ざる)	ba:ki (ばーき)	ba:ki (ばーき)	ba:ki (ばーき)	ba:ki (ばーき)

ba	びろう樹	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)
	舌(した)	ɛiba (しば)	ɛiba (しば)	suba (すば)	suba (すば)
bi	首(くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)
	真似(まね)	me:bi (めーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)
bu	冬瓜(とうがん)	ɛibui (しぶい)	ɛibui (しぶい)	subui (すぶい)	subui (すぶい)
	ミカン	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)
be:	糸瓜(へちま)	nabera: (なべらー)	nabe:ra:~nabe:da: (なーべらー~ なーべだー)	nabe:ra: (なべーらー)	nabe:ra: (なべーらー)

/m/ は語頭、語中に現れる。久米島方言の /ma/ (ま) は標準語の /ma/ (マ) に、/mi/ (み) は標準語の /mi/ (ミ)、/me/ (メ) に、/mu/ (む) は標準語の /mu/ (ム)、/mo/ (モ) に対応している。以下に用例をあげる。

表 12 両唇音 /m/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ma	眉(まゆ)	maju: (まゆー)	maju (まゆ)	maju (まゆ)	ma:ju (まーゆ)
	胡麻(ごま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)
mi	水(みず)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)
	虱(しらみ)	ɛirami (しらみ)	ɛirami (しらみ)	ɛirami (しらみ)	ɛirami (しらみ)
	夢(ゆめ)	imi (いみ)	imi (いみ)	imi (いみ)	imi (いみ)
mu	虫(むし)	muei (むし)	muei (むし)	muei (むし)	muei (むし)
	腿(もも)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)
	雲(くも)	k ^ʔ umu (くむ)	kumu (くむ)	kumu (くむ)	kumu (くむ)
me:	前(まえ)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)
mo	紐(ひも)	çimo (ひも)	çimu (ひむ)	çimu (ひむ)	çimo (ひも)

3. 2 歯茎音

歯茎音には、無声閉鎖音の /t/, 有声閉鎖音の /d/, 弾き音の /t/, 無声摩擦音の /s/, 有声摩擦音の /z/, 破擦音の /ç/, 鼻音の /n/ がある。

3. 2. 1 歯茎音閉鎖音

/t/ は語頭、語中に現れる。/ta/ (た) は標準語の /ta/ (タ) に、/ti/ (てい) は標準語の /te/ (テ) に、/tu/ (とう) は標準語の /to/ (ト) に対応している。

表 13 歯茎閉鎖音 /t/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ta	型(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
	歌(うた)	uta (うた)	uta (うた)	uta (うた)	uta (うた)

ta:	田(た)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)
	二つ	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーち)
ti	空(そら)	tiN (ていん)	ti (ていん)	tiN (ていん)	tiN (ていん)
	朝(あさ)	eɪtumi (しとうみてい)	eɪtumi (していみてい)	tumi (とうみてい)	tumi (とうみてい)
ti:	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)
	太陽 (たいよう)	ti:ra (ていーら)	ti:ra (ていーら)	ti:da (ていーだ)	ti:ra~ti:da (ていーら~ていーだ)
	一昨日	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとらい)	utti: (うっていー)
tu	鳥(とり)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)
	唾(つば)	tuppe: (とうっぺー)	tuppe: (とうっぺー)	tumpe: (とうんぺー)	tumpe: (とうんぺー)
	鳩(はと)	ho:tu (ほーとう)	ɸu:tu (ふーとう)	ho:tu (ほーとう)	ho:tu (ほーとう)
	港(みなと)	nnatu (んなとう)	nnatu~mnatu (んなとう~むなとう)	nnatu (んなとう)	nnatu (んなとう)
te:	鼓(つづみ)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)
to	台所	tong ^w a (とんぐわ)	tong ^w a (とんぐわ)	tung ^w a (とうんぐわ)	tong ^w a (とんぐわ)

/d/ は表 14, 15 にあげたように、語頭にも語中にも現れる。地点によって [d] や [r] で発音されることがあり、また、同一地点でも [d]~[r] のように発音が揺れることがある。一方で、次節に述べるように、[r] で一定していて揺れない /d/ が存在する。このことから、[d]~[r] のような揺れを持つ音に対しては音素 /d/ を立て、[d], [r] はそのバリエーションと考える。

表 14 歯茎閉鎖音 /d/ (語頭)

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
da	竹(たけ)	raki (らき)	daki (だき)	daki~raki (だき~らき)	raki (らき)
	傘(かさ)	--	dangasa (だんがさ)	dangasa~rangasa (だんがさ~らんがさ)	--
du	体(からだ)	ru: (るー)	ru: (るー)	du:~ru: (どうー~るー)	ru: (るー)
	友だち	rueinta:~dueinta: (るしんつあー~ どうしんつあー)	duei (どうし)	duei (どうし)	duei (どうし)
de:	大根(だいこん)	de:kuni (でーくに)	de:kuni (でーくに)	de:kuni (でーくに)	de:kuni (でーくに)

表 15 歯茎閉鎖音 /d/ (語中)

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
da	涎(よだれ)	jurai (ゆらい)	judai (ゆだい)	jurai (ゆらい)	jurai (ゆだい)

	枝(えだ)	jura (ゆら)	juda (ゆだ)	jura (ゆら)	jura (ゆら)
	あだん	aran (あらん)	adan (あだん)	aramba: (あらんばー)	arannu (あらんぬ)
	砂糖黍の先端	無回答	su:da (すーだ)	su:ra (すーら)	無回答
	太陽(たいよう)	ti:ra (ていーら)	ti:ra (ていーら)	ti:da (ていーだ)	ti:ra~ti:da (ていーら~ていーだ)
	ふくらはぎ	kunra (くんら)	kunda (くんだ)	kunda (くんだ)	kunra (くんら)
	油(あぶら)	anda (あんだ)	anda~anra (あんだ~あんら)	anda~anra (あんだ~あんら)	anra (あんら)
	糸瓜(へちま)	nabera: (なべらー)	nabe:ra:~nabe:da: (なべーらー~なべーだー)	nabe:ra: (なべーらー)	nabe:ra: (なべーらー)
	夫婦(ふうふ)	mi:tunra:~ mi:tunda: (みーとらんらー~ みーとらんだー)	mi:tunda (みーとらんだ)	mitunda (みとらんだ)	mi:tunda (みーとらんだ)
di	夕方(ゆうがた)	ju:sandi (ゆーさんでい)	jusandi (ゆさんでい)	jusandi (ゆさんでい)	juhandi (ゆはんでい)
	袖(そで)	sudi (すでい)	suri (すり)	suri (すり)	suri (すり)
	筆(ふで)	φudi (ふでい)	φuri (ふり)	φuri (ふり)	φuri (ふり)
du	角(かど)	karu (かる)	eimi (しみ)	kadu (かどう)	karu~kadu (かる~かどう)
	踊り(おどり)	urui (うるい)	udui (うどうい)	udui (うどうい)	urui (うるい)
de:	兄弟(きょうだい)	eo:re: (しよーれー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)
do:	歩いてはいけない	aruitee: naranro: (あるいちえーならんろー)	aratee: narando: (あらちえーならんどー)	attee: narando: (あつちえーならんどー)	attee: naran (あつちえーならん)

3. 2. 2 歯茎はじき音

/d/ が [d] と [r] の間を揺れるのに対して、音素 /r/ は [r] で一定していて揺れない。/r/ は語頭には立たず、もっぱら語中に現れる。以下にその例をあげておこう。

表 16 歯茎はじき音 /r/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ra	白髪(しらが)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)
	涙(なみだ)	minnara (みんなら)	nara (なら)	nara (なら)	nara / mi:nara (なら/みーなら)
ri	霧(きり)	k'iri (きり)	kiri (きり)	teiri (ちり)	kiri (きり)
	東(ひがし)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)

	これ	kuri (くり)	kuri (くり)	kuri (くり)	kuri (くり)
ru	ミカン	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)
	夜(よる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)
	にんにく	çiru (ひる)	çiru (ひる)	çiru (ひる)	çiru (ひる)
re:	鎌(かま)	erena (えれな)	ine:ra (いねーら)	ire:ra (いれーら)	ire:ra (いれーら)
	盥(たらい)	tare: (たれー)	ta:re: (たーれー)	tare: (たれー)	tare: (たれー)
ro	飛んでいる	turon (とうろん)	turon (とうろん)	turon (とうろん)	turon (とうろん)

3. 2. 3 歯茎摩擦音

/s/ は母音 /a/, /u/, /o:/ の前では [s], /i/ の前では [ç] と発音される。/e:/ の前では [s] と [ç] の両方の発音が現れる。例えば、「青年」は真謝では [ni:çe:ta] (にーしえーた : 「た」は複数を表す接辞で「青年たち」に当たる), 比嘉では [inse:] (にんせー), 西銘では [ni:se:] (にーせー), 儀間では [nice:~nise:] (にしえー~にせー) である。標準語との対応関係は, /sa/ (さ) が標準語の /sa/ (サ) に, /si/ (し) が標準語の /si/ (シ), /su/ (ス), /se/ (セ) に, /su/ (す) が標準語の /so/ (ソ) に, /se:/ (せー) が標準語の /sai/ (サイ) に, /so:/ (そー) が標準語の /sao/ (サオ) に対応している。例えば, 下の表の se:zara (せーざら) (皿) は「さいざら (菜皿)」の転, çe:ku (しえーく) (大工) は「サイク (細工)」の転, ni:çe: (にーしえー) (青年) は「ニサイ (二歳)」の転, so: (そー) (竿) は「サオ (竿)」の転である。

表 17 歯茎摩擦音 /s/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
sa	種(たね)	sani (さに)	sani (さに)	sani (さに)	sani (さに)
	杖(つえ)	gu:san (ぐーさん)	gu:san (ぐーさん)	gusan~gusanu (ぐさん~ぐーさぬ)	gusanu (ぐさぬ)
si	肉(にく・しし)	çiei (しし)	çiei (しし)	çiei (しし)	çiei (しし)
	島(しま)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)
	相撲(すもう)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)
	砂(すな)	çina (しな)	çina (しな)	çina (しな)	çina (しな)
	煤(すす)	çei:çei (しーし)	çei:çei (しーし)	çei:çei (しーし)	çei:çei (しーし)
	年(とし)	tuei (とうし)	tuei (とうし)	tuei (とうし)	tuei (とうし)
	石(いし)	iei (いし)	iei (いし)	iei (いし)	iei (いし)
	臼(うす)	u:çei (うーし)	u:çei (うーし)	u:çei (うーし)	u:çei (うーし)
汗(あせ)	açei: (あしー)	açei (あし)	açei (あし)	açei (あし)	
su	底(そこ)	suku (すく)	suku (すく)	çitei (しち)	suku (すく)
	味噌(みそ)	misu (みす)	misu (みす)	misu (みす)	misu (みす)
	袖(そで)	sudi (すでい)	suri (すり)	suri (すり)	suri (すり)
	モズク	sunui (すぬい)	sunui (すぬい)	sunui (すぬい)	sunui (すぬい)
se:	皿(さら)	sara (さら)	çe:çzara (しえーざら)	çe:zara (しえーざら)	se:zara (せーざら)

	大工(だいく)	ɛe:ku~se:ku (しえーく~せーく)	ɛe:ku (しえーく)	se:ku (せーく)	ɛe:ku (しえーく)
	青年(せいねん)	ni:se: (にーせー)	niece:~nise: (に しえー~にせー)	ninse: (にんせー)	ni:ɛe:ta (にーしえーた)
so:	竿(さお)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)
	肋骨(あばらぼ ね)	so:ki (そーき)	so:kibuni~ so:kibu:ni (そーきぶに~ そーきぶーに)	so:kibuni / so:ki (そーきぶに~ そーき)	so:kibu:ni (そー きぶーに)

このほか, [ea] (しゃ), [eu:] (しゅー), [eo:] (しょー) の発音が各 1 例, 聞かれた (表 18)。西銘の ɸiea (ひしゃ) (足) は ɸisa (ひさ) と発音されることもあり, 他の地域では ɸisa (ひさ) と発音されていることから, この [ea] (しゃ) は [sa] (さ) の異音と考えられる。同じく, 西銘の eo:re: (しよーれー) (兄弟) も, 他の地域では teo:de: (ちよーでー) と発音されているので, [eo:] (しょー) は [teo:] (ちよー) の異音と考えられる。[eu:] (しゅー) の発音は, 調査の範囲では真謝の「お父さん」にしか出てこなかった。中本『琉球語彙史の研究』(1983) によると, 久米島比嘉, 宇江城では「お父さん」のことを [su:] (すー) ということになっているので, この [eu:] (しゅー) も [su:] (すー) の異音と考えることができる。

表 18 [ea], [eu], [eo]

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
[ea]	足(あし, 全体)	ɸiea~ɸisa (ひし ゃ~ひさ)	ɸisa (ひさ)	ɸisa (ひさ)	ɸisa (ひさ)
[eo:]	兄弟(きょうだい)	eo:re: (しよーれー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)
[eu:]	お父さん	oto: (おとー)	oto: (おとー)	oto: (おとー)	eu: (しゅー)

/z/ は, 母音 /a/, /u/, /e/ の前では [z] ないし [dz] ないし [z] ないし [dz], /i/ の前では [z] ないし [dz] である。標準語との対応関係は, /za/ (ざ) が標準語の /za/ (ザ) に, /zi/ (ジ) が標準語の /zi/ (ジ), /zu/ (ズ), /ze/ (ゼ), /gi/ (ギ) に, /zu/ (ず) が標準語の /zo/ (ゾ) に対応している。

表 19 歯茎摩擦音 /z/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
za	匂い(におい)	kaza (かざ)	kaza (かざ)	kaza (かざ)	kaza (かざ)
	左(ひだり)	ɸizai (ひざい)	ɸizai (ひざい)	ɸizai~ɸizai (ひざい~ひじゃい)	ɸizai (ひじゃい)
	目上 (男女とも)	ei:zakata (しーじゃかた)	ei:dzakata (しーぢゃかた)	ei:za~ei:za (しーざ~しーじゃ)	ei:zakata (しーじゃかた)
zi	お祝い	su:zi (すーじ)	ujuje:(うゆいえー)	su:zi (すーじ)	su:zi (すーじ)
	麴(こうじ)	ko:zi (こーじ)	ku:dzi (くーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)
	妻(つま)	tuzi (とうじ)	tuzi (とうじ)	tuzi (とうじ)	tuzi (とうじ)

	水(みず)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)
	風(かぜ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)
	釘(くぎ)	kuzi (くじ)	kuzi (くじ)	kuzi (くじ)	kuzi (くじ)
	鋸(のこ)	nukuziri (ぬくじり)	nukuziri (ぬくじり)	nukuziri (ぬくじり)	nukuziri (ぬくじり)
	麦(むぎ)	mudzi (むーぢ)	muzi (むーじ)	mudzi (むーぢ)	mudzi (むーぢ)
zu	雑炊(ぞうすい)	zu:ei:me: (ずーしーめー)	dzu:ei: (ぢゅーしー)	zu:ei (ずーしー)	dzu:ei: (づーしー)
	去年(きょね)	kuzu (くず)	kuzu~kuzu (くじゅ~くず)	kuzu (くず)	kuzu (くず)
	蜻蛉(とんぼ)	ma:re: (まーれー)	akedzu (あけづ)	a:kedzu (あーけづ)	akke:zu: (あっけーず)
	冷たい	çizurusan (ひづるさん)	çizurusan~ çizurusan (ひずるさ ん~ひじゅるさん)	çizurasan~ çizurasan (ひずるさ ん~ひじゅらさん)	çizurusan (ひじゅるさん)
ze:	ばった	batta (ばった)	ma:dze: (まーぢえー)	ma:dze: (まーぜー)	ma:ze: (まーぜー)

3. 2. 4 歯茎破擦音

歯茎破擦音の /c/ は、母音 /a/, /u/ の前では [ts] ないし [tɕ], /i/, /o:/ の前では [tɕ] で発音される。/ca/ ([tsa] (つあ)~[tɕa] (ちゃ)) は標準語の / (i) ta/ (i のあとのタ) に、/ci/ ([tsi] (ち)) は標準語の /ci/ (チ), /cu/ (ツ), /ki/ (キ) に、/cu/ ([tsu] (つ)~[tɕu] (ちゅ)) は標準語の / (i) to/ (i のあとのト) と /ki/ (キ), /kjo/ (キョ), /teo/ (チョ) に応じている。例えば、teu (ちゅ) (人) は標準語の「ヒト」、teurahan (ちゅらはん) (美しい) は標準語の「キョラサ」に、teu:ka: (ちゅーかー) (急須) は標準語の「チョコ (猪口)」に対応する。以下に例をあげておこう。

表 20 破擦音 /c/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ca	まな板(いた)	marutsa~marutea (まるつあ~まるちゃ)	marutea (まるちゃ)	marutea (まるちゃ)	marutea~marutsa (まるちゃ~まるつあ)
	いくら	teassa~teassa (ちやつさ~つあつさ)	tsassa~teassa (つあつさ~ちやつさ)	teassa (ちやつさ)	teassa (ちやつさ)
	短い	intsasan (いんつあさん)	intsasan~inteasan (いんつあさん~ いんちゃさん)	inteasan (いちゃさん)	intehan (いちゃはん)
ci	血(ち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)
	乳(ち・ちち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)
	露(つゆ)	teiju (ちゅ)	teiju (ちゅ)	teiju (ちゅ)	teiju (ちゅ)
	綱(つな)	teina (ちな)	teina (ちな)	teina (ちな)	teina (ちな)
	着物(きもの)	teinu (ちぬ)	tein (ちん)	teinu (ちぬ)	teinu (ちぬ)
	内(うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)

	餅(もち)	mutei~mu:tei: (むちー~むーちー)	muttei: (むっちー)	mutei: (むちー)	mutei: (むちー)
	松(まつ)	ma:tei (まーち)	ma:tei (まーち)	ma:tei (まーち)	ma:tei (まーち)
	一つ	ti:tei (ていーち)	ti:tei (ていーち)	ti:tei (ていーち)	ti:tei (ていーち)
	時(とき)	tutei (とうち)	tutei (とうち)	tutei (とうち)	tutei (とうち)
	垣(かき)	katei (かち)	katei (かち)	kakui (かくい)	katei (かち)
cu	人(ひと)	tsu~teu (つ~ちゆ)	teu~tsu (ちゆ~つ)	teu (ちゆ)	teu (ちゆ)
	糸(いと)	i:tsu:~i:teu: (いー つー~いーちゆー)	i:tsu: (いーつー)	iteu: (いちゆー)	iteu: (いちゆー)
	美しい	tsurasan~teurasan (つらさ~ちゆらさん)	tsurasan~teurasan (つらさん~ちゆらさん)	teurasan (ちゆらさん)	teurahan (ちゆらはん)
	急須(きゆう す・ちよか)	tsu:ka:~teu:ka: (つーかー~ ちゆーかー)	teu:ka: (ちゆーかー)	teu:ka (ちゆーか)	teu:ka: (ちゆーかー)
co:	知っているか	eitteonna (しっちよんな)	eitteo' nna (しっちよんな)	eitteo: nna (しっちよんな)	eittsonna (しっつおんな)
	あの人こそ	anu tsugaru (あぬ つがる)	anu teo: (あぬ ちよー)	anu teo: (あぬ ちよー)	anu tsugaru (あぬ つがる)

3. 2. 5 歯茎鼻音

歯茎鼻音の /n/ は語頭、語中に立つ。久米島方言の /na/ (な) は標準語の /na/ (ナ) に、 /ni/ (に) は標準語の /ni/ (ニ), /ne/ (ネ) に、 /no/ (の) は標準語の /nu/ (ヌ), /no/ (ノ) に対応している。

表 21 歯茎鼻音 /n/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
na	今(いま)	nama (なま)	nama (なま)	nama (なま)	nama (なま)
	中(なか)	na:ka (なーか)	na:ka (なーか)	na:ka (なーか)	na:ka (なーか)
	鼻(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
	砂(すな)	eina (しな)	eina (しな)	eina (しな)	eina (しな)
ni	荷(に)	ni: (にー)	ni: (にー)	ni: (にー)	ni: (にー)
	北(きた)	niei (にし)	nici (にし)	niei (にし)	niei (にし)
	鬼(おに)	無回答	uni (うに)	uni (うに)	uni (うに)
	船(ふね)	φuni (ふに)	φuni (ふに)	φuni (ふに)	φuni (ふに)
nu	布(ぬの)	nunu (ぬぬ)	nunu (ぬぬ)	nunu (ぬぬ)	nunu (ぬぬ)
	命(いのち)	nutei (ぬち)	nutei (ぬち)	nutei (ぬち)	nutei (ぬち)
	犬(いぬ)	inu (いぬ)	inu (いぬ)	inu~in (いぬ~いん)	inu (いぬ)
	角(つの)	teinu (ちぬ)	teinno: (ちんの一)	teinu (ちぬ)	kunu (くぬ)
ne:	苗(なえ)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)
	真似(まね)	me:bi (めーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)

no:	浅瀬(あさせ)	assa (あっさ)	ino: (いのー)	?ino: (いのー)	無回答
	篩(ふるい)	jui / fui / mi:zo:ki: (ゆい/ふい/みーぞ ーきー)	ei:no: (しのー)	ei:no: (しのー)	jui (ゆい)

3. 3 軟口蓋音

軟口蓋音には、無声閉鎖音の /k/ と有声閉鎖音の /g/ がある。/ka/ (か) は標準語の /ka/ (カ) に、/ki/ (き) は標準語の /ke/ (ケ) に、/ku/ (く) は標準語の /ku/ (ク), /ko/ (コ) に対応している。3. 2. 4で述べたように、標準語の /ki/ (キ) は久米島方言では /ci/ [tei] (ち) に対応している。表22の「木」は、本来ならば [tei:] (ちー) となるはずだが、久米島方言では「毛」と同じように ki: (きー) と発音されている。これは、久米島方言では「木」という語が元々、*ki ではなく *ke という発音だったことを表している。奄美の喜界島方言、沖永良部方言、与論方言でも「木」は「毛」と同じ発音になっており(国立国語研究所2011, 2016)、もともと *ke のような発音であったと推定される。なお、奄美方言の「木」がもともと *ke だったことは、上村(1955)が指摘している。

表22 軟口蓋音 /k/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ka	肩(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
	風(かぜ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)
	明かり	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)
ka:	皮(かわ)	ka: (かー)	ka: (かー)	ka: (かー)	ka: (かー)
	瓶(かめ)	ka:mi (かーみ)	ka:mi (かーみ)	ka:mi (かーみ)	ka:mi (かーみ)
ki	桶(おけ)	u:ki (うーき)	u:ki (うーき)	u:ki (うーき)	u:ki (うーき)
	酒(さけ)	saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)
ki:	木(き)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
	毛(け)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
ku	口(くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)
	びろう樹	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)
	米(こめ)	kumi (くみ)	kumi (くみ)	kumi (くみ)	kumi (くみ)
	今年(ことし)	kutuei / kundu (くとうし〜くんどう)	kunru (くんる)	kutuei (くとうし)	kutuei (くとうし)
	奥(おく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)
	箱(はこ)	haku (はく)	haku (はく)	haku (はく)	haku (はく)
ke:	蜻蛉(とんぼ)	ma:re: (まーれー)	akedzu (あけづ)	a:kedzu (あーけづ)	akke:zu: (あつけーず)
ko:	翹(こうじ)	ko:zi (こーじ)	ku:dzi (こーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)
	蟻(あり)	ai (あい)	aiko: (あいこー)	aiko (あいこ)	aiko: (あいこー)

/ga/ (が) は標準語の /ga/ (ガ) に、/gi/ (ぎ) は標準語の /ge/ (ゲ) に、/gu/ (ぐ) は標準語の /gu/

(グ), /go/ (ゴ) に対応している。なお, 3. 2. 3 で述べたように, 標準語の /gi/ (ギ) は久米島方言では /zi/ [zi] (ぢ) に対応している。

表 23 軟口蓋音 /g/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ga	蟹(かに)	gani (がに)	gani (がに)	gai (がい)	gai (がい)
	洞窟(どうくつ)	gama (がま)	gama (がま)	gama (がま)	gama (がま)
	東(ひがし)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)
gi	白髪(しらが)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)
	蔭(かげ)	ka:gi (かーぎ)	kataka (かたか)	ka:gi (かーぎ)	ka:gi (かーぎ)
gu	力(ちから)	無回答	gute: (ぐてー)	gute: (ぐてー)	gute: (ぐてー)
	胡麻(ごま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)
	垢(あか)	çingu (ひんぐ)	çingu (ひんぐ)	çingu (ひんぐ)	çingu (ひんぐ)
	女(おんな)	inagu (いなぐ)	inagu (いなぐ)	inagu (いなぐ)	inagu (いなぐ)
ge:	口蓋(あご)	utuge: (うとうげー)	utuge: (うとうげー)	uttuge: (うっとうげー)	utuge: (うとうげー)
go:	苦瓜(にがうり)	go:ja: (ごーやー)	go:ja (ごーや)	go:ja (ごーや)	go:ja: (ごーやー)
	かゆい	^w igo:san (ういごーさん)	ŋgo:san (んごーさん)	igo:san (いごーさん)	ŋgo:han (んごーはん)

久米島方言には, 唇音性を帯びた /k^w/, /g^w/ という子音があり, 以下の表のような語に現れる。k^wi: (くいー) (声) は, *kowe > *kowi > k^wi: のような変化の結果生じた音である。

表 24 軟口蓋音 /k^w/, /g^w/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
k ^w a	南瓜(かぼちや)	nan ^k w ^a : (なんくわー)	nan ^k w ^a : (なんくわー)	nan ^k w ^a n (なんくわん)	nan ^k w ^a (なんくわ)
	子(こ)	k ^w a: (くわー)	k ^w a (くわ)	k ^w a (くわ)	k ^w a: (くわー)
k ^w a:	桑(くわ)	k ^w a:gi: (くわーぎ)	k ^w a:gi (くわーぎ)	k ^w a:gi (くわーぎ)	k ^w a:gi (くわーぎ)
k ^w i:	声(こえ)	k ^w i: (くいー)	k ^w i: (くいー)	k ^ɥ i: (くいー)	k ^w i: (くいー)
k ^w e:	とうがらし	kuso: (くそー)	ko:garaei (こーがらし)	k ^w e:garasi: (くうえーがらすいー)	k ^w e:garasu: (くうえーがらすー)
g ^w a	蚕(かいこ)	無回答	muei ^g w ^a : (むしんぐわー)	muei ^g w ^a (むしぐわ)	muei ^g w ^a : (むしぐわー)
	台所(だいどころ)	tong ^w a (とんぐわ)	tong ^w a (とんぐわ)	tung ^w a (とんぐわ)	tong ^w a (とんぐわ)

3. 4 声門音

声門音には, 摩擦音(無声)の /h/ がある。/h/ は, 母音 /a/, /e:/, /o:/ の前では [h], 母音 /i/ の前では口蓋音の [ç], 母音 /u/ の前では両唇音の [ɸ] で発音される(この点は標準語と同じ)。

表 25 声門音 /h/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ha	花(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
ha:	柱(はしら)	ha:ja (はーや)	ha:ja (はーや)	ha:ja (はーや)	ha:ja (はーや)
	かんざし	ɕi:ɸwa: (ちーふあー)	ɕi:ɸwa: (ちーふあー)	zi:ha: (じーはー)	ɕi:ha: (ちーはー)
hi	足(あし)	ɕisa~ɕisa (ひしゃ~ひさ)	ɕisa (ひさ)	ɕisa (ひさ)	ɕisa (ひさ)
	額(ひたい)	ɕitee: (ひちえー)	ɕitee: (ひちえー)	ɕitee: (ひちえー)	ɕitee: (ひちえー)
hu	船(ふね)	ɸuni (ふに)	ɸuni (ふに)	ɸuni (ふに)	ɸuni (ふに)
	骨(ほね)	ɸu:ni (ふーに)	ɸu:ni (ふーに)	ɸu:ni (ふーに)	ɸu:ni (ふーに)
	たんこぶ	kubu (くぶ)	gana: / gu:ɸu (がなーぐーふ)	gu:ɸu (ぐーふ)	gana: (がなー)
hu:	帆(ほ)	ɸu: (ふー)	ɸu: (ふー)	ɸu: (ふー)	ɸu: (ふー)
he:	蠅(はえ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
	南(みなみ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
ho:	鳩(はと)	ho:tu (ほーとう)	ɸu:tu (ふーとう)	ho:tu (ほーとう)	ho:tu (ほーとう)
	箒(ほうき)	ho:tei (ほーち)	ho:tei (ほーち)	ho:tei (ほーち)	ho:tei (ほーち)

3. 5 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。/j/ は硬口蓋の接近音で、母音 /a/, /u/, /e/ の前に立つ。西銘では /jo:/ の音も現れる。久米島の /j/ は標準語の /j/ に対応している。

表 26 接近音 /j/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ja	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)
	茅(かや)	kaja (かや)	kaja (かや)	kaja (かや)	kaja (かや)
ja:	お前(おまえ)	ja: / jaru (やー/やる)	ja: (やー)	ja: (やー)	ja: (やー)
ju	床(ゆか)	juka (ゆか)	juka (ゆか)	juka (ゆか)	juka (ゆか)
	夜(よる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)
	露(つゆ)	teiju (ちゆ)	teiju (ちゆ)	teiju (ちゆ)	teiju (ちゆ)
ju:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
je	襟(えり)	jeri (いゑり)	teinnukubi (ちんぬくび)	jeri (いゑり)	jeri (いゑり)
je:	櫂(舟のカイ)	e:ku~je:ku (えーく~いゑーく)	je:ku (いゑーく)	je:ku (いゑーく)	ɸe:ku (いゑーく)
jo:	魚より	ijujo:ka: (いゆよーかー)	ijujuka (いゆゆか)	ijujukan (いゆゆかん)	ijujukan (いゆゆかん)

/w/ は両唇の接近音で、母音 /a/, /i/ の前に立ち、標準語の /w/ に対応している。/wi/ は、調査語の範囲では「上」の1例のみに現れた。

表 27 接近音 /w/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
wa	腹(はら)	wata (わた)	wata (わた)	wata (わた)	wata (わた)
	藁(わら)	wara (わら)	wara (わら)	wara (わら)	wara (わら)
	豚(ぶた)	wa: (わー)	wa: (わー)	wa: (わー)	wa: (わー)
	私(わたし)	wa: (わー)	wan (わん)	wan (わん)	wan (わん)
wi	上(うえ)	*e: (うえー)	ui~we: (うい~うえ)	wi: (ういー)	wi: (ういー)

3. 6 モーラ音素

子音だけでモーラ(拍)を形成する音に、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (っ) がある。撥音は鼻にかかると音で、後ろの子音により [m], [n], [g], [ŋ] の音で発音される。例えば、後ろに両唇音の [p], [b], [m] があるときには、撥音は両唇の鼻音 [m] で、歯茎音の [t], [d], [n] があるときには歯茎の鼻音 [n] で、軟口蓋音の [k], [g] があるときには軟口蓋の鼻音 [ŋ] で発音される。また、後ろに摩擦音の /s/ があるとき、および語末では、口蓋垂の鼻音 [N] で発音される。

標準語の撥音は語頭に立たないが、久米島方言では mmu (んむ), ŋkaei (んかし) のように撥音が語頭に立つ。

表 28 撥音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
m	唾(つば)	tuppe: (とっぺー)	tuppe: (とっぺー)	tumpe: (とんぺー)	tumpe: (とんぺー)
	頭(あたま)	teiburu (ちぶる)	teimburu (ちんぶる)	teimburu (ちんぶる)	teimburu (ちんぶる)
	甘藷(さつまいも)	mmu (んむ)	mmu (んむ)	mmu (んむ)	mmu (んむ)
n	崖(がけ)	teiritu (ちりとう)	teiribanta (ちりばんた)	hanta (はんた)	teiribanta (ちりばんた)
	夫婦(ふうふ)	mi:tunra:~ mi:tunda: (みーとんらー~ みーとんだー)	mi:tunda (みーとんだ)	mitunda (みとんだ)	mi:tunda (みーとんだ)
	雷(かみなり)	kannai (かんない)	kannai (かんない)	kannai (かんない)	kannai (かんない)
ŋ	昔(むかし)	ŋkaei (んかし)	mukaei (むかし)	ŋkaei (んかし)	ŋkaei (んかし)
	垢(あか)	çiŋgu (ひんぐ)	çiŋgu (ひんぐ)	çiŋgu (ひんぐ)	çiŋgu (ひんぐ)
N	三味線(しゃみせん)	sanein (さんしん)	sanein (さんしん)	sanein (さんしん)	sanein (さんしん)
	鋏(はさみ)	hasan (はさん)	hasan (はさん)	hasan (はさん)	hasami (はさみ)

促音は同一の子音を重ねる音で、調査の範囲では [pp], [tt], [kk], [ss], [cc] の促音が現れた。

表 29 促音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
pp	唾(つば)	tuppe: (とぅっぺー)	tuppe: (とぅっぺー)	tumpe: (とぅんぺー)	tumpe: (とぅんぺー)
tt	一昨日(おととい)	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとい)	utti: (うっていー)
	弟(おとうと)	uttu (うっとう)	uttu (うっとう)	uttu (うっとう)	uttu (うっとう)
kk	袋(ふくろ)	φukuru~φukku (ふくる~ふっく)	φukuru (ふくる)	φukku (ふっく)	φukku (ふっく)
	枕(まくら)	makk ^w a (まっくわ)	makk ^w a (まっくわ)	makk ^w a (まっくわ)	makk ^w a (まっくわ)
ss	いくら	teassa (ちやっさ)	tsassa (つあっさ)	teassa (ちやっさ)	teassa (ちやっさ)
cc	お兄さん	jattei: (やっちー)	jattei: (やっちー)	jattei: (やっちー)	jattei: (やっちー)

4 音素目録

以上の音素の一覧をまとめておこう。

(1) 母音音素

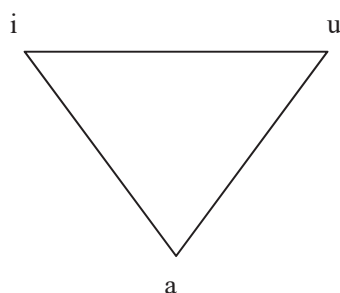


図 1 短母音音素

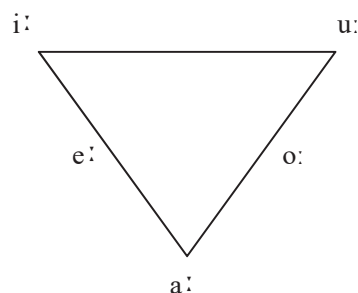


図 2 長母音音素

(2) 子音音素

表 30 子音音素

調音方法		両唇	歯茎・硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声	p	t	k	
	有声	b	d [d~ɾ]	g	
鼻音		m	n		
摩擦	無声		s [s~ɕ]		h [h~ç~φ]
	有声		z [z~ɟ~ʒ~ʒ]		
はじき			r		
破擦	無声		c [tʰ~tɕ]		
	有声				
接近		w	j		
二重調音	無声			k ^w	
	有声			g ^w	

(3) モーラ音素

撥音 N [m, n, ŋ, ɳ]
 促音 Q [pp, tt, kk, ss, cc]

5 音節

久米島方言の音節の構造は, (O)N(Co) である(Oは onset(頭子音), Nは nucleus(中核母音), Coは coda(結び)を, ()は任意であることを表す)。音節の必須の要素はN(中核母音)で, これにO(頭子音), Co(結び)がついて, 1つの音節を作る。

表 31 音節構造

O(頭子音)	N(中核母音)	Co(結び)
p, b, m	a, i, u	N
t, d, s, n, r, c	a:, i:, u:, e:, o:	Q
k, g, k ^w , g ^w	ai, ui	
h		

参考文献

上村孝二(1955)「奄美大島方言の発音について」『鹿児島大学紀要文科報告』4(上村 1998, pp.299-315
 に再録)
 上村孝二(1998)『九州方言・南島方言の研究』秋山書店
 国立国語研究所(2011)『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 喜界島方言調査報告書』
 国立国語研究所共同研究報告 11-01
 国立国語研究所(2016)『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 与論方言・沖永良部方言
 調査報告書』国立国語研究所
 服部四郎(1932)「『琉球語』と『国語』との音韻法則」『方言』2-7, 2-8, 2-10, 2-12
 服部四郎(1959)『日本語の系統』岩波書店
 仲原穰(2006a)「沖縄久米島真謝方言の音韻研究」『沖縄文化』90, pp.21-50
 仲原穰(2006b)「久米島真謝方言の名詞のアクセント—「類別語彙」1・2音節名詞を中心に—」
 『琉球の方言』30, pp.167-182
 中本正智(1983)『琉球語彙史の研究』三一書房
 藤原啓治(1982)「久米島方言の音韻—西銘方言を中心に—」『沖縄久米島』pp.697-716
 松森晶子(2000)「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から—」『音
 声研究』4-1, pp.61-71
 松森晶子(2012)「琉球調査用『系列語彙』の素案」『音声研究』16-1, pp.30-40

久米島方言のアクセント資料

上野 善道*

1 アクセント調査

2013年12月に共同研究プロジェクト「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（プロジェクトリーダー木部暢子）が行なった沖縄県久米島町の方言調査のうち、アクセントに関する資料を提示する。アクセント班が担当したのは4地点で、詳細は下記のとおりである。2014年3月には、上野が仲原と二人でその確認ならびに他地点の追加調査も行なった。誌面の都合で全員の資料を掲げる余裕がなく、各地点の冒頭の話者のものを示すにとどめるが、話者の皆様全員に御礼を申し上げる。

地点	話者	調査担当者
真謝（まじゃ）	稲嶺 ケイ子さん	上野・新田哲夫・荻野千砂子・金娥璘
比嘉（ひが）	宇江城 昌周さん、宇江城 サダエさん	上野・荻野千砂子・金娥璘・中澤光平
西銘（にしめ）	盛吉 秀雄さん、盛吉 洋子さん	上野・新田哲夫・荻野千砂子・金娥璘
儀間（ぎま）	高江洲 猛さん、嘉味田 ミツ子さん	上野・荻野千砂子・金娥璘・中澤光平
	大道 スミ子さん、山城 昌盛さん	上野・仲原穰

調査表はプロジェクトの担当者が予め作成したものを用いた。以下の資料はほぼそれに従っているが、調査をしてみて日常語ではないと判断した項目はいくつか差し替えたり（「水汲み」→「明かり」，「若い娘（メーラビ）」→「鋸」），必要に応じて追加したりした（「鯨」「かみそり」「鋏」「肥やし」）。また、予想語形とは違う単語になったものもある（「港」のトゥマイ→ンナトゥ，「今年」のフタビ→クナル，クトゥシ）。ただし、差し替え語の所属分類（A～C）までは考慮していない。元の音形はひらがな表記であったが、すべてカタカナ表記にして掲げた。

調査表の前半は言い切り形、後半は文例による接続形となっていたが、基本的に差はないと判断されたので、今回の報告は言い切り形に限ることにする（一部、接続形の方が下降の遅れが多少目立つかと思われた地点・項目もあったが、それは資料の中で注記する）。以下の資料においては「言い切り」となっていて、音形にもそれを示す「。」が付いているが、上記のように「言い切り」の表示は事実上無視して構わない。

調査表の助詞（連続）は、「が、も、から、まで、からも、までも」であった。このうち「までも」は意味が重複していて普段は使わないという反応もあったが、無理をしてもそのまま発音

* うわの ぜんどう：東京大大学名誉教授

をお願いした。「も」は「ン」となるが、他に（少なくとも比嘉と儀間には）「ロー」という助詞もある。ンで終わる名詞に助詞のンが続くのは音配列上から一般に回避され、ローなど別の助詞が用いられるようである。比嘉ではそのローの付く音調も聞いたが、掲載は基本的に省略した。

さて、本稿の中心をなすその音調型であるが、記号は

上昇 [下降]

を用いて示した。ただし、その具体的な音調はかなり揺れる部分があった。同じ時の調査の中で揺れが見られるのはよくあることであるが、1回目は[鼻]カラ，[水]カラ，…であったのに、確認調査では[鼻カ]ラ，[水カ]ラ，…で出る例も少なくなかった。（その最後にもう一度聞いたところ、1回目と同じになった地点もあった。）

また、現実発話の音調では、半上昇（%），拍内下降（[]），連続下降（[ハナ]カラ]ンなど）が観察された。それらの中の何が有意であるかは、最終的にアクセント体系が解明されてからでないと本当のところは明らかにならない。それがないままに、いたずらに表面的な発話の差異を各種の記号を用いて書き分けたところで、却って全体が見えなくなってしまう。従って、今回は私の判断（想定解釈）に基づいて、[と] の2つだけで整理して表示することにし、必要に応じてそれぞれの地点報告の最後に「注記」の形で細かい補足をすることにした。助詞（連続）における2度目の下降も表では表記しなかった。本稿の聞き取りと表記に不備な点があれば、その責任はすべて私にある。さらに詳しい調査をして、その体系を報告する機会を得たいと考えている。

最後に分節音について簡単に触れる。「まで」をマリと発音する地点のそのりは破裂的である。一方、儀間の「猿」サールーのルはふるえ音であった（共に舌さき音）。全体的に口蓋化が弱く、チュはツ、ショーはソーに近く聞こえる（特に比嘉で顕著）。

2 真謝方言のアクセント資料

2. 1 真謝 2拍名詞 (言い切り)

A

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 鼻	[ハナ]ガ。	[ハナ]ン。	[ハナ]カラ。	[ハナ]マリ。	[ハナ]カラン。	[ハナ]マリン。	1
2. 水	[ミジ]ガ。	[ミジ]ン。	[ミジ]カラ。	[ミジ]マリ。	[ミジ]カラン。	[ミジ]マリン。	1
3. 音	[ウトウ]ガ。	[ウトウ]ン。	[ウトウ]カラ。	[ウトウ]マリ。	[ウトウ]カラン。	[ウトウ]マリン。	2
4. 胸	[ンニ]ガ。	[ンニ]ン。	[ンニ]カラ。	[ンニ]マリ。	[ンニ]カラン。	[ンニ]マリン。	2
5. 洞窟	[ガマ]ガ。	[ガマ]ン。	[ガマ]カラ。	[ガマ]マリ。	[ガマ]カラン。	[ガマ]マリン。	A

B

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 花	ハナ[ガ]。	ハナ[ン]。	ハナ[カ]ラ。	ハナ[マ]リ。	ハナ[カ]ラン。	ハナ[マ]リン。	3
2. 芋	ンム[ガ]。	ンム[ン]。	ンム[カ]ラ。	ンム[マ]リ。	ンム[カ]ラン。	ンム[マ]リン。	3
3. 肩	カタ[ガ]。	カタ[ン]。	カタ[カ]ラ。	カタ[マ]リ。	カタ[カ]ラン。	カタ[マ]リン。	4
4. 舟	フニ[ガ]。	フニ[ン]。	フニ[カ]ラ。	フニ[マ]リ。	フニ[カ]ラン。	フニ[マ]リン。	4
5. 雨	アミ[ガ]。	アミ[ン]。	アミ[カ]ラ。	アミ[マ]リ。	アミ[カ]ラン。	アミ[マ]リン。	5

C

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 豆	マミ[ガ]。	マミ[ン]。	マミ[カ]ラ。	マミ[マ]リ。	マミ[カ]ラン。	マミ[マ]リン。	3
2. 中	ナ- [カ]ガ。 ナカ[ガ]。	ナ- [カ]ン。 ナカ[ン]。	ナ- [カ]カラ。	ナ- [カ]マリ。	ナ- [カ]カラン。	ナ- [カ]マリン。	4
3. 海	ウ- [ミ]ガ。 ウ- [ミ]ガ。	ウ- [ミ]ン。 ウ- [ミ]ン。	ウ- [ミ]カラ。	ウ- [ミ]マリ。	ウ- [ミ]カラン。	ウ- [ミ]マリン。	4
4. 鍋	ナ- [ビ]ガ。 ナ- [ビ]ガ。	ナ- [ビ]ン。 ナ- [ビ]ン。	ナ- [ビ]カラ。	ナ- [ビ]マリ。	ナ- [ビ]カラン。	ナ- [ビ]マリン。	5
5. 婿	ム- [ク]ガ。 ム- [ク]ガ。	ム- [ク]ン。 ム- [ク]ン。	ム- [ク]カラ。	ム- [ク]マリ。	ム- [ク]カラン。	ム- [ク]マリン。	5
6. 糸	イ[チュ-]ガ。 イ[チュ-]ガ。	イ[チュ-]ン。 イ[チュ-]ン。	イ[チュ-]カラ。	イ[チュ-]マリ。	イ[チュ-]カラン。	イ[チュ-]マリン。	4
7. 黒	ク[ルー]ガ。 ク[ルー]ガ。	ク[ルー]ン。 ク[ルー]ン。	ク[ルー]カラ。	ク[ルー]マリ。	ク[ルー]カラン。	ク[ルー]マリン。	5

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 鞆 マー[イ]ー。	マー[イ]ーガ。	マー[イ]ーン。	マー[イ]ーカラ。	マー[イ]ーマリ。	マー[イ]ーカラン。	マー[イ]ーマリン。	3
2. 猿 サー[ル]ー。	サー[ル]ーガ。	サー[ル]ーン。	サー[ル]ーカラ。	サー[ル]ーマリ。	サー[ル]ーカラン。	サー[ル]ーマリン。	5
3. 牙 [チー]バ。	[チー]バガ。	[チー]バン。	[チー]バカラ。	[チー]バマリ。	[チー]バカラン。	[チー]バマリン。	2

2. 2 真謝 3拍名詞 (言い切り)

A

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 煙 [キブ]シ。	[キブ]シガ。	[キブ]シン。	[キブ]シカラ。	[キブ]シマリ。	[キブ]シカラン。	[キブ]シマリン。	1
2. 踊 [ウル]イ。	[ウル]イガ。	[ウル]イン。	[ウル]イカラ。	[ウル]イマリ。	[ウル]イカラン。	[ウル]イマリン。	1
3. 港 [ンナ]トウ。	[ンナ]トウガ。	[ンナ]トウン。	[ンナ]トウカラ。	[ンナ]トウマリ。	[ンナ]トウカラン。	[ンナ]トウマリン。	1
4. 女 イナ[グ]。	イナ[グ]ガ。	イナ[グ]ン。	イナ[グ]カラ。	イナ[グ]マリ。	イナ[グ]カラン。	イナ[グ]マリン。	

B

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 鉞 ハサ[ミ]。	ハサ[ミ]ガ。	ハサ[ミ]ン。	ハサ[ミ]カラ。	ハサ[ミ]マリ。	ハサ[ミ]カラン。	ハサ[ミ]マリン。	4
2. 鏡 カガ[ミ]。	カガ[ミ]ガ。	カガ[ミ]ン。	カガ[ミ]カラ。	カガ[ミ]マリ。	カガ[ミ]カラン。	カガ[ミ]マリン。	4
3. 暦 クユ[ミ]。	クユ[ミ]ガ。	クユ[ミ]ン。	クユ[ミ]カラ。	クユ[ミ]マリ。	クユ[ミ]カラン。	クユ[ミ]マリン。	4
4. 男 イキ[ガ]。	イキ[ガ]ガ。	イキ[ガ]ン。	イキ[ガ]カラ。	イキ[ガ]マリ。	イキ[ガ]カラン。	イキ[ガ]マリン。	

C

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 刀 カタ[ナ]。	カタ[ナ]ガ。	カタ[ナ]ン。	カタ[ナ]カラ。	カタ[ナ]マリ。	カタ[ナ]カラン。	カタ[ナ]マリン。	4
2. 杖 グサ[ヌ]。	グサ[ヌ]ガ。	グサ[ヌ]ン。	グサ[ヌ]カラ。	グサ[ヌ]マリ。	グサ[ヌ]カラン。	グサ[ヌ]マリン。	C
3. 今年 クン[ル]。 [クトウ]シ。	クン[ル]ガ。 [クトウ]シガ。	クン[ル]ン。 [クトウ]シン。	クン[ル]カラ。 [クトウ]シカラ。	クン[ル]マリ。 [クトウ]シマリ。	クン[ル]カラン。 [クトウ]シカラン。	クン[ル]マリン。 [クトウ]シマリン。	C
4. 鯨 クジ[ラ]。	クジ[ラ]ガ。	クジ[ラ]ン。	クジ[ラ]カラ。	クジ[ラ]マリ。	クジ[ラ]カラン。	クジ[ラ]マリン。	

2. 3 真謝 4拍名詞 (言い切り)

A

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>
1. 餅米 [ムチ]グミ。 [ムチ]ムングミとも	[ムチ]グミガ。	[ムチ]グミン。	[ムチ]グミカラ。	[ムチ]グミマリ。	[ムチ]グミカラン。	[ムチ]グミマリン。
2. 明かり [アカ]ガイ。	[アカ]ガイガ。	[アカ]ガイン。	[アカ]ガイカラ。	[アカ]ガイマリ。	[アカ]ガイカラン。	[アカ]ガイマリン。
3. 晝 アカ[チチ]。	アカ[チチ]ガ。	アカ[チチ]ン。	アカ[チチ]カラ。	アカ[チチ]マリ。	アカ[チチ]カラン。	アカ[チチ]マリン。

B

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>
1. 風呂敷 ウチュ[ク]イ。	ウチュ[ク]イガ。	ウチュ[ク]イイン。	ウチュ[ク]イカラ。	ウチュ[ク]イマリ。	ウチュ[ク]イカラン。	ウチュ[ク]イマリン。
2. 苦瓜 ゴー[ヤ]ー。	ゴー[ヤ]ーガ。	ゴー[ヤ]ーン。	ゴー[ヤ]ーカラ。	ゴー[ヤ]ーマリ。	ゴー[ヤ]ーカラン。	ゴー[ヤ]ーマリン。
3. 台所 トン[グワ]。	トン[グワ]ガ。	トン[グワ]ン。	トン[グワ]カラ。	トン[グワ]マリ。	トン[グワ]カラン。	トン[グワ]マリン。
4. 雷 カン[ナイ]。	カン[ナイ]ガ。	カン[ナイ]ン。	カン[ナイ]カラ。	カン[ナイ]マリ。	カン[ナイ]カラン。	カン[ナイ]マリン。

C

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>
1. 頭 チン[ブル]。	チン[ブル]ガ。	チン[ブル]ン。	チン[ブル]カラ。	チン[ブル]マリ。	チン[ブル]カラン。	チン[ブル]マリン。
2. 母 アン[マ]ー。	アン[マ]ーガ。	アン[マ]ーン。	アン[マ]ーカラ。	アン[マ]ーマリ。	アン[マ]ーカラン。	アン[マ]ーマリン。
3. 大根 デー[ク]ニ。	デー[ク]ニガ。	デー[ク]ニン。	デー[ク]ニカラ。	デー[ク]ニマリ。	デー[ク]ニカラン。	デー[ク]ニマリン。
4. 鋸 スク[ジリ]。	スク[ジリ]ガ。	スク[ジリ]ン。	スク[ジリ]カラ。	スク[ジリ]マリ。	スク[ジリ]カラン。	スク[ジリ]マリン。

2. 4 真謝 1拍名詞 (言い切り)

A

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 血 [チー]。	[チー]ガ。	[チー]ン。	[チー]カラ。	[チー]マリ。	[チー]カラン。	[チー]マリン。	1
2. 葉 [ハー]。	[ハー]ガ。	[ハー]ン。	[ハー]カラ。	[ハー]マリ。	[ハー]カラン。	[ハー]マリン。	2
3. 灰 [へー]。	[へー]ガ。	[へー]ン。	[へー]カラ。	[へー]マリ。	[へー]カラン。	[へー]マリン。	1
4. 蠅 [へー]。	[へー]ガ。	[へー]ン。	[へー]カラ。	[へー]マリ。	[へー]カラン。	[へー]マリン。	1

B

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 目 ミ[-]	ミー[-ガ]	ミー[-ン]	ミー[-カ]ラ。	ミー[-マ]リ。	ミー[-カ]ラン。	ミー[-マ]リン。	3
2. 木 キ[-]	キー[-ガ]	キー[-ン]	キー[-カ]ラ。	キー[-マ]リ。	キー[-カ]ラン。	キー[-マ]リン。	3
3. 皮 カ[-]	カー[-ガ]	カー[-ン]	カー[-カ]ラ。	カー[-マ]リ。	カー[-カ]ラン。	カー[-マ]リン。	3
4. 竿 ソ[-]	ソー[-ガ]	ソー[-ン]	ソー[-カ]ラ。	ソー[-マ]リ。	ソー[-カ]ラン。	ソー[-マ]リン。	3
5. 家 ヤ[-]	ヤー[-ガ]	ヤー[-ン]	ヤー[-カ]ラ。	ヤー[-マ]リ。	ヤー[-カ]ラン。	ヤー[-マ]リン。	

C

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 桑 クワ[-]	クワー[-ガ]	クワー[-ン]	クワー[-カ]ラ。	クワー[-マ]リ。	クワー[-カ]ラン。	クワー[-マ]リン。	3
2. 杭 [クイ]ー。(稀)	[クイ]ーガ。	[クイ]ーン。	[クイ]ーカラ。	[クイ]ーマリ。	[クイ]ーカラン。	[クイ]ーマリン。	2
3. 声 [クイ]ー。	[クイ]ーガ。	[クイ]ーン。	[クイ]ーカラ。	[クイ]ーマリ。	[クイ]ーカラン。	[クイ]ーマリン。	5
4. 前 [メ]ー。	[メ]ーガ。	[メ]ーン。	[メ]ーカラ。	[メ]ーマリ。	[メ]ーカラン。	[メ]ーマリン。	5
5. 鋏 [クエ]ー。	[クエ]ーガ。	[クエ]ーン。	[クエ]ーカラ。	[クエ]ーマリ。	[クエ]ーカラン。	[クエ]ーマリン。	1
	[トウ]ン[グエ]ー。	[トウ]ン[グエ]ーン。	[トウ]ン[グエ]ーカラ。	[トウ]ン[グエ]ーマリ。	[トウ]ン[グエ]ーカラン。	[トウ]ン[グエ]ーマリン。	
6. 肥やし [クエ]ー。	[クエ]ーガ。	[クエ]ーン。	[クエ]ーカラ。	[クエ]ーマリ。	[クエ]ーカラン。	[クエ]ーマリン。	

注記

1. 助詞付きの形において「下降の遅れ」がしばしば起こる。

「鼻から、鼻まで」の [ハナ]カラ, [ハナ]マリ が [ハナ]カラ, [ハナ]マリ (時には [ハナ]カ)ラ, [ハナ]マリ (時には [ハナ]マリ)にも), 「豆からも」の マミ[カ]ラン が マミ[カラ]ン, 「鋏が」の ハサ[ミ]ガ が ハサ[ミ]ガ が ハサ[ミ]マリ が ハサ[ミ]マリ でも表現する。ハサ[ミ]ガ と下降が消えた形も一部記録してある。

しかしながら、名詞単独では起こらず、「風呂敷」ウチュ[ク]イ と「鋸」ヌク[ジ]リ は対立するものと見られる。(次に述べる上昇の遅れも、ウチュ[ク]イには起こらず、ヌク[ジ]リにおいて起こる。)

2. 「上昇の遅れ」もしばしば起こる(上昇後、下降までの距離が2モーラ以上あるときで、それが1モーラるときは生じない)。

「晝」のアカ[チ]チ, 「雷」のカン[ナイ], 「鋸」のヌク[ジ]リ が、しばしばアカ%チ[チ (%は半上昇), カン%ナ[イ, カンナ[イ, ヌク%ジ]リ]でそれぞれ実現する。「鼻」の [ハナ] も時には %ハ[ナ] となることがあるが、「花」の ハ[ナ] との区別は明瞭である。

3.	海	ウー[ミ]ガ。	ウー[ミ]カラ。	ウー[ミ]マリ。	ウー[ミ]カラシ。	ウー[ミ]マリシ。	ウー[ミ]マリシ。	ウー[ミ]マリシ。	4
4.	鍋	ナー[ビ]ガ。	ナー[ビ]カラ。	ナー[ビ]マリ。	ナー[ビ]カラシ。	ナー[ビ]マリシ。	ナー[ビ]マリシ。	ナー[ビ]マリシ。	5
5.	婿	ムー[ク]ガ。	ムー[ク]カラ。	ムー[ク]マリ。	ムー[ク]カラシ。	ムー[ク]マリシ。	ムー[ク]マリシ。	ムー[ク]マリシ。	5
6.	糸	イ[ツー]ガ。	イ[ツー]カラ。	イ[ツー]マリ。	イ[ツー]カラシ。	イ[ツー]マリシ。	イ[ツー]マリシ。	イ[ツー]マリシ。	4
7.	黒	ク[ルー]ガ。	ク[ルー]カラ。	ク[ルー]マリ。	ク[ルー]カラシ。	ク[ルー]マリシ。	ク[ルー]マリシ。	ク[ルー]マリシ。	5

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 鞠	マー[イ]ーガ。	マー[イ]ーシ。	マー[イ]ーカラ。	マー[イ]ーマリ。	マー[イ]ーカラシ。	マー[イ]ーマリシ。	3
2. 猿	サー[ル]ーガ。	サー[ル]ーシ。	サー[ル]ーカラ。	サー[ル]ーマリ。	サー[ル]ーカラシ。	サー[ル]ーマリシ。	5
3. 牙	[チー]バガ。	[チー]バシ。	[チー]バカラ。	[チー]バマリ。	[チー]バカラシ。	[チー]バマリシ。	2

3. 2 比嘉 3拍名詞 (言い切り)

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 煙	[キブ]シガ。	[キブ]シシ。	[キブ]シカラ。	[キブ]シマリ。	[キブ]シカラシ。	[キブ]シマリシ。	1
2. 踊	[ウル]イガ。	[ウル]イシ。	[ウル]イカラ。	[ウル]イマリ。	[ウル]イカラシ。	[ウル]イマリシ。	1
3. 港	[ンナ]トウガ。	[ンナ]トウシ。	[ンナ]トウカラ。	[ンナ]トウマリ。	[ンナ]トウカラシ。	[ンナ]トウマリシ。	1
4. 女	イナ[グ]ガ。	イナ[グ]シ。	イナ[グ]カラ。	イナ[グ]マリ。	イナ[グ]カラシ。	イナ[グ]マリシ。	

B

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 鋏	ハサ[ミ]ガ。	ハサ[ミ]シ。	ハサ[ミ]カラ。	ハサ[ミ]マリ。	ハサ[ミ]カラシ。	ハサ[ミ]マリシ。	4
2. 鏡	カガ[ミ]ガ。	カガ[ミ]シ。	カガ[ミ]カラ。	カガ[ミ]マリ。	カガ[ミ]カラシ。	カガ[ミ]マリシ。	4
3. 曆	クイ[ミ]ガ。	クイ[ミ]シ。	クイ[ミ]カラ。	クイ[ミ]マリ。	クイ[ミ]カラシ。	クイ[ミ]マリシ。	4
4. 男	イキ[ガ]ガ。	イキ[ガ]シ。	イキ[ガ]カラ。	イキ[ガ]マリ。	イキ[ガ]カラシ。	イキ[ガ]マリシ。	

C

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 刀	カタ[ナ]ガ。	カタ[ナ]シ。	カタ[ナ]カラ。	カタ[ナ]マリ。	カタ[ナ]カラシ。	カタ[ナ]マリシ。	4

2.	杖	グサ[ス]。 グ[サン]。	グサ[ヌ]ガ。 グ[サン]ガ。	グサ[ヌ]ン。 クン[ル]ン。	グサ[ヌ]カラ。 グ[サン]カラ。	グサ[ヌ]マリ。 グ[サン]マリ。	グサ[ヌ]カラ。 グ[サン]カラ。	グサ[ヌ]マリ。 グ[サン]マリ。	グサ[ヌ]カラ。 グ[サン]カラ。	グサ[ヌ]マリ。 グ[サン]マリ。	C
3.	今年	クン[ル]。 [クトウ]シ。	クン[ル]ガ。 [クトウ]シガ。	クン[ル]ン。 [クトウ]シン。	クン[ル]カラ。 [クトウ]シカラ。	クン[ル]マリ。 [クトウ]シマリ。	クン[ル]カラ。 [クトウ]シカラ。	クン[ル]マリ。 [クトウ]シマリ。	クン[ル]カラ。 [クトウ]シカラ。	クン[ル]マリ。 [クトウ]シマリ。	C
4.	鯨	グジ[ラ]。	グジ[ラ]ガ。	グジ[ラ]ン。	グジ[ラ]カラ。	グジ[ラ]マリ。	グジ[ラ]カラ。	グジ[ラ]マリ。	グジ[ラ]カラ。	グジ[ラ]マリ。	

3. 3 比嘉 4拍名詞 (言い切り)

A

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>
1. 餅米	[ムチ]ムンガ。 [アカ]ガイガ。	[ムチ]ムン。 [アカ]ガイン。	[ムチ]ムンカラ。 [アカ]ガイカラ。	[ムチ]ムンマリ。 [アカ]ガイマリ。	[ムチ]ムンカラ。 [アカ]ガイカラ。	[ムチ]ムンマリ。 [アカ]ガイマリ。
2. 明け	アカ[チ]チガ。 アカ[トウ]チガ。	アカ[チ]ン。 アカ[トウ]シン。	アカ[チ]カラ。 アカ[トウ]チカラ。	アカ[チ]マリ。 アカ[トウ]チマリ。	アカ[チ]カラ。 アカ[トウ]チカラ。	アカ[チ]マリ。 アカ[トウ]チマリ。

B

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>
1. 風呂敷	ウツ[ク]イガ。 ゴ- [ヤ]ーガ。	ウツ[ク]イン。 ゴ- [ヤ]ーン。	ウツ[ク]イカラ。 ゴ- [ヤ]ーカラ。	ウツ[ク]イマリ。 ゴ- [ヤ]ーマリ。	ウツ[ク]イカラ。 ゴ- [ヤ]ーカラ。	ウツ[ク]イマリ。 ゴ- [ヤ]ーマリ。
2. 苦瓜	トン[グワ]ガ。 カン[ナイ]ガ。	トン[グワ]ン。 カン[ナイ]ン。	トン[グワ]カラ。 カン[ナイ]カラ。	トン[グワ]マリ。 カン[ナイ]マリ。	トン[グワ]カラ。 カン[ナイ]カラ。	トン[グワ]マリ。 カン[ナイ]マリ。

C

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>
1. 頭	チン[ブ]ルガ。 アン[マ]ーガ。	チン[ブ]ルン。 アン[マ]ーン。	チン[ブ]ルカラ。 アン[マ]ーカラ。	チン[ブ]ルマリ。 アン[マ]ーマリ。	チン[ブ]ルカラ。 アン[マ]ーカラ。	チン[ブ]ルマリ。 アン[マ]ーマリ。
2. 母	デー[ク]ニガ。 ヌク[ジリ]ガ。	デー[ク]ニン。 ヌク[ジリ]ン。	デー[ク]ニカラ。 ヌク[ジリ]カラ。	デー[ク]ニマリ。 ヌク[ジリ]マリ。	デー[ク]ニカラ。 ヌク[ジリ]カラ。	デー[ク]ニマリ。 ヌク[ジリ]マリ。
3. 大根	カン[スイ]ガ。 スイ[ガ]。	カン[スイ]ン。 スイ[ガ]ン。	カン[スイ]カラ。 スイ[ガ]カラ。	カン[スイ]マリ。 スイ[ガ]マリ。	カン[スイ]カラ。 スイ[ガ]カラ。	カン[スイ]マリ。 スイ[ガ]マリ。

3. 4 比嘉 1 拍名詞 (言い切り)

A

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 血 [チー]。	[チー]ガ。	[チー]ン。	[チー]カラ。	[チー]マリ。	[チー]カラン。	[チー]マリン。	1
2. 葉 [ハー]。	[ハー]ガ。	[ハー]ン。	[ハー]カラ。	[ハー]マリ。	[ハー]カラン。	[ハー]マリン。	2
3. 灰 [へー]。	[へー]ガ。	[へー]ン。	[へー]カラ。	[へー]マリ。	[へー]カラン。	[へー]マリン。	1
4. 蠅 [へー]。	[へー]ガ。	[へー]ン。	[へー]カラ。	[へー]マリ。	[へー]カラン。	[へー]マリン。	1

B

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 目 ミ [ー]。	ミ [ー]ガ。	ミ [ー]ン。	ミ [ー]カラ。	ミ [ー]マリ。	ミ [ー]カラン。	ミ [ー]マリン。	3
2. 木 キ [ー]。	キ [ー]ガ。	キ [ー]ン。	キ [ー]カラ。	キ [ー]マリ。	キ [ー]カラン。	キ [ー]マリン。	3
3. 皮 カ [ー]。	カ [ー]ガ。	カ [ー]ン。	カ [ー]カラ。	カ [ー]マリ。	カ [ー]カラン。	カ [ー]マリン。	3
4. 竿 ソ [ー]。	ソ [ー]ガ。	ソ [ー]ン。	ソ [ー]カラ。	ソ [ー]マリ。	ソ [ー]カラン。	ソ [ー]マリン。	3
5. 家 ヤ [ー]。	ヤ [ー]ガ。	ヤ [ー]ン。	ヤ [ー]カラ。	ヤ [ー]マリ。	ヤ [ー]カラン。	ヤ [ー]マリン。	3

C

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 桑 クワ [ー]。	クワ [ー]ガ。	クワ [ー]ン。	クワ [ー]カラ。	クワ [ー]マリ。	クワ [ー]カラン。	クワ [ー]マリン。	3
クワ [ー] [ギ]。	クワ [ー] [ギ]ガ。	クワ [ー] [ギ]ン。	クワ [ー] [ギ]カラ。	クワ [ー] [ギ]マリ。	クワ [ー] [ギ]カラン。	クワ [ー] [ギ]マリン。	
2. 杭 [クイ] [ー]。(稀)	[クイ] [ー]ガ。	[クイ] [ー]ン。	[クイ] [ー]カラ。	[クイ] [ー]マリ。	[クイ] [ー]カラン。	[クイ] [ー]マリン。	2
3. 声 [クイ] [ー]。	[クイ] [ー]ガ。	[クイ] [ー]ン。	[クイ] [ー]カラ。	[クイ] [ー]マリ。	[クイ] [ー]カラン。	[クイ] [ー]マリン。	5
4. 前 [メ] [ー]。	[メ] [ー]ガ。	[メ] [ー]ン。	[メ] [ー]カラ。	[メ] [ー]マリ。	[メ] [ー]カラン。	[メ] [ー]マリン。	5
5. 鋏 [クエ] [ー]。	[クエ] [ー]ガ。	[クエ] [ー]ン。	[クエ] [ー]カラ。	[クエ] [ー]マリ。	[クエ] [ー]カラン。	[クエ] [ー]マリン。	1
トウシ [グエ] [ー]。	トウシ [グエ] [ー]ガ。						
6. 肥やし [クエ] [ー]。	[クエ] [ー]ガ。	[クエ] [ー]ン。	[クエ] [ー]カラ。	[クエ] [ー]マリ。	[クエ] [ー]カラン。	[クエ] [ー]マリン。	

注記

1. 助詞付きの形において「下降の遅れ」がしばしば起こる。
「鼻から、鼻まで、鼻からも、鼻までも」が、[ハナ]カラ、[ハナ]マリ、[ハナ]カラ、[ハナ]マリンの他に、[ハナカ]ラ、[ハナマ]リ、[ハナカ]ラン、[ハナマ]リンにも実現する。「海から」のウー[ミ]カラとウー[ミ]カラ、「鉞から」のハサ[ミ]カラとハサ[ミ]カラなども同様。
また、「煙から、煙からも、煙までも、煙米からも、煙米まで」などにおいて、[キブ]シカラ、[キブ]シカラン、[キブ]シマリンが[キブシカ]ラ、[キブシカ]ラン、[キブシマ]リンと、[ムチ]ムンカラ、[ムチ]ムンカラン、[ムチ]ムンマリが[ムチムンカ]ラ、[ムチムンカ]ラン、[ムチムンマ]リと発音されることもあった。「血から、血まで」の[チー]カラ、[チー]マリンなども同様である。
さらに、接続形においては、「花から、鉞から」などで、ハナ[カ]ラ、ハサ[ミ]カラ～ハサ[ミ]カラが、ハナ[カ]ラ…、ハサ[ミ]カラ…と下降が消えることもあった。
2. 付属語における2度目の下降もよく起こる。
「鏡からも、鏡までも」の カガ[ミ]カラ]ン、カガ[ミ]マリ]ン など。

4 西銘方言のアクセント資料

4. 1 西銘 2拍名詞 (言い切り)

A

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 鼻 [ハナ。	[ハナ]ガ。	[ハナ]ン。	[ハナ]カラ。	[ハナ]マデイ。	[ハナ]カラ。	[ハナ]マデイン。	1
2. 水 [ミジ。	[ミジ]ガ。	[ミジ]ン。	[ミジ]カラ。	[ミジ]マデイ。	[ミジ]カラ。	[ミジ]マデイン。	1
3. 音 [ウトウ。	[ウトウ]ガ。	[ウトウ]ン。	[ウトウ]カラ。	[ウトウ]マデイ。	[ウトウ]カラ。	[ウトウ]マデイン。	2
4. 胸 [ンニ。	[ンニ]ガ。	[ンニ]ン。	[ンニ]カラ。	[ンニ]マデイ。	[ンニ]カラ。	[ンニ]マデイン。	2
5. 洞窟 [ガマ。	[ガマ]ガ。	[ガマ]ン。	[ガマ]カラ。	[ガマ]マデイ。	[ガマ]カラ。	[ガマ]マデイン。	A

B

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 花 ハ[ナ。	ハナ[ガ]。	ハ[ナ]ン。	ハナカ[ラ]。	ハナマ[デイ]。	ハナカ[ラ]ン。	ハナマ[デイ]ン。	3
2. 芋 ン[ム。	ンム[ガ]。	ン[ム]ン。	ンムカ[ラ]。	ンムマ[デイ]。	ンムカ[ラ]ン。	ンムマ[デイ]ン。	3
3. 肩 カ[タ。	カタ[ガ]。	カ[タ]ン。	カタカ[ラ]。	カタマ[デイ]。	カタカ[ラ]ン。	カタマ[デイ]ン。	4

4.	舟	フニ[ガ]。	フニカ[ラ]。	フニマ[デ]イ。	フニカ[ラ]ン。	フニマ[デ]イン。	4
5.	雨	ア[ミ]。	アミカ[ラ]。	アミマ[デ]イ。	アミカ[ラ]ン。	アミマ[デ]イン。	5

C

単語	〈〜が〉	〈〜も〉	〈〜から〉	〈〜まで〉	〈〜からも〉	〈〜までも〉	類
1. 豆	マミ[ガ]。	マ[ミン]。	マミカ[ラ]。	マミマ[デ]イ。	マミカ[ラ]ン。	マミマ[デ]イン。	3
2. 中	ナ[カ]ガ。 ナカ[ガ]。	ナ[カ]ン。	ナ[カ]カラ。	ナ[カ]マデ	ナ[カ]カラ	ナ[カ]マデイン。	4
3. 海	ウ[ミ]ガ。	ウ[ミン]。	ウ[ミ]カラ。	ウミマ[デ]イ。	ウ[ミ]カラ	ウ[ミ]マデイン。	4
4. 鍋	ナ[ビ]ガ。	ナ[ビン]。	ナ[ビ]カラ。	ナ[ビ]マデ	ナ[ビ]カラ	ナ[ビ]マデイン。	5
5. 婿	ム[ク]ガ。	ム[ク]ン。	ム[ク]カラ。	ム[ク]マリデ	ム[ク]カラ	ム[ク]マデイン。	5
6. 糸	イ[ツ]ガ。	イ[ツ]ン。	イ[ツ]カラ。	イ[ツ]マデ	イ[ツ]カラ	イ[ツ]マデイン。	4
7. 黒	クル[ガ]。	クル[ン]。	クル[ガ]カラ。	クル[ガ]マデ	クル[ガ]カラ	クル[ガ]マデイン。	5

単語	〈〜が〉	〈〜も〉	〈〜から〉	〈〜まで〉	〈〜からも〉	〈〜までも〉	類
1. 鞆	マ[イ]ガ。	マ[イン]。	マ[イ]カラ。	マ[イ]マデ	マ[イ]カラ	マ[イ]マデイン。	3
2. 猿	サ[ル]ガ。	サ[ル]ン。	サ[ル]カラ。	サ[ル]マデ	サ[ル]カラ	サ[ル]マデイン。	5
3. 牙	[チー]バ[ー]ガ。	[チー]バ[ー]ン。	[チー]バ[ー]カラ。	[チー]バ[ー]マデ	[チー]バ[ー]カラ	[チー]バ[ー]マデイン。	2

4. 2 西銘 3拍名詞 (言い切り)

A

単語	〈〜が〉	〈〜も〉	〈〜から〉	〈〜まで〉	〈〜からも〉	〈〜までも〉	類
1. 煙	[キブ]シガ。	[キブ]シン。	[キブ]シカラ。	[キブ]シマデ	[キブ]シカラ	[キブ]シデイン。	1
2. 踊	[ウル]イガ。	[ウル]イン。	[ウル]イカラ。	[ウル]イマデ	[ウル]イカラ	[ウル]イマデイン。	1
3. 港	[シナ]トウ。	[シナ]トウ	[シナ]トウカラ。	[シナ]トウマデ	[シナ]トウカラ	[シナ]トウマデイン。	1
4. 女	イナ[グ]ガ。	イナ[グ]ン。	イナ[グ]カラ。	イナ[グ]マデ	イナ[グ]カラ	イナ[グ]マデイン。	

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 鉞	ハサ[ミ]ガ。	ハサ[ミン]。	ハサ[ミ]カラ。	ハサ[ミ]マデイ。	ハサ[ミン]カラ。	ハサ[ミ]マデイン。	4
2. 鏡	カガ[ン]ガ。	カガ[ニン]。	カガ[ン]カラ。	カガ[ン]マデイ。	カガ[ニン]カラ。	カガ[ン]マデイン。	4
3. 曆	クイ[ミ]ガ。	クイ[ミン]。	クイ[ミ]カラ。	クイ[ミ]マデイ。	クイ[ミン]カラ。	クイ[ミ]マデイン。	4
4. 男	イキ[ガ]ガ。	イキ[ガ]ン。	イキ[ガ]カラ。	イキ[ガ]マデイ。	イキ[ガ]カラ。	イキ[ガ]マデイン。	
C							
単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 刀	カタ[ナ]ガ。	カタ[ナン]。	カタ[ナ]カラ。	カタ[ナ]マデイ。	カタ[ナン]カラ。	カタ[ナ]マデイン。	4
2. 杖	グサ[ン]ガ。	グサ[ニン]。 グサ[ン]デー。	グサ[ン]カラ。	グサ[ン]マデイ。	グサ[ニン]カラ。	グサ[ン]マデイン。	C
3. 今年	クン[ドウ]ガ。	クン[ドウ]ン。	クン[ドウ]カラ。	クン[ドウ]マデイ。	クン[ドウ]カラ。	クン[ドウ]マデイン。	C
	[クトウ]シ。	[クトウ]シン。	[クトウ]シカラ。	[クトウ]シマデイ。	[クトウ]シカラ。	[クトウ]シマデイン。	
4. 鯨	クジ[ラ]ガ。	クジ[ラン]。	クジ[ラ]カラ。	クジ[ラ]マデイ。	クジ[ラン]カラ。	クジ[ラ]マデイン。	

4. 3 西銘 4拍名詞 (言い切り)

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>
1. 餅米	[ムチ]グミガ。	[ムチ]グミン。	[ムチ]グミカラ。	[ムチ]グミマデイ。	[ムチ]グミカラ。	[ムチ]グミマデイン。
2. 明かり	[アカ]ガイガ。	[アカ]ガイン。	[アカ]ガイカラ。	[アカ]ガイマデイ。	[アカ]ガイカラ。	[アカ]ガイマデイン。
3. 晝	アカチ[チ]ガ。	アカチ[チ]ン。	アカチ[チ]カラ。	アカチ[チ]マデイ。	アカチ[チ]カラ。	アカチ[チ]マデイン。
時に	アカ[チチ]にも	以下, アカ[チチ]ガ。などにも				
B						
単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>
1. 風呂敷	ウツク[イ]ガ。	ウツク[イン]。	ウツク[イ]カラ。	ウツク[イ]マデイ。	ウツク[イ]カラ。	ウツク[イ]マデイン。
2. 苦瓜	ゴーヤ[一]ガ。	ゴーヤ[一]ン。	ゴーヤ[一]カラ。	ゴーヤ[一]マデイ。	ゴーヤ[一]カラ。	ゴーヤ[一]マデイン。
3. 台所	トン[グワ]ガ。	トン[グワ]ン。	トン[グワ]カラ。	トン[グワ]マデイ。	トン[グワ]カラ。	トン[グワ]マデイン。

4.	雷 カンナ[イ]イ。 稲光はヒル[イ]イ。	カンナ[イ]ガ。 カンナ[イ]ン。	カンナ[イ]カラ。 カンナ[イ]ン。	カンナ[イ]マデイ。 カンナ[イ]カラ。	カンナ[イ]カラ。 カンナ[イ]ン。	カンナ[イ]マデイン。 カンナ[イ]マデイン。
C						
	単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>
1.	頭 チブ[ル]。 チンブ[ル]。(古)	チブ[ル]ガ。 チンブ[ル]ガ。	チブ[ル]ン。 チンブ[ル]ン。	チブ[ル]カラ。 チンブ[ル]カラ。	チブ[ル]マデイ。 チンブ[ル]マデイ。	チブ[ル]カラ。 チンブ[ル]カラ。
2.	母 アンマ[一]。 オツカ[一]。が普通	アンマ[一]ガ。 オツカ[一]ガ。	アンマ[一]ン。 オツカ[一]ン。	アンマ[一]カラ。 オツカ[一]カラ。	アンマ[一]マデイ。 オツカ[一]マデイ。	アンマ[一]カラ。 オツカ[一]カラ。
3.	大根 デーク[ニ]。	デーク[ニ]ガ。	デーク[ニ]ン。	デーク[ニ]カラ。	デーク[ニ]マデイ。	デーク[ニ]カラ。
4.	鋸 スクジ[リ]。	スクジ[リ]ガ。	スクジ[リ]ン。	スクジ[リ]カラ。	スクジ[リ]マデイ。	スクジ[リ]カラ。
5.	刺刀 カンス[イ]。	カンス[イ]ガ。	カンス[イ]ン。	カンス[イ]カラ。	カンス[イ]マデイ。	カンス[イ]カラ。

4. 4 西銘 1 拍名詞 (言い切り)

A						
	単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>
1.	血 [チー]。	[チー]ガ。	[チー]ン。	[チー]カラ。	[チー]マデイ。	[チー]カラ。
2.	葉 [ハー]。	[ハー]ガ。	[ハー]ン。	[ハー]カラ。	[ハー]マデイ。	[ハー]カラ。
3.	灰 [へー]。	[へー]ガ。	[へー]ン。	[へー]カラ。	[へー]マデイ。	[へー]カラ。
4.	蠅 [へー]。	[へー]ガ。	[へー]ン。	[へー]カラ。	[へー]マデイ。	[へー]カラ。
B						
	単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>
1.	目 ミ[一]。	ミ[一]ガ。	ミ[一]ン。	ミ[一]カラ。	ミ[一]マデイ。	ミ[一]カラ。
2.	木 キ[一]。	キ[一]ガ。	キ[一]ン。	キ[一]カラ。	キ[一]マデイ。	キ[一]カラ。
3.	皮 カ[一]。	カ[一]ガ。	カ[一]ン。	カ[一]カラ。	カ[一]マデイ。	カ[一]カラ。
4.	竿 ソ[一]。	ソ[一]ガ。	ソ[一]ン。	ソ[一]カラ。	ソ[一]マデイ。	ソ[一]カラ。
5.	家 ヤ[一]。	ヤ[一]ガ。	ヤ[一]ン。	ヤ[一]カラ。	ヤ[一]マデイ。	ヤ[一]カラ。

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 桑 クワ一。	クワー[ガ]。	クワー[ン]。	クワーカ[ラ]。	クワーマ[デ]イ。	クワーカ[ラ]ン。	クワーマ[デ]イン。	3
2. 杭 [クイ一]。	[クイ一]ガ。	[クイ一]ン。	[クイ一]カラ。	[クイ一]マデ	[クイ一]カラ	[クイ一]マデイン。	2
3. 声 [クイ一]。	[クイ一]ガ。	[クイ一]ン。	[クイ一]カラ。	[クイ一]マデ	[クイ一]カラ	[クイ一]マデイン。	5
4. 前 [メ一]。	[メ一]ガ。	[メ一]ン。	[メ一]カラ。	[メ一]マデ	[メ一]カラ	[メ一]マデイン。	5
5. 鋏 [クエ一]。	[クエ一]ガ。	[クエ一]ン。	[クエ一]カラ。	[クエ一]マデ	[クエ一]カラ	[クエ一]マデイン。	1
6. 肥やし [クエ一]。	[クエ一]ガ。	[クエ一]ン。	[クエ一]カラ。	[クエ一]マデ	[クエ一]カラ	[クエ一]マデイン。	

※ 下降調にも。

注記

1. 上昇が3モーラ目以降にある場合の1モーラ目には強めがある。
2. 付属語に2度目の下降が頻出する。
「鼻」[ハナ]カラン, [ハナ]マリン, 「煙」[キブ]シカラ, [キブ]シカララ, 「鋏」ハサ[ミ]カラン など。

5 儀間方言のアクセント資料

5.1 儀間 2拍名詞 (言い切り)

単語	<へが>	<へも>	<へから>	<へまで>	<へからも>	<へまでも>	類
1. 鼻 [ハナ]。	[ハナ]ガ。	[ハナ]ン。	[ハナ]カラ。	[ハナ]マリ	[ハナ]カラ	[ハナ]マリ	1
2. 水 [ミジ]。	[ミジ]ガ。	[ミジ]ン。	[ミジ]カラ。	[ミジ]マリ	[ミジ]カラ	[ミジ]マリ	1
3. 音 [ウトウ]。	[ウトウ]ガ。	[ウトウ]ン。	[ウトウ]カラ。	[ウトウ]マリ	[ウトウ]カラ	[ウトウ]マリ	2
4. 胸 [ンニ]。	[ンニ]ガ。	[ンニ]ン。	[ンニ]カラ。	[ンニ]マリ	[ンニ]カラ	[ンニ]マリ	2
5. 洞窟 [ガマ]。	[ガマ]ガ。	[ガマ]ン。	[ガマ]カラ。	[ガマ]マリ	[ガマ]カラ	[ガマ]マリ	A

B

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 花 ハ[ナ]	[ハ]ナ[ガ]	[ハ]ナ[ン]	[ハナ]カ[ラ]	[ハナ]マ[リ]	[ハナ]カ[ラ]ン	[ハナ]マ[リ]ン	3
2. 芋 ン[ム]	[ン]ム[ガ]	[ン]ム[ン]	[ンム]カ[ラ]	[ンム]マ[リ]	[ンム]カ[ラ]ン	[ンム]マ[リ]ン	3
3. 肩 カ[タ]	[カ]タ[ガ]	[カ]タ[ン]	[カタ]カ[ラ]	[カタ]マ[リ]	[カタ]カ[ラ]ン	[カタ]マ[リ]ン	4
4. 舟 フ[ニ]	[フ]ニ[ガ]	[フ]ニ[ン]	[フニ]カ[ラ]	[フニ]マ[リ]	[フニ]カ[ラ]ン	[フニ]マ[リ]ン	4
5. 雨 ア[ミ]	[ア]ミ[ガ]	[ア]ミ[ン]	[アミ]カ[ラ]	[アミ]マ[リ]	[アミ]カ[ラ]ン	[アミ]マ[リ]ン	5

C

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 豆 マ[ミ]	[マ]ミ[ガ]	[マ]ミ[ン]	[マミ]カ[ラ]	[マミ]マ[リ]	[マミ]カ[ラ]ン	[マミ]マ[リ]ン	3
2. 中 [ナ]ー[カ]	[ナ]ー[カ]ガ]	[ナ]ー[カン]	[ナ]ー[カカ]ラ	[ナ]ー[カマ]リ	[ナ]ー[カカラ]ン	[ナ]ー[カマリ]ン	4
3. 海 [ウ]ー[ミ]	[ウ]ー[ミ]ガ]	[ウ]ー[ミン]	[ウ]ー[ミカ]ラ	[ウ]ー[ミマ]リ	[ウ]ー[ミカラ]ン	[ウ]ー[ミマリ]ン	4
4. 鍋 [ナ]ー[ビ]	[ナ]ー[ビ]ガ]	[ナ]ー[ビン]	[ナ]ー[ビカ]ラ	[ナ]ー[ビマ]リ	[ナ]ー[ビカラ]ン	[ナ]ー[ビマリ]ン	5
5. 婿 [ム]ー[ク]	[ム]ー[ク]ガ]	[ム]ー[クン]	[ム]ー[クカ]ラ	[ム]ー[クマ]リ	[ム]ー[クカラ]ン	[ム]ー[クマリ]ン	5
6. 糸 [イ]ー[チュ]	[イ]ー[チュ]ガ]	[イ]ー[チュン]	[イ]ー[チュカ]ラ	[イ]ー[チュマ]リ	[イ]ー[チュカラ]ン	[イ]ー[チュマリ]ン	4
7. 黒 [ク]ル[ー]	[ク]ル[ー]ガ]	[ク]ル[ー]ン	[ク]ル[ーカ]ラ	[ク]ル[ーマ]リ	[ク]ル[ーカラ]ン	[ク]ル[ーマリ]ン	5

単語	<～が>	<～も>	<～から>	<～まで>	<～からも>	<～までも>	類
1. 鞠 [マ]ー[イー]	[マ]ー[イー]ガ]	[マ]ー[イー]ン	[マ]ー[イーカ]ラ	[マ]ー[イーマ]リ	[マ]ー[イーカラ]ン	[マ]ー[イーマリ]ン	3
2. 猿 [サ]ー[ルー]	[サ]ー[ルー]ガ]	[サ]ー[ルー]ン	[サ]ー[ルーカ]ラ	[サ]ー[ルーマ]リ	[サ]ー[ルーカラ]ン	[サ]ー[ルーマリ]ン	5
3. 牙 [チ]ー[バ]	[チ]ー[バ]ガ]	[チ]ー[バ]ン	[チ]ー[バカ]ラ	[チ]ー[バマ]リ	[チ]ー[バカラ]ン	[チ]ー[バマリ]ン	2
[メ]ー[ハ]ー。(前歯)	[メ]ー[ハ]ー]ガ]	[メ]ー[ハ]ー]ン	[メ]ー[ハ]ーカ]ラ	[メ]ー[ハ]ーマ]リ	[メ]ー[ハ]ーカラ]ン	[メ]ー[ハ]ーマリ]ン	

5. 2 儀間 3拍名詞 (言い切り)

A

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 煙	[キブシ]ガ。	[キブシ]ン。	[キブシ]カ]ラ。	[キブシ]マ]リ。	[キブシ]カラ]ン。	[キブシ]マリ]ン。	1
2. 踊	[モ−イ]ガ。(古)	[モ−イ]ン。	[モ−イ]カ]ラ。	[モ−イ]マ]リ。	[モ−イ]カラ]ン。	[モ−イ]マリ]ン。	1
	[ウル]イ。	[ウル]イ]ン。	[ウル]イ]カ]ラ。	[ウル]イ]マ]リ。	[ウル]イ]カラ]ン。	[ウル]イ]マリ]ン。	
3. 港	[ン]ナ[トウ]。	[ン]ナ[トウ]ン。	[ン]ナ[トウ]カ]ラ。	[ン]ナ[トウ]マ]リ。	[ン]ナ[トウ]カラ]ン。	[ン]ナ[トウ]マリ]ン。	1
4. 女	[イ]ナ[グ]。	[イ]ナ[グ]ン。	[イ]ナ[グ]カ]ラ。	[イ]ナ[グ]マ]リ。	[イ]ナ[グ]カラ]ン。	[イ]ナ[グ]マリ]ン。	

B

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 鋏	[ハサ]ミ[ガ]。	[ハサ]ミ]ン。	[ハサ]ミ]カ]ラ。	[ハサ]ミ]マ]リ。	[ハサ]ミ]カラ]ン。	[ハサ]ミ]マリ]ン。	4
2. 鏡	[カガ]ン[ガ]。	[カガ]ン]ン。	[カガ]ン]カ]ラ。	[カガ]ン]マ]リ。	[カガ]ン]カラ]ン。	[カガ]ン]マリ]ン。	4
3. 暦	[クユ]ミ[ガ]。	[クユ]ミ]ン。	[クユ]ミ]カ]ラ。	[クユ]ミ]マ]リ。	[クユ]ミ]カラ]ン。	[クユ]ミ]マリ]ン。	4
4. 男	[イ]キ[ガ]ガ]。	[イ]キ]ガ]ン。	[イ]キ]ガ]カ]ラ。	[イ]キ]ガ]マ]リ。	[イ]キ]ガ]カラ]ン。	[イ]キ]ガ]マリ]ン。	

C

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 刀	[カ]タ]ナ[ガ]。	[カ]タ]ナ]ン。	[カ]タ]ナ]カ]ラ。	[カ]タ]ナ]マ]リ。	[カ]タ]ナ]カラ]ン。	[カ]タ]ナ]マリ]ン。	4
	[タ]チ[ガ]。	[タ]チ]ン。	[タ]チ]カ]ラ。	[タ]チ]マ]リ。	[タ]チ]カ]ラ]ン。	[タ]チ]マ]リ]ン。	
2. 杖	[グ]サ]ン[ガ]。	[グ]サ]ン]ロ]ー。	[グ]サ]ン]カ]ラ。	[グ]サ]ン]マ]リ。	[グ]サ]ン]カラ]ン。	[グ]サ]ン]マリ]ン。	C
3. 今年	[ク]ン[ル]ガ]。	[ク]ン[ル]ン。	[ク]ン[ル]カ]ラ。	[ク]ン[ル]マ]リ。	[ク]ン[ル]カラ]ン。	[ク]ン[ル]マリ]ン。	
	[ク]ン[ル]ガ]。	[ク]ン[ル]ロ]ー。	[ク]ン[ル]カ]ラ。	[ク]ン[ル]マ]リ。	[ク]ン[ル]カ]ラ]ン。	[ク]ン[ル]マ]リ]ン。	
	[ク]トウ]シ]ガ]。	[ク]トウ]シ]ン。	[ク]トウ]シ]カ]ラ。	[ク]トウ]シ]マ]リ。	[ク]トウ]シ]カラ]ン。	[ク]トウ]シ]マリ]ン。	
4. 鯨	[グ]ジ]ラ[ガ]。	[グ]ジ]ラ]ン。	[グ]ジ]ラ]カ]ラ。	[グ]ジ]ラ]マ]リ。	[グ]ジ]ラ]カラ]ン。	[グ]ジ]ラ]マリ]ン。	

5. 3 儀間 4拍名詞 (言い切り)

A

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>
1. 餅米 [ムチグミ]ミ。	[ムチグミ]ガ。	[ムチグミ]ン。	[ムチグミ]カラ。	[ムチグミ]マリ。	[ムチグミ]カラン。	[ムチグミ]マリン。
2. 明かり [アカガイ]イ。	[アカガイ]ガ。	[アカガイ]ン。	[アカガイ]カラ。	[アカガイ]マリ。	[アカガイ]カラン。	[アカガイ]マリン。
3. 眺 [アカ]チ[チ]。	[アカ]チ[チ]ガ。	[アカ]チ[チ]ン。	[アカ]チ[チ]カラ。	[アカ]チ[チ]マリ。	[アカ]チ[チ]カラン。	[アカ]チ[チ]マリン。

B

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>
1. 風呂敷 [ウツク]イ。	[ウツク]ク[イ]ガ。	[ウツク]ク[イ]ン。	[ウツク]ク[イ]カラ。	[ウツク]ク[イ]マリ。	[ウツク]ク[イ]カラン。	[ウツク]ク[イ]マリン。
2. 苦瓜 [ゴ-]ヤ[-]。	[ゴ-]ヤ[-]ガ。	[ゴ-]ヤ[-]ン。	[ゴ-]ヤ[-]カラ。	[ゴ-]ヤ[-]マリ。	[ゴ-]ヤ[-]カラン。	[ゴ-]ヤ[-]マリン。
3. 台所 [トウ]ン[グワ]。	[トウ]ン[グワ]ガ。	[トウ]ン[グワ]ン。	[トウ]ン[グワ]カラ。	[トウ]ン[グワ]マリ。	[トウ]ン[グワ]カラン。	[トウ]ン[グワ]マリン。
4. 雷 [カン]ナ[イ]。	[カン]ナ[イ]ガ。	[カン]ナ[イ]ン。	[カン]ナ[イ]カラ。	[カン]ナ[イ]マリ。	[カン]ナ[イ]カラン。	[カン]ナ[イ]マリン。

C

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>
1. 頭 [チン]ブ[ル]。	[チン]ブ[ル]ガ。	[チン]ブ[ル]ン。	[チン]ブ[ル]カラ。	[チン]ブ[ル]マリ。	[チン]ブ[ル]カラン。	[チン]ブ[ル]マリン。
2. 母 [アン]マ[-]。	[アン]マ[-]ガ。	[アン]マ[-]ン。	[アン]マ[-]カラ。	[アン]マ[-]マリ。	[アン]マ[-]カラン。	[アン]マ[-]マリン。
3. 大根 [デー]ク[ニ]。	[デー]ク[ニ]ガ。	[デー]ク[ニ]ン。	[デー]ク[ニ]カラ。	[デー]ク[ニ]マリ。	[デー]ク[ニ]カラン。	[デー]ク[ニ]マリン。
4. 鋸 [ヌク]ジ[リ]。	[ヌク]ジ[リ]ガ。	[ヌク]ジ[リ]ン。	[ヌク]ジ[リ]カラ。	[ヌク]ジ[リ]マリ。	[ヌク]ジ[リ]カラン。	[ヌク]ジ[リ]マリン。
5. 剃刀 [カン]ス[イ]。	[カン]ス[イ]ガ。	[カン]ス[イ]ン。	[カン]ス[イ]カラ。	[カン]ス[イ]マリ。	[カン]ス[イ]カラン。	[カン]ス[イ]マリン。

5. 4 儀間 1拍名詞 (言い切り)

A

単語	<〜が>	<〜も>	<〜から>	<〜まで>	<〜からも>	<〜までも>	類
1. 血 [チ-]ガ。	[チ-]ン。	[チ-]ン。	[チ-]カラ。	[チ-]マリ。	[チ-]カラン。	[チ-]マリン。	1
2. 葉 [ハ-]ガ。	[ハ-]ン。	[ハ-]ン。	[ハ-]カラ。	[ハ-]マリ。	[ハ-]カラン。	[ハ-]マリン。	2
3. 灰 [ヘ-]ガ。	[ヘ-]ン。	[ヘ-]ン。	[ヘ-]カラ。	[ヘ-]マリ。	[ヘ-]カラン。	[ヘ-]マリン。	1

4.	蠅	[へー]	[ガ]	[へー]	ン。	[へー]	カ	ラ	ン。	[へー]	マ	リ	。	[へー]	マ	リ	ン。	1										
B																												
	単語	〈へが〉		〈へも〉		〈へから〉		〈へまで〉		〈へからも〉		〈へまでも〉		類														
1.	目	ミ	ー	[ガ]	[ミ]	ー	ン。	[ミ]	ー	カ	ラ	。	[ミ]	ー	マ	リ	。	[ミ]	ー	マ	リ	ン。	3					
2.	木	キ	ー	[ガ]	[キ]	ー	ン。	[キ]	ー	カ	ラ	。	[キ]	ー	マ	リ	。	[キ]	ー	マ	リ	ン。	3					
3.	皮	カ	ー	[ガ]	[カ]	ー	ン。	[カ]	ー	カ	ラ	。	[カ]	ー	マ	リ	。	[カ]	ー	マ	リ	ン。	3					
4.	竿	ソ	ー	[ガ]	[ソ]	ー	ン。	[ソ]	ー	カ	ラ	。	[ソ]	ー	マ	リ	。	[ソ]	ー	マ	リ	ン。	3					
5.	家	ヤ	ー	[ガ]	[ヤ]	ー	ン。	[ヤ]	ー	カ	ラ	。	[ヤ]	ー	マ	リ	。	[ヤ]	ー	マ	リ	ン。	3					
C																												
	単語	〈へが〉		〈へも〉		〈へから〉		〈へまで〉		〈へからも〉		〈へまでも〉		類														
1.	桑	ク	ワ	ー	[ガ]	[ク	ワ	ー	カ	ラ	。	[ク	ワ	ー	マ	リ	。	[ク	ワ	ー	マ	リ	ン。	3				
2.	杭	ク	イ	ー	[ガ]	[ク	イ	ー	カ	ラ	。	[ク	イ	ー	マ	リ	。	[ク	イ	ー	マ	リ	ン。	2				
3.	声	ク	イ	ー	[ガ]	[ク	イ	ー	カ	ラ	。	[ク	イ	ー	マ	リ	。	[ク	イ	ー	マ	リ	ン。	5				
4.	前	メ	ー	[ガ]	[メ	ー	カ	ラ	。	[メ	ー	マ	リ	。	[メ	ー	マ	リ	ン。	[メ	ー	マ	リ	ン。	5			
5.	鉞	ク	エ	ー	[ガ]	[ク	エ	ー	カ	ラ	。	[ク	エ	ー	マ	リ	。	[ク	エ	ー	マ	リ	ン。	1				
	[トウ]	ン	[グ	エ	ー]	[トウ]	ン	[グ	エ	ー]	[トウ]	ン	[グ	エ	ー]	[トウ]	ン	[グ	エ	ー]	[トウ]	ン	[グ	エ	ー]	マ	リ	ン。

注記

- 高江洲氏においては、しばしば語頭の上昇幅が少なく、[で表記したものが % が出る。「鼻、煙、糯米」などで始まる文節がその例で、%ハ[ナ, %キ[ブン]ガ, %ム[チダミカラ]ン など。ただし、「血」[チー などでは起こらない。この点、嘉味田氏はいくつかの項目を聞いただけであるが、[ハナ で一貫し、かつ、[ハナ]カラ, [ハナ]カラ]ン であった。
- 「花も」の [ハ]ナ[ン, 「黒」の [ク]ル[ー など、いわゆる二山型でその二山目に特殊拍が関与する音調は、中の窪みが目立たず、%○[○○ に非常に近く聞こえる。

沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形

ハイス・ファン・デル・ルベ*

はじめに

本稿では、沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形を考察し、疑問専用形式のみならず、あらゆる疑問文の形を記述することにする。

1 対象言語

謝名堂方言は、北琉球諸語に属する沖縄語の下位方言である。話者の内省によると、沖縄語を代表する首里方言との相違理解度が高いとのことであるが、疑問文の形をはじめ謝名堂方言と首里方言には、さまざまな相違点がある。

謝名堂は、旧中里村に属する集落である。沖縄でよく用いられる、いわゆる二村併称では、隣の泊集落とひっくるめて tumai-jararo:「泊・謝名堂」と言われ、1つの単位としてあつかわれる。泊と謝名堂の間には、言語差がなく、1つのことばになっているが、西に隣接する比嘉（沖縄語名 dʒa:mu）のことばと東に隣接する宇根（沖縄語名 utʃamu）のことばは、泊・謝名堂方言とことなると言われている。本発表では、当該方言のことを謝名堂方言とよぶことにする。

2 調査方法

2011年8月と2015年12月に録音した役3時間の自然談話のコーパスに出た疑問文を分析し、聞き取り調査で謝名堂方言の母語話者である KM氏（女 1936年生）と MI（男 1947年生）に確認し、不明なところを教えてもらった。自然談話の話者は、上に述べた2人以外、YS（女 1932年生）、YS（女 1942年生）、TY（女 1929年生）、KY（女 1922年生-†2013）、KS（男 1933年生）である。

自然談話では、2人の話者が同時に発話し、その発話が重なっているところが多い。本研究では、沖縄語泊・謝名堂方言における疑問をあらゆる形式とその用法の記述を目的としているため、読者の理解を容易にするために2人の話者の発話が重なっているところをそのまま用例にするよりは、文と談話の構造を守りながらなおすことにした。なおしたところに関しては、話者に確認をとっている。

現在、沖縄語話者の発話に日本語とのコードスイッチが多い。コーパスの談話にもコードスイッチが多いが、用例としては、できる限りコードスイッチがないところを使用した。社会言語学的な観点からは、日本語へのコードスイッチが非常に興味深いものであるとは、認識しているが、本稿は、沖縄語泊・謝名堂の全体的な記述を目的とするものであるため、語彙のコードスイッチのばあい、日本語の語彙を容易に沖縄語の語彙におきかえることが可能なばあいに話者と確認しながら沖縄語の語彙を入れた。

* 浦添市浦添小学校英語指導助手

3 疑問文

日本語記述文法研究会（2003）によれば、疑問の定義は、次のとおりである。

疑問は、その命題に対して話し手の判断がなりたないことをあらわす。疑問の中心的な機能は、質問である。典型的な質問には、①話し手に不明な情報があるため判断がなりたらず、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという2つの基本的性質がある。質問の2つの基本性質のうち、①を欠くのが確認要求の疑問文であり、②を欠くのが疑いの疑問文である。確認要求の疑問文や、疑いの疑問文のほかにも、質問を行う時点での話し手の見込みや、状況や文脈との関係、あるいは情報の得られ方などから疑問文にはさまざまな大部が存在する。

一番典型的な疑問文は、①と②という特徴を両方もち、聞き手から情報を引き出すことを目的とする。

上に述べた2つの性質の中の1つが欠けている疑問文もある。たとえば、確認要求の疑問文は、話し手の判断がなりたっていないという性質が欠けており、疑いの疑問文は、聞き手に問いかけるという性質が欠けている。

疑問文が疑問終助詞によってマークされる点は、北琉球語群に属している言語変種の中で広く見られる特徴である（ファン・デル・ルベ 2016）。

「疑問文は、話し手にとって何が不明なのかという観点から、真偽疑問文（＝肯否疑問文, yes-no question/polar question）、選択疑問文（alternative question）、補充疑問分（疑問詞疑問文, wh-question/content question）の3のタイプに分けられる。

確認要求や疑いは、疑問たらしめる2つの性質の中の1つを欠いているが、疑問には、属する。修辭疑問は、特徴①を欠いているが、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという意味では、「聞き手に問いかける」という性質を持っているため、ここで記述することにする。

表1 沖縄語久米島謝名堂方言のさまざまな疑問文の‘疑問らしさ’。

	条件①	条件②
肯否疑問	○	○
選択肢疑問	○	○
疑問詞疑問	○	○
確認要求の疑問	×	○
疑いの疑問	○	△
問い返し疑問	△	○
修辭疑問	×	×

本稿では、沖縄語久米島謝名堂方言における疑問文にあらわれるあらゆる形の形態論的な特徴と用法の特徴を考察する。

4 na

naは、肯否疑問をあらわす疑問助詞である。naによる肯否疑問は、①話し手に不明な情報があるため判断がなりたらず、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという2つの疑問たらしめる特徴をもつ。

naは、あらゆる品詞につく。この肯否疑問のマーカ―naは、用法の差があっても琉球諸語にあまねくみられる疑問助詞である。

動詞・第1形容詞・コピュラにつくばあい、次のとおりになっている。

表2 肯定形の肯否疑問形

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	suN=na	tʃaN	tʃi=na
来る	tsuN	tsuN=na	tʃaN	tʃi=na
買う	ko:juN	ko:juN=na	ko:taN	ko:ti=na
起きる	ukijuN	ukijuN=na	ukitaN	ukiti=na
飲む	numiN	numiN=na	nuraN	nu:ri=na
高い	takahaN	takahaN=na	takaha:taN	takaha:ti=na
コピュラ1	re:ru	reN=na	re:taru	re:ti=na
コピュラ2	jaN/jeN	jaN=na/jeN=na	jataN/je:taN	jati=na/je:ti=na

表3 否定形の肯否疑問形

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
しない	saN	saN=na	sana:taN	sana:ti=na
来ない	kuN	kuN=na	ku:na:taN	ku:na:ti=na
買わない	ko:raN	ko:raN=na	ko:rana:taN	ko:rana:ti=na
起きない	ukiraN	ukiraN=na	ukirana:taN	ukirana:ti=na
飲まない	numaN	numaN=na	numana:taN	numana:ti=na
高くない	takaku neN	takaku neN=na	takaku ne:na:taN	takaku ne:na:ti=na
でない	araN	araN=na	arana:taN	arana:ti=na

次の用例では、AはBに夜に怖くないかを問いかけている。Bは、回答せずに問い返している。

1. A: juru: uturuko: neN=na?
夜は 怖くないのか?
B: juru=na:?
夜?

次の用例では、AはBに水を飲むかどうかを問いかけている。

2. A: midzi numiN=na?
水を飲むか？
- B: i:i. hi:sanu. wano: ju:gwa=ru mafi jaru
いいえ。寒いよ。私は お湯のほうが まし だ。

次の用例で示しているように、話し手が聞き手のために行おうとしている行為を聞き手が受け入れるかどうかを問うばあいにも na が用いられる。このばあい、na は動詞の非過去形につく。次の用例は、まず A が B と C にコーヒーをすすめて、B と C が受け入れるかどうかを問いかけている。次に、B と C が A の提案を受け入れるかどうか話している。B は「コーヒーを飲みたいか」と C に問う代わりに、Ndzi を使い、A の提案を受け入れるかどうか C に問いかけている。

3. A: <ko:hi:> irijuN=na?
コーヒーを入れようか？
- B: Ndzi?
どうする？
- C: φu:sa:biN=ja:
ほしいですね。

上の表 3 で示しているように、過去の肯否疑問のばあいは、na が日本語のテ中止形に相当する-ti 中止形につく。沖縄語においては、テ中止形に相当する形式がかつて過去形をあらわしていた（かりまた 2015 : 66）。疑問助詞が-ti 中止形につく現象が沖縄永良部語正名方言（ファン・デル・ルベ 2016 : 182）をはじめ北琉球語群であまねく見られる。

次の用例は、A と B が一緒に野菜炒めを食べているときの会話である。A は、B がパッパヤを洗ってから炒めたかどうかを問いかけている。動詞 iritsuN 「炒める」の-ti 中止形 iritfi に na がついている。

4. A: <pappaja:> arati=kara iritfi=na?
パッパヤは、洗ってから炒めたか？
- B: iN
うん。

次の用例では、A がどこを旅行したか覚えていないと言ったときに、B が A に台北に行ったかどうかを問いかけており、動詞 itsuN 「行く」の-ti 中止形 Ndzi に na がつく。

5. A: nu:=N ubiraN=jo:.
何も覚えなないよ。
wanu <ɾjoko:> ʃimitaNte: <katfi> ne:higa...
私を旅行させても価値がないが...
- B: Nma... <taipei> Ndzi=na?
そこ台湾、行ったか？

A: hira²
知らない!

疑問のフォーカスが述語以外の構成素であるばあい、フォーカス助詞（焦点化助詞）ruが用いられる。

次の用例では、Aは、Bが久米島に来ていることを知っていて、船で来たかどうかを問いかけている。「船で」ということが疑問のフォーカスであるため、そこにruがついている。

6. A: φuni=kara=ru kumidzima=katji tji=na?
船で久米島に来たのか?

B: iN.
うん。

名詞述語や第2形容詞述語でフォーカス助詞ruが述語につき、コピュラのjaN・jeNの前にあらわれれば、次のように融合がおこる。

kuri=ru jaN=na? (これなのか) → kuri reN=na?

kuri=ru jeN=na? (これなのか) ↗

dzo:dzi=ru jaN=na? (上手なのか) → dzo:dzi reN=na?

dzo:dzi=ru jeN=na? (上手なのか) ↗

動詞述語が取り立てるような重いフォーカスを受けるとき、動詞にもフォーカス助詞ruがつく。もとは、助詞ruが動詞のいわゆる連用形につき（古パターン）、動詞suN「する」にテンス・マーキングがあらわれ、naもsuNの形につくが、最近では、助詞ruが非過去形の尾略形につくパターン（新パターン）に移行しつつあるようである。非過去形が-biN、-miN、-niNで終わる動詞は、連用形と尾略形が同音形式であり、この変容がこのような動詞から始まったと考えられる。次の表では、動詞述語がruによるフォーカスを受ける2つのパターンを示している。

表4 動詞に助詞ruのつき方

	非過去形	古パターン	新パターン
買う	ko:juN	ko:i=ru suN=na	ko:ju=ru suN=na
起きる	ukijuN	uki=ru suN=na	ukiju=ru suN=na
飲む	numiN	numi=ru suN=na	numi=ru suN=na

次の用例では、Aが、祭りがおこなわれている場所に行き、そこでその場所から離れようとするBに会った上での会話である。AがBに時間がまだ早いのに、もう少し残るのではなく帰るのかを問いかけている。動詞ke:juN「帰る」が助詞ruによるフォーカスを新パターンで受けている。

7. A: e?! ke:ju=ru suN=na?
え?! 帰るのか?

2 hiraは、回答できないばあいに用いられる感嘆詞である。

B: nama=kara wi:kata=katji.
(うん) 今からウィーカタ³へ。

次の用例では、AがBに、Bが味噌を作ったのか買ったのかを問いかけている。作ることと買うことを取り立てているため、動詞が新パターンによるフォーカスを受けており、テンス・マーキングがsuN「する」にあらわれる。過去の肯否疑問であるため、疑問助詞naが過去形のtjaN「した」よりは、-ti中止形のtjiについている。

8. A: uri miso: ko:ju=ru tji=na?
その味噌は、買ったのか?
B: ko:ju=ru tjaru! tsukujunu hima: ne:nu muN
買ったんだよ！作る暇がないんだもん。

継続相をあらわす-toN形（～テオリ相当）やパーフェクト・結果相をあらわす-teN形（～テアリ相当）をとった動詞述語がruによるフォーカスを受けるばあい、これらの形の分析的な形式としての起源になる形が見えてくる。次の表のとおりである。

表5 動詞 tsukujuN の-toN形と-teN形のフォーカスを受けた肯否疑問形。

	肯否疑問形	フォーカス肯否疑問形
-toN形	tsukutoN=na	tsukuti=ru uN=na
-teN形	tsukuteN=na	tsukuti=ru aN=na

次の用例では、AがBにお菓子を買ったのかを問いかけている。～テアリ相当形式をとった述語が助詞ruによるフォーカスを受けており、分析的な形が見えてきている。

9. A: uri kwa:se: ko:ti=ru aN=na?
そのお菓子は、買ったのか?
B: araN! tsukuti=ru aN=ro:
ちがう。作ったんだよ。

次の用例では、Aが、隣の部屋にいるBに寝ているかどうかを問いかけている。「寝ている」は、当該方言でテオリ相当形式のniNtoNであるが、術後がruによるフォーカスを受けているため、分析的な形としてあらわれている。

10. A: niNti=ru uN=na?
寝ているのか?
B: nu:=he:?
何？

3 wi:kataは、宇比屋定とその周辺地域をさし、日本語対訳では、言い方をそのままカタカナにした。

否定形をとった動詞述語が助詞 **ru** によるフォーカスを受けるばあい、**ru** が直接否定形につき、無情物存在動詞 **aN** にテンス・マーキングがあらわれる。次の用例では、否定形をとった述語が **ru** によるフォーカスを受けている。

11. A: kwa:se: na: neN=ru aN=na?
お菓子は、もうないのか?
B: Nma=ni a:nu hadzi
そこにあるはずだ。

第1形容詞が述語になる文で疑問のフォーカスが述語であるばあい、フォーカス助詞 **ru** が第1形容詞の連用形につき、テンス・マーキングが無情物存在動詞 **aN** 「ある」にあらわれる。

表6 フォーカス助詞 **ru** によるフォーカスを受ける第1形容詞。

	非過去形	肯否疑問形	フォーカス肯否疑問形
おいしい	ma:haN	ma:haN=na	ma:ha=ru aN=na
多い	uφusaN	uφusaN=na	uφusa=ru aN=na
安い	jassaN	jassaN=na	jassa=ru aN=na

次の用例では、AがBに米国でドッグフードを食べてしまったことがあるという逸話を話している。そこで、BがAにおいしかったかどうかを問いかけている。形容詞述語が **ru** によるフォーカスを受けており、**ru** が連用形につき、無情物存在動詞 **aN** が過去形の疑問形である **a:ti=na** (**-ti** 中止形+**na**) をとった。

12. A: uri <kaNdzume> akiti, kare:tsutakutu,
その缶詰を開けて、食べていたら、
ja:nu warabiNtja:=ga ke:ti tʃi,
家の子供たちが帰ってきて、
"e! ure: iNgwa:=nu kamihi reN=ro:!
「え！それは、犬の食べるものだよ！
<dogguφu:do> reN=ro:" =tʃo:taN
ドッグフードだよ」と言っていた。
B: hahaha! ma:ha=ru a:ti=na?
ハハハ！おいしかったのか？
A: ma:ko: ne:na:tahiga, tsuha:ra warataN
おいしくはなかったけど、十分笑った。

na は、選択枝疑問文にも用いられる。選択枝疑問文においては、2つ以上の選択枝がとりたてられる。とりたてられる構成素が助詞 **ru** によってマークされる。

次の用例では、AがBにお菓子を食べるのか、それともパンを食べるのかを問いかけている。とりたてられるお菓子とパンに **ru** がついている。

13. A: kwa:ʃi:=ru kamiN=na? paN=ru kamiN=na?
お菓子を食べるのか？それとも、パンを食べるのか？
B: kwa:ʃi:=ru mafi
お菓子がいい。

次の用例も選択肢疑問である。AがBに味噌を買ったのか、それとも作ったのかを問いかけている。

14. A: uri miso: tsukui:=ru tʃi=na? ko:i:=ru tʃi=na?
その味噌は、作ったのか？それとも買ったのか？
B: tsukui:=ru tʃaN=ro:
作ったんだよ。

5 na:

na:は、崎原（2015）の主張では、同じ沖縄語に属する首里方言で「場面や文脈上、話し手側に事態や出来事に対する何らかの判断や想定のようなものが存在していて、na:の文は、その判断か想定正しいのかどうか確認する」用法がある。泊・謝名堂方言のna:もその用法があると考えられる。

問い返し疑問にも用いられる。後述するhe:も問い返し疑問に用いられるが、na:が問い返し疑問に用いられるばあいは、意外性（mirativity）がより強いと思われる。

このna:は、上に述べたnaと形態論的にことなる助詞である。過去形をとった動詞・形容詞・コピュラにつくばあい、-ti中止形ではなく、-taN形につく。

ukitaN「おきた」→ ukitaN=na:

次の用例では、AがBに第三者から聞いた話をしている。その話の内容は、Bがもう2人と話をしていた時、日本語を一言せずに、純粋な沖縄語を使っていたということである。そこで、Bがそれを意外と思い、本当に自分のことなのかをna:で問い返している。

15. A: jaru:, e:=ja:, Ndzi?
あなた、ね、ほんと？
hanako=tu, kumiko=tu mittfai je:ne:,
花子と久美子と3人だったら
jaru: nu:=N jamatugutʃi sano:,
あなた、何も日本語を使わないで
muttu utʃina:gutʃi =tʃoN
全部沖縄語だって。
B: waN=na:?
私？
A: iN
うん

次の用例では、Aが家に帰って、買い物が多くおいてあるのを発見し、Bが買い物をしたことに気づいた上で「もう買い物したのか？」と問いかけている。買い物をしたことがすでに分かっており、Aがすでに買い物したのが意外であることの表現である。

16. A: na: ko:imuN tʃaN=na:?
もう買い物をしたのか？
B: iN. ha:ku ukiti...
うん。早くおきて...

次の用例では、Aが味噌を作り、Bにあげると、Bが味噌を作ったのかを問いかけている。味噌をよく作るAであるため作ったかどうか分からないわけではないが、その日にAが味噌を作ったことを以外であると思って問いかけている。

17. A: ju:! Nma utʃeN=ro:
はい！そこ、おいたよ。
B: nu: tʃoN=he:?
何て？
A: misu.
味噌。
B: misu tsukutaN=na:?
味噌を作ったのか？
haNma:! re:dʒi re:ru!
あらまあ！大変だ！

6 -mi・-ni・-ti:・i

-mi・-ni・-ti:・iは、肯否疑問をあらわす。以下、これらの形式を-mi形と呼ぶことにする。かつて肯否疑問助詞iがあり、肯定形の終止形と融合して-miができ、否定形の終止形と融合して-niができたと考えられる⁴。

現代沖縄語泊・謝名堂方言では、動詞・第1形容詞・コピュラの肯定形がばあい、-miとしてあらわれる。過去のばあいは、-ti:としてあらわれ、これは、-ti中止形にiがついた結果であると思われる。

4 かりまた(2015:65-66)も指摘しているように、肯定非過去形の肯否疑問形-miは、かつて存在していた-mu終止形とiの融合に由来する。否定非過去形の肯否疑問形-niは、かつて存在していた否定終止形-nuとiの融合した形であると考えられる。過去形の肯否疑問形-ti:は、かつて過去形として用いられた-ti中止形にiがついた結果であると思われる。

表7 -mi 形の肯定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	sumi	tʃaN	tʃi:
来る	tsuN	tsu:mi	tʃaN	tʃi:
買う	ko:juN	ko:jumi	ko:taN	ko:ti:
起きる	ukijuN	ukijumi	ukitaN	ukiti:
飲む	numiN	numimi	nuraN	nu:ri:
高い	takahaN	takaha:mi	takaha:taN	takaha:ti:
コピュラ 1	re:ru	re:mi	re:taru	re:ti:
コピュラ 2	jaN/jeN	jami/je:mi	jataN/je:taN	jati:/je:ti:

否定形の非過去形が-mi 形をとるばあいは, -ni としてあらわれる。

表8 否定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
しない	saN	sani	sana:taN	sana:ti:
来ない	kuN	ku:ni	ku:na:taN	ku:na:ti:
買わない	ko:raN	ko:rani	ko:rana:taN	ko:rana:ti:
起きない	ukiraN	ukirani	ukirana:taN	ukirana:ti:
飲まない	numaN	numani	numana:taN	numana:ti:
高くない	takaku neN	takaku ne:ni	takaku ne:na:taN	takaku ne:na:ti:
でない	araN	arani	arana:taN	arana:ti:

沖縄語首里方言(崎原 2015) とことなり, i がそのまま名詞述語文や第 2 形容詞が述語になる文につかず, コピュラの-mi 形である re:mi がつく。

18. ja:=ja fimaNtsu re:mi?
お前は, 島の人か?

平叙文においてフォーカス助詞 ru があらわれるばあひ, 述語になる動詞か第 1 形容詞, または, コピュラが-ru で終わる強調形をとる。このような文が-mi 形をとるばあひ, 強調形-ru の後ろに i がつくこともあり, -mi をとることもある。

19. a. umusa=ru a:rui?
面白いのか?
b. umusa=ru a:mi?
面白いのか?

崎原 (2015) によると, 沖縄語首里方言でも, -mi 系の疑問形が存在するが, 「話し手は, 命題の真偽についてまったく判断がつかないため, 聞き手から情報を引き出す以外に情報を得るすべがな

い」という点では、首里方言の-mi系の疑問形の用法が泊・謝名堂方言のna疑問形と似ている。泊・謝名堂方言では、-mi系による疑問文は、話し手が聞き手にきつく問いたず意味合いでしか用いられない。話し手に不明な点もなく、聞き手に回答も求めない、非難的な修辭疑問という用法でも用いられる。話者の内省によると、ほとんど怒りの表現として相手を見下げているニュアンスでしか用いられないため、敬語形式と共起は、不可能であるとのことである。

次の用例は、Aが学校の教師で生徒のBを叱っている場面である。Bが叱られていても笑っているため、Aが怒りながら問いかけている。ここでは、Aが問いかけによりBに回答を求めているわけではない。

20. A: Nga warate:tsuru?! umusa=ru a.mi?
なんで笑っているか?! 面白いのか?
B: <sumimaseN>
すみません。

次の用例では、Aが自分の家の前の庭にある花が踏まれていることを見つけ、そこでうろうろしている子供のBが花を踏んだに違いないとAが思った上での会話である。AがsuN「する」の-mi形の過去形tʃi:でBに問いかけている。

21. A: kure: ja:=ga=ru tʃi:?
これは、お前がやったのか?
B: aibiraN
違います。

次の用例では、親であるAが、子供であるBが行くかどうかを決めるのが遅すぎると怒りながら問いかけている。

22. A: itsumi? itʃani? ha:ku kimire:!
行くか? 行かないか? はやく決めろ!
B: na:, na:, na:... itsuN
もう、もう、もう... 行く。

7 疑問詞+-ga

疑問詞のnu:「何」、taru「誰」、itʃi「いつ」、ma:「どこ」、Nga「なぜ」、nu:tʃaNtʃi「なぜ」、itʃa「どう」、tʃanu「どの」などが用いられる疑問詞疑問文は、疑問詞疑問文助詞-gaで終わる。疑問詞+-gaによる疑問文は、①話し手に不明な情報があるため判断がなりたらず、②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという特徴を両方もつ。

詞動詞・形容詞・コピュラの肯定形につくばあいに、叙述法のマーカー-Nの位置にあらわれる。

表9 疑問詞質問のマーカ-*ga* が動詞・形容詞・コピュラについての形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	suga	tʃaN	tʃaga
来る	tsuN	tsu:ga	tʃaN	tʃaga
買う	ko:juN	ko:juga	ko:taN	ko:taga
起きる	ukijuN	ukijuga	ukitaN	ukitaga
高い	takahaN	takaha:ga	takaha:taN	takaha:taga
コピュラ 1	re:ru	×	re:taru	×
コピュラ 2	jaN/jeN	jaga/je:ga	jataN/je:taN	jataga/je:taga

否定形に *ga* がつくばあいは、否定形の後ろにつく。

saN 「しない」 → saN=*ga*
 neN 「ない」 → neN=*ga*
 araN 「ではない」 → araN=*ga*

第2形容詞が述語になる文と名詞述語文のばあいは、コピュラがつかず、*-ga* が直接述語につくこともできる。次の用例では、第2形容詞 *mafi* 「まし・良い」が述語になっているが、*-ga* が直接述語についている。

23. A: <ko:hi:>=tu saNpiNtʃa a:higa, nu:=*ga mafi=ga*?
 コーヒーとさんびん茶があるけど、何がいいのか？
 B: saNpiNtʃa kuriba
 さんびん茶をくれ。

次の用例では、A が B の行き先を問いかけている。

24. A: ma:=*katʃi itsuga*?
 どこへ 行くか？
 B: haru=*katʃi itsuN=ro:*
 畑へ 行くよ。

次の用例では、A が B と C にどうするかをといかけたところ、B が C に食べるかどうか問いかけている。

25. A: tibitʃi ti:tʃi nukuto:higa, itʃa suga?
 豚足 1つ 残っているが、どう するか？
 B: Ndzi? tibitʃi kamiN=*na*?
 どう？ 豚足 食べるか？
 C: o:…
 おっ…

疑問詞が複数であらわすばあいは, nu:nu:「何々」, tarutaru「誰々」, ma:ma:「どこどこ」のように重複形をとる。次の用例では, AがBにゲートボールに誰が来ていたかを問いかけている。ゲートボールがそもそも複数の人がするスポーツであるため, tarutaru「誰々」という重複形の疑問詞が用いられている。

26. A: <ge:tobo:ru>=ja tarutaru tʃo:taga?
ゲートボールは, 誰々が来ていたか?
B: taro:=tu dʒiro:=tu saburo:=ga tʃo:tan=ro:
太郎と次郎と三郎が来ていたよ。

疑問詞があらわしている不明な情報が2つの選択肢をあらかわすばあいは, 疑問詞に主題助詞 ja がつくことが多い。詳細は, 今後の課題とされたい。次の用例では, AがBにトマトと苦瓜の中の1つを選ばせようとして問いかけている。nu:「何」に主題助詞 ja がついていてる。

27. A: <tomato>=tu go:ja:=ja, nu:=ja mafi=ga?
トマトと苦瓜は, 何が良いか?
B: go:ja:=ru mafi
苦瓜が良い。

次の用例では, Bがどこに行くかは, 前にまだ決まっておらず, いくつかの場所に行く可能性があり, そのうちに結局どこへ行ったかがAにとって不明であるため, AがBにどこに行くかを問いかけている。いくつかの選択肢がある。

28. A: ma:=ja Ndzaga?
どこに行ったのか?
B: nijimi=katʃi=ru NdzaN=ro:
西銘に行った。

8 疑問詞 Nga+-ru

疑問詞 Nga「なぜ」+動詞・第1形容詞・コピュラの-ru強調形は, 修辞疑問をあらかわす構造であり, 話し手が聞き手に問いかけているが, 話し手には, 不明な点がなく, 聞き手に回答を求めるわけでもない。①は, ないが, ②は, ある。話し手が話題になる人物の行為や態度を非難するばあいに用いられる。

次の用例では, Aが味噌を作り, その味噌をいろいろな人に配るが, Bは, Aが年をとっているのになぜそうするのかを非難している。

29. A: φusuku=Nru je:ne:, mata tsukujuN=ro:
不足なら, また作るよ。
B: Nga φusuku jaru?!
なぜ不足か?!
A: ma:Nkui=ni ha:dzakutu.

どこもかも配ったから。

- B: Nga aNtji ma:Nkui=ni hadzuru?!
なぜ、そんなに、どこもかも配るか?!
A: hadzu=ru suru! nu: suga? aNtji...
配るんだよ。何をするか?そして...
najunu je:ka nu:Nkui saine: =ja:, ro:mu...
できる間、何もかもしないとね、呆け...

次の用例では、AとBがマイナンバーの話をしている。AがBにマイナンバーの申請をしばらくしないほうがよいと言っているが、Bがすでに申請したと言ったところ、Aがなぜそれをしたかを問いかけてBが申請したことを非難している。

30. A: <mainaNba:><jibaraku> sa:he: mafi=ro:
マイナンバー、しばらくしないほうがいいよ。
B: na: tjeN=jjo:
もうしたよ。
A: haNmajo:! Nga uri suru?!
あらまあ! なんてそれをする?!
B: aNtji itji=mari=tjaNtji sattoN=ro:
そう、いつまでとされている【=書かれている】よ。
B: Nga?! jimi=ru suru!
なんで?! いいんだよ!

次の用例は、Aが昼食をした直後、Bのうちに遊びに来ている場面である。昼食したばかりなのにBがAにご飯を出そうとしたところ、AがBになぜご飯をだすかとといかけることによってBの行為を非難している。

31. A: Nga muttu <gohaN> Ndzaφuru?!
なんで全部ご飯を出すか?!
B: hiN?
ん?
A: Nga nu:Nkui Ndzatji, <owaN> Ndzaφuru?!
なんで何もかも出してお椀を出すか?!
B: ...

9 疑問詞+-N

-Nで終わる疑問詞疑問文は、不明な情報は、あるが、相手に問いかける機能がないことから「判断不明」をあらわす疑いの疑問と言って良からう。疑問詞+Nは、話し手がその命題に対し、まった

く見当がつかず、聞き手も見当がつかないだろうと思うばあい用いられる。-gaja:による疑いの疑問詞疑問との違いは、話し手がその疑問に対しては、解消の仕様がなと思う点にある。

次の用例では、疑問詞+Nによる文が2つ出ている。Aは、「地方創生」という政策を批判している。種子島に年寄りのみを呼び寄せてどうするかという疑問を話に出しているが、その疑問を解消するすべがないだろうと思って2行目で疑問詞+N構造を用いている。5行目でも疑問詞+Nが用いられている。Aは、「地方創生」で人口を増やすことを批判し、人口のみ増やすとどうするかという疑問を話に出しており、その疑問を解消する期待もないため、疑問詞+Nを用いている。

32. 1 A: aNtʃi, ari, nama, <hora> <tʃiho:so:se:>=tʃaNtʃi =ja:
そして、あれ、今、ほら、地方創生とね、
2 ama, anu:, <tanegafima>=ga aNtʃi tusui=gatʃa: jubijufiti itʃa suN?
あそこ、あのお、種子島がそんなに年寄りだけ呼び寄せてどうする？
3 B: aNsukutu.
そうだよね。
4 A: <dʒiNko:>=ga uʃuku najunu hadʒi je:je: suhiga,
人口が多くなるはずではあるけど、
5 <dʒiNko:>=gatʃa: ʃujatʃaNte: nu: suN?
人口だけ増やしても何する？
6 wakaha:nu tʃo: uraine:…
若い人はいなければ…
7 B: tusui=gatʃa: naine:…
年寄りだけになれば…

次の用例では、Aがすべての仕事をロボットがすることを懸念している上での会話である。ロボットが全部するようになることが望ましくないと考え、そうなるかどうかを問題として話に出している。その疑問をBとの会話によって解消するすべがないため、疑問詞+Nを用いている。

33. A: ʃiguto: muttu <robotto>=ga tʃi neN naine: itʃa suN?
仕事は、全部ロボットがしてしまうようになったらどうする？
nama ʃiguto=ga aNtʃi <hoteru>=ro: =ja:
今仕事が、そして、ホテルもね。
B: iN.
うん。
A: muttu <robotto>=ga suN=tʃaNtʃi tʃo:he:=ja:
全部ロボットがすると言っているんじゃないか？
B: iN.
うん。

10 -N

-Nは、動詞・第1形容詞・コピュラの最後につく。-Nで終わる分は、主に平叙文であるが、問い返しに属する意味合いをあらわすばあいもある。-Nであらわす問い返しは、話し手が、聞き手がその話題についてもう少し話してほしいときや、または、終わりそうな話題にとりもどそうとするときなどに用いられる。そのため、疑問文の決定的な特徴のうち、①は、ないが、②は、ある。

次の用例では、AとBが眠れないときどうするかという話をしている。AもBも算数の問題を作っ
て眠ろうとするとやっているが、Aが、Bもそのような方法を使用することを知ったところ、「あな
ともやっている？」と問い返すことによってBに話を続けさせようとしている。

34. A: niNraraine: =ja:, rukkuru <moNdai> tsukuti =jo:,
眠れなかったらね, 自分で問題を作ってね,
<hatfi tasu naN=wa, kju: tasu naN=wa>...
8 足す何は, 9 足す何は...
mata <kakedzaN>=<toka> tfai =jo:, na: aN tje:tsuN.
また掛け算とかしたりね, もうそうしている。
- B: waN=te: hja:ku=kara <hatfi> hitfai,
私も 100 から 8 をひいたり,
<fitfi> hitfai, <doNdoN> <doNdoN>...
7 をひいたり, どんどん, どんどん...
- A: ja:=ro: tje:tsuN?
あんたもやっている?
- B: wano: Nkafi=kara niNranu: jasse:.
私は, 昔から眠らない人さ。
- A: iN. iN.
うん。うん。

-Nによる問い返しは、必ずその直前言ったことに対する問い返しではなく、かなりの間をおいて
から問い返すばあいもある。次の用例では、AとBが旅行の話をしているが、会話の中の1分ほど前
の時点でBがハワイに行かなかったという話をしたが、Aがその約1分後にその話をとりもどそうと
している。

35. A: <hawai>=ja itfana:taN?
ハワイは, 行かなかった?
- B: <taiwaN> NdzaN=ro:.
台湾, 行ったよ。
- A: <hawai>=jo:!
ハワイよ!
- B: <hawai>=ja itfaN =jo:.
ハワイや行かないよ。

A: haNma=jo:!
あらまあ！ハワイは、見どころ、多くてね、
munu=ga=ru ma:ko: neNru.
食べ物がおいしくないのよ。

次の用例では、Aが豆腐を買いに行くことを面倒くさがっている。いつも隣近所から豆腐をもらっているBがAに豆腐を買うのかを問い返している。買うことが疑問のフォーカスとなっており、フォーカス助詞ruがko:juN「買う」の連用形についており、suN「する」が-N形をとっている。平叙文であれば、-N形がフォーカス助詞ruと共起せず、-ru強調形をとるが、-ru強調形には、問い返しという用法がないため、このようなばあい、-N形が用いられる。

36. A: to:ho: ko:iga itsuhi kajimahanu itfju:saN.
豆腐は、買いに行くのが面倒くさくて行けない。
naNdzi janu muN. na:.
難儀だもん。もう。
B: ko:i=ru suN?
買うのか？
A: aNtji ko:i=ru suru!
そう、買うんだよ。
taru=ga kujuga?
誰がくれるのか？
B: aN=ro:=ja:.
【私には】あるよね。
A: kuriba, rehe:!
ちょうだい、どれ！

11 he:

問い返し助詞he:は、久米島の東部を代表することばと言って良い。肯否疑問文としての用法と疑問詞と共起する疑問文としての用法があり、このセクションで両方考察する。

肯否疑問は、問い返し（英語：echo-question）に用いられる。相手の発話が先行する。相手の発話が聞き取りにくかったり、ついていきにくかったりした際に、話し手が相手の発話の一部分を繰り返していうばあいに用いられる。動詞・第1形容詞・コピュラが問い返しの対象となるばあいに、he:が相手の発話の中にあられた語形につく。

次の用例では、BがAに「手紙を書いている」と言ったところ、BがAの発言をそのまま繰り返し、he:をつけて問い返ししている。

37. A: nu: tfe:tsuga?
何をしているか？

- B: <tegami> katʃe:tsuN
手紙を書いている。
- A: <tegami> katʃe:tsuN=he:?
手紙を書いている？
- B: iN
うん。

次の用例では、Aがフランスに行きたいと述べたところ、Bが「フランス」というところのみ問い返してる。

38. A: itʃibusə:he: <ɸuraNsu>
行きたいのは、フランス。
- B: <ɸuraNsu>=he:?
フランス？
- A: <hiko:kitʃiN> <dzu:maN> su-gaja:?
飛行機賃 10万するかな？

次の用例では、AはBが買ったフックがスーパーにもあったと言い、Bが「何？」と聞いたところ、Aが指でフックを指す。そこで、BがフックのことかどうかをAに確認した上でスーパーにあったかを he:で問い返している。この用例にあらわれている<ɸukku>=na:? 「フックか？」でしめしたように問い返しの対象が相手の発話にない物事であるばあいは、he:より na:が用いられる。

39. A <su:pa:>=ni:=ro: ataN=ro:
スーパーにもあったよ。
- B nu:?
何？
- A uri
それ。
- B <ɸukku>=na:?
フック？
- A iN. su:pa:=ni ataN=he:?
うん。スーパーにあった？

次の用例では、AがBにBの作った天ぷらがレストランよりおいしいともう1人から聞き、それをBに伝達する。その際、Bが tʃoN 「言っている」というところを問い返している。

40. A: <resutoraN>=jaka ma:haN=tʃoN=ro:
[あなたの料理が] レストランよりおいしいと言っているよ。
- B: tʃoN=he:?
[そう] 言っている？
- A: iN. jaru: <teNpura>
うん。あなたの天ぷら。

he:が疑問詞疑問と共起するばあいは、知っているべきとされる情報についていけないことをあらわす。nu:「何」と共起するばあいは、誰か呼ばれるときに用いる応答詞としての使用もある。

次の用例は、遠いところから呼ばれている際に用いる応答詞としての he:の用法である。祖母である A が孫である B を遠いところから呼んでいる。

41. A: taru!
太郎！
B: nu: jabiN=he:?
何ですか？
A: kuma=katfi kuba
ここに来い。

同年代か年下の人に呼ばれるばあいは、コンピュータの丁寧形 jabiN 「でございます」を用いず、nu:=he:という形で用いられる。

次の用例では、B が A の話が聞こえなくて、ついていけないため、その「ついていけない」内容に対する疑問視疑問を he: で問いかけている。

42. A: kinu:=nu hanafi ratiN umusa:taN=tfo:-he:.
昨日の話、とても面白かったそうだよ。
B: nu: tfoN=he:?
何と？
A: kinu:=nu jaru: hanafi,
昨日のあなたの話、
jaru:-ta: hanafi, ratiN umusa:taN=tfo:he:.
あなたたちの話、とても面白かったそうだよ。

12 -raja:

-raja: は、聞き手が当然、認めるだろうと考えられることを問いかける確認要求の疑問文に用いられる。崎原（2016：2）は、沖縄語首里方言における-raja:の用法を確認要求のうちの「命題確認の要求」とする。命題確認というのは、「話し手に命題の知識がないか、話し手は命題の真偽に対して不確かである聞き手側に命題の知識があるので、聞き手に問いかけて聞き手に不確かな事を確実にしてもらおう」とのことである。これが沖縄語泊・謝名堂方言における-raja:の用法にも当てはまる。

かりまた・島袋（2007：6）では、沖縄語諸方言の-ra形を「推量の形」とよび、日本語の「だろう」を述語に持つ文が「おしはかり」から「念おし」（＝確認要求）へと移行する過程が、沖縄語今帰仁村謝名方言で用いられる「念おしたずね形」-ra形と「kuse:推量形」-ra形に相関関係があることを指摘している。現在沖縄語久米島泊・謝名堂方言では、-ra形が、上に述べた ga...-ra構造として疑いをあらわすのに対して、フォーカス助詞 ga がなく終助詞 ja:がついた形では、確認要求のみをあらわすようになっている。

次の用例では、Aが、おいしそうに一緒に食べているBに問いかけている。Bは、一人で住んでおり、いつも一人で食べるため、人と一緒に食べるほうがおいしいのではないかとAが考えた上での問いである。

43. A: ru:tsui kamihi=jakaN maʃi ja:ra=ja:?
 一人で食べるよりは、むしろ？
 B: iN.
 うん。

次の用例では、AとBとCが久米島の比屋定方言で用いられるna:という人称代名詞の意味について話している。Aは、na:が二人称のみならず再起代名詞（=反照代名詞）のような用法で一人称をあらわすばあいもあるだろうと確認している。

44. A: “na:” =tʃo:he: “ja:” re:saN?
 「ナー」というのは、「ヤー」（あなた） じゃない？
 B: N.
 うん。
 A: “na:=ga aNtʃakutu”=ja “waN=ga” tʃo:nu tutʃi=ro: aN=ro:
 「ナーが 言ったから」は、「私が」というときもあるよ。
 C: “ru:=tʃi suha”=tʃo:hi=ro:
 「自分でするわ」というのも...
 A: “na:=ga suha”... je:ra=ja:?
 「ナーが するわ」... だろう？
 B: N
 うん。

次の用例では、Aが、Bが作った料理がおいしいと言い、Bもおいしいと思って、確認して問い返している。

45. A: ma:ha:biN=ja:
 おいしいですね。
 B: ma:ha:raja:?
 おいしいだろう？
 A: u:
 はい

-raja:による確認要求の疑問文においてフォーカス化がおこるばあい、フォーカス助詞ruが用いられる。

- A: <kajo:bi> aranoi, <suijo:bi>=ni=ru tsu:ra=ja:?
 火曜日じゃなくて、水曜日に来るんだろう？

B: iN
うん。

13 -he:ja:

-he:ja:の用法は、いわゆる知識確認であり、確認要求に属する。話し手は、話し手が確信を持っていることが聞き手も既知であると考え、聞き手が今の話についてこられるかどうかを確認する言い方である。

-he:ja:は、動詞・第1形容詞・コピュラの肯定形の尾略形につく。動詞・第1形容詞・コピュラの直説法をあらわす-Nの位置にあらわれる-he:に終助詞ja:がついた結果であると思われる。-he:は、気づき・発見という意味合いをあらわす。語源は、名詞化辞-hiと主題助詞ja:が融合した形に由来すると思われる。は、同じ北琉球語群に属する喜界語上嘉鉄方言にも名詞化辞と主題助詞の融合に語源をもつ文末辞-so:がある。Rieser&Shirata (2014)によると、その文法化が日本語のジャンが減ってきたプロセスと似ているとのことである。沖縄語の-he:も同じようなプロセスで文法化したと思われる。Rieser&Shirataの理論を沖縄語泊・謝名堂方言に当てはめると、次のとおりになる。

-he: araN=na → -he: araN=na → -he:
名詞化辞+は でないか 消除

このプロセスの詳細は、Rieser&Shirataを参考されたい。

-he:ja:形式の形態論的な特徴は、下の表のとおりである。コピュラ2は、jaNとjeNがあり、前者は、-he:ja:形式がjasse:ja:で特徴的である。これは、よそのことばの影響でできたものであるためであると思われる。沖縄語首里方言でも久米島の西部で話されている諸方言でも-he:ja:形式に相当するのは、-se:ja:, または、-fe:ja:であるため、jaNというコピュラ形式とともにその語形を借用したと思われる⁵。

表 10 肯定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	suhe:ja:	tjaN	tjahe:ja:
来る	tsuN	tsuhe:ja:	tjaN	tjahe:ja:
買う	ko:juN	ko:juhe:ja:	ko:taN	ko:tahe:ja:
起きる	ukijuN	ukijuhe:ja:	ukitaN	ukitahe:ja:
飲む	numiN	numihe:ja:	nuraN	nurahe:ja:
高い	takahaN	takaha:he:ja:	takaha:taN	takaha:tahe:ja:
コピュラ1	re:ru	re:he:ja:	re:taru	re:tahe:ja:

5 謝名堂方言の逆説をあらわす-higaや終助詞-haもよそでは、-figaや-saになるが、jaN形式だけは、jafigaやjasaになる。

コピュラ 2	jaN/jeN	jasse:ja: /*je:he:ja:	jataN/je:taN	jatasse:ja: /je:tahe:ja:
--------	---------	-----------------------	--------------	-----------------------------

*ほとんど用いられない形式である。

表 11 否定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
しない	saN	sa:he:ja:	sana:taN	sana:tahe:ja:
来ない	kuN	ku:he:ja:	ku:na:taN	ku:na:tahe:ja:
買わない	ko:raN	ko:ra:he:ja:	ko:rana:taN	ko:rana:tahe:ja:
起きない	ukiraN	ukira:he:ja:	ukirana:taN	ukirana:tahe:ja:
飲まない	numaN	numa:he:ja:	numana:taN	numana:tahe:ja:
高くない	takaku neN	takaku ne:he:ja:	takaku ne:na:taN	takaku ne:na:tahe:ja:
でない	araN	ara:he:ja:	arana:taN	arana:tahe:ja:

話し手は、話し手が確信を持っていることが聞き手も既知であると考え、聞き手が今の話についてこられるかどうかを確認する言い方である。

次の用例では、AがBに日本語の「どういたしまして」のような言い方が沖縄語で何というかを問いかけているが、その前にAがBに「どういたしまして」の話しをしていることについてこれているかどうかをアンダーラインされているところで確認している。下の用例の文字では、見られないが、そう言われたところ、Bが頷き、Aが話を続けている。

46. A: jamato: <do: itafimaSITE>=tfo:he:=ja:?
 日本本土は、どういたしましてというのではないか?
 uri <do: itafimaSITE>=tfo:he: utfina:gutji=tfi nu:=tfaNtji ajugaja:?
 そのどういたしましてというのは、沖縄語で何というかな?
 mihe: de:biru=tfaNtji aine:,jaru: nu:=tfaNtji <heNdzi> suga?
 ありがとうございますと言ったら、あなた何と返事するのか?
 B: hira.
 知らない。

次の用例では、AがBに台湾で見た兵隊の話をしている。AがBに兵隊の行進する歩き方を真似し、Bがそのような歩き方を知っているかどうかをアンダーラインされているところで確認したところ、Bが相槌を打っている。

47. A: taiwaN=jo:ti aNtji <he:tai>-ta:=ga...
 台湾で、そう、兵隊たちが...
 B: he:...
 へえ...
 A: kaNtji=ru suhe:=ja:?

こうするんじゃないか？

B: N.

うん。

A: hisa=ro: rippani aNtʃi tʃi,

足も立派にそうして、

uN=ni, uri, utta: <kuNreNdʒo:>=nu <moN>=jo:,

それに、その、彼らの訓練場の門ね、

kaNtʃi <moN>=ga aN=ba:=tiba

こう門があるわけだね。

次の用例では、コンピュータが-he:ja:形をとり、-sse:ja:になっている。AがBに比嘉集落にいる年配の女性(Nmi:=姉)の話をしている。AがBに例の女性が旅行が好きであるということを知っているかどうかをアンダーラインされているところで確認したところ、Bが相槌を打っている。

48. A: higa=nu Nmi:=ru hirimahaN=ro:.

比嘉のお姉さんのほうが珍しいよ。

annusa muttu ubijuN.

あるだけ全部覚える。

B: he:...

へえ...

A: annusa muttu.

あるだけ全部。

mata <rjoko:> <suki> jasse:=ja:?

また旅行好きなのではないか？

B: iN.

うん。

A: <kurumaisu>=kara=jatiN sunu tsu re:kutu.

車椅子からでもする人だから。

aNsugutu=jo:.

だからね。

B: hirimahaN=ja:

珍しいね。

14 -je:saNna・-je:saN・-je:sani

-je:saNna・-je:saN・-je:saniは、疑問文の決定的な特徴のうち、①はないが、②はあり、確認要求という用法で用いられる。この3つの形式は、ほぼ同じ用法で用いられ、-je:saNnaが一番よく用いられるようである。日本語の「ではないか」と同様、-je:saNnaの確認要求は、話し手と聞き手が両者知っていることや一般的な知識、伝聞に基づく知識を話の話題にしたり、または、聞き手が忘れてい

とを思い出させたりする用法と、話し手が聞き手の知っているはずのことを聞き手に気づかせる用法がある。

-je:saNna・-je:saN・-je:saniの語源は、動詞・コンピュータの連用形にとりたて助詞jaがつき、それにsuN「する」の否定形saNついた形である。-je:saNnaのばあいは、それに肯否疑問マーカーnaがつき、-je:saniのばあいは、saN「しない」が-mi形をとった形式である。

aN「ある」連用形: ai+ja → aje: saN「ありわしない」 → +疑問助詞 na → aje:saNna
→ -mi形 → aje:sani

コンピュータの-je:saN形は、re:saNであり、この形式は、フォーカス助詞ruとコンピュータjeNの連用形je:とje:saNが融合してre:saNになったと思われる。

過去形をあらわす-ta-形に-je:saN形がつくばあいは、-ta-形の尾略形につく。

ko:taN「買った」尾略形 ko:ta- → ko:ta-je:saNna

-je:saNnaは、第1形容詞につかず、動詞・コンピュータの否定形にもつかないため、-je:saNnaと同じような意味合をあらわすには、後述する-nu+araNnaが用いられる。

ma:ha-nu araNna? 「おいしいのではないか？」

ko:ra-nu araNna? 「買わないのではないか？」

ara-nu araNna? 「そうじゃないのではないか？」

形態論的に否定形と同じふるまいを示すneN「ない」は、無情物存在動詞aN「ある」の否定形の補充形式として機能するが、-je:saNna形をとることができ、ne:je:saNna「ないんじゃないか」になる。

-je:saN形は、沖縄語中南部諸方言においてあまねく見られる形式である。尾略形+-saniにリデュースされた形は、首里方言や幸喜方言（かりまた2016:49）などに見られるが、泊・謝名堂方言では、リデュースされた形式は、見られない。

次の用例では、Bが、天ぷらにソースをかけようとしているAに天ぷらにも味がついてることに気づかせようとしている。

49. A: <so:su> tu:ti tsu:ha
ソースをとってくるわ。
- B: nu: tu:ti tsuN=he:?
何をとってくるか？
nu:=N kakira:hi=ru maʃi=ro:
何もかけないほうがいいよ。
e! adzi tʃitʃo:je:saN=na? <ʃioadzi>=ga.
え！味、ついているんじゃないか？塩味が。
- A: uhe:gwa amahaN=ro:
ちょっと甘いよ。
- B: i:ji., ʃimiN=jo:

いや、いいよ。

次の用例では、Bがあまっている味噌をAにあげると言ったのに、Aが味噌を買ったため、BがAにそれを思い出させようとしている。

50. A: misu ko:taN
味噌を買った。
- B: misu ko:taN=na:? haNmajo!
味噌を買ったのか？あらまあ！
amato:hi jaru:=katji kujuN=tjaNtji aNtfa:saNna?
余っているのをあなたにあげると言ったんじゃないか？

次の用例では、Aが第三者に謝名堂方言の人称代名詞が1人称をあらわすのか2人称をあらわすのかと問われ、2人称であると考えているが、7歳上であるBにその確認をとろうとしている。

51. A: “na.”=tfo:he: “ja.” re:saN?
「ナー」というのは、「ヤー」（あなた）じゃない？
- B: N.
うん。
- A: “na:=ga aNtfa:kutu”=ja “waN=ga” tfo:nu tutji=ro: aN=ro:
「ナーが言ったから」は、「私が」というときもあるよ。
- C: “ru:=tji suha” tfo:hi=ro:
「自分でするわ」というのも...
- A: “na:=ga suha”... je:ra=ja:?
「ナーがするわ」... だろう？
- B: N.
うん。

次の用例では、Aは、自分の買ったドレッシングが目の前に置いてあるのと同じものであると考えているが、Bは、Aが買ったのは、調合であることに気づかせようとしている。

52. A: wa:ga ko:te:higa ari <dore[ʃi]ngu> re:higa...
私買ったのがあのドレッシングだけど...
- B: jaru:=ja <tfo:go:> re:sani?
あなたは、調合じゃないか？
- A: kunu ittfo:hi
この入っているの...
- B: N.
うん。
- A: inu muN re:ru
同じものだ。
- B: uhe: uri <amami> aN

ちょっとそれ，甘味ある。

15 (-nu) araNna?

(-nu) araNna の用法は，確認要求に属し，-je:saNna 形と同様，話し手と聞き手が両者知っていることや一般的な知識，伝聞に基づく知識を話の話題にしたり，または，聞き手が忘れていたことを思い出させたりする用法と，話し手が聞き手の知っているはずのことを聞き手に気づかせるのに用いられる。

araNna は，コンピュータの否定形 araN に肯否疑問助詞 na がついた形である。動詞・第 1 形容詞・コンピュータの過去形に araNna がつくばあい，直説法をあらわす-N の形態論的な位置に -nu があらわれる。この -nu で終わる形式が名詞句を飾る連体形と同音形式になっているが，語源が別であると考えられる。⁶

53. A: jaru:, e:=ja :, Ndzi?
あなた，ね，ほんと？
taro:=tu, djiro:=tu mittjai je:ne:,
太郎と次郎と 3 人だったら
jaru: nu:=N jamatugutji sano,
あなた，何も日本語を使わないで
muttu utfina:gutji =tfoN
全部沖縄語だって。
- B: waN=na:?
私？
- A: iN
うん
kinu:... ama... <su.pa:>=jo:ti juNtaku t[anu araN=na?
昨日...あそこ...スーパーでおしゃべりしたのではないか？
- B: iN.
うん。
- A: jaru:, e! nu:N jamatugutji madziriranoi,
あなた，えっ！何も日本語を混じれないで，
muttu utfina:gutji =tfoN.
全部沖縄語だと。

次の用例では，A と B と C が畳に座っているが，A は，外国人である C が畳に座ることに慣れていないと心配している。A は，C が畳に座ったことがなく，座り心地が悪いため，隣の部屋のいすに移

6 -nu araNna の語源は，連体形+araNna とは，ことなると思われる。叙述法をあらわす-N+とりたて助詞 ja+コンピュータの否定形 araN に肯否疑問助詞 na がつき，-no: araNna になり，その語形が -nu araNna にリデュースされたと思われる。

動したほうがよいと考え、BにCが畳に座ったことがないことに気づかせようとしている。そう言われて、Bは、Cの気持ちが分からないため、その質問をCにパスしている。

54. A: tataN=ne: itʃe: NraN-kutu, ama=ru mase: araN=na?
畳には、座ったことがないから、あそこのほうがましでは
ないか？
- B: nu:=he:?
何？
- A: tataN=ni=ja itʃe: Nra-nu araN=na?
畳には、座ったことがないのではないか？
- B: (Cに向かって) Ndʒi?
どう？

16 -gaja:

-gaja:による疑問文は、不明な情報があることをあらわすが、聞き手に問いかける機能がない、疑いの疑問文に用いられる。宮崎 et al. (2002)によると、疑いの疑問文に独話的な用法と対話的な用法がある。独話的な用法は、次の3つの用法がある。〈判断不明〉、〈思考過程〉、〈疑念〉である。対話的な用法は、〈応答を強制しない質問〉と〈聞き手への配慮をあらわす質問〉がある。〈聞き手への配慮をあらわす質問〉という用法は、謝名堂方言には、見られないが、そのほかの用法は、すべて-gaja:であらわされる。

-gaja:は、疑問詞疑問のマーカーがに終助詞 ja:がくわわってできたが、-gaja:に終助詞 ja:がつくことがあることから、共時的に-ga+ja:として分析できないことが分かる。次の用例では、-gaja:に ja:がついている。AとBは、台湾の兵隊が微動だにせず一日中立つという話をしており、Aの質問の対象となる兵隊が第三者であるため、Bが応答を知っているという想定が成り立ちにくいため、-na より-gaja:が用いられている。これは、〈応答を強制しない〉という用法である。

55. A: ikana <kjo:iku> sattoN=tʃaNte: aN tʃi=Nte: maruhittʃi:..
いくら教育されていると言ってもそうしても一日中
- B: Ntʃi=ro: sano: tʃa: kaNtʃi:..
見てもしないで、ずっとこう...
- A: <ko:tai> sugaja:=ja:?
交代するかな？
- B: hiN?
ん？
- A: <ko:tai> sugaja:?
交代するかな？
- B: hira.
知らない。

次の用例では、AがBに第三者が自分の島のことばができるかを問うている。Bには、第三者のことが分からない想定をしているため、-gaja:が用いられている。

56. A: uri=ga jima=nu kutuba wakaje: sugaja:?
彼の島のことば，分かりはするかな？

B: hira.
知らない。

次の用例は、独話的な用法のうちの〈思考過程〉という用法の用例である。

57. A: watta:=ro: <ho:geNφuda> ataN=ro:
私たちも方言札があったよ。

B: watta:=ro: ata-gaja:? ne:na:ta-gaja:?
私たちもあったのかな？なかったのかな？

17 ga...-ra

この ga...-ra 構造には、3つの機能・用法がある。①一番基本的な用法は、疑いの疑問文としての用法である。②埋め込み疑問文としての用法である。③因果関係の不確定を提示する原因・理由節としての用法である⁷。本稿では、①のみを検討する。疑いの疑問のさまざまな用法のうち、主に独話的な用法で用いられる。対話的な用法は、話者の内省によると、可能ではあるとのことであるが、自然談話に一例も出なかった。

動詞・第1形容詞・コピュラが-ra形をとることばできる。かりまた(2015: 84-91)によると、琉球諸語のもっとも古い姿が記録された『おもろさうし』の言語における-ra形が推量をあらわす。かりまた・島袋(2007: 6)によると、現代北沖縄語における-ra形には、推量という用法自体がないが、推量から派生した用法は、確認要求の-raja:と疑いの疑問の ga...-ra 構造で2つがある。疑いの疑問文専用フォーカス助詞 ga と共起するばあいは、疑いの疑問をあらわし、フォーカス助詞 ga がなく、終助詞 ja: と-raja: のようにつくばあいは、確認要求をあらわす。

ga...-ra 構造においては、ga が疑問の焦点があたる構成素につく。疑問詞疑問文のばあいは、疑問詞がいつも疑問の焦点になるため、ga が疑問詞、あるいは、疑問詞に修飾される句につく。

58. unu φune: na:ha=kara=ga tja-ra =ja:?
その船は、那覇から来たのだろうか？

59. unu <ko:tfo>, hanaji=ga umusa:taN =ro:. nu:=ga tfo:ra =ja:?
その校長，話が面白かった。何をしているのだろうか？
utusata ne:higa...

7 ga...-ra 構造が北琉球語群のうちに、沖永良部島以南にあまねく見られ、上に述べた3つの用法は、沖縄中南部意外に沖永良部にも確認されている。

音沙汰がないけど...

60. uNtsu=ga=ga <haNniN> jara =ja:?

その人が犯人なのだろうか？

動詞述語や第1形容詞述語がフォーカスの対象になるばあいは、gaが述語につく。動詞のばあいは、動詞の連用形にgaがつき、suN「する」にテンスがあらわれ、-ra形をとる。第1形容詞のばあいは、-ha/-sa連用形にgaがつき、無情物存在動詞aN「ある」にテンスがあらわれ、-ra形をとる。

表 12 動詞述語と第1形容詞述語がフォーカスの対象になる ga...-ra 構造。

	非過去		過去	
	普通形	述語に ga フォーカス	普通形	述語に ga フォーカス
書く	katjuN	katji=ga sura	katjaN	katji=ga tjara
おいしい	ma:haN	ma:ha=ga a:ra	ma:ha:taN	ma:ha=ga atara

否定述語がgaによるフォーカスの対象となるばあいは、gaが否定形に直接つき、無情物存在動詞aN「ある」にテンスがあらわれ、-ra形をとる。

表 13 動詞と第1形容詞の否定述語がフォーカスの対象になる ga...-ra 構造。

	非過去		過去	
	普通形	述語に ga フォーカス	普通形	述語に ga フォーカス
書かない	kakaN	kakaN=ga a:ra	kakana:taN	kakaN=ga atara
おいしくない	ma:ko: neN	ma:ko: neN=ga a:ra	ma:ko: ne:na:taN	ma:ko: neN=ga atara

名詞・第2形容詞が述語になる文においてフォーカス助詞gaがコピュラの-ra形jara/je:raと隣になっているばあいは、gaとコピュラが融合する。

どこなのだろうか？ ma:=ga je:ra → ma:=ge:ra

どこだったのだろうか？ ma:=ga je:tara → ma:=ge:tara

18 -gasura

もう1つの疑いの疑問をあらわす手段は、疑問助詞-gasuraである。-gasuraは、ga/-ra構造の再分析によってできた、新しい形式であると考えられる。-gasuraが終助詞として再分析されたことには、3つの要因があると思われる。

- ① 動詞の一部では、-gasuraが尾略形につくように見える。
- ② 疑問助詞による形式が多いため、そのような疑問助詞と類推がおりやすい。
- ③ 話者は、みな沖縄語と日本語を使い分けて生活する2言語併用話者であり、同じ話者が話す2つの言語に構造収斂 (structural convergence) がおこる。沖縄語の影響を受けたウチナーヤマ

トゥグチという日本語の変種ができたのと同様、日本語と沖縄語の2言語併用話者の沖縄語に日本語の影響を受けた形も少なくない。

動詞・第1形容詞の終止形は、-Nでおわる。この-Nがとられた形式を尾略形とよぶことにする。疑問詞疑問助詞 ga と疑いの疑問助詞 gaja:は、フォーカス助詞 ga とことなり、尾略形につくが、次の表で示しているように、-miN, -biN, -niNでおわる動詞では、非過去形の尾略形が連用形と同音形式になる。

表 14 -gasura の成立。

		尾略形+ga	尾略形+gaja:	連用形+助詞 ga + suN 「する」の-ra 形
尾略形と連用形が同音形式である動詞	jumiN 読む	nu: <u>jumi</u> ga 何を <u>読む</u> か?	<u>jumi</u> gaja: 読む <u>かな</u> ?	<u>jumi</u> ga sura 読むの <u>だ</u> ろうか?
	jubiN 呼ぶ	taru <u>jubi</u> ga 誰を <u>呼ぶ</u> か?	<u>jubi</u> gaja: 呼ぶ <u>かな</u> ?	<u>jubi</u> ga sura 呼ぶの <u>だ</u> ろうか?
	finiN 死ぬ	Nga <u>fini</u> ga なぜ <u>死ぬ</u> か?	<u>fini</u> gaja: 死ぬ <u>かな</u> ?	<u>fini</u> ga sura 死ぬの <u>だ</u> ろうか?
尾略形と連用形が同音形式でない動詞	katsuN 書く	nu: <u>katsu</u> ga 何を <u>書く</u> か?	<u>katsu</u> gaja: 書く <u>かな</u> ?	<u>kat</u> figa sura 書くの <u>だ</u> ろうか?
	ko:juN 買う	nu: <u>ko:ju</u> ga 何を <u>買う</u> か?	<u>ko:ju</u> gaja: 買う <u>かな</u> ?	<u>ko:ju</u> ga sura 買うの <u>だ</u> ろうか?
	wi:dzuN 泳ぐ	Nga <u>wi:dzu</u> ga なぜ <u>泳ぐ</u> か?	<u>wi:dzu</u> gaja: 泳ぐ <u>かな</u> ?	<u>wi:dzu</u> ga sura 泳ぐの <u>だ</u> ろうか?

尾略形につく疑問助詞があることと、-miN, -biN, -niNでおわる動詞で尾略形と連用形が同音形式であることで、-ga sura も尾略形につくというように、再分析され、ほかの動詞まで広まっただろう。次のとおりである。

尾略形	連用形		尾略形
<u>jumi</u> gaja:	<u>jumi</u> ga sura	再分析 →	<u>jumi</u> ga sura
<u>katsu</u> gaja:	<u>kat</u> figa sura	再分析 →	<u>katsu</u> ga sura

疑いの疑問文におけるフォーカス助詞 ga と、疑いの疑問文以外の文において似ている文法的な役割を果たすフォーカス助詞 ru も、動詞につくばあい、連用形より尾略形につくようになった。

さらに、非過去形以外の形式にも尾略形+ga sura が広がったため、フォーカス助詞 ga+suN 「する」の-ra 形という構造が再分析され、尾略形+gasura というように、-gasura が1つの疑問助詞になっていると言ってもよかろう。たとえば、動詞の過去形のばあいは、本来の ga/-ra 構造による疑いの疑問形式は、動詞の連用形にフォーカス助詞 ga がつき、suN 「する」が過去形 tfaN 「した」をとり、それが-ra 形をとり、tjara になる。しかし、新しい規則が当てはまり、過去形の尾略形に gasura がつく。

表 15 ga…-ra 構造による古い形式と-gasura による新しい形式。

	古い疑いの疑問 形の過去形	過去形	過去形の尾略形	新しい疑いの疑問形の過去形
jumiN 「読む」	jumiga tʃara	juraN	jura-	jura-gasura
katsuN 「書く」	katʃiga tʃara	katʃaN	katʃa-	katʃa-gasura
ko:juN 「買う」	ko:iga tʃara	ko:taN	ko:ta-	ko:ta-gasura

上の表に示している過去形の尾略形+gasura は、疑いの疑問形式の使用も確認されているが、まれである。主に埋め込み疑問文の形式として用いられる。次の用例のとおりである。

61. aNma:=ja unu kwa:se: ko:ta-gasura tsukuta-gasura wakaraN

お母さんは、そのお菓子は、買ったか作ったか分からない。

さらに、-gasura をとった文におけるフォーカスは、フォーカス助詞 ru によるものであることから、もともになる ga/-ra 構造と完全に切り離されたことが分かる。

参考文献

- 狩俣 繁久・島袋 幸子 (2006) 「琉球語の終止形：沖縄謝名方言と沖縄安慶名方言」『日本東洋文化論集』 no.12 pp.89-123 琉球大学法文学部
- かりまたしげひさ・島袋幸子 (2007) 「沖縄方言のとりたてのくつつきとかかりむすび：今帰仁謝名方言と具志川安慶名方言のばあい (おぼえがき)」, 『日本東洋文化論集』 (13): 1-29
- かりまたしげひさ (2015) 「オモロ語の動詞終止形—精密なよみをめざして」, 琉球アジア文化論集別刷 pp.33-103
- かりまたしげひさ (2016) 「沖縄名護市幸喜方言の終助詞とモダリティ」『琉球アジア文化論集：琉球大学法文学部紀要 (2):11-52
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 「モダリティ」仁田, 義雄; 益岡, 隆志; 田窪, 行則『新日本語文法選書4』東京：くろしお出版
- 崎原正志 (2015) 沖縄首里方言のモダリティー—肯定疑問文を中心に—, 発表資料
- 崎原正志 (2016) 首里方言の確認要求文—-raja: と -œ:(ja:) の文を中心に—, 沖縄言語研究センター定例会
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 「現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ」。東京：くろしお出版
- Rieser&Shirata (2014) The nominalizer su and sentence-final soo in Kikajima Ryukyuan : Comparison with Japanese no(da) and (no)dewanaika. 京都大学言語学研究 = Kyoto University Linguistic Research. 33: 253-278

久米島方言データ集

久米島方言データ集の表記について

木部 暢子

1 表記の基本方針

- (1) 語形は音声記号の表記とかなの表記の両方を掲載した。
- (2) 同一話者の発音が揺れている場合は、2つ（またはそれ以上）の発音を「～」でつないで表す。複数の語形を回答した場合は、2つ（またはそれ以上）の語形を「 / 」で区切って併記する。 は母音が無声化していることを表す
- (3) その他の情報は、以下のような記号で表す。
〔 〕は用例の標示、〈古〉は古い語形であること、〈新〉は新しい語形であること、
〈誘〉は誘導で得られた語形であること、NRは「回答なし」を表す。
- (4) 文法例文集では、複数語形の範囲を { } でくくって、{ / } のように表記する。

2 久米島方言 音声記号・仮名対応表

短母音音節

※ 空欄は調査の範囲では該当する音が現れなかったことを、（ ）は使用例がきわめて少ないことを表す。

	音素	/a/	/i/	/u/	/e/	/wa/	/wi/
	異音	[a]	[i]	[u]		[wa]	[wi, wɛ]
	仮名	あ	い	う		わ	うい, うえ
p	音素	/pa/					
	異音	[pa]					
	仮名	ぱ					
b	音素	/ba/	/bi/	/bu/	(/be/)		
	異音	[ba]	[bi]	[bu]	([be])		
	仮名	ば	び	ぶ	(べ)		
m	音素	/ma/	/mi/	/mu/			
	異音	[ma]	[mi]	[mu]			
	仮名	ま	み	む			
t	音素	/ta/	/ti/	/tu/	(/te/)		
	異音	[ta]	[ti]	[tu]	([te])		
	仮名	た	てい	とう	(て)		
d	音素	/da/	/di/	/du/			
	異音	[da]	[di]	[du]			
	仮名	だ	でい	どう			
s	音素	/sa/	/si/	/su/			
	異音	[sa, ɕa]	[ɕi]	[su]			
	仮名	さ, しゃ	し	す			
z	音素	/za/	/zi/	/zu/			
	異音	[za, ɕza, za, ɕza]	[zi, ɕzi]	[zu, ɕzu, zi, ɕzi]			
	仮名	ざ, じゃ, ぢゃ	じ, ぢ	ず, づ, じゅ, ぢゅ			

c	音素	/ca/	/ci/	/cu/	/cu/		
	異音	[tsa, tea]	[tei]	[tsu, teu]	[tee]		
	仮名	つあ, ちや	ち	つ, ちゆ	ちえ		
n	音素	/na/	/ni/	/nu/			
	異音	[na]	[ni]	[nu]			
	仮名	な	に	ぬ			
r	音素	/ra/	/ri/	/ru/	(/re/)		
	異音	[ra]	[ri]	[ru]	([re])		
	仮名	ら	り	る	(れ)		
k	音素	/ka/	/ki/	/ku/	(/ke/)	/k ^w a/	/k ^w i/
	異音	[ka]	[ki]	[ku]	([ke])	[k ^w a]	[k ^w i]
	仮名	か	き	く	(け)	くわ	くい
g	音素	/ga/	/gi/	/gu/		/g ^w a/	
	異音	[ga]	[gi]	[gu]		[g ^w a]	
	仮名	が	ぎ	ぐ		ぐわ	
h	音素	/ha/	/hi/	/hu/			
	異音	[ha]	[çi]	[φu]			
	仮名	は	ひ	ふ			
j	音素	/ja/		/ju/	(/je/)		
	異音	[ja]		[ju]	([e, je, ɥɛ])		
	仮名	や		ゆ	いえ		

長母音音節

	/a:/	/i:/	/u:/	/e:/	/o:/
	[a:]	[i:]	[u:]	[e:, ɛ:]	[o:]
	あー	いー	うー	えー	おー
p				/pe:/	
				[pe:]	
				ぺー	
b	/ba:/	/bi:/	/bu:/	/be:/	
	[ba:]	[bi:]	[bu:]	[be:]	
	ばー	びー	ぶー	べー	
m	/ma:/	/mi:/	/mu:/	/me:/	
	[ma:]	[mi:]	[mu:]	[me:]	
	まー	みー	むー	めー	
t	/ta:/	/ti:/	/tu:/	/te:/	/to:/
	[ta:]	[ti:]	[tu:]	[te:]	[to:]
	たー	ていー	とうー	てー	とー
d	/da:/	/di:/	/du:/	/de:/	/do:/
	[da:]	[di:]	[du:]	[de:]	[do:]
	だー	でいー	どうー	でー	どー
s	/sa:/	/si:/	/su:/	/se:/	/so:/
	[sa:]	[çi:]	[su:, ɥu:]	[se:, ɥe:]	[so:]
	さー	しー	すー, しゅー	せー, しえー	そー

z	/za:/	/zi:/	/zu:/	/ze:/	/zo:/	
	[za:, za:, dza:]	[zi:, dzi:]	[zu:, dzu:, zi:, dzi:]	[dze:, ze:, dze:]	[dzo:, zo:, dzo:]	
	ざー, じゃー, ちゃー	じー, ぢー	ずー, づー, じゅー, ぢゅー	ぜー, じえー, ちえー	ぞー, じょー, ちょー	
c	/ca:/	/ci:/	/cu:/	/ce:/	/co:/	
	[tsa:, tea:]	[tei:]	[tsu:, teu:]	[tee:]	[teo:, eo:]	
	つあー, ちゃー	ちー	つー, ちゅー	ちえー	ちおー, しょー	
n	/na:/	/ni:/	/nu:/	/ne:/	/no:/	
	[na:]	[ni:]	[nu:]	[ne:]	[no:]	
	なー	にー	ぬー	ねー	のー	
r	/ra:/	/ri:/	/ru:/	/re:/	/ro:/	
	[ra:]	[ri:]	[ru:]	[re:]	[ro:]	
	らー	りー	るー	れー	ろー	
k	/ka:/	/ki:/	/ku:/	/ke:/	/ko:/	(/k ^w e:/)
	[ka:]	[ki:]	[ku:]	[ke:]	[ko:]	([k ^w e:])
	かー	きー	くー	けー	こー	(く ^w えー)
g	/ga:/	/gi:/	/gu:/	/ge:/	/go:/	
	[ga:]	[gi:]	[gu:]	[ge:]	[go:]	
	がー	ぎー	ぐー	げー	ごー	
h	/ha:/	/h:/	/hu:/	/he:/	/ho:/	
	[ha:]	[çi:]	[φu:]	[he:]	[ho:]	
	はー	ひー	ふー	へー	ほー	
j	/ja:/		/ju:/	/je:/	(/jo:/)	
	[ja:]		[ju:]	[je:]	([jo:])	
	やー		ゆー	いえー	(よー)	

モーラ音素

撥音	音素	/N/
	異音	[m, n, ŋ, N]
	仮名	ん
促音	音素	/Q/
	異音	[pp, tt, kk, ss, cc]
	仮名	っ
長音	音素	/:/
	異音	[:]
	仮名	ー

久米島方言 基礎語彙集 (音声記号)

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
頭(あたま)	teiburu	teimburu	teimburu / kamatei (頭が固いなどの時に使う)	teimburu (dikija:「頭がいい人」)
髪の毛	ka:radzi	ka:radzi	ka:radzi	ka:radzi~ka:ragi:
旋毛(つむじ)	teidzi	matei	matei	matei [ta:teimatea: (2つつむじの人)]
雲脂(ふけ)	çingu	iritei (うろこと同じ)	akumi	φuki / iritei
白髪(しらが)	eiragi	eiragi	eiragi	eiragi
目(め)	mintama / mi:	mi:	mi:	mi:
眉(まゆ)	maju:	maju	maju	ma:ju / mi:numa:ju
額(ひたい)	çitee:	çitee:	çitee:	çitee:
鼻(はな)	hana	hana	hana	hana
鼻血(はなぢ)	hanadzi	hanadzi	hanadzi:	hanadzi:
耳(みみ)	mimi	mimi	mimi	mimi
口(くち)	kutei	kutei	kutei	kutei
唇(くちびる)	kuteibiru	wa:eiba	kuteibiru	kuteibiru / wa:kuteibiru (上唇) / teakuteibiru (下唇)
舌(した)	eiba	eiba	suba	suba
歯(は)	ha:	ha:	ha:	ha:
歯茎(はぐき)	haeici	haeici	hagutei	hagutei
口蓋(あご)	utuge: (あご先) / kakudzi (えら, おとがい)	kakudzi (横) / utuge: (先)	uttuge: / ago	kakudzi (顎の両端) / utuge: (顎の先端)
髭(ひげ)	çidzi	çidzi (ヒゲは wa:çiidzi)	çidzi	çidzi
毛(け)	ki:	ki:	ki:	ki:
面(かお)	teira	teira	teira	teira
首(くび)	kubi	kubi (「のど」は nudi:)	kubi (「のど」は nuri:)	kubi (「のど」は nuri:)
肩(かた)	kata	kata	kata	kata
胸(むね)	nnibai	nni (胸のあたり全 体は nnibai)	nni	nnibai / nni
肋骨(あばらぼ ね)	so:ki	so:kibuni~ so:kibu:ni	so:kibuni / so:ki	so:kibu:ni
乳(ち・ちち)	tei:	tei:	tei:	tei:
腹(はら)	wata / watabutu (お腹の大きい人)	wata	wata	wata / watabutu [watabuta: (お腹の 大きい人)]
背中(せなか)	kueibuni	nagani	nagani [naganibuni (背骨)]	kuei / kueinagai / nagani
脇(わき)	watei	watei	watei	watei

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NR は「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
肝(きも)	teimu	teimu	teimu	teimu
臍(へそ)	ɸusu	ɸusu	ɸusu	ɸusu / tembusu 〔tembusa (でべその人)〕
腰(こし)	gamaku	kɸei (ウエスト gamaku)	kuei / gamaku (ウエ スト) / adzima:buni～ adzima:bu:ni (骨盤)	gamaku 〔hatea:gamaku (ウエ ストの細い人)〕
尻(しり)	teibi	teibi	teibi	teibi
肛門(こうもん)	teibinumi: <誘>	ma:i	ma:i	teibi / teibinumi:
手(て)	ti:	ti:	ti: / ti:nuçira	ti:
腕(うで)	ti: (腕・手全体)	ke:na	ke:na	ti:
肘(ひじ)	çidzi	çidzi	magai	çidzi
力(ちから)	NR	gute:	gute:	gute: 〔gute:mutea: (力持ち)〕
拳(こぶし)	NR	teidzikumi	teiteikumi	NR
筋(すじ)	NR	kadzi (腱の意)	sudzı	NR
指(ゆび)	bi:bi	i:bi	i:bi	bi:bi
爪(つめ)	teimi	teimi	teimi	teimi
足(あし)	çiea～çisa (足全 体)	çisa (足・脚全体)	çisa (足全体)	çisa (全体)
腿(もも)	mumu	mumu	mumu	mumu
股(また)	mata	mata	matabaei	mata
膝(ひざ)	teinçi / magari	teinçi	teinçi	teinçi
踝(くるぶし)	kurubuei	NR	guɸuei (「足首」は çisakubi)	NR
脛(すね)	çini	me:gunda	karacini / çini	çini
ふくらはぎ	kunra	kunda	kunda	kunra 〔kunra'agaja: (こぶら返り)〕
踵(かかと)	karu	aru	aru	kakatu / aru
体(からだ)	ru:	ru:	du:～ru:	ru:
背丈(せたけ)	taki	taki	ɸuru	taki
骨(ほね)	ɸu:ni	ɸu:ni	ɸu:ni	ɸu:ni
皮(かわ)	ka:	ka:	ka:	ka:
ほくろ	aɖza	aza	aza	a ^d za～aza
涙(なみだ)	minnara	nara	nara	nara / mi:nara
声(こえ)	k ^{wi} :	k ^{wi} :	kɸi: (ɸ は有声両唇 硬口蓋接近音)	k ^{wi} :
息(いき)	i:tei	i:tei	i:tei	i:tei 〔i:teiputsun (ハ ーハーする)〕
咳(せき)	sakkui	sakkui	sakkui～sakui	sakui 〔sako:bi (しゃ っくりする)〕

～は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、() は意味や用法の説明、^d は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
唾(つば)	tuppe:	tuppe:	tumpe:	tumpe:
欠伸(あくび)	akubi	akubi	akubi	akubi
涎(よだれ)	jurai	judai	jurai	jurai
屁(へ)	çi:	çi:	çi:	çi:
糞(くそ)	kusu	kusu	kusu	kusu
尿(にょう)	çibeï~subei	çi:bai	subai	subai
おでき	teikami (大きいもの) / nibuta: (小さいもの)	teikami	teĩkami / ni:buta:	teĩkami / nibutu
たんこぶ	kubu	gana: / gu:ɸu	gu:ɸu	gana: [gana: agaton (たんこぶが出来た)]
汗(あせ)	aei:	aei	aei	aei [aei hajun]
垢(あか)	çingu	çingu	çingu	çingu
怪我(けが)	kidzi	NR	kidzi	ru:jamateen (怪我をしている)
病氣(びょうき)	jamme:	jami	jaɾo:N (病んでいる)	jamme:
血(ち)	tei:	tei:	tei:	tei:
傷(きず)	kidzi	kidzi	kidzi	kidzi
薬(くすり)	kusui	kusuï	kusui / eindzigusui (煎じ薬)	kusui
灸(きゅう)	ja:tsu:	jatteu:	jatsu:	jatsu: [jatsu: jatsun (灸をすえる)]
命(いのち)	nutei	nutei	nutei	nutei
木(き)	ki:	ki:	ki:	ki:
葉(は)	ki:nuha:	ha:	ha: / ki:nuha:	(ki:nu) ha:
枝(えだ)	jura	juda	jura	jura
実(み)	mi:	nai / mi:	nai / ki:nunai	(ki:nu) mi:
根(ね)	ki:nuçidzi / ni:	çidzi / ni:	ni:	ni:
草(くさ)	kusa	kusa	kusa	kusa
花(はな)	hana	hana	hana	hana
種(たね)	sani	sani	sani	sani (tani「陰茎」)
苗(なえ)	ne:	ne:	ne:	ne:
稲(いね)	nni	nni	nni	nni
穂(ほ)	ɸu:	ɸu:	ɸu:	ɸu:
米(こめ)	kumi	kumi	kumi	kumi
粳(もみ)	mumi	mumi	mumi	mumi
麦(むぎ)	mudzi	muzi (作っていない)	mudzi	mudzi
藁(わら)	wara	wara	wara	wara
麦わら	mudziwara	NR	mudziwara	mudziwara

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
茅(かや)	kaja	kaja	kaja	kaja
粟(あわ)	awa	awa	awa	awa
稗(ひえ)	NR	to:zimi	to:ɖzimi (稗ではなく キビカ)	to:ɖzimi か
芋(いも)	mmu / tammu (里 芋より大きい)	mmu	mmu	mmu (さつまいも) / ŋgo:rammu (くわず いも) / ta:mmu (里 芋)
甘藷(さつまいも)	mmu	mmu	mmu	mmu
豆(まめ)	mami	mami	ma:mi	mami
胡瓜(きゅうり)	kiui	ki:ui	kiui	ki:ʔui~ki:ui
蓬(よもぎ)	ɸu:teiba:	ɸu:teiba:	ɸuteiba:	ɸu:teiba:
菜(な)	na:	o:ha	na:	na:
大根(だいこん)	de:kuni	de:kuni	de:kuni	de:kuni (teire:kuni: 「人参」)
冬瓜(とうがん)	eibui	eibui	subui	subui
南瓜(かぼちゃ)	naŋk ^w a:	naŋk ^w a:	naŋk ^w a ⁿ	naŋk ^w a
瓜(うり)	ui	ui (胡瓜のみをさ す)	ui	ui
蕪(いら)	teiribira:	teiribira (ねぎは teinda)	teirubira:~teirubira	teiribira~teiribira:
茸(きのこ)	na:ba	na:ba	na:ba	na:ba
きくらげ	mimigui	mimigui	NR	mimigui
とうがらし	kuso:	ko:garaei	k ^w e:garasi:	k ^w e:garasu:
苦瓜(にがうり)	go:ja:	go:ja	go:ja	go:ja:
胡麻(ごま)	guma	guma	guma	guma
莓(いちご)	NR	haŋki / iteibi	itsubi	itsubi
ソテツ	sutitei	sutuku	su:ti:tea:	ɕituku
松(まつ)	ma:tei	ma:tei	ma:tei	ma:tei
竹(たけ)	raki	daki	daki~raki	raki
梅(うめ)	mmi	NR	mmi	mmi
桃(もも)	mumu	mumu	mumu	mumu
桑(くわ)	k ^w a: / k ^w a:nuki: (桑の木) / k ^w a:gi: (桑の木)	k ^w a:gi	k ^w a:gi	k ^w a:gi / k ^w a: (桑の 葉)
薄(すすき)	gueitei / gueteigaja	gueitei	gueitei	gueitei / minzarako: (すすきの花)
ミカン	kurubu	kurubu	kurubu	kurubu
茎(くき)	NR	gutei	gutei	kuki
あおさ	a:sa	a:sa	a:sa / naga:sa	naga:sa
モズク	sunui	sunui	sunui	sunui

～は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、() は意味や用法の説明、 . は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
藻(も)	NR	u:migusa	mu:	uminukusa
糸瓜(へちま)	nabera:	nabe:ra:~nabe:da:	nabe:ra:	nabe:ra:
こずえ・砂糖黍の先端	NR	su:da	su:ra	NR
福木	ɸukudzi	ɸukudzi	ɸukudzi	ɸukudzi
あだん	aran / aramba: (あだんの葉)	adan	aramba: (アダンの葉か)	arannu
がじゅまる	gadzamaru	gadzamaru	gadzamaru	gadzamaru
びろう樹	kuba	kuba	kuba	kuba
棘(とげ)	ndzi	NR	ndzi	ndzi
烏賊(いか)	itea	itea	itea	itea / se:itea (大きい種) / kubueimi (甲イカ)
蛸(たこ)	taku	taku	taku	taku / kutaku: (小さい蛸)
海老(えび)	jebi / tanage: / ee:~se: (小さいエビ)	ibi	ibi	ibi / ibigai (大きい種) / se:~se:g ^w a: (沼エビ)
ウニ	nna: (食べられない) / gateitei (食べられる)	gateitea:~gateitei / una:	gateitei	gateitei
貝(かい)	NR	nna	nna	nna (巻き貝, 二枚貝の総称)
亀(かめ)	ka:mi:	ka:mi:	ka:mi:	ka:mi:
蟹(かに)	gani	gani	gai	gai
魚(さかな)	iju	iju	iju	iju
鱗(うろこ)	urutei	iritei	uruku	iritei
鰻(うなぎ)	unadzi	nnadzi	nnadzi	nnadzi / ka:nnadzi (川鰻)
鯨(くじら)	gudzira	kudzira	kudzira (めったに見えないことがない)	kudzira か
鰹(かつお)	katsu:	katsu:	katsu:	katsu:
飛魚(とびうお)	tubu:	tubu:	tubu:	tubu:iju
鱻(ふか)	NR		NR	NR
鮫(さめ)	NR	saba	saba	same か
いるか	çi:tu	çi:tu	NR (いない)	çi:tu
なまこ	NR	teieira:	teieira:	teieira:
ヒトデ	NR	NR	u:mitaku	çi:tuɸe
やどかり	NR	amammu	amammu	amammu
牛(うし)	uei	uei	uei	uei
馬(うま)	mma	mma	mma	mma

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
山羊(やぎ)	he:dza: (山羊) / u:muna:~u:munu (オス)	çi:dza:	çi:dza: / u:çi:dza: (雄 山羊)	çi:za:
豚(ぶた)	wa:	wa:	wa:	wa:
角(つの)	teinu	teinno:	teinu	kunu
犬(いぬ)	inu	inu	inu~in	inu
猫(ねこ)	maja:	maja:	maja:	maja:
兎(うさぎ)	usagi	usagi	usagi (いない)	usagi
鼠(ねずみ)	entsu	jentsu	qentsu (q は有声両 唇硬口蓋接近音)	wentsu / bi:tea: (ジャ コウネズミ)
尾(お)	dzu:	dzu:	dzu:	dzu:
虫(むし)	muei	muei	muei	muei
蟻(あり)	ai	aiko:	aiko	aiko:
蚊(か)	gadzan	gadzan	gadzan	gadzan
蜘蛛(くも)	kumu~ku:mu:	ku:bu:	ku:bu:	ku:bu:
蜘蛛の巣	ku:mu:nu ei:	ei:	ei: / ku:bunuei:	kubukaei
蝶々(ちょうちよ)	teo: / heberu~ haberu (小さい蛾)	habe:ru:	habe:ra	habe:ru
カタツムリ	teinnan	teinnan	teinnan	teinnan
蛙(かえる)	atabi:	atabiku:	atabitea: / atabi:	atabi: / atabitea:
蜂(はち)	hatei	hatea:	hatea:	hatei
蠅(はえ)	he:	he:	he:	he:
蛆(うじ)	udzi	udzimuei	udzimuei	udzi
蚕(のみ)	nu:mi	nu:mi	nu:mi	nu:mi
蚯蚓(みみず)	mimidzi	mimidzi	mimidzi	mimidzi
虱(しらみ)	eirami	eirami	eirami	eirami / dzisaei (シラ ミの卵)
百足(むかで)	mukadzi	bukadzi	mukadzi	ɲkadzi
蚕(かいこ)	NR	mueig ^{wa} :	kaiko / mueig ^{wa}	mueig ^{wa} :
かまきり	isatu:	asaumbe:	a:sa:tu:	isatu:
蜻蛉(とんぼ)	ma:re:	akedzu	a:kedzu	akke:zu:
ばった	batta	ma:dze:	ma:dze:	ma:ze:
蟬(せみ)	sansan	sansan	ma:sa:	ma:sa: (大きい) / asasa: (茶色の)
鳥(とり)	tui	tui	tui	tui
鶏(にわとり)	tui	tui	tui	tui
とさか	kagami	kandzu	kandzu	NR
雀(すずめ)	kura:	kura:	kura:	kura:
鳩(はと)	ho:tu	ɸu:tu	ho:tu	ho:tu
烏(からす)	garaei:~garasa:	garasa:	garasa:	garasa:
鶉(うずら)	udzura	NR	udzura:	udzira:~udzira:g ^{wa} :

~は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、()は意味や用法の説明、. は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
鷹(たか)	taka	taka	taka	taka
卵(たまご)	ku:ga	ku:ga	ku:ga	ku:ga
巢(す)	tuinuei: / ei:	ei:	ei:	ei:
羽(はね)	hani	hani	hani	hani / hanige:
空(そら)	tin	tin	tin	tinto: ~tinto / tin
日(ひ)	tin	ti:ra	çi	çi:
太陽(たいよう)	ti:ra	ti:ra	ti:da	ti:ra ~ ti:da
光(ひかり)	akagai	çikai	ak?agai	çikari ~ çikai
蔭(かげ)	ka:gi	kataka (木陰など のかげ)	ka:gi	ka:gi
まぶしい	mi:teirasa	mi:teurasan	mitearasan ~ mitearasanu	mintearuhan ~ minteirahan
火(ひ)	çi:	çi:	çi:	çi:
水(みず)	mizi	mizi	mizi	mizi
山(やま)	jama	jama	jama	jama
川(かわ)	ka:ra / nzu (小さい もの)	ka:ra	ka:	ka:ra (r はふるえ音) / ka:ra
橋(はし)	haei	haei	haei	haei
丘(おか)	mui	mui	mui	mui
陸地(りくち)	agi	agi	-	agi / eima
土・地面	zi: / mitea (土)	mitea / dzi:	dzi:	ntea / dzi:
星(ほし)	φuei / hoei	φuei	φuei	φuei
月(つき)	teitteu: / teittsu:	tejte	teitei	teiteu:
雲(くも)	k?umu	kumu	kumu	kumu
霧(きり)	k?iri	kiri	teiri	kiri
露(つゆ)	teiju	teiju	teiju	teiju
雨(あめ)	ami ~ ame	ami	ami	ami
風(かぜ)	kazi	kazi	kazi	kazi
竜巻(たつまき)	kazima:i	kazimatei	kazimatei	ru: / du:
稲光(いなびかり)	çirui ~ çidui	inabikari ~ inabikai	-	çurui
地震(じしん)	ne:	ne:	ziein	ne: (ne: φujun「地震 が起きる」)
虹(にじ)	nizi	nizi	nizi	konnazi
明かり	akagai	akagai	akagai	akagai
雷(かみなり)	kannai	kannai	kannai	kannai
潮(しお)	su:	su: / usu	su:	su:
煙(けむり)	kibuei	kibuei	kibuei	kibuei
浅瀬(あさせ)	assa	ino:	?ino:	NR
遠浅(とおあさ)	assa (浅い)	ino:	?ino:	NR
洞窟(どうくつ)	gama	gama	gama	gama
海(うみ)	u:mi	u:mi	u:mi	u:mi

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
水溜り	mizitamai	mizitamai	mizitamai	mizitamai
港(みなと)	nnatu	nnatu~mnatu	nnatu	nnatu
波(なみ)	nami	nami	nami	nami
泡(あわ)	awa	a:	a:	a:
島(しま)	eima	eima	eima	eima
浜(はま)	ha:ma	ha:ma	ha:ma	hama
珊瑚礁	ei:	çiei	-	NR
砂(すな)	eina	eina	eina	eina
石(いし)	iei / ma:isa (丸くな ったもの)	iei	iei	iei
溝(みぞ)	nzu	nzu	nzu	ndzu
田(た)	ta:	ta:	ta:	ta:
畦道(田の)	abuei	abuei	abuei / abueimitei	abuei
畑(はたけ)	hataki / haru	hataki	hataki	hataki / haru (野原, 畑, 田, すべて全体的 にとらえた意味に なる)
野(の)	NR	haru	mo:	haru
道(みち)	mitei	mitei / su:zing ^w a (小道)	mitei	mitei / su:zi (小道)
崖(がけ)	teiritu	teiribanta	hanta	teiritu / teiribanta
坂(さか)	saka	saka	çira	saka
頂上(ちょうじょう)	teizi	teizi	teizi	teizi
東(ひがし)	agari	agari	agari	agari
東風	agarikazi	kuteikazi	kuteikazi	agarikazi / kuteikazi
北(きた)	niei	niei	niei	niei
北風	nieikazi	nieikazi	nieikazi	nieikazi
西(にし)	iri	iri	iri	iri
西風	nieikazi (irikazi と は言わず)	irikazi	irikazi	irikazi
南(みなみ)	he:	he:	he:	he:
南風	he:nukazi	he:kazi	he:nukazi	he:nukazi / he:kazi
右(みぎ)	niziri	niziri / nigiri	niziri	niziri
左(ひだり)	çizai	çizai	çizai~çizai	çizai
前(まえ)	me:	me:	me:	me:
後ろ(うしろ)	kuei / a:tu	kuei	kuei	kuei / atu / a:tu
跡(あと)	a:tu / furujacitei と も言う (建物はな い)	NR	a:tu	a:tu~atu
横(よこ)	joku	juku	juku	juku / suba

～は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、() は意味や用法の説明、. は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
上(うえ)	wɛ:	ui~wɛ (前よりの e)	wi:	wi:
下(した)	ɛitea	ɛitea	ɛitea	te'a
中(なか)	na:ka	na:ka	na:ka	na:ka
底(そこ)	suku	suku	ɛitei	suku
内(うち)	utei	utei	utei	utei
外(そと)	hoka	ɸuka	ɸuka	ɸuka
奥(おく)	uku / ura (家の奥 座敷)	uku	uku	uku
角(かど)	karu	ɛimi	kadu	karu~kadu
傍(そば)	soba~suba	tunai (建物) / suba (人)	suba	suba
隣(となり)	tonai	tunai	tunai	ke:tunai / tunai
今日(きょう)	ki:	ki:	ki:	ki:
昨日(きのう)	teinu:	teinu:	kinu:	kinu:
一昨日(おととい)	utti:	utti:	ututui	utti:
明日(あした)	atea	atea	atsa	atea
明後日(あさって)	asati	asatti	asati	asati~asatti
明明後日(しあさ って)	asatinuna:tea	atea'asati	ei:asati	asatinuna:tea
今年(ことし)	kutuei / kundu	kunru <話者 A・B> / kundu<話者 B>	kutuei	kutuei
去年(きょね)	kuzu	kuzu <話者 A> / kuzu <話者 B>	kuzu	kuzu
一昨年(おととし)	mitsu: / mitsu:nu a:ti	NR	ututuei	mitsunati
来年(らいねん)	ja:ni	ja:ni	ja:ni	ja:ni
再来年(さらいね ん)	ja:ni mitsu:	NR	NR	na:mitsu
今(いま)	nama	nama	nama	nama
昔(むかし)	ŋkaei / ka:ma he:ku (大昔)	mukaei	ŋkaei	ŋkaei
朝(あさ)	ɛitumiti	ɛtimiti	asa / tumiti	t ^ʔ umiti
昼(ひる)	asabanɕi:	ɕiru	ɕiru / ɕiruma	ɕiru
夕方(ゆうがた)	ju:sandi	jusandi	jusandi	juhandi
夜(よる)	juru	juru	juru	juru
夜中(よなか)	junaka	junaka	junaka	junaka
暁(あかつき)	akateitei	akateitei	akateitei	akateitei
暇(ひま)	ɕima	ɕima	ɕima	ɕima
時(とき)	tutei	tutei	tutei	tutei
年(とし)	tuei	tuei	tuei	tuei

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NR は「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
曆(こよみ)	kuimi	kujumi	kuimi	kujumi
うりずん(3~4月)	NR	harunucitei	urizin	urizin~urizimu
着物(きもの)	teinu	tein (和服) / teihara (服)	teinara (服の総称) teinu (和服)	teinu
襟(えり)	jeri	teinnukubi	kubi / jeri	jeri
袖(そで)	sudi	suri	suri	suri
裾(すそ)	susu	susu	susu	susu
帯(おび)	u:bi	u:bi / ku u:bing ^w a: (小帯) / guma u:bing ^w a: (細帯)	u:bi	u:bi
紐(ひも)	çimo <新> / wi:ru: <古>	çimu	çimu	çimo
足袋(たび)	ta:bi	ta:bi	ta:bi	ta:bi
袴(はかま)	hakama (羽織は hau)	hakama (砂糖黍 の下の葉を ha:gara: という)	hakama	hakama
下駄(げた)	aeiza	aeiza	aeiza~acidza	aeiza~aeiza
草履(ぞうり)	saba	saba	saba	saba / waragutei (草 鞋)
緒(お)	u:	u:	hanaðu:~hanau:	u:
布(ぬの)	nunu	nunu	nunu	nunu
表(おもて)	NR	umuti	umuti	umuti
裏(うら)	ura	ura	ura	ura
綾,模様(あや)	aja	aja	aja	muju:
手ぬぐい	tisa:zi / sa:zi (前者 がふつう)	ti:sa:dzi / sa:dzi	sa:zi / ti:sa:zi	sa:zi
蓑(みの)	nnu	nnu	nnu (くばの葉で作っ た)	nnu
湯(ゆ)	ju:	ju:	ju:	ju:
茶(ちゃ)	tea:	tea:	tea:	tsa:~tea:
飯(めし)	munu	me:	me:	munu
粥(かゆ)	uke:me:	uke:me:	uke:me:	uke:me:
餅(もち)	mutei~mu:tei: (オ ニモチ)	muttei:	mutei:	mutei:
雑炊(ぞうすい)	mieçirume: ~ mieieirume: / zu:ei:me: (水分が 少ない)	dzu:ei: / dzu:ei:me: / mieieirume: / boroborodzu:ei: / zorozorodzu:ei: (水 っぽい雑炊)	zu:ei / boroboro zu:ei: (柔らかいも の) / mieimieirume: (柔らかいもの)	dzu:ei: / dzu:ei:me: / ateibi: (水分が多い もの) / mieizime:
味噌(みそ)	misu	misu	misu	misu
汁(しる)	çiru / ueiru	çiru	çiru	çiru
塩(しお)	ma:su	ma:su	ma:su	ma:su~ma:su'

~は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、()は意味や用法の説明、' は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
塩辛い	eibukarasan / su:zu:san	karasanu	subukarasan / eibukarasan	subukarahan
砂糖(さとう)	sata:~sa:ta:	sato:	sata:~sa:ta:	sata:
砂糖きび	u:zi	udzi	u:zi	uzi
粕(かす)	kaei	kaei:	uzigara (さとうきびの しぼりかす)	kaei / murun (もろ み)
酒(さけ)	saki	saki	saki	saki
黴(かび)	ko:dzi	ko:dzi	kurube: (黴) / ko:dzi (麴)	ko:dzi [ko:dzi harun (カビが付く)]
麴(こうじ)	ko:zi	ku:dzi	ko:zi	ko:zi
粒(つぶ)	teibu / me:teizi (米粒)	teidzi	teizi / teuteizi (一粒)	tsueizi (一粒)
糠(ぬか)	nuka	nuka	nuka	nuka
粉(こ・こな)	ku:	ku:	kuna / ku:	ku:
にんにく	çiru	çiru	çiru	çiru
芽(め)	mizuri	mi: / miduri (mi:よ り大きい)	wakame / eimmi	mizuri
クワズイモ	çi:gonza:sa	jamamudzi	NR	ŋgo:rammu
肉(にく)	eiei	eiei	eiei	eiei
果物(くだもの)	naimun	ki:nunai / naimun	naimun (木になるも の)	nai
油(あぶら)	anda	anda~anra	anda~anra	anra
天ぷら	anda:gi:	anda:gi:	anda:gi ~anra:gi	anra:gi:
灰(はい)	he: (蠅のことも he:)	he:	he:	he:
匂い(におい)	kaza	kaza	kaza	kaza
味(あじ)	adzi	azi	azi	azi
料理(りょうり)	munu / teo:ki (ごち そう)	k ^w attei: (ごちそう)	k ^w attei (ごちそう)	munu
ご飯(ごはん)	me: / hamme:	munu	munu	me:
食事(しょくじ)	munu	munu	munu	munu
朝食(あさめし)	eitumitimun	etimitimun	mi:kuhaja:~ mi:k ^w ahaja:	mi:k ^w ahaja: / asaban
昼食(ひるめし)	asaban	asaban / çirume: (3 時頃の)	asaban (3時から5時 ごろ食べる çirume:)	na:eibi
夕食(ゆうめし)	ju:ban	ju:ban	ju:ban	ju:ban
膳(ぜん)	dziN / udziN	udziN	uziN / ziN	dziNu
食べ物(たべも の)	kamimunu	k ^w e:mun	kamimun <誘>	kamimun
家(いえ)	ja:	ja: (ja:「お前」)	ja:	ja:
母屋(おもや)	uφuja	eime:ka (asagi / me:nuja:「倉庫」)	NR	NR (離れは me:nuja:)

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
台所	tong ^w a	ɛimu / tong ^w a (古)	tung ^w a	tong ^w a
天井	tindzo:	tindzo:	tindzo:	tindzo:
床(ゆか)	juka	juka	juka	juka
棚(たな)	tana	tana / tudana (戸棚)	tana	tana
竈(かまど)	kama	kama	kama	kamaru
いろり	dzi:ru	NR	NR	dzi:ru
戸(と)	haeiri	haeiru	haeiru	haeiri
板(いた)	ita	ita	ita	ita
節(ふし)	ɸuɕei	ɸuɕei	ɸuɕei	ɸuɕei
穴(あな)	ana / mi:	ana / mi:	ana	ana
柱(はしら)	ha:ja	ha:ja	ha:ja	ha:ja
釘(くぎ)	kuzi	kuzi	kuzi	kuzi
瓦(かわら)	ka:ra	ka:ra	ka:ra	ka:ra
便所(べんじょ)	ɸu:ru	ɸu:ru	ɸu:ru	ɸu:ru
垣(かき)	katei	katei	kakui	katei
庭(にわ)	ma: / ɸukanuma:	ja:numa:	ja:nu ma:	ma:
井戸(いど)	ka:	ka:	ka:	ka:
墓(はか)	haka	haka / hakame:	haka	haka
煤(すす)	ei:ei	ɕiŋgu (鍋の) / ei:ei (きせるのやにも)	ei:ei / na:binu ɕiŋgu	ei:ei
埃(ほこり)	ɸukui	ɸukui	ɸukui	ɸukui
門(もん)	dzo:~dzo:	dzo:	zo:	dzo:
ひんぷん(門のところにある目隠し用垣根)	ɕimpun	teiribu	so:zatei~so:dzatei	tei:bu
縄(なわ)	na:	teina / na:	teina	na:
綱(つな)	teina	teina	teina	teina
鎖(くさり)	kɕsari	kɕsari	NR	kusari
袋(ふくろ)	ɸukuru~ɸukku	ɸukuru	ɸukku	ɸukku
荷(に)	ni:	ni:mutei / ni:	ni:	ni:
皿(さら)	sara	ɛe:dzara	ɛe:zara	se:zara
椀(わん)	tsɔ:nu~teɔ:nu	makai / ɛirumakai (汁の) / me:makai (ご飯の)	makai (汁用)	makai
茶碗(ちゃわん)	teawan	teawan (湯飲み茶碗)	makai (ごはん用) / teawan (湯のみ)	teawan
壺(つぼ)	NR	ka:miŋ ^w a:	ka:mi / mimiga:mi	NR
鉢(はち)	ha:tei	ha:tei	NR	ha:tei
瓶(かめ)	ka:mi	ka:mi	ka:mi	ka:mi
水瓶(みずがめ)	miziga:mi	(mizi)hanru:ga:mi	miziga:mi	miziga:mi

~は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、()は意味や用法の説明、. は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
桶(おけ)	u:ki	u:ki	u:ki	u:ki
水桶(みずおけ)	miziu:ki	ta:gu	NR	miziu:ki
盥(たらい)	tare:	ta:re: (洗濯用) / bindare: (洗顔用)	tare: / bindare:	tare:
ひしゃく	ni:bu	ni:bu	ni:bu	ni:bu
柄(え)	qi:	ti: (φu:「やかんの 口」)	ti:	qi:
釜(かま)	hagama	hagama	hagama	hagama
しゃもじ	i:ze:	mieige: (nabige: 「おたま」)	mieige:	i:ze:
急須(きゅうす)	tsu:ka:~teu:ka:	teu:ka: / teabin	teu:ka	teu:ka:
箸(はし)	ume:ei	ume:ei	me:ei	ha:ei
包丁(ほうちょう)	ho:tea:	ho:tea:	ho:tea	katana
小刀(こがたな)	ei:gu	ei:gu	kogatana / ei:gu	ei:gu
まな板(いた)	marutsa~marutea	marutea	marutea	marutea~marutsa
臼(うす)	u:ei	u:ei	u:ei	u:ei
杵(きね)	azimu / jung ^{wi}	jungui (横杵) / adzimu (縦杵)	azimu / jungui	azimu (まっすぐの棒 状のもの) / jungui: (ハンマー状のもの)
斧(おの)	u:nu / ju:tei	ju:tei (小) / u:nu (大)	u:nu	u:nu / ju:tei (手斧, 小さい斧)
鋸(のこ)	nukuziri	nukuziri	nukuziri	nukuziri
鑿(のみ)	numi	numi	nu:mi	numi
錐(きり)	iri	iri	i:ri	iri
箱(はこ)	haku	haku	haku	haku
筆(ふで)	φudi	φuri	φuri	φuri
紙(かみ)	kabi	kabi	kabi	kabi
鋏(はさみ)	hasan	hasan	hasan	hasami
印(しるし)	ei:ru:ei	dzi:ru:ei	ei:ru:ei	ei:ru:ei
漆(うるし)	(uruei)(標準語?)	NR	NR	uruei
鏡(かがみ)	kagan	kagan	kagan	kagami
櫛(くし)	sabatei / ku:ei (梳き 櫛 / 虱取り用)	sabatei / ku:ei (目が 細かい)	sabatei / ku:ei (目が 細かい)	sabatei
布団(ふとん)	u:ru <古> / φuton <新>	φuton / u:ru	u:ru	u:ru
枕(まくら)	makk ^{wa}	makk ^{wa}	makk ^{wa}	makk ^{wa}
箒(ほうき)	ho:tei	ho:tei	ho:tei	ho:tei
竿(さお)	so:	so:	so:	so:
杖(つえ)	gu:san	gu:san	gusan~gusanu	gusanu

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
笠・傘(かさ)	kasa / kubagasa	kasa (笠) / kubagasa (くば笠) / daŋgasa (大きい 傘) / amagasa (雨 傘)	kubagasa (頭にかぶ る) / daŋgasa ~ raŋgasa (さす傘)	kasa / kubagasa (被 る傘)
針(はり)	ha:i	ha:i	ha:i	ha:i
糸(いと)	i:tsu: ~ i:teu:	i:tsu:	iteu:	iteu:
煙管(きせる)	teieiri	teieiri	teieiri	teieiri
金(かね)(金属・ お金)	kani (金属, 鐘) / dzin (お金)	dzin	dzini ~ dzin	kani (金属・鐘) / dzini (お金)
三味線(しゃみせ ん)	sanein	sanein	sanein	sanein
船(ふね)	ɸuni	ɸuni	ɸuni	ɸuni
帆(ほ)	ɸu:	ɸu:	ɸu:	ɸu:
櫂(舟のカイ)	e:ku ~ je:ku	je:ku	je:ku	ɸe:ku
網(あみ)(魚を獲 るあみ)	ami	tabu (柄が付いて いる)	ami	ami / sari
槍(やり)	tuza	jari (鋸)	jai	uzimu (先が曲がっ た蛸をとる道具) / tuza (魚をとる鋸)
鋏(くわ)	kɸe:	tunɸwe:	tunɸwe:	kɸe:
鋤(牛にひかす すき)	sɸki / ɸizal (耕す 道具)	sɸki / ma:ga (平坦 にするもの)	suki	sɸki
鎌(かま)	erena	ine:ra	ire:ra	ire:ra
ござ	nikubuku (干すの に使う) / kumu	kaba:	kumu / nikubuku	kumu
籠(へら)	ɸi:ra	he:ra	he:ra	he:ra
策(ざる)	so:ki (籾を入れる) / ba:ki (芋を洗う)	so:ki (箕) / ba:ki (頭に載せる)	so:ki (目が細かい) / ba:ki (目が荒い, 大)	so:ki (大きい, 籾殻 を入れる) / ba:ki (芋 を洗う)
籠(かご)	kago (ti:ru はざる の一種)	ti:ru (背負う)	ti:run ~ ti:ru	ti:ru
桶座(頭上運搬 用)	kabuciri	ganeina:	ganeina: (わらで作っ た)	kabucina
モッコ(運搬用, 馬に乗せる)	o:da:	o:ra:	o:ra	o:ra:
篩(ふるい)	jui / ɸui / mi:zo:ki:	jui (目が荒い) / ei:no: (目が細か い)	ei:no:	jui
俵(たわら)	ta:ra	ta:ra	ta:ra:	ta:ra
筵(むしろ)	mu:su	muciru	mu:su	mu:su

~は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、()は意味や用法の説明、. は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
薪(たきぎ)	tammunu~ tammun	tamun <話者 A> / tammun <話者 B>	tamun	tamunu
かんざし	dzi:ɸwa:~dzi:ma:	dzi:ɸwa:	zi:ha:	dzi:ha:
人(ひと)	tsu~teu	teu~tsu	teu	teu
親(おや)	uja	uja	uja	uja
子(こ)	k ^w a:	k ^w a	k ^w a	k ^w a:
子供(こども)	warabintea:~ warabintsa:	warabi / waraba: (軽視) / warabintea: (複数)	warabi	warabintea (複数)
長男(ちょうなん)	teakuei	teakuei	teak ^ʔ uei	teakuei
二男(じなん)	džinan	džinan	zinan	zinan
三男(さんなん)	sannan	sannan	sannan	sannan
四男(よんなん)	junan	junan	junan	junan
五男(ごなん)	gonan~gunan	gunan	gunan	gunan
長女(ちょうじょ)	ei:za wunagung ^w a / ei:zaminagung ^w a / ei:za / winagu /winagung ^w a	teakuei inagu / teakuei inagung ^w a	NR	inagung ^w a (女の子の意)
二女(じじょ)	džizo~zizo	džinan inagu / džinan inagung ^w a	NR	inagung ^w a (女の子の意)
三女(さんじょ)	sanzo	sannan inagu	NR	(inagung ^w a)
四女(よんじょ)	jonzo	junan inagu	NR	(inagung ^w a)
五女(ごじょ)	gozo	gunan inagu	NR	(inagung ^w a)
末っ子(すえっこ)	teibi / uttung ^w a	uttung ^w a (子供時代) / iteiban uttu (大人になって)	NR	teibig ^w a
親子(おやこ)	ojakk ^w a	ujakk ^w a	ujakk ^w a	ujakk ^w a
孫(まご)	maga	mmaga	mmaga	mmaga
お父さん	oto:	oto:	oto:	eu:
お母さん	aɱma:	amma:	amma:	amma
お兄さん	jattei: / ei:za <誘>	jattei:	jattei: / ni:ni:	jattei: <古> / ni:ni: <新>
お姉さん	ɱmi:	mmi:	mmi: / ne:ne:	mmi: <古> / ne:ne: <新>
弟(おとうと)	uttu	uttu	uttu	uttu
妹(いもうと)	uttu	uttu	uttu / unai	uttu
兄弟(きょうだい)	eo:re:	teo:de:	teo:de:	teo:de:
お祖父さん	tamme:	tamme:	t ^ʔ amme:	ɸu: (tamme:は年配の人が使う)
お祖母さん	handzi:	hancei:	oba:	ha:
夫(おっと)	utu	utu	utu	utu
妻(つま)	tuzi	tuzi	tuzi	tuzi

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
夫婦(ふうふ)	mi:tunra:~ mi:tunda:	mi:tunda	mitunda	mi:tunda
叔父(おじ)	untsu: / uzasa: <新 > (昔は言わなかつた)	uzasa:	uzasa: / uzasa:	uzasa:
叔母(おば)	ubama:	ubama:	ubama	ubama:
甥(おい)	mi:k ^w a / bikigami:k ^w a	mi:k ^w a	oi	mi:kk ^w a
姪(めい)	winagumi:k ^w a (mi:k ^w a でも良い)	mi:k ^w a	mei	mi:kk ^w a
従兄弟(いとこ)	iteuku	iteiku	iteuku	iteuku
婿(むこ)	mu:ku	mu:ku	mu:ku	mu:ku
家族(かぞく)	ja:nindzu	ja:nindzu	ja:ninzu	ja:nindzu
親戚(しんせき)	we:kantsa: ゆっくり は we:kantsa:)	we:kantsa:	we:k ^ʔ a	we:kantea~ we:kanutea
男(おとこ)	bikiga (b の閉鎖弱い)	ikiga	ik ^ʔ iga	wikiga
女(おんな)	inagu	inagu	inagu	inagu
目上(の男・女)	ei:zakata	ei:dzakata	ei:za~ei:za	ei:zakata (目上, 年上, 女の人も可) / ei:zakatanu tea (複数)
目下(の男・女)	uttugata	uttuntea:~uttuntsa:	uttu	uttunutea
青年(せいねん)	ni:ee:ta:~ni:se:ta / ni:se:	nicee:~nise:	ninse:	ni:ee:ta
大工(だいく)	ee:ku~se:ku	ee:ku	se:ku	ee:ku
友だち	rueintsa:~ dueintsa:	duei / dueintea: (複数)	duei	duei
娘(むすめ)	inaguŋk ^w a	inaguwarabi	mijarabi	mijarabi
私(わたし)	wa: / wane (私は) / wa:ruei (私の友達) / waga (私が)	wan	wan	wan
私たち inclusiv,exclusive	watta:	watta	watta:	watta:
あなた	undzu	ja:ru (目下) / ja: (目下) / undzu (目上)	unzu	unzu
あなたたち	uŋdzuntsa:	jetta: (目下) / jatta: (目下) / undzuntea: (目上)	unzunutea:	unzunutea
お前(おまえ)	ja: / jaru	ja:	ja:	ja:

~は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、()は意味や用法の説明、. は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
お前たち	jatta: / utta:	jatta:	itta:	jatta:
皆(みな)	urusa	m:na	nna	n:na
老人(ろうじん)	tusu ^w e:~tusu ^w i:	tuciwi	tusui	tusujuinu tea~ tusuinu tea
お祝い(おいわい)	su:zi	ujuje:	su:zi	su:zi
結婚(けっこん)	ni:bitei	ni:bitei	ni:bitei	ni:bitei
結納(ゆいのう)	NR	indzo: (結納金)	sakimui	sakimui
喧嘩(けんか)	o:e:	o:e:	o:je:	o:e:
相互扶助(農作業など)	i:ma:ru / azabu (集落の共同作業)	i:ma:ru(:)	juima:ru	i:ma:ru (交互にお互いを手伝う) / su:ndzi (木を刈り取るなど総出でする仕事の手伝い)
相撲(すもう)	eima	eima	eima	eima
一つ	ti:tei	ti:tei	ti:tei	ti:tei
二つ	ta:tei	ta:tei	ta:tei	ta:tei
三つ	mi:tei	mi:tei	mi:tei	mi:tei
四つ	ju:tei	ju:tei	ju:tei	ju:tei
五つ	iteitei	iteitei	iteitei	iteitei
六つ	mu:tei	mu:tei	mu:tei	mu:tei
七つ	nanatei	nanatei	nanatei	nanatei
八つ	ja:tei	ja:tei	ja:tei	ja:tei
九つ	kukunutei <話者A> / kunutei <話者B>	kukunutei	kukunutei	kukunutei
十(とお)	tu:	tu:	tu:	tu:
一人	tsui	tsui	teui	teui
二人	tai	tai	tai	tai
三人	mittsai~mitteai / mittai	mitteai	mitteai	mitteai
四人	juttai	juttai	juttai	juttai
五人	gonin~gunin / iteitai <話者B 希>	gunin	gunin	gunin
六人	rokunin / muttai	rukunin	rukunin	rukunin
七人	eiteinin / nanatai <話者B 希>	eiteinin	eiteinin	eiteinin
八人	hateinin / jattai (殆ど使わない)	hateinin	hateinin	hateinin
九人	kunin	kunin	kunin	kunin
十人	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
いくら	teassa	tsassaga	teassa	teassa ga (いくらか)
いつ	itei	itei	itei	itei / nandutei (何時)
だれ	taruga	taru ga	taru	t'a:ga / taruga
どこ	ma:kara / ma:nu	ma: ga	ama	ma:ga
どれ	NR	nu: ga	nu:	nu:ga
なぜ	NR	nu ga	nu:nteï	ŋga / nu:teantei
なに	nu:ga (何か) / nu:	nu: ga (何か)	nu:ga (何か) / nu:	nu:ga (何か)
いくつ	ikutei	ikutei ga	ikutei	ikutei
これ	kuri	kuri	kuri	kuri
それ	ure	kuri / uri (相手のところにあるものを指す)	kuri	ari / uri (相手のところにあるものに対する意識で使うことも)
あれ	ari~are	ari	ari	ari
ここ	kuma~kuma:	kuma	kuma	kuma
そこ	uma	uma	kuma	mma
あそこ	ama	ama	ama	ama
物(もの)	mono~munu	mun	mun	mun
色(いろ)	iru	iru	iru	iru
音(おと)	naimuŋ / utu	utu	utu	utu
夢(ゆめ)	imi	imi	imi	imi
技・仕事(わざ・しごと)	eigutu	NR	waza	waza / eigutu
鬼(おに)	NR	uni	uni	uni
心(こころ)	kukuru / teimu	kukuru (teimugukuru のように使うのが一般的)	kukuru	teimu / teimukukuru ~teimugukuru
情け(なさけ)	nasaki	nasaki	nasaki	nasaki
言葉(ことば)	kutuba	kutuba	kutuba	kutuba
歌(うた)	uta	uta	uta	uta
踊り(おどり)	urui	udui	udui	urui
鼓(つづみ)	te:ku	te:ku	te:ku / p ² araŋku:	te:ku / teizimi
宝(たから)	takaramun	takaramun	takara	takara
型(かた)	kata	kata	kata	kata
形(かたち)	katatei	katatei	katatei	katatei
休息(きゅうそく)	jukui / kueijukui (仕事が終わった後)	kueijukui (2・3 日働いたあと休み) / jukui (一般的なお休み)	juku / jukui	nakajukui (仕事の途中の休憩) / kueijukui (仕事が終わった後の休憩)

～は発音が揺れていること、/ は複数の語形が回答された場合、() は意味や用法の説明、. は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
魂(たましい)	tamaei (多) / mabui	tamaei nugitan (び つくりした, 魂が 抜けた) / mabui kumi (抜けた魂を 込めること)	mabui	tamaei / mabui (tamaei nugitan より mabui nugitan のほ うがびつくり度が大き い)
刺青(いれずみ)	hadzitei	hazitei	hazitei	hazitei
真似(まね)	me:bi	ne:bi	ne:bi	ne:bi
嘘(うそ)	jukueimuni:	jukuei	jukutei	jukuei
小さい	guna:	guma:	gunasan	guma: / gunahan
大きい	magi:	magi:	magisan	magi:
低い	çikug ^w a: / çikusan	ku:san	çikusan	çikuhan / gunahan
短い	intsa: / intsasan	intsasan	inteasan	inteahan
丸い	maru	maru(:)	maru:	maru:
暖かい	nukusa / nukusan	nukusan	nukusan	φumisan (暑い, 蒸し 暑い) / burijun (蒸れ る) / nukuhan (暖か い)
寒い	çi:sa	çi:san	çi:san	çi:san
冷たい	çidzursa / çidzurasanu / çidzurasan	çizurusan~ çizurasan	çizurasan~ çizurasan	çizurasan
かゆい	^w igo:san	ŋgo:san	igo:san	ŋgo:han
青い	o:ru:	o:ru:	o:ru: / o:san	o:ru:
美しい	tsurasa / teurasan	tsurasan~teurasan	teurasan	teurahan
嬉しい	^w i:rukisa~ ^w iruki:sa	ussan	NR	umusan

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NR は「語形なし」。

久米島方言 基礎語彙集 (かな)

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
頭(あたま)	ちぶる	ちんぶる	ちんぶる / かま ち (頭が固いな どの時に使う)	ちんぶる (でいき やー「頭がいい 人」)
髪の毛	かーらぢ	かーらぢ	かーらぢ	かーらぢ～かーら ぎー
旋毛(つむじ)	ちぢ	まち	まち	まち [たーちまち やー (2つつむじ の人)]
雲脂(ふけ)	ひんぐ	いりち (うろこと同じ)	あくみ	ふき / いりち
白髪(しらが)	しらぎ	しらぎ	しらぎ	しらぎ
目(め)	みんなま / みー	みー	みー	みー
眉(まゆ)	まゆー	まゆ	まゆ	まーゆ / みーぬ まーゆ
額(ひたい)	ひちえー	ひちえー	ひちえー	ひちえー
鼻(はな)	はな	はな	はな	はな
鼻血(はなぢ)	はなぢ	はなぢ	はなぢー	はなぢー
耳(みみ)	みみ	みみ	みみ	みみ
口(くち)	くち	くち	くち	くち
唇(くちびる)	くちびる	わーしば	くちびる	くちびる / わーく ちびる (上唇) / ち ゃくちびる (下唇)
舌(した)	しば	しば	すば	すば
歯(は)	はー	はー	はー	はー
歯茎(はぐき)	はしし	はしし	はぐち	はぐち
口蓋(あご)	うとうげー (あご先) / かくぢ (えら, お とがい)	かくぢ (横) / うとうげー (先)	うとうげー / あ ご	かくぢ (顎の両端) / うとうげー (顎の 先端)
髭(ひげ)	ひぢ	ひぢ (ヒゲは わーひい ぢ)	ひぢ	ひぢ
毛(け)	きー	きー	きー	きー
面(かお)	ちら	ちら	ちら	ちら
首(くび)	くび	くび (「のど」は「ぬで いー」)	くび (「のど」は 「ぬりー」)	くび (「のど」は「ぬ りー」)
肩(かた)	かた	かた	かた	かた
胸(むね)	んにばい	んに (胸のあたり全体 は んにばい)	んに	んにばい / んに
肋骨(あばらぼ ね)	そーき	そーきぶに～そーきぶ ーに	そーきぶに / そ ーき	そーきぶーに
乳(ち・ちち)	ちー	ちー	ちー	ちー
腹(はら)	わた / わたぶとう (お腹の大きい人)	わた	わた	わた / わたぶとう [わたぶたー「お腹 の大きい人」]

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
背中(せなか)	くしぶに	ながに	ながに〔ながにぶに (背骨)〕	くし / くしながい / ながに
脇(わき)	わち	わち	わち	わち
肝(きも)	ちむ	ちむ	ちむ	ちむ
臍(へそ)	ふす	ふす	ふす	ふす / てんぶす 〔てんぶさ (でべその人)〕
腰(こし)	がまく	くし (ウエスト がまく)	くし / がまく (ウエスト) / あぢま一ぶに～あぢま一ぶに (骨盤)	がまく [はちゃーがまく (ウエストの細い人)]
尻(しり)	ちび	ちび	ちび	ちび
肛門(こうもん)	ちびぬみー <誘>	まーい	まーい	ちび / ちびぬみー
手(て)	ていー	ていー	ていー / ていーぬひら	ていー
腕(うで)	ていー (腕・手全体)	けーな	けーな	ていー
肘(ひじ)	ひぢ	ひぢ	まがい	ひぢ
力(ちから)	NR	ぐてー	ぐてー	ぐてー [ぐてーむちゃー (力持ち)]
拳(こぶし)	NR	ちちくみ	ちちくみ	NR
筋(すじ)	NR	かぢ (腱の意)	すぢ	NR
指(ゆび)	びーび	いーび	いーび	びーび
爪(つめ)	ちみ	ちみ	ちみ	ちみ
足(あし)	ひしゃ～ひさ (足全体)	ひさ (足・脚全体)	ひさ (足全体)	ひさ (全体)
腿(もも)	むむ	むむ	むむ	むむ
股(また)	また	また	またばし	また
膝(ひざ)	ちんし / まがい	ちんし	ちんし	ちんし
踝(くるぶし)	くるぶし	NR	ぐふし (「足首」は「ひさくび」)	NR
脛(すね)	しに	めーぐんだ	からしに / しに	しに
ふくらはぎ	くんら	くんだ	くんだ	くんら [くんらあがやー (こぶら返り)]
踵(かかと)	かる	ある	ある	かかとう / ある
体(からだ)	るー	るー	どうー～るー	るー
背丈(せたけ)	たき	たき	ふる	たき
骨(ほね)	ふーに	ふーに	ふーに	ふーに

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
皮(かわ)	かー	かー	かー	かー
ほくろ	あざ	あざ	あざ	あざ～あざ
涙(なみだ)	みんなら	なら	なら	なら / みーなら
声(こえ)	くういー	くういー	くういー	くういー
息(いき)	いーち	いーち	いーち	いーち [いーちふ つん (ハーハーす る)]
咳(せき)	さっくい	さっくい	さっくい～さくい	さくい [さこーび (しやっくりする)]
唾(つば)	とうっぺー	とうっぺー	とうんぺー	とうんぺー
欠伸(あくび)	あくび	あくび	あくび	あくび
涎(よだれ)	ゆらい	ゆだい	ゆらい	ゆらい
屁(へ)	ひー	ひー	ひー	ひー
糞(くそ)	くす	くす	くす	くす
尿(にょう)	しべい～すべい	しーばい	すばい	すばい
おでき	ちかみ (大きいもの) / にぶたー (小さいもの)	ちかみ	ちんかみ / にーぶたー	ちんかみ / にぶとう
たんこぶ	くぶ	がなー / ぐーふ	ぐーふ	がなー [がなー あがとん (たんこぶが出来た)]
汗(あせ)	あしー	あし	あし	あし [あし はゆん]
垢(あか)	ひんぐ	ひんぐ	ひんぐ	ひんぐ
怪我(けが)	きち	NR	きち	るーやまちえん (怪我をしている)
病気(びょうき)	やんめー	やみ	やろーん (病んでいる)	やんめー
血(ち)	ちー	ちー	ちー	ちー
傷(きず)	きち	きち	きち	きち
薬(くすり)	くすい	くすい	くすい / しんぢぐすい (煎じ薬)	くすい
灸(きゆう)	やっつー	やっちゅー	やっつー	やっつー [やっつー やっん (灸をすえる)]
命(いのち)	ぬち	ぬち	ぬち	ぬち
木(き)	きー	きー	きー	きー
葉(は)	きーぬはー	はー	はー / きーぬはー	(きーぬ) はー
枝(えだ)	ゆら	ゆだ	ゆら	ゆら

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
実(み)	みー	ない / みー	ない / きーぬな い	(きーぬ) みー
根(ね)	きーぬひぢ / に ー	ひぢ / にー	にー	にー
草(くさ)	くさ	くさ	くさ	くさ
花(はな)	はな	はな	はな	はな
種(たね)	さに	さに	さに	さに (たに「陰茎」)
苗(なえ)	ねー	ねー	ねー	ねー
稲(いね)	んに	んに	んに	んに
穂(ほ)	ふー	ふー	ふー	ふー
米(こめ)	くみ	くみ	くみ	くみ
粳(もみ)	むみ	むみ	むみ	むみ
麦(むぎ)	むぢ	むじ (作っていない)	むぢ	むぢ
藁(わら)	わら	わら	わら	わら
麦わら	むぢわら	NR	むぢわら	むぢわら
茅(かや)	かや	かや	かや	かや
粟(あわ)	あわ	あわ	あわ	あわ
稗(ひえ)	NR	とーじみ	とーぢみ (稗で はなくキビか)	とーぢみか
芋(いも)	んむ / たんむ (里芋より大きい)	んむ	んむ	んむ (さつまいも) / んごーらんむ (く わずいも) / たー んむ (里芋)
甘藷(さつまいも)	んむ	んむ	んむ	んむ
豆(まめ)	まみ	まみ	まーみ	まみ
胡瓜(きゅうり)	きうい	きーうい	きうい	きーうい～きーうい
蓬(よもぎ)	ふーちばー	ふーちばー	ふちばー	ふーちばー
菜(な)	なー	おーは	なー	なー
大根(だいこん)	でーくに	でーくに	でーくに	でーくに (ちれー くにー「人参」)
冬瓜(とうがん)	しぶい	しぶい	すぶい	すぶい
南瓜(かぼちゃ)	なんくわー	なんくわー	なんくわん	なんくわ
瓜(うり)	うい	うい (胡瓜のみをさす)	うい	うい
蕪(にら)	ちりびらー	ちりびら (ねぎは ちん だ)	ちるびらー～ちる びら	ちりびら～ちりびら ー
茸(きのこ)	なーば	なーば	なーば	なーば
きくらげ	みみぐい	みみぐい	NR	みみぐい
とうがらし	くそー	こーがらし	くうえーがらすい ー	くうえーがらすー ー
苦瓜(にがうり)	ごーやー	ごーや	ごーや	ごーやー
胡麻(ごま)	ぐま	ぐま	ぐま	ぐま

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
莓(いちご)	NR	はんき / いちび	いつび	いつび
ソテツ	すていち	すとうく	すーていーちゃー	ひとつく
松(まつ)	まーち	まーち	まーち	まーち
竹(たけ)	らき	だき	だき〜らき	らき
梅(うめ)	んみ	NR	んみ	んみ
桃(もも)	むむ	むむ	むむ	むむ
桑(くわ)	くわー / くわーぬきー (桑の木) / くわーぎー (桑の木)	くわーぎ	くわーぎ	くわーぎ / くわー (桑の葉)
薄(すすき)	ぐしち / ぐっちがや	ぐしち	ぐしち	ぐしち / みんざらこー (すすきの花)
ミカン	くるぶ	くるぶ	くるぶ	くるぶ
莖(くき)	NR	ぐち	ぐち	くき
あおさ	あーさ	あーさ	あーさ / ながーさ	ながーさ
モズク	すぬい	すぬい	すぬい	すぬい
藻(も)	NR	うーみぐさ	むー	うみぬくさ
糸瓜(へちま)	なべらー	なべらー〜なべらーだー	なべらー	なべらー
こずえ・砂糖黍の先端	NR	すーだ	すーら	NR
福木	ふくぢ	ふくぢ	ふくぢ	ふくぢ
あだん	あらん / あらんばー (あだんの葉)	あだん	あらんばー (アダン <small>の葉か</small>)	あらんぬ
がぢまる	がぢまる	がぢまる	がぢまる	がぢまる
びろう樹	くば	くば	くば	くば
棘(とげ)	んぢ	NR	んぢ	んぢ
烏賊(いか)	いちや	いちや	いちや	いちや / せーいちや (大きい種) / くぶしみ (甲イカ)
蛸(たこ)	たく	たく	たく	たく / くだくー (小さい蛸)
海老(えび)	いえび / たなげー / しえー〜せー (小さいエビ)	いび	いび	いび / いびがい (大きい種) / せー (ぐわー) (沼エビ)
ウニ	んなー (食べられない) / がちち (食べられる)	がちちやー〜がちち / うなー	がちち	がちち
貝(かい)	NR	んな	んな	んな (巻き貝, 二枚貝の総称)

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
亀(かめ)	かーみー	かーみー	かーみー	かーみー
蟹(かに)	がに	がに	がい	がい
魚(さかな)	いゆ	いゆ	いゆ	いゆ
鱗(うろこ)	うるち	いりち	うるく	いりち
鰻(うなぎ)	うなぢ	んなぢ	んなぢ	んなぢ / かーんなぢ (川鰻)
鯨(くじら)	ぐぢら	くぢら	くぢら (めったに見えることがない)	くぢらか
鰹(かつお)	かつー	かつー	かつー	かつー
飛魚(とびうお)	とうぶー	とうぶー	とうぶー	とうぶーいゆ
鱧(ふか)	NR		NR	NR
鮫(さめ)	NR	さば	さば	さめ か
いるか	ひーとう	ひーとう	NR (いない)	ひーとう
なまこ	NR	ちしらー	ちしらー	ちしらー
ヒトデ	NR	NR	うーみたく	ひとうで
やどかり	NR	あまんむ	あまんむ	あまんむ
牛(うし)	うし	うし	うし	うし
馬(うま)	んま	んま	んま	んま
山羊(やぎ)	へーぢャー (山羊) / うーむなー~ うーむぬ (オス)	ひーぎー	ひーぢャー / うーひーぢャー (雄山羊)	ひーぎー
豚(ぶた)	わー	わー	わー	わー
角(つの)	ちぬ	ちんの一	ちぬ	くぬ
犬(いぬ)	いぬ	いぬ	いぬ~いん	いぬ
猫(ねこ)	まやー	まやー	まやー	まやー
兎(うさぎ)	うさぎ	うさぎ	うさぎ (いない)	うさぎ
鼠(ねずみ)	えんつ	いえんつ	うえんつ	うえんつ / びーぢャー (ジャコウネズミ)
尾(お)	づー	づー	ぢゅー	づー
虫(むし)	むし	むし	むし	むし
蟻(あり)	あい	あいこー	あいこ	あいこー
蚊(か)	がぢゃん	がぢゃん	がざん	がざん
蜘蛛(くも)	くむ~くーむー	くーぶー	くーぶー	くーぶー
蜘蛛の巣	くーむーぬ しー	しー	しー / くーぶぬ しー	くぶかし
蝶々(ちょうちょ)	ちよー / へべる~ はべる (小さい蛾)	はべーるー	はべーら	はべーる
カタツムリ	ちんなん	ちんなん	ちんなん	ちんなん

~は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
蛙(かえる)	あたびー	あたびくー	あたびちやー / あたびー	あたびー / あた びちやー
蜂(はち)	はち	はちやー	はちやー	はち
蠅(はえ)	へー	へー	へー	へー
蛆(うじ)	うち	うちむし	うちむし	うち
蚕(のみ)	ぬーみ	ぬーみ	ぬーみ	ぬーみ
蚯蚓(みみず)	みみぢ	みみぢ	みみぢ	みみぢ
虱(しらみ)	しらみ	しらみ	しらみ	しらみ / ぢさし (シラミの卵)
百足(むかで)	むかぢ	ぶかぢ	むかぢ	んかぢ
蚕(かいこ)	NR	むしんぐわー	かいこ / むしぐ わ	むしぐわー
かまきり	いさとうー	あさうんべー	あーさーとうー	いさとうー
蜻蛉(とんぼ)	まーれー	あけづ	あーけづ	あつけーずー
ばった	ばった	まーちえー	まーぜー	まーぜー
蟬(せみ)	さんさん	さんさん	まーさー	まーさー (大きい) / あささー (茶色 の)
鳥(とり)	とうい	とうい	とうい	とうい
鶏(にわとり)	とうい	とうい	とうい	とうい
とさか	かがみ	かんづ	かんづ	NR
雀(すずめ)	くらー	くらー	くらー	くらー
鳩(はと)	ほーとう	ふーとう	ほーとう	ほーとう
烏(からす)	がらしー～がらさ ー	がらさー	がらさー	がらさー
鶉(うずら)	うづら	NR	うづらー	うちらー(ぐわー)
鷹(たか)	たか	たか	たか	たか
卵(たまご)	くーが	くーが	くーが	くーが
巢(す)	とういぬしー / し ー	しー	しー	しー
羽(はね)	はに	はに	はに	はに / はにげー
空(そら)	ていん	ていん	ていん	ていんとー～てい んと / ていん
日(ひ)	ていん	ていーら	ひ	ひー
太陽(たいよう)	ていーら	ていーら	ていーだ	ていーら～ていー だ
光(ひかり)	あかがい	ひかい	あかがい	ひかり～ひかい
蔭(かげ)	かーぎ	かたか (木陰などのか げ)	かーぎ	かーぎ
まぶしい	みーちらさ	みーちゅらさん	みちやらさん～ みちやらさぬ	みんちやるはん～ みんちらはん

〔 〕は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
火(ひ)	ひー	ひー	ひー	ひー
水(みず)	みじ	みじ	みじ	みじ
山(やま)	やま	やま	やま	やま
川(かわ)	かーら / んじゅ (小さいもの)	かーら	かー	かーら
橋(はし)	はし	はし	はし	はし
丘(おか)	むい	むい	むい	むい
陸地(りくち)	あぎ	あぎ	-	あぎ / しま
土・地面	じー / みちや (土)	みちや / ぢー	ぢー	んちや / ぢー
星(ほし)	ふし / ほし	ふし	ふし	ふし
月(つき)	ちっちゅー / ちっ つー	ちち	ちち	ちちゅー
雲(くも)	くむ	くむ	くむ	くむ
霧(きり)	きり	きり	ちり	きり
露(つゆ)	ちゆ	ちゆ	ちゆ	ちゆ
雨(あめ)	あみ～あめ	あみ	あみ	あみ
風(かぜ)	かじ	かじ	かじ	かじ
竜巻(たつまき)	かじまーい	かじまち	かじまち	るー / どうー
稲光(いなびかり)	ひるい～ひどぅい	いなびかり～いなびか い	-	ひゆるい
地震(じしん)	ねー	ねー	じしん	ねー [ねー ふゆ ん (地震が起き る)]
虹(にじ)	にじ	にじ	にじ	こんなじ
明かり	あかがい	あかがい	あかがい	あかがい
雷(かみなり)	かんない	かんない	かんない	かんない
潮(しお)	すー	すー / うす	すー	すー
煙(けむり)	きぶし	きぶし	きぶし	きぶし
浅瀬(あさせ)	あっさ	いのー	いのー	NR
遠浅(とおあさ)	あっさ (浅い)	いのー	いのー	NR
洞窟(どうくつ)	がま	がま	がま	がま
海(うみ)	うーみ	うーみ	うーみ	うーみ
水溜り	みじたまい	みじたまい	みじたまい	みじたまい
港(みなと)	んなとう	んなとう～んなとう	んなとう	んなとう
波(なみ)	なみ	なみ	なみ	なみ
泡(あわ)	あわ	あー	あー	あー
島(しま)	しま	しま	しま	しま
浜(はま)	はーま	はーま	はーま	はま
珊瑚礁	しー	ひし	-	NR
砂(すな)	しな	しな	しな	しな

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
石(いし)	いし / まーいさ (丸くなったもの)	いし	いし	いし
溝(みぞ)	んず	んず	んず	んづ
田(た)	たー	たー	たー	たー
畦道(田の)	あぶし	あぶし	あぶし / あぶし みち	あぶし
畑(はたけ)	はたき / はる	はたき	はたき	はたき / はる (野 原, 畑, 田, すべ て全体的にとらえ た意味になる)
野(の)	NR	はる	もー	はる
道(みち)	みち	みち / すーじんぐわ (小道)	みち	みち / すーじ (小 道)
崖(がけ)	ちりとう	ちりばんた	はんた	ちりとう / ちりばん た
坂(さか)	さか	さか	ひら	さか
頂上(ちょうじょう)	ちじ	ちじ	ちじ	ちじ
東(ひがし)	あがり	あがり	あがり	あがり
東風	あがりかじ	くちかじ	くちかじ	あがりかじ / くち かじ
北(きた)	にし	にし	にし	にし
北風	にしかじ	にしかじ	にしかじ	にしかじ
西(にし)	いり	いり	いり	いり
西風	にしかじ (いりか じとは言わず)	いりかじ	いりかじ	いりかじ
南(みなみ)	へー	へー	へー	へー
南風	へーぬかじ	へーかじ	へーぬかじ	へーぬかじ / へ ーかじ
右(みぎ)	にぢり	にじり / にぎり	にじり	にじり
左(ひだり)	ひざい	ひざい	ひざい～ひじゃ い	ひじやい
前(まえ)	めー	めー	めー	めー
後ろ(うしろ)	くし / あーとう	くし	くし	くし / あとう / あ ーとう
跡(あと)	あーとう / 「ふるや しち」とも言う (建 物はない)	NR	あーとう	あーとう～あとう
横(よこ)	よく	ゆく	ゆく	ゆく / すば
上(うえ)	うえー	うい～うえ (前よりの e)	ういー	ういー
下(した)	しちや	しちや	しちや	ちや
中(なか)	なーか	なーか	なーか	なーか
底(そこ)	すく	すく	しち	すく

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
内(うち)	うち	うち	うち	うち
外(そと)	ほか	ふか	ふか	ふか
奥(おく)	うく / うら (家の奥座敷)	うく	うく	うく
角(かど)	かる	しみ	かどう	かる～かどう
傍(そば)	そば～すば	とくない (建物) / すば (人)	すば	すば
隣(となり)	とない	とくない	とくない	けーとくない / とくない
今日(きょう)	きー	きー	きー	きー
昨日(きのう)	ちぬー	ちぬー	きぬー	きぬー
一昨日(おととい)	うっていー	うっていー	うとうとい	うっていー
明日(あした)	あちや	あちや	あつあ	あちや
明後日(あさって)	あさてい	あさってい	あさてい	あさてい～あさってい
明明後日(しあさって)	あさていぬなーちや	あちやあさてい	しーあさてい	あさていぬなーちや
今年(ことし)	くとし / くんどう	くんる <話者 A・B> / くんどう<話者 B>	くとし	くとし
去年(きょね)	くず	くじゅ <話者 A> / くず <話者 B>	くず	くず
一昨年(おとし)	みつー / みつーぬ あーてい	NR	うとうとし	みつなてい
来年(らいねん)	やーに	やーに	やーに	やーに
再来年(さらいねん)	やーに みつー	NR	NR	なーみつ
今(いま)	なま	なま	なま	なま
昔(むかし)	んかし / かーまへーく (大昔)	むかし	んかし	んかし
朝(あさ)	しとうみてい	していみてい	あさ / とうみてい	とうみてい
昼(ひる)	あさばんういー	ひる	ひる / ひるま	ひる
夕方(ゆうがた)	ゆーさんでい	ゆさんでい	ゆさんでい	ゆはんでい
夜(よる)	ゆる	ゆる	ゆる	ゆる
夜中(よなか)	ゆなか	ゆなか	ゆなか	ゆなか
暁(あかつき)	あかちち	あかちち	あかちち	あかちち
暇(ひま)	ひま	ひま	ひま	ひま
時(とき)	とうち	とうち	とうち	とうち
年(とし)	とうし	とうし	とうし	とうし
暦(こよみ)	くいみ	くゆみ	くいみ	くゆみ
うりずん(3～4月)	NR	はるぬしち	うりじん	うりじん～うりじむ

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
着物(きもの)	ちぬ	ちん (和服) / ちはら (服)	ちなら (服の総称) ちぬ (和服)	ちぬ
襟(えり)	いえり	ちんぬくび	くび / いえり	いえり
袖(そで)	すでい	すり	すり	すり
裾(すそ)	すす	すす	すす	すす
帯(おび)	うーび	うーび / く うーびんぐわー (小帯) / ぐま うーびんぐわー (細帯)	うーび	うーび
紐(ひも)	ひも <新> / ういーるー <古>	ひむ	ひむ	ひも
足袋(たび)	たーび	たーび	たーび	たーび
袴(はかま)	はかま (羽織ははうい)	はかま (砂糖黍の下の葉を はーがらー という)	はかま	はかま
下駄(げた)	あしじゃ	あしじゃ	あしじゃ～あしぢや	あしざ～あしじゃ
草履(ぞうり)	さば	さば	さば	さば / わらぐち (草鞋)
緒(お)	うー	うー	はなふー～はなうー	うー
布(ぬの)	ぬぬ	ぬぬ	ぬぬ	ぬぬ
表(おもて)	NR	うむてい	うむてい	うむてい
裏(うら)	うら	うら	うら	うら
綾,模様(あや)	あや	あや	あや	むゆー
手ぬぐい	ていさーじ / さーじ (前者がふつう)	ていーさーぢ / さーぢ	さーじ / ていーさーじ	さーじ
蓑(みの)	んぬ	んぬ	んぬ (くばの葉で作った)	んぬ
湯(ゆ)	ゆー	ゆー	ゆー	ゆー
茶(ちゃ)	ちゃー	ちゃー	ちゃー	つあー～ちゃー
飯(めし)	むぬ	めー	めー	むぬ
粥(かゆ)	うけーめー	うけーめー	うけーめー	うけーめー
餅(もち)	むち～むーちー (オニモチ)	むっちー	むちー	むちー
雑炊(ぞうすい)	みっしるめー ～ みししるめー / ずーしーめー (水分が少ない)	ぢゅーしー / ぢゅーしーめー / みししるめー / ぼろぼろぢゅーしー / ぞろぞろぢゅーしー (水っぽい雑炊)	ずーし / ぼろぼろ ずーしー (柔らかいもの) / みしみるめー (柔らかいもの)	づーしー / ぢゅーしーめー / あちびー (水分が多いもの) / みしじめー
味噌(みそ)	みす	みす	みす	みす
汁(しる)	しる / うしる	しる	しる	しる

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
塩(しお)	まーす	まーす	まーす	まーす～まーす
塩辛い	しぶからさん / すーずーさん	からさぬ	すぶからさん / しぶからさん	すぶからはん
砂糖(さとう)	さたー～さーたー	さとー	さたー～さーたー	さたー
砂糖きび	うーじ	うち	うーじ	うじ
粕(かす)	かし	かしー	うじがら (さとうきびのしぼりかす)	かし / むるん (もろみ)
酒(さけ)	さき	さき	さき	さき
黴(かび)	こーぢ	こーぢ	くるべー (黴) / こーぢ (麴)	こーぢ [こーぢはるん (カビが付く)]
麴(こうじ)	こーじ	くーぢ	こーじ	こーじ
粒(つぶ)	ちぶ / めーちじ (米粒)	ちぢ	ちじ / ちゅちじ (一粒)	つしじ (一粒)
糠(ぬか)	ぬか	ぬか	ぬか	ぬか
粉(こ・こな)	くー	くー	くな / くー	くー
にんにく	ひる	ひる	ひる	ひる
芽(め)	みずり	みー / みどりの (みーより大きい)	わかめ / しんみ	みずり
クワズイモ	うーいーごんざーさ	やまむぢ	NR	んごーらんむ
肉(にく)	しし	しし	しし	しし
果物(くだもの)	ないむん	きーぬない / ないむん	ないむん (木になるもの)	ない
油(あぶら)	あんだ	あんだ～あんら	あんだ～あんら	あんら
天ぷら	あんだーぎー	あんだーぎー	あんだーぎー～あんらーぎー	あんらーぎー
灰(はい)	へー (蠅のこともへー)	へー	へー	へー
匂い(におい)	かざ	かざ	かざ	かざ
味(あじ)	あぢ	あじ	あじ	あじ
料理(りょうり)	むぬ / ちよーき (ごちそう)	くわつちー (ごちそう)	くわつち (ごちそう)	むぬ
ご飯(ごはん)	めー / はんめー	むぬ	むぬ	めー
食事(しょくじ)	むぬ	むぬ	むぬ	むぬ
朝食(あさめし)	しとうみていむん	していみていむん	みーくはやー～みーくわはやー	みーくわはやー / あさばん
昼食(ひるめし)	あさばん	あさばん / ひるめー (3時頃の)	あさばん (3時から5時ごろ食べるひるめー)	なーしび
夕食(ゆうめし)	ゆーばん	ゆーばん	ゆーばん	ゆーばん
膳(ぜん)	ちん / うぢん	うぢん	うじん / じん	ぢぬ

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
食べ物(たべもの)	かみむぬ	くうえーむん	かみむん <誘>	かみむん
家(いえ)	やー	やー (やー「お前」)	やー	やー
母屋(おもや)	うふや	しめーか (あさぎ / めーぬやー「倉庫」)	NR	NR (「離れ」は「めーぬやー」)
台所	とんぐわ	しむ / とんぐわ (古)	とんぐわ	とんぐわ
天井	ていんちよー	ていんちよー	ていんちよー	ていんちよー
床(ゆか)	ゆか	ゆか	ゆか	ゆか
棚(たな)	たな	たな / とんだな (戸棚)	たな	たな
竈(かまど)	かま	かま	かま	かまる
いろり	ぢーる	NR	NR	ぢーる
戸(と)	はしり	はしる	はしる	はしり
板(いた)	いた	いた	いた	いた
節(ふし)	ふし	ふし	ふし	ふし
穴(あな)	あな / みー	あな / みー	あな	あな
柱(はしら)	はーや	はーや	はーや	はーや
釘(くぎ)	くじ	くじ	くじ	くじ
瓦(かわら)	かーら	かーら	かーら	かーら
便所(べんじょ)	ふーる	ふーる	ふーる	ふーる
垣(かき)	かち	かち	かくい	かち
庭(にわ)	まー / ふかぬまー	やーぬまー	やーぬ まー	まー
井戸(いど)	かー	かー	かー	かー
墓(はか)	はか	はか / はかめー	はか	はか
煤(すす)	しーし	ひんぐ (鍋の) / しーし (きせるのやにも)	しーし / なーびぬ ひんぐ	しーし
埃(ほこり)	ふくい	ふくい	ふくい	ふくい
門(もん)	ぞー~ぢよー	ぞー	じよー	ぢよー
ひんぷん(門のところにある目隠し用垣根)	ひんぷん	ちりぶ	そーじゃち~そーぢゃち	ちーぶ
縄(なわ)	なー	ちな / なー	ちな	なー
綱(つな)	ちな	ちな	ちな	ちな
鎖(くさり)	くさり	くさり	NR	くさり
袋(ふくろ)	ふくる~ふつく	ふくる	ふつく	ふつく
荷(に)	にー	にーむち / にー	にー	にー
皿(さら)	さら	しえーざら	しえーざら	せーざら
椀(わん)	つおーぬ~ちよーぬ	まかい / しるまかい (汁の) / めーまかい (ご飯の)	まかい (汁用)	まかい

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
茶碗(ちゃわん)	ちゃわん	ちゃわん (湯飲み茶碗)	まかい (ごはん用) / ちゃわん (湯のみ)	ちゃわん
壺(つぼ)	NR	かーみんぐわー	かーみ / みみがーみ	NR
鉢(はち)	はーち	はーち	NR	はーち
瓶(かめ)	かーみ	かーみ	かーみ	かーみ
水瓶(みずがめ)	みじがーみ	(みじ)はんるーがーみ	みじがーみ	みじがーみ
桶(おけ)	うーき	うーき	うーき	うーき
水桶(みずおけ)	みじうーき	たーぐ	NR	みじうーき
盥(たらい)	たれー	たーれー (洗濯用) / びんだれー (洗顔用)	たれー / びんだれー	たれー
ひしゃく	にーぶ	にーぶ	にーぶ	にーぶ
柄(え)	うーい	ていー (ふー「やかんの口」)	ていー	うーい
釜(かま)	はがま	はがま	はがま	はがま
しゃもじ	いーじえー	みしげー (なびげー「おたま」)	みしげー	いーじえー
急須(きゅうす)	つーかー～ちゅーかー	ちゅーかー / ちゃびん	ちゅーか	ちゅーかー
箸(はし)	うめーし	うめーし	めーし	はーし
包丁(ほうちょう)	ほーちゃー	ほーちゃー	ほーちゃ	かたな
小刀(こがたな)	しーぐ	しーぐ	こがたな / しーぐ	しーぐ
まな板(いた)	まるつあ～まるちや	まるちや	まるちや	まるちや～まるつあ
臼(うす)	うーし	うーし	うーし	うーし
杵(きね)	あじむ / ゆんぐうい	ゆんぐい (横杵) / あぢむ (縦杵)	あじむ / ゆんぐい	あじむ (まっすぐの棒状のもの) / ゆんぐうい (ハンマー状のもの)
斧(おの)	うーぬ / ゆーち	ゆーち (小) / うーぬ (大)	うーぬ	うーぬ / ゆーち (手斧, 小さい斧)
鋸(のこ)	ぬくじり	ぬくじり	ぬくじり	ぬくじり
鑿(のみ)	ぬみ	ぬみ	ぬーみ	ぬみ
錐(きり)	いり	いり	いーり	いり
箱(はこ)	はく	はく	はく	はく
筆(ふで)	ふでい	ふり	ふり	ふり
紙(かみ)	かび	かび	かび	かび
鋏(はさみ)	はさん	はさん	はさん	はさみ
印(しるし)	しるし	ぢるし	しるし	しるし
漆(うるし)	(うるし)(標準語?)	NR	NR	うるし

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、
 。は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
鏡(かがみ)	かがん	かがん	かがん	かがみ
櫛(くし)	さばち / くし (梳き櫛 / 風取り用)	さばち / くし (目が細かい)	さばち / くし (目が細かい)	さばち
布団(ふとん)	うーる <古> / ふとん <新>	ふとん / うーる	うーる	うーる
枕(まくら)	まつくわ	まつくわ	まつくわ	まつくわ
箒(ほうき)	ほーち	ほーち	ほーち	ほーち
竿(さお)	そー	そー	そー	そー
杖(つえ)	ぐーさん	ぐーさん	ぐさん〜ぐさぬ	ぐさぬ
笠・傘(かさ)	かさ / くばがさ	かさ (笠) / くばがさ (くば笠) / だんがさ (大きい傘) / あまがさ (雨傘)	くばがさ (頭にかぶる) / だんがさ ~らんがさ (さす傘)	かさ / くばがさ (被る傘)
針(はり)	はーい	はーい	はーい	はーい
糸(いと)	いーつー〜いーちゅー	いーつー	いちゅー	いちゅー
煙管(きせる)	ちしり	ちしり	ちしり	ちしり
金(かね)(金属・お金)	かに (金属, 鐘) / ちん (お金)	ちん	ぢに〜ぢん	かに (金属・鐘) / ぢに (お金)
三味線(しゃみせん)	さんしん	さんしん	さんしん	さんしん
船(ふね)	ふに	ふに	ふに	ふに
帆(ほ)	ふー	ふー	ふー	ふー
櫂(舟のカイ)	えーく〜いえーく	いえーく	いえーく	うえーく
網(あみ)(魚を獲るあみ)	あみ	たぶ (柄が付いている)	あみ	あみ / さり
槍(やり)	とうざ	やり (鉋)	やい	うじむ (先が曲がった蛸をとる道具) / とうざ (魚をとる鉋)
鍬(くわ)	くうえー	とうんぐうえー	とうんぐうえー	くうえー
鋤(牛にひかすすき)	すき / ういざい (耕す道具)	すき / まーが (平坦にするもの)	すき	すき
鎌(かま)	えれな	いねーら	いれーら	いれーら
ござ	にくぶく (干すのに使う) / くむ	かばー	くむ / にくぶく	くむ
篋(へら)	ひーら	へーら	へーら	へーら
箆(ざる)	そーき (粃を入れる) / ばーき (芋を洗う)	そーき (箕) / ばーき (頭に載せる)	そーき (目が細かい) / ばーき (目が荒い, 大)	そーき (大きい, 粃殻を入れる) / ばーき (芋を洗う)
籠(かご)	かご (ていーるはざるの一種)	ていーる (背負う)	ていーるん〜ていーる	ていーる

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
桶座(頭上運搬用)	かぶしり	がんしなー	がんしなー (わらで作った)	かぶしな
モッコ(運搬用, 馬に乗せる)	おーだー	おーらー	おーら	おーらー
篩(ふるい)	ゆい / ふい / みーぞーきー	ゆい (目が荒い) / シーのー (目が細かい)	シーのー	ゆい
俵(たわら)	たーら	たーら	たーらー	たーら
筵(むしろ)	むーす	むしる	むーす	むーす
薪(たきぎ)	たんむぬ〜たんむん	たむん <話者 A> / たんむん <話者 B>	たむん	たむぬ
かんざし	ぢーふあー〜ぢーうわー	ぢーふあー	じーはー	ぢーはー
人(ひと)	つ〜ちゆ	ちゆ〜つ	ちゆ	ちゆ
親(おや)	うや	うや	うや	うや
子(こ)	くわー	くわ	くわ	くわー
子供(こども)	わらびんちゃー〜わらびんつあー	わらび / わらばー (軽視) / わらびんちゃー (複数)	わらび	わらびんちゃ (複数)
長男(ちやうなん)	ちやくし	ちやくし	ちやくし	ちやくし
二男(じなん)	ぢなん	ぢなん	じなん	じなん
三男(さんなん)	さんなん	さんなん	さんなん	さんなん
四男(よんなん)	ゆなん	ゆなん	ゆなん	ゆなん
五男(ごなん)	ごなん〜ぐなん	ぐなん	ぐなん	ぐなん
長女(ちやうじよ)	シーじゃ うなぐんぐわ / シーじゃみなぐんぐわ / シーじゃ / ういなぐ ういなぐんぐわ	ちやくし いなぐ / ちやくし いなぐんぐわ	NR	いなぐんぐわ (女の子の意)
二女(じじよ)	ぢじよ〜じじよ	ぢなん いなぐ / ぢなん いなぐんぐわ	NR	いなぐんぐわ (女の子の意)
三女(さんじよ)	さんじよ	さんなん いなぐ	NR	(いなぐんぐわ)
四女(よんじよ)	よんじよ	ゆなん いなぐ	NR	(いなぐんぐわ)
五女(ごじよ)	ごじよ	ぐなん いなぐ	NR	(いなぐんぐわ)
末っ子(すえっこ)	ちび / うつとうんぐわ	うつとうんぐわ (子供時代) / いちばん うつと (大人になって)	NR	ちびぐわ
親子(おやこ)	お ₂ やつくわ	うやつくわ	うやつくわ	うやつくわ
孫(まご)	まが	んまが	んまが	んまが
お父さん	おとー	おとー	おとー	しゆー
お母さん	あん ₁ まー	あんまー	あんまー	あんま
お兄さん	やっちー / シーじや <誘>	やっちー	やっちー / にー にー	やっちー <古> / にーにー <新>

〜は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、₁ は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
お姉さん	ん、みー	んみー	んみー / ねー ねー	んみ <古> / ねー ねー <新>
弟(おとうと)	うっとう	うっとう	うっとう	うっとう
妹(いもうと)	うっとう	うっとう	うっとう / うない	うっとう
兄弟(きょうだい)	しょーれー	ちよーでー	ちよーでー	ちよーでー
お祖父さん	たん、めー	たんめー	たんめー	ふー (「たんめー」 は年配の人が使う)
お祖母さん	はんぢー	はんしー	おばー	はー
夫(おっと)	うとう	うとう	うとう	うとう
妻(つま)	とうじ	とうじ	とうじ	とうじ
夫婦(ふうふ)	みーとうんらー～ みーとうんだー	みーとうんだ	みとうんだ	みーとうんだ
叔父(おじ)	うんつー / うざさ ー <新> (昔は言 わなかった)	うざさー	うざさー / うじゃ さー	うじゃさー
叔母(おば)	うばまー	うばまー	うばま	うばまー
甥(おい)	みーつくわ / びき がみーつくわ	みーつくわ	おい	みーつくわ
姪(めい)	ういなぐみーつくわ (みーつくわ でも 良い)	みーつくわ	めい	みーつくわ
従兄弟(いとこ)	いちゆく	いちく	いちゆく	いちゆく
婿(むこ)	むーく	むーく	むーく	むーく
家族(かぞく)	やーにんづ	やーにんづ	やーにんじゅ	やーにんぢゅ
親戚(しんせき)	うえーかんつあー ゆっくりはうえーか ん、つあー)	うえーかんつあー	うえーか	うえーかんぢゃ～う えーかぬぢゃ
男(おとこ)	びきが	いきが	いきが	ういきが
女(おんな)	いなぐ	いなぐ	いなぐ	いなぐ
目上(の男・女)	しーじゃかた	しーぢゃかた	しーざ～しーじゃ	しーじゃかた (目 上, 年上, 女の 人も可) / しー じゃかたぬ ぢゃ (複数)
目下(の男・女)	うっとうがた	うっとうんぢゃー～うっ とうんつあー	うっとう	うっとうぬぢゃ
青年(せいねん)	にーしえーたー～ にーせーた / に ーせー	にしえー～にせー	にんせー	にーしえーた
大工(だいく)	しえーく～せーく	しえーく	せーく	しえーく
友だち	るしんつあー～どう しんつあー	どうし / どうしんぢゃー (複数)	どうし	どうし
娘(むすめ)	いなぐん、くわ	いなぐわらび	みやらび	みやらび

〔 〕は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
私(わたし)	わー / わね (私 は) / わーるし (私 の友達) / わが (私が)	わん	わん	わん
私たち inclusiv,exclusive	わったー	わった	わったー	わったー
あなた	うんづ	やーる (目下) / やー (目下) / うんづ (目上)	うんじゅ	うんじゅ
あなたたち	うんづんつあー	いえったー (目下) / や ったー (目下) / うんづ んちやー (目上)	うんじゅぬちやー	うんじゅぬちや
お前(おまえ)	やー / やる	やー	やー	やー
お前たち	やったー / うった ー	やったー	いったー	やったー
皆(みな)	うるさ	んーな	んな	んーな
老人(ろうじん)	とうすうえー～とうす ういー	とうしうい	とうすい	とうすゆいぬ ちゃ ～とうすいぬ ちゃ
お祝い(おいわ い)	すーじ	うゆいえー	すーじ	すーじ
結婚(けっこん)	にーびち	にーびち	にーびち	にーびち
結納(ゆいのう)	NR	いんぢょー (結納金)	さきむい	さきむい
喧嘩(けんか)	おーえー	おーえー	おーいえー	おーえー
相互扶助(農作 業など)	いーまーる / あざ ぶ (集落の共同 作業)	いーまーる(ー)	ゆいまーる	いーまーる (交互 にお互いを手伝う) / すーんぢ (木を 刈り取るなど総出 でする仕事の手伝 い)
相撲(すもう)	しま	しま	しま	しま
一つ	ていーち	ていーち	ていーち	ていーち
二つ	たーち	たーち	たーち	たーち
三つ	みーち	みーち	みーち	みーち
四つ	ゆーち	ゆーち	ゆーち	ゆーち
五つ	いちち	いちち	いちち	いちち
六つ	むーち	むーち	むーち	むーち
七つ	ななち	ななち	ななち	ななち
八つ	やーち	やーち	やーち	やーち
九つ	くくぬち <話者A> / くぬち <話者B>	くくぬち	くくぬち	くくぬち
十(とお)	とうー	とうー	とうー	とうー
一人	つい	つい	ちゆい	ちゆい
二人	たい	たい	たい	たい

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、
は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
三人	みつつあい～みっ ちやい / みつたい	みっちやい	みっちやい	みっちやい
四人	ゆったい	ゆったい	ゆったい	ゆったい
五人	ごにん～ぐにん / いちたい <話者 B 希>	ぐにん	ぐにん	ぐにん
六人	ろくにん / むった い	るくにん	るくにん	るくにん
七人	しちにん / ななた い <話者B 希>	しちにん	しちにん	しちにん
八人	はちにん / やっ たい (殆ど使わな い)	はちにん	はちにん	はちにん
九人	くにん	くにん	くにん	くにん
十人	ぢゅーにん	ぢゅーにん	ぢゅーにん	ぢゅーにん
いくら	ちゃっさ	つあっさが	ちゃっさ	ちゃっさが (いく らか)
いつ	いち	いち	いち	いち / なんどうち (何時)
だれ	たるが	たる が	たる	たーが / たるが
どこ	まーから / まーぬ	まー が	あま	まーが
どれ	NR	ぬー が	ぬー	ぬーが
なぜ	NR	ぬ が	ぬーんち	んが / ぬーちゃ んち
なに	ぬーが (何か) / ぬー	ぬー が (何か)	ぬーが (何か) / ぬー	ぬーが (何か)
いくつ	いくち	いくち が	いくち	いくち
これ	くり	くり	くり	くり
それ	うれ	くり / ური (相手のと ころにあるものを指す)	くり	あり / ური (相手 のところにあるもの に対する意識で使 うことも)
あれ	あり～あれ	あり	あり	あり
ここ	くま～くまー	くま	くま	くま
そこ	うま	うま	くま	んま
あそこ	あま	あま	あま	あま
物(もの)	もの～むぬ	むん	むん	むん
色(いろ)	いる	いる	いる	いる
音(おと)	ないむん、 / うとう	うとう	うとう	うとう
夢(ゆめ)	いみ	いみ	いみ	いみ
技・仕事(わざ・し ごと)	しぐとう	NR	わざ	わざ / しぐとう

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
鬼(おに)	NR	うに	うに	うに
心(こころ)	くくる / ちむ	くくる (ちむぐくるのよう に使うのが一般的)	くくる	ちむ / ちむくくる ～ちむぐくる
情け(なさけ)	なさき	なさき	なさき	なさき
言葉(ことば)	くとうば	くとうば	くとうば	くとうば
歌(うた)	うた	うた	うた	うた
踊り(おどり)	うるい	うどうい	うどうい	うるい
鼓(つづみ)	てーく	てーく	てーく / ぱらん くー	てーく / ちじみ
宝(たから)	たからむん	たからむん	たから	たから
型(かた)	かた	かた	かた	かた
形(かたち)	かたち	かたち	かたち	かたち
休息(きゅうそく)	ゆくい / くしゆくい (仕事が終わった 後)	くしゆくい (2・3 日働い たあと休み) / ゆくい (一般的なお休み)	ゆく / ゆくい	なかゆくい (仕事 の途中の休憩) / くしゆくい (仕事が 終わった後の休 憩)
魂(たましい)	たまし (多) / まぶ い	たまし ぬぎたん (びっ くりした, 魂が抜けた) / まぶい くみ (抜けた魂 を込めること)	まぶい	たまし / まぶい (たまし ぬぎたん より まぶい ぬぎ たん のほうがびっ くり度が大きい)
刺青(いれずみ)	はぢち	はぢち	はぢち	はぢち
真似(まね)	めーび	ねーび	ねーび	ねーび
嘘(うそ)	ゆくしむにー	ゆくし	ゆくち	ゆくし
小さい	ぐなー	ぐまー	ぐなさん	ぐまー / ぐなはん
大きい	まぎー	まぎー	まぎさん	まぎー
低い	ひくぐわー / ひく さん	くーさん	ひくさん	ひくはん / ぐなほ ん
短い	いんつあー / い んつあさん	いんつあさん	いんちやさん	いんちやはん
丸い	まる	まる(一)	まるー	まるー
暖かい	ぬくさ / ぬくさん	ぬくさん	ぬくさん	ふみさん (暑い, 蒸し暑い) / ぶりゆ ん (蒸れる) / ぬく はん (暖かい)
寒い	ひーさ	ひーさん	ひーさん	ひーさん
冷たい	ひづるさ / ひづる さぬ / ひづるさん	ひづるさん～ひじゆるさ ん	ひづらさん～ひ じゅらさん	ひじゆるさん
かゆい	ういごーさん	んごーさん	いごーさん	んごーはん
青い	おーるー	おーるー	おーるー / おー さん	おーるー

～は発音の違い、/ は語形の違い、()は意味や用法の説明、 。 は母音が無声化していることを表す。

語	西銘	儀間	比嘉	真謝
美しい	つらさ / ちゅらさ ん	つらさん～ちゅらさん	ちゅらさん	ちゅらはん
嬉しい	ういーるきさ～うい るきーさ	うっさん	NR	うむさん

[] は用例、<古>は古い語形、<新>は新しい語形、<誘>は誘導で得られた語形、NRは「語形なし」。

久米島方言 文法例文集（音声記号）

01	共通語	おれは きょうは いそがしい
01	真謝	uqano: ki:ja itsunahan.
01	比嘉	wanja ki:ja iteinasan.
01	儀間	wanja {ki:ja / teu:ja} itsunasan.
01	西銘(西)	uqano: ki:ja itsunasa.
01	西銘(東)	uqanne: {teu:ja / tsu:ja} itsunasanro:.
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	真謝	ja:ga hatakikatei iki.
02	比嘉	ja:ga {hatakikatei / hatakikai} {ikiba / ike:}.
02	儀間	ja:ga {harukati / hatakekati} {ikiba / iki / ike:}.
02	西銘(西)	{jaruga / jaro: (おまえは)} hatakikati ike:.
03	共通語	うん・畑へは おれが いく。
03	真謝	n: {hatakija / hatakikatee:} uqanga iteun.
03	比嘉	un {hatakikatee: / hatakikaija} wanga {itsun / itsuha}.
03	儀間	un hatakewa wanga itsun.
03	西銘(西)	un hatakikate: uqanga itsu.
03	西銘(東)	un hatakikaija uqanga itsussa.
04	共通語	おれの 鋤は どこに ある。
04	真謝	uqa: kuqe:ja ma:ni a:ga.
04	比嘉	wa: kuqe:ja ma:katei a:ga.
04	儀間	wa: tunge:ja ma:ni a:ga.
04	西銘(西)	uqannu kuqe:ja ma:ni a:ga.
04	西銘(東)	uqannu kuqe:ja ma:kai a:ga.
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	真謝	kunu ire:raja taro:nu mun renna.
05	比嘉	kuri ire:raja taro: {munrujana / munrenna / munre:gaja}.
05	儀間	kunu ine:ra taro: {munna / mundenna}.
05	西銘(西)	kunu erenaja taro:nu mun re:gaja:.
05	西銘(東)	kunu erenaja taro: mungaja:.
06	共通語	どれが おまえの 笠だ
06	真謝	nu:ga ja:ga kasaga.
06	比嘉	nu:ga ja: kasaga.
06	儀間	nu:ga ja: munnu kasaga.
06	西銘(西)	nu:ga ja:munnu kasagaja:. (どれがおまえの笠かな。)
06	西銘(東)	{nu:nu / nu:ga} kasaga ja:mungaja:. (どの笠がおまえのものか。)
07	共通語	その 笠が おれのだ。
07	真謝	{kuri / kunu} kubagasaga uqa:mun jasa.
07	比嘉	kuri kasaga wa: munjasa.
07	儀間	un kasaja wa:mun re:ru.
07	西銘(西)	unu kasaja uqa:mungaja:.(その笠は私のものかな。)

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

07	西銘(東)	kunu kasaga uʔa:mundo:. (この笠がわたしのものだぞ。)
08	共通語	この ふろしきは おまえのか。
08	真謝	{kuri / kunu} utsukuija ja:ga munrenna.
08	比嘉	kuri utsukuija ja: munrenna.
08	儀間	unu ʔuroeikija ja: munna.
08	西銘(西)	kunu utsukuija ja:ga munro:.
09	共通語	それは おとうとの かもしれない。
09	真謝	kure: uʔa: uttunu muŋ ge:ra uʔakaran.
09	比嘉	kure: uttunu muŋge:ra wakaransa:ja:.
09	儀間	ure: uttunu munre:ga wakarando:.
09	西銘(西)	ure: uttunu munre:ru hadziro:.
09	西銘(東)	uttunu munuga jara uʔakaranro:. (おとうとのかもしれないぞ。)
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	真謝	uteina:katee: ʔunitei itsuʔijakan ʕiko:kitei itsuhe: maei jasa.
10	比嘉	uteina:kateija ʔunitei {itsuei 《ju》 kane: ~ itsuʔi 《ju》 kane:} ʕiko:kitei {itsueiru ~ itsuʔiru} maeijaru. / {itsueiga ~ itsuʔiga} maeiro:.
10	儀間	uteina:kate: ʔunisa:ni itsueijuka ʕiko:kisa:ni {itsueiru / itsuee:} maeiro:.
10	西銘(西)	{uteina:ja (は) / uteina:kate: (こは)} ʔunisa:ni itsueijoka: ʕiko:kisa:ni itsueiru maeiro:.
10	西銘(東)	uteina:kaija {ʔunisa:ni itsuei joku (で行くよりも) / ʔunijo:kane: (よりかは)} {ʕiko:kisa:ni / ʕiko:kisa:i} itsueigaru maei {ro: / do:}.
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	真謝	ʕiko:kija iteiniteini ikkuʔairu a:ru.
11	比嘉	ʕiko:ke: ittei:ni ikkairu a:ru mun.
11	儀間	ʕiko:kija iteiniteini ikkʔaieika nen mun.
11	西銘(西)	ʕiko:kija ʕittei:ni ikkuʔairu anro:.
11	西銘(東)	ʕiko:kija ʕittei:ni ikkairu anro:.
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	真謝	ʕiko:dzo: nara kunu mitei ikiba.
12	比嘉	ʕiko:zo:katee: kuri miteikara ikiba.
12	儀間	ku:ko:ne: kunu mitei tu:ti ikiba.
12	西銘(西)	ʕiko:dzo:ja kunu miteikati ikijo:.
12	西銘(東)	ʕiko:dzo:kara: kunu miteikara ikijo:.
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	真謝	miteinu mannaka attee: naran.
13	比嘉	miteinu mannaka: attee: narando:.
13	儀間	miteinu mannaka aratee: narando:.
13	西銘(西)	miteinu mannakaja aruitee: naranro:.
13	西銘(東)	miteinu mannakakaraja attee: naranro:.
14	共通語	道が 広いなあ。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

14	真謝	miteiga çiruhanuja:.
14	比嘉	antei mitei çiruha:ruja:.
14	儀間	miteiga {magisa:n ja: / çirusassa: ja:}.
14	西銘(西)	miteija çirusa:kutu. (道は広いから。)
14	西銘(東)	miteija çirusassa:ja:.(道は広いなあ。)
15	共通語	あ 雨が ふってきた。
15	真謝	a amiga φu:ti tean.
15	比嘉	a: {aminu / amiga} φu:ti tsu:sa:.
15	儀間	a: amiga φu:ti teassa.
15	西銘(西)	a: amiga φu:ti tea.
15	西銘(東)	a: amiga φu:ti teanro:.
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	真謝	iteukunu φutonja ja:nu ũa:bini φutean.
16	比嘉	itsukunu u:ruga ja:nu ũi:ni {φutee:sa / φusatto:sa}.
16	儀間	itokono φutonja ja:nu ũi:ni φuφatton.
16	西銘(西)	iteukunu {φutonja <現在> / u:ruja <古>} ja:nu ũi:ni φutsendo:.
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	真謝	kinu:ja ki:jukaŋ kadziga tsu:ha:tan.
17	比嘉	kinu:ja {ki:juka ~ ki:uka} kaziga {tsu:sa:tan / tsu:ha:tan}.
17	儀間	teinu:ja ki:ju:ka kaziga tsu:sassa.
17	西銘(西)	teinnu:ja ki:jo:ka: kadzija tsu:sa:ta:.
17	西銘(東)	teinu:ja teu:jo:ka:{kadze: / kadzija} teu:satan.
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	真謝	macei:ru: tuiga tinto: {turo:tan (飛んでいた) / turo:n (飛んだ)}.
18	比嘉	macei:ru:nu tuiga tin turo:n.
18	儀間	maceirunu tuiga tinjara turo:nre:.
18	西銘(西)	maceiru:nu tuiga tinni turo:n.
18	西銘(東)	maceiru:nu tuiga tinnikai turo:nro:.
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	真謝	{ari / anu} jamakatee: inoeieiga unteon.
19	比嘉	ari{ jamakatee: / jamakaija / jamakateija} jamacieiga unteo:ha.
19	儀間	unu jamane: inoeieiga utteanro:.
19	西銘(西)	anu jamane: inoeieiga uru φu:dzi.
19	西銘(東)	anu jamakaija inoeieiga uru φu:dzi.
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	真謝	ariga gakko: jasa. {jakuba: / jakubaja} aran.
20	比嘉	are: gakko:{do: / re:ru / ru jando: / rendo:}. jakuba: arando:.
20	儀間	are: gakko: re:ru. jakuba: arando:.
20	西銘(西)	are: gakko:ru re:ru. jakuba aranro:.
20	西銘(東)	are: gakko:ro: jakuba: aranro:.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

21	共通語	あれが 役場だ。
21	真謝	ariga jakuba jasa.
21	比嘉	arigaru jakubaro:.
21	儀間	arigaru jakuba jaru.
21	西銘(西)	are: jakuba renro:.
21	西銘(東)	are: jakubaro:.
22	共通語	あの 目の おおきい・ 色の 白い 男は だれだろう。
22	真謝	{anu / ari} mi:nu magisanu irunu eiru {ikiga: / ikigaja} tarugaja:.
22	比嘉	ari {mi:nu magisa:nu / mi:magi:nu} irunu eiruha:nu ikigaja taruga ja:.
22	儀間	anu mi:nu magisa:ru irunu eirusa:nu ikigaja taruga ja:.
22	西銘(西)	anu mi:nu magisanu irunu eirusanu ikigaja ta:gaja:.
22	西銘(東)	anu mi:nu magisae: irunu eirusaru ikigaja ta:gaja:.
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	真謝	mmagaga kudzuka to:kjo:ni un.
23	比嘉	mmagaga kuzuka to:kjo:katei un.
23	儀間	mmagaga kuzuka to:kjo:ni un.
23	西銘(西)	mmagaga kudzuka to:kjo:ni un.
23	西銘(東)	mmaganu kudzuka to:kjokkai un.
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	真謝	mmagaja itei to:kjo:kara ke:juga.
24	比嘉	mmagaja itei to:kjo:kara ke:iga.
24	儀間	mmagaja itei to:kjo:kara ke:iga.
24	西銘(西)	mmagaja itei to:kjo:kara ke:ti tsu:gaja:.
24	西銘(東)	mmagaja itei to:kjo:kara ke:iga 《ja:》 .
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	真謝	hateiguateine: ke:ti teunteon.
25	比嘉	hateigateine: ke:ti {tsunteo:sa / tsunteondo:}.
25	儀間	hateig ^w ateine: ke:ti tsu:ru hazi.
25	西銘(西)	hateigateine: ke:ti tsu:ru φu:dzi.
25	西銘(東)	hateiguateine: ke:ti tsu:ru φu:dzi.
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	真謝	amma:ja atea to:kjo:katei kuqa: mi:ga itsun.
26	比嘉	{oka:ja / anma:ja} atea to:kjo:katei k ^w a:katei itee:ga {itsundo: / itsunteondo:}.
26	儀間	{ka:teanja / anma:ja} atea to:kjo:ni k ^w akati a:iga itsundo:.
26	西銘(西)	okka:ja atea to:kjo:kati iteiga kuqa: mi:ga itsu.
26	西銘(東)	amma:ja atea to:kjo:kai kuqa: iteiga itsun.
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	真謝	o:sakakara {to:kjo:marija / to:kjo:mare:} denear:ja teassaga ja:.
27	比嘉	o:sakakara {to:kjo:marija / to:kjo:mare:} kieateinja teassaga ja:.
27	儀間	o:sakakara {to:kjo:katei / to:kjo:madi} kieateinja iteassaga ja:.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

27	西銘(西)	o:sakakara to:kjo:marinu kisateinja teanuatai kakaigaja:.
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	真謝	jozimare: jekijo:ti {matteo:ti kuri / matteo:ki}.
28	比嘉	{jozimare: / jozimarine:} jekiuti matteo:ti kuri.
28	儀間	jozimadi jekide matteo:kiba.
28	西銘(西)	jodzimarini {jekiuto:ti (で) / jekini (に)} matteo:kijo:.
28	西銘(東)	jodzimarini jekindzi mattso:kijo:.
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	真謝	gudzimare: ke:raine: naran.
29	比嘉	gozimarine: ke:ranne: {narando: / nara:çiga}.
29	儀間	jozimarine: ke:rana:ne: naraneiga.
29	西銘(西)	godzimarini ke:ranto: naran.
29	西銘(東)	godzimarini ke:ranre: naranro:.
30	共通語	次郎、この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	真謝	dziru: kunu nimutei {ja:mari / ja:mare:} katamiti ndzi kuri.
30	比嘉	dziru: kuri ni: ja:mari katamiti mutei ndzi kuri.
30	儀間	dziru: kunu ni: mutei ja:mari katamiti ndzi kuri jo:.
30	西銘(西)	dziru: kunu nimutei ja:mari katamiti ndzi kurijo:.
30	西銘(東)	dziru: kunu nimuteija ja:mari katamiti ndzi kurijo:.
31	共通語	荷物が 重かったので 二人で もった。
31	真謝	nimutee: mbuha:tagutu ttaitei muttean.
31	比嘉	ni:nu nbuhanu taiteiru mutei ndzando:.
31	儀間	nimuteiga mbusa:takutu taisa:ni mutteando:.
31	西銘(西)	nimuteiga mbusata:kutu taisa:ni muttei ndzan.
31	西銘(東)	nimuteiga mbusatakutu taisa:ni mutteanro:.
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千元で 買った。
32	真謝	{kuri / kunu} uqa:gija kunume: uteina:ndzi nisenentei ko:tan.
32	比嘉	kuri uwage: kunume: {uteina:uto:ti / uteina:ndzi} nisenentei ko:tando:.
32	儀間	kuri uwagija kunume: uteina:uto:ti {nisenensa:ni / nisenentei} ko:tando:.
32	西銘(西)	kunu uqagija kunume: uteina:to:ti nisenensa:ni ko:tan.
32	西銘(東)	kunu uqagija kunume: uteina:ndzi nisenenei ko:tanro:.
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	真謝	uteina:katee: mizirahanu kuqa:eiga an.
33	比嘉	{uteina:katee: / uteina:ne:} {mizira:hanu ~ mizirahanu} k ^w a:eiga ando:.
33	儀間	uteina:ne: mezirasa:nu k ^w a:ei:ga ando:.
33	西銘(西)	uteina:ne: midzirasanu kuqa:eiga an.
33	西銘(東)	uteina:ne: midzirasaru kuqa:eiga an.
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	真謝	mmaga: kuqa:eiga eitsun.
34	比嘉	watta nmaga: k ^w acizo:gu:ro:.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

34	儀間	mmagaja k ^w aci:ga eiteondo:.
34	西銘(西)	mmagaja kuɣa:eiga suiteon.
34	西銘(東)	mmagaja {kuɣa:eiga / kuɣa:einu} ei:teon.
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	真謝	hakunu nakani mandzu:ga ikutei anteantei umi:ga.
35	比嘉	hakunu {nakakatei / nakakai} mandzu:ga ikutei {anteantei / anditei} umi:ga.
35	儀間	hakunu nakani mandzu:ga ikutei {ateatei / atearutei} umito:ga.
35	西銘(西)	hakunu na:kani mandzu:ja ikutei attatei umuiga.
35	西銘(東)	hakunu na:kakai mandzu:ja ikutei anri umuiga.
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	真謝	mmagaja mandzu:nu ka:gatea kamin.
36	比嘉	nmaga: mandzu: ka:gatea kamiha.
36	儀間	mmaga: mandzu:nu ka:gatearu kamiru.
36	西銘(西)	mmagaja mandzu: ka:gatea: kamunro:.
36	西銘(東)	mmagaja mandzu:nu ka:gatea: kamunro:.
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とり に いった。(事実の報告/目撃過去)
37	真謝	ozi:ja tumitikara u:mikatei iɸutuiga {nzan / itsutan ro:}.
37	比嘉	odzi:ja asakara u:nikatei iju tuiga ndzan.
37	儀間	tamme:ja sutumitikara u:mikati iju tuiga {ndza / iteutan}.
37	西銘(西)	tanme:ja {eitumiti / tumiti}kara u:mikatei iju tuiga menso:tean.
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	真謝	kuma: umikatei teikasa:gutu iɸuga {ma:san / ma:han}.
38	比嘉	kuma: u:miga teikahanu ijuga ma:han.
38	儀間	kumaja u:mikati teikasa:kutu ijuga ma:san.
38	西銘(西)	kumarika:ja u:mi 《ga》 teikasa:kutu ijuja ma:san.
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	真謝	iɸjukan eieiga {takasan / takahan}.
39	比嘉	ijujukan eieigaru takaharu.
39	儀間	ijujuka eieiga takasan.
39	西銘(西)	ijujo:ka: eieija takasan.
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。
40	真謝	{wanja / wano:} takunu saeimi 《ga》 kamibusan.
40	比嘉	uɸanja takunu saeimiga kamibusan.
40	儀間	{uɸano: / uɸanja} takunu saeimi kamibusan.
40	西銘(西)	wanja takunu saeimi kamibusan.
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	真謝	ja:ja unu iɸunu na: eittsonna.
41	比嘉	ja:ja kunu ijunu na: eitteo:nna.
41	儀間	ja:ja kunu ijunu na: {eitteo:nna / eitteo:mi}.
41	西銘(西)	janja kunu ijunu na: eitteonna.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

42	共通語	これは かつおだろう。
42	真謝	ure: katsu: renro:.
42	比嘉	kure: {katsu: jae:sani / katsu:ru jaru}.
42	儀間	kure: katsu: renro.
42	西銘(西)	kure: katsu:iju {re:ro:ni / de:ro:ni}.
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	真謝	sake: itsaei tsukujuga ja:ja eittsonna.
43	比嘉	sake: iteatei tsukuiga ja:ja eitteo:e:sanna.
43	儀間	{sake: / sakija} iteatei teukuiga ja:ro: eitteonna.
43	西銘(西)	sakija {iteattei / tea:tei} {tsukuigasura / tsukujugasura} wakainna.
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	真謝	sake: kumikararu tsukujunro:.
44	比嘉	sake: kumikararu tsukujuru.
44	儀間	sakija {kumikara / kumisa:ni} tsukuindo.
44	西銘(西)	sakija kumisa:ni {tsukuiein / tsukuiee:}.
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	真謝	sakiga aine: nu:N iran.
45	比嘉	sakinu aine: nu:N ne:ntin eimun.
45	儀間	saki a:ne: nu:N iranro:.
45	西銘(西)	sakiga aine: nu: nentin eimun.
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	真謝	watta: ozi:ja {sakin tabakun sanro: / sakin numan tabakun ϕ ukan ro:}.
46	比嘉	uqatta: odzi:ja sakin tabakun numan.
46	儀間	uqatta: tamme:ja sakin tabakun numanro:.
46	西銘(西)	watta: tanme:ja {sakin / sakite:} numan. {tabakun / tabakute:} ϕ ukan.
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	真謝	unu {mize: / mizija} numanna. numinru: ei:ne: kunu mizi nu:mi.
47	比嘉	unu {midze: / midzija} numuna. numuru ba:ja kunu midzi numi.
47	儀間	kunu midze: numanjkijo: numine: kunu midzi {nume: / numiba}.
47	西銘(西)	kunu mizija numuna. numi:ne: kunu mizi numiba.
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	真謝	nu:tsantei ja:ja {kamaŋga / kamanru}.
48	比嘉	ŋga ja:ja kamanru.
48	儀間	nu:ga ja:ja kamanru.
48	西銘(西)	nuga {jaro: / janja} kamanu.
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	真謝	wanja mmuja kamanro:.
49	比嘉	{uqanja / uqano:} mmo: kamando:.
49	儀間	uqanja mmo: kamanro:.
49	西銘(西)	wanja nmuja kamando:.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	真謝	na: {kamari:se: / kamari:he:} mutu karan.
50	比嘉	na: kamari:he: muru karan.
50	儀間	na: kamari:ee: muru karanro:.
50	西銘(西)	na: kamari:ee: muru {karan /kara:}.
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	真謝	ka:ri {ninzu:se: / ninzi:se: / ninzi:he: / ninzi:ne:} inutu maja:tu inumun renro:.
51	比嘉	ka:ri {nindzurubike:njaine: / nindzurugattea:n jaine:} intu maja:tu inumun re:ru.
51	儀間	ka:ri {nindzuse: / nindzueibuka: jane:} intu maja:tu junumun renro:.
51	西銘(西)	ka:re: nindzinindzi ei:ne: inmaja:tu junumun re:ru.
52	共通語	さとうは あまい。 くすりは あまくない。
52	真謝	sato:ja amahan. {kasure: / kusuija} amaku ne:ran.
52	比嘉	sato:ja amahan. kusuija {amako: nen / ndzahan 「苦い」}.
52	儀間	sato:ja amahan. kusuija {amaku / amako:} {ne:ranro: ~ ne:ranro:}.
52	西銘(西)	sato:ja amasan. kusuija {karasan / amaku ne:ran}.
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	真謝	kuzu: itsukuga tsu:gakunu sense: natan.
53	比嘉	kudzu itsukuga teu:gakko:nu sense: natan.
53	儀間	kudzu iteikuga teu:gakunu {sense: / einci:} 《ni》 natan 《ro:》 .
53	西銘(西)	kuzu itsukuga tsu:gakunu sense: {natan /nato:n}.
54	共通語	いとは 英語の 本が 読める。
54	真謝	itsukuja e:gonu honga jumiju:sun.
54	比嘉	itsukuja jeigonu hon jumiju:sun.
54	儀間	iteikuja jeigono hon jumiju:sun 《ro:》 .
54	西銘(西)	itsukuja jeigonu hon jumi:sun.
55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	真謝	anu tsugaru funto:nu zimmutei ren ro:.
55	比嘉	anu teo: funto:nu dzimmutei jan.
55	儀間	anu tteo: funto:nu dzimmutei {jaha / jasa / do:}.
55	西銘(西)	anu tsugaru funto:nu {dzinmutei / dzinmutea:} {jaru /re:ru}.
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	真謝	unu hanaci:ja tuzikateigatsa: teikatean.
56	比嘉	unu hanacija tudzigatea:ni teikatean.
56	儀間	unu hanacija {tudzikatigatea: / tudzikatibike:} teikatean 《ro:》 .
56	西銘(西)	kunu hanacija tuzinibaka: teikatearu.
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	真謝	tuzikatei ju:ban tsukurafun.
57	比嘉	tudzini ju:ban tsukurafun.
57	儀間	{tudzini / tudzikati} ju:ban tsukurasun.
57	西銘(西)	tuzini ju:ban tsukurasuru.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)
58	真謝	utuja dakitei kago {tsukutan / tsukujutan} ro:.
58	比嘉	uto: rakittei ba:ki tsukutan.
58	儀間	utuja dakisa:ni {kagu / ba:ki} tsukutan 《ro:》.
58	西銘(西)	utuja dakica:ni kagu {tsukuta: / tsukutan / tsukuto:tan}.
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。(事実の報告/目撃過去)
59	真謝	ziro:ja uttunu saburo:tu {o:tan / o:jutan}.
59	比嘉	dziro:ja uttunu saburo:tu o:itan.
59	儀間	dziro:ja uttunu saburo:tu o:tan 《ro:》.
59	西銘(西)	dziro:ja uttunu saburo:tu {o:tan / o:itan}.
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。(事実の報告/目撃過去)
60	真謝	saburo:ja ziro:{ni / katei} bo:tei {kuruHari:tan / kuruHattan}.
60	比嘉	saburo:ja dziro:ni bo:tei sugurattan.
60	儀間	saburo:ja dziro:ni bo:sa:ni {eigurattan / kurusattan 《ro:》}.
60	西銘(西)	saburo:ja dziro:ni bo:sa:ni {sugurattan / sugurari:tan}.
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。(事実の報告/目撃過去)
61	真謝	ziro:ja {ozi:katei / ozi:ni} {nurari:tan / nurattan}.
61	比嘉	dziro:ja tamme:ni nura:tan.
61	儀間	dziro:ja tamme:ni nurattan.
61	西銘(西)	dziro:ja tanme:ni {nurari:tan / nurattan}.
62	共通語	おれは きのは 新聞を よまなかった。
62	真謝	wano: kinu:ja eimbun jumana:tan.
62	比嘉	uʔanja kinu:ja eimbun jumana:tan.
62	儀間	{uʔanja / uʔano:} teinu: eimbun jumana:tan 《ro:》.
62	西銘(西)	wanja teinnu:ja einbun {jumanta: / jumantan}.
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。きょうのは これだ。
63	真謝	unu eimbunja ki:nu mun ren ro:. kinu:nu munja {kun / kuri} ren ro:.
63	比嘉	unu eimbunja ki:nu munro:. kinu:nu {munja / muno:} kuri re:ru.
63	儀間	unu eimbunja ki:nu {munu renro: / mun}. teinu:nu {munuja / eimbunja} kuri renro:.
63	西銘(西)	unu eimbunja ki:nu mun re:ru. teinnu:nu munja kuri re:ru.
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。(事実の報告/目撃過去)
64	真謝	aminu ʔujunu ʕi:ja oba:ja ja: oti terebigatea: {ntso:n / ntse:tsun}.
64	比嘉	aminu ʔuine: oba:ja ja:uti terebigatea: nteon.
64	儀間	ami {ga / nu} ʔuinu ʕi:ja hanei:ja ja:to:ti terebigatea: miteo:nro:.
64	西銘(西)	aminu ʔuiru ʕi:ja handzi:ja ja:uti terebibaka: {mi:teo:ru / mi:teon}.
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。(事実の報告/目撃過去)
65	真謝	ujuhe:nu tuteini 《ja》 oba:sammari {mo:itan / mo:jutan / mo:tan}.
65	比嘉	su:dzi nu ba:ne: oba:marim mo:tan.
65	儀間	{usu:dzi / ujuje:}ne: hanei:madi mo:tanro:.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

65	西銘(西)	{ujuje:nu / gusu:zinu / su:zinu} tuteija handzi:mari mo:tan.
66	共通語	花子は きのうから 病気で ねている。(事実の報告/目撃過去)
66	真謝	hanakoja kinu:kara ammahanu ninto:N.
66	比嘉	hanakoja kinu:kara bjo:kitei ninton.
66	儀間	hanakoja teinu:kara bjo:ki {kakaja:ni / sa:ni} nintonro:.
66	西銘(西)	hanakoja teinnu:kara teiburu ja:ri ninton.
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	真謝	hanakoja oka:sanjatei munu {kamahari:tan / kamahattan}.
67	比嘉	hanakoja amma:ni munu kamahattan.
67	儀間	hanakoja{ amma:ni / amma:kati} munu kamatei turahattan.
67	西銘(西)	hanakoja okka:ni munu {kamasari:tan / kamasattan}.
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	真謝	isaga kutanu kusui nomi:ne: no:junu hazi ro:.
68	比嘉	ieaga turatteaj kusui numine: no:juru hadzi.
68	儀間	ieaga kute:ru kusui numine: no:inu hadziro:.
68	西銘(西)	ieakara itaru kusui numi:ne: no:junro:.
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。(事実の報告/目撃過去)
69	真謝	oka:ja mateijakatei ko:imun ei:ga {itsutan / nzan}.
69	比嘉	amma:ja mateiguja:katei ko:imun ei:ga ndzan.
69	儀間	amma:ja mateiguja:kati ko:imun ei:ga ndzan.
69	西銘(西)	okka:ja mateikati ko:jumun ei:ga {iteutanro: / ndzanro:}.
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	真謝	mitei jo:ti gakko:nu sense:ni iteatan.
70	比嘉	miteiuti gakko:nu sense:ni iteatan.
70	儀間	miteito:ti gakko:nu {sense:tu / einei:tu} iteatan.
70	西銘(西)	miteiuti gakko:nu sense: iteatan.
71	共通語	なにを 買おうか。
71	真謝	nu: ko:igaja:.
71	比嘉	nu: ko:igaja:.
71	儀間	nu: ko:igaja:.
71	西銘(西)	nu: ko:igaja:.
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	真謝	kazukotu inu aeiza hanakokateiro: ko:ti kujun.
72	比嘉	dza hanakoniro: ko:ti {kira (くれよう) / turasa (とらせよう)}.
72	儀間	uko:nu muntu junu aeidza hanakoniro: ko:ti {kjura / kura / kira}.
72	西銘(西)	kazukonu muntu junu aeiza ko:ti kura.
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	真謝	kazukotu hanakoja rui ren ro:.
73	比嘉	kadzukotu hanakoja dueiguja:ro:.
73	儀間	kadzukotu hanakoja dueintea: {do: / jasa}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

73	西銘(西)	kazukotu hanakoja ducintea:re:ru.
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	真謝	hanakoja oka:katei teiraga ju: nitteon.
74	比嘉	hanakoja teiraga amma:ni ju: niteon.
74	儀間	aja hanakonu teiraja amma:tu {mattatei niteon / teuttsi 《re:ru》 }.
74	西銘(西)	hanakoja teiraja okka:ni ju: {niteo:ru / niteo:N}.

～は発音のゆれ，{ / } は複数の言い方があること，() は説明，《 》は任意的であることを表す。

久米島方言 文法例文集 (かな)

01	共通語	おれは きょうは いそがしい
01	真謝	わのー きーや いつなはん。
01	比嘉	わんや きーや いちなさん。
01	儀間	わんや {きーや / ちゅーや} いつなさん。
01	西銘(西)	わのー きーや いつなさ。
01	西銘(東)	わんねー {ちゅーや / つーや} いつなさんろー。
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	真謝	やーが はたきかち いき。
02	比嘉	やーが {はたきかち / はたきかい} {いきば / いけー}。
02	儀間	やーが {はるはたき / はたけはたき} {いきば / いき / いけー}。
02	西銘(西)	{やるが / やろー (おまえは)} はたきかてい いけー。
03	共通語	うん・畑へは おれが いく。
03	真謝	んー {はたきや / はたきかちえー} わんが いちゅん。
03	比嘉	うん {はたきかちえー / はたきかいは} わんが {いつん / いつは}。
03	儀間	うん はたけわ わんが いつん。
03	西銘(西)	うん はたきかてー わんが いつ。
03	西銘(東)	うん はたきっかいは わんが いつつき。
04	共通語	おれの 鎌は どこに ある。
04	真謝	わー くうえーや まーに あーが。
04	比嘉	わーくうえーや まーかち あーが。
04	儀間	わー とうんげーや まーに あーが。
04	西銘(西)	わんぬ くうえーや まーに あーが。
04	西銘(東)	わんぬ くうえーや まーかい あーが。
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	真謝	くぬ いれーらや たろーぬ むん れんな。
05	比嘉	くり いれーらや たろー {むんるやんな / むんれんな / むんれーがや}。
05	儀間	くぬ いねーら たろー {むんな / むんでんな}。
05	西銘(西)	くぬ えれなや たろーぬ むん れーがやー。
05	西銘(東)	くぬ えれなや たろー むんがやー。
06	共通語	どれが おまえの 笠だ
06	真謝	ぬーが やーが かさが。
06	比嘉	ぬーが やー かさが。
06	儀間	ぬーが やー むんぬ かさが。
06	西銘(西)	ぬーが やーむんぬ かさがやー。(どれがおまえの笠かな。)
06	西銘(東)	{ぬーぬ / ぬーが} かさが やーむんが。(どの笠がおまえのものか。)
07	共通語	その 笠が おれのだ。
07	真謝	{くり / くぬ} くばがさが わーむん やさ。
07	比嘉	くり かさが わー むんやさ。
07	儀間	うん かさや わーむん れーる。
07	西銘(西)	うぬ かさや わーむんがやー。(その笠は私のものかな。)

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

07	西銘(東)	くぬ かさが わーむんどー。(この笠がわたしのものだぞ。)
08	共通語	この ふろしきは おまえのか。
08	真謝	{くり / くぬ} うつくいや やーが むんれんな。
08	比嘉	くり うつくいや やー むんれんな。
08	儀間	うぬ ふろしきや やー むんな。
08	西銘(西)	くぬ うつくいや やーが むんろー。
09	共通語	それは おとうとの かもしれない。
09	真謝	くれー わー うっとうぬ むんげーら わからん。
09	比嘉	くれー うっとうぬ むんげーら わからんさーやー。
09	儀間	うれー うっとうぬ むんれーが わからんどー。
09	西銘(西)	うれー うっとうぬ むんれーる はぢろー。
09	西銘(東)	うっとうぬ むぬが やら わからんろー。(おとうとのかもしれないぞ。)
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	真謝	うちなーかちえー ふにち いつひやかん ひこーきち いつへー まし やさ。
10	比嘉	うちなーかちや ふにち {いつし《ゆ》かねー ~ いつひ《ゆ》かねー} ひこー きち {いつしる ~ いつひる} ましやる。 / {いつしが ~ いつひが} ましろ ー。
10	儀間	うちなーかてー ふにさーに いつしゆか ひこーきさーに {いつしる / いつし えー} ましろー。
10	西銘(西)	{うちなーや《は》 / うちなーかてー《には》} ふにさーに いつしよかー ひこ ーきさーに いつしる ましろー。
10	西銘(東)	うちなーかひや {ふにさーに いちゆし よかぬ (で行くよりも) / ふによーか ねー (よしかは)} {ひこーきさーに / ひこーきさーい} いつしがる {ましろ ー / ましどー}。
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	真謝	ひこーきや いちにちに いっくわいる あーる。
11	比嘉	ひこーけー いっちーに いっかいる あーる むん。
11	儀間	ひこーきや いちにちに いっくわいしか ねん むん。
11	西銘(西)	ひこーきや ひっちーに いっくわいる あんろー。
11	西銘(東)	ひこーきや ひっちーに いっかいる あんろー。
12	共通語	空港なら こっちの 道を行きなさい。
12	真謝	ひこーぢよー なら くぬ みち いきば。
12	比嘉	ひこーじよーかちえー くり みちから いきば。
12	儀間	くーこーねー くぬ みち とうーてい いきば。
12	西銘(西)	ひこーぢよーや くぬ みちかてい いきよー。
12	西銘(東)	ひこーぢよーからー くぬ みちから いきよー。
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	真謝	みちぬ まんなか あっちえー ならん。
13	比嘉	みちぬ まんなかー あっちえー ならんどー。
13	儀間	みちぬ まんなか あらちえー ならんどー。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

13	西銘(西)	みちぬ まんなかや あるいちえー ならんろー。
13	西銘(東)	みちぬ まんなかからや あっちえー ならんろー。
14	共通語	道が 広いなあ。
14	真謝	みちが ひるはぬやー。
14	比嘉	あんち みち ひるは一るやー。
14	儀間	みちが {まぎさん やー / ひるさっさー やー}。
14	西銘(西)	みちや ひるさーくとう。(道は広いから。)
14	西銘(東)	みちや ひるさっさーやー。(道は広いなあ。)
15	共通語	あ・雨が ふってきた。
15	真謝	あ あみが ふーてい ちゃん。
15	比嘉	あー {あみぬ / あみが} ふーてい つーさー。
15	儀間	あー あみが ふーてい ちゃっさ。
15	西銘(西)	あー あみが ふーてい ちゃ。
15	西銘(東)	あー あみが ふーてい ちゃんろー。
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	真謝	いちゆくぬ ふとんが やーぬ わーびに ふちゃん。
16	比嘉	いつくぬ うーるが やーぬ ういーに {ふちえーさ / ふさっとーさ}。
16	儀間	いとこの ふとんが やーぬ ういーに ふふあつとん。
16	西銘(西)	いちゆくぬ {ふとんや <現在> / うーるや <古>} やーぬ ういーに ふつえんどー。
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	真謝	きぬーや きーゆかん かぢが つーはーたん。
17	比嘉	きぬーや {きーゆか ~ きーうか} かぢが {つーさーたん / つーはーたん}。
17	儀間	ちぬーや きーゆーか かぢが つーさっさ。
17	西銘(西)	ちんぬーや きーよーかー かぢや つーさーたー。
17	西銘(東)	ちぬーや ちゅーよーかー {かぢえー / かぢや} ちゅーさたん。
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	真謝	まっしーるー とういが ていんとー {とうろーたん (飛んでいた) / とうろん (飛んだ)}。
18	比嘉	ましーるーぬ とういが ていん とうろん。
18	儀間	まっしるぬ とういが ていんから とうろんれー。
18	西銘(西)	まっしーるーぬ とういが ていんに とうろん。
18	西銘(東)	まっしーるーぬ とういが ていんにかい とうろーんろー。
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	真謝	{あり / あぬ} やまかちえー いのししが うんちょん。
19	比嘉	あり {やまかちえー / やまかいや / やまかちや} やまししが うんちょーは。
19	儀間	うぬ やまねー いのししが うっちゃんろー。
19	西銘(西)	あぬ やまねー いのししが うる ふーぢ。
19	西銘(東)	あぬ やまかいや いのししが うる ふーぢ。
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

20	真謝	ありが がっこー やさ。 {やくばー / やくばや} あらん。
20	比嘉	あれー がっこー {どー / れーる / るやんどー / れんどー}。 やくばー あらんどー。
20	儀間	あれー がっこー れーる。 やくばー あらんどー。
20	西銘(西)	あれー がっこーる れーる。 やくば あらんろー。
20	西銘(東)	あれー がっこーろー。 やくばー あらんろー。
21	共通語	あれが 役場だ。
21	真謝	ありが やくば やさ。
21	比嘉	ありがる やくばろー。
21	儀間	ありがる やくば やる。
21	西銘(西)	あれー やくば れんろー。
21	西銘(東)	あれー やくばろー。
22	共通語	あの 目の おおきい・ 色の 白い 男は だれだろう。
22	真謝	{あぬ / あり} みーぬ まぎさぬ いるぬ しる {いきがー / いきがや} たるが やー。
22	比嘉	あり {みーぬ まぎさーぬ / みーまぎーぬ} いるぬ しるはーぬ いきがや たるが やー。
22	儀間	あぬ みーぬ まぎさーる いるぬ しるさーぬ いきがや たるが やー。
22	西銘(西)	あぬ みーぬ まぎさぬ いるぬ しるさぬ いきがや たーがやー。
22	西銘(東)	あぬ みーぬ まぎさしえー いるぬ しるさる いきがや たーがやー。
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	真謝	んまがが くぢゅから とーきよーに うん。
23	比嘉	んまがが くずから とーきよーかち うん。
23	儀間	んまがが くずから とーきよーに うん。
23	西銘(西)	んまがが くづから とーきよーに うん。
23	西銘(東)	んまがぬ くづから とーきよっかい うん。
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	真謝	んまがや いち とーきよーから けーゆが。
24	比嘉	んまがや いち とーきよーから けーいが。
24	儀間	んまがや いち とーきよーから けーいが。
24	西銘(西)	んまがや いち とーきよーから けーてい つーがやー。
24	西銘(東)	んまがや いち とーきよーから けいが 《やー》。
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	真謝	はちgわちねー けーてい ちゅんちよん。
25	比嘉	はちがちねー けーてい {つんちよーさ / つんちよんどー}。
25	儀間	はちぐわちねー けーてい つーる はじ。
25	西銘(西)	はちがちねー けーてい つーる ふーぢ。
25	西銘(東)	はちgわちねー けーてい つーる ふーぢ。
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	真謝	あんまーや あちゃ とーきよーかち くわー みーが いつん。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

26	比嘉	{おかーや / あんまーや} あちゃ とーきよーかちくわーかち いちえーが {いつんどー / いつんちよんどー}。
26	儀間	{かーちゃんや / あんまーや} あちゃ とーきよーにくわてい あーいが いつんどー。
26	西銘(西)	おっかーや あちゃ とーきよーかてい いちが くわー みーが いつ。
26	西銘(東)	あんまーや あちゃ とーきよーかい くわー いちやいが いつん。
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	真謝	おーさかから {とーきよーまりや / とーきよーまれー} でんしゃれーや ちゃっさが やー。
27	比嘉	おーさかから {とーきよーまりや / とーきよーまれー} きしゃちんや ちゃっさが やー。
27	儀間	おーさかから {とーきよーかち / とーきよーまでい} きしゃちんや いちやっさが やー。
27	西銘(西)	おーさかから とーきよーまりぬ きさちんや ちゃぬあたい かかいがやー。
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	真謝	よじまれー いえきよーてい {まっちょーてい くり / まっちょーき}。
28	比嘉	{よじまれー / よじまりねー} いえきうてい まっちょーてい くり。
28	儀間	よじまでい いえきで まっちょーきば。
28	西銘(西)	よぢまりに {いえきうとーてい (で) / いえきに (に)} まっちょーきよー。
28	西銘(東)	よぢまりに いえきんぢ まっつおーきよー。
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	真謝	ぐぢまれー けーらいねー ならん。
29	比嘉	ごじまりねー けーらんねー {ならんどー / ならーひが}。
29	儀間	よじまりねー けーらなーねー ならんしが。
29	西銘(西)	ごぢまりに けーらんとー ならん。
29	西銘(東)	ごぢまりに けーらんれー ならんろー。
30	共通語	次郎、この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	真謝	ぢろー くぬ にむち {やーまり / やーまれー} かたみてい んぢ くり。
30	比嘉	ぢろー くり にー やーまり かたみてい むち んぢ くり。
30	儀間	ぢろー くぬ にー むち やーまり かたみてい んぢ くり よー。
30	西銘(西)	ぢろー くぬ にむち やーまり かたみてい んぢ くりよー。
30	西銘(東)	ぢろー くぬ にむちや やーまり かたみてい んぢ くりよー。
31	共通語	荷物が 重かったので 二人で もった。
31	真謝	にむちえー んぶは一たぐとう ったいち むっちゃん。
31	比嘉	にーぬ んぶはぬ たいちる むち んぢやんどー。
31	儀間	にむちが んぶさ一たくとう たいさーに むっちゃんどー。
31	西銘(西)	にむちが んぶさた一くとう たいさーに むっち んぢやん。
31	西銘(東)	にむちが んぶさたくとう たいさーに むっちゃんろー。
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千元で 買った。
32	真謝	{くり / くぬ} わーぎや くぬめー うちなーんぢ にせんえんち こーたん。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

32	比嘉	くり うわげー くぬめー {うちなーうとーてい / うちなーんぢ} にせんえんち こーたんどー。
32	儀間	くり うわぎや くぬめー うちなーうとーてい {にせんえんさーに / にせんえ んち} こーたんどー。
32	西銘(西)	くぬ うわぎや くぬめー うちなーとーてい にせんえんさーに こーたん。
32	西銘(東)	くぬ うわぎや くぬめー うちなーんぢ にせんえんし こーたんろー。
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	真謝	うちなーかちえー みじらはぬ くわーしが あん。
33	比嘉	{うちなーかちえー / うちなーねー} {みじらーはぬ ~ みじらはぬ} くわーし が あんどー。
33	儀間	うちなーねー めじらさーぬくわーしーが あんどー。
33	西銘(西)	うちなーねー みぢらさぬ くわーしが あん。
33	西銘(東)	うちなーねー みぢらさる くわーしが あん。
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	真謝	んまがー くわしが しつん。
34	比嘉	わった んまがーくわしじょーぐーろー。
34	儀間	んまがや くわしーが しちよんどー。
34	西銘(西)	んまがや くわーしが すいちよん。
34	西銘(東)	んまがや {くわーしが / くわーしぬ} しーちよん。
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	真謝	はくぬ なかに まんぢゅーが いくち あんちゃんち うみーが。
35	比嘉	はくぬ {なかかち / なかかい} まんぢゅーが いくち {あんちゃんち / あんで いち} うみーが。
35	儀間	はくぬ なかに まんぢゅーが いくち {あちやち / あちやるち} うみとーが。
35	西銘(西)	はくぬ なーかに まんぢゅーや いくち あったち うむいが。
35	西銘(東)	はくぬ なーかかい まんぢゅーや いくち あんり うむいが。
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	真謝	んまがや まんぢゅーぬ かーがちゃ かみん。
36	比嘉	んまがー まんぢゅー かーがちゃ かみは。
36	儀間	んまがー まんぢゅーぬ かーがちやる かみる。
36	西銘(西)	んまがや まんぢゅー かーがちやー かむんろー。
36	西銘(東)	んまがや まんぢゅーぬ かーがちやー かむんろー。
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。(事実の報告/目撃過去)
37	真謝	おじーや とうみていから うーみかち いゆとういが {んざん / いったん ろ ー}。
37	比嘉	おぢーや あさから うーにかち いゆ とういが んぢやん。
37	儀間	たんめーや すとうみていから うーみかてい いゆ とういが {んぢや / いちゆ たん}。
37	西銘(西)	たんめーや {しとうみてい / とうみてい}から うーみかち いゆ とういが め んそーちゃん。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	真謝	くまー うみかち ちかさーぐとう いゆが {まーさん / まーはん}。
38	比嘉	くまー うーみが ちかはぬ いゆが まーはん。
38	儀間	くまや うーみかてい ちかさーくとう いゆが まーさん。
38	西銘(西)	くまりかーや うーみ《が》 ちかさーくとう いゆや まーさん。
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	真謝	いゆゆかん ししが {たかさん / たかはん}。
39	比嘉	いゆゆかん ししがる たかはる。
39	儀間	いゆゆか ししが たかさん。
39	西銘(西)	いゆよーかー ししや たかさん。
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。
40	真謝	{わんや / わのー} たくぬ さしみ《が》 かみぶさん。
40	比嘉	わんや たくぬ さしみが かみぶさん。
40	儀間	{わのー / わんや} たくぬ さしみ かみぶさん。
40	西銘(西)	わんや たくぬ さしみ かみぶさん。
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	真謝	やーや うぬ いゆぬ なー しっつおんな。
41	比嘉	やーや くぬ いゆぬ なー しっちょーんな。
41	儀間	やーや くぬ いゆぬ なー {しっちょ'んな / しっちょーみ}。
41	西銘(西)	やんや くぬ いゆぬ なー しっちょんな。
42	共通語	これは かつおだろう。
42	真謝	うれー かつー れんろー。
42	比嘉	くれー {かつー やえーさに / かつーる やる}。
42	儀間	くれー かつー れんろ。
42	西銘(西)	くれー {かつーいゆれーろーに / かつーいゆでーろーに}。
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	真謝	さけー いつあし つくゆが やーや しっつおんな。
43	比嘉	さけー いちゃち つくいが やーや しっちょーえーさんな。
43	儀間	{さけー / さきや} いちゃち ちゆくいが やーろー しっちょんな。
43	西銘(西)	さきや {いちゃっち / ちゃーち} {つくいがすら / つくゆがすら} わかいんな。
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	真謝	さけー くみからる つくゆんろー。
44	比嘉	さけー くみからる つくゆる。
44	儀間	さきや{くみから / くみさーに} つくいんど。
44	西銘(西)	さきや くみさーに {つくいしん / つくいしえー}。
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	真謝	さきが あいねー ぬーん いらん。
45	比嘉	さきぬ あいねー ぬーん ねーんていん しむん。
45	儀間	さき あーねー ぬーん いらんろー。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

45	西銘(西)	さきが あいねー ぬー ねんていん しむん。
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	真謝	わったー おじーや {さきん たばくん さんろー / さきん ぬまん たばくん ふかん ろー}。
46	比嘉	わったー おぢーや さきん たばくん ぬまん。
46	儀間	わったー たんめーや さきん たばくん ぬまんろー。
46	西銘(西)	わったー たんめーや {さきん / さきてー} ぬまん。 {たばくん / たばくてー} ふかん。
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	真謝	うぬ {みじえー / みじや} ぬまんな。 ぬみんるー しーねー くぬ みじ ぬーみ。
47	比嘉	うぬ {みぢえー / みぢや} ぬむな。 ぬむる ばーや くぬ みぢ ぬみ。
47	儀間	くぬ みぢえー ぬまんきよー。 ぬみねー くぬ みぢ {ぬめー / ぬみば}。
47	西銘(西)	くぬ みじや ぬむな。 ぬみーねー くぬ みじ ぬみば。
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	真謝	ぬーつあんち やーや {かまんが / かまんる}。
48	比嘉	んが やーや かまんる。
48	儀間	ぬーが やーや かまんる。
48	西銘(西)	ぬが {やろー / やんや} かまぬ。
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	真謝	わんや んむや かまんろー。
49	比嘉	{わんや / わのー} んもー かまんどー。
49	儀間	わんや んもー かまんろー。
49	西銘(西)	わんや んむや かまんどー。
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	真謝	なー {かまりーせー / かまりーへー} むとう からん。
50	比嘉	なー かまりーへー むる からん。
50	儀間	なー かまりーしえー むる からんろー。
50	西銘(西)	なー かまりーしえー むる {からん / からー}。
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	真謝	かーり {にんずーせー / にんじーせー / にんじーへー / にんじーねー} いぬ とう まやーとう いぬむん れんろー。
51	比嘉	かーり {にんぢゆるびけーんやいねー / にんぢゆるがっちゃんやいねー} いん とう まやーとう いぬむん れーる。
51	儀間	かーり {にんぢゆせー / にんぢゆしぶかー やねー} いん とう まやーとう ゆぬむん れんろー。
51	西銘(西)	かーれー にんぢにんぢ しーねー いんまやーとう ゆぬむん れーる。
52	共通語	さとうは あまい。 くすりは あまくない。
52	真謝	さとーや あまはん。 {くすれー / くすいや} あまく ねーらん。
52	比嘉	さとーや あまはん。 くすいや {あまこー ねん / んぢやはん「苦い」}。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

52	儀間	さとーや あまはん。 くすいや {あまく / あまこー} {ねーらんろー ~ ねーらんろ}。
52	西銘(西)	さとーや あまさん。 くすいや {からさん / あまく ねーらん}。
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	真謝	くずー いくが つーがくぬ せんせー なたん。
53	比嘉	くづ いくが ちゅーがっこーぬ せんせー なたん。
53	儀間	くづ いちくが ちゅーがくぬ {せんせー 《に》 / しんしー 《に》} なたん 《ろー》。
53	西銘(西)	くず いくが つーがくぬ せんせー {なたん / なんとーん}。
54	共通語	いここは 英語の 本が 読める。
54	真謝	いくや えーごぬ ほんが ゆみゆーすん。
54	比嘉	いくや いえいごぬ ほん ゆみゆーすん。
54	儀間	いちくや いえいごの ほん ゆみゆーすん 《ろー》。
54	西銘(西)	いくや いえいごぬ ほん ゆみーすん。
55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	真謝	あぬ つがる ふんとーぬ じんむち れん ろー。
55	比嘉	あぬ ちょー ふんとーぬ ぢんむち やん。
55	儀間	あぬ っちょー ふんとーぬ ぢんむち {やは / やさ / どー}。
55	西銘(西)	あぬ つがる ふんとーぬ {ぢんむち / ぢんむちやー} {やる / れーる}。
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	真謝	うぬ はなしーや とうじかちがつあー ちかちゃん。
56	比嘉	うぬ はなしや とうぢがちゃーに ちかちゃん。
56	儀間	うぬ はなしや {とうぢかていがちゃー / とうぢかていびけー} ちかちゃん 《ろー》。
56	西銘(西)	くぬ はなしや とうじにばかー ちかちやる。
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	真謝	とうじかち ゆーばん つくらふん。
57	比嘉	とうぢに ゆーばん つくらふん。
57	儀間	{とうぢに / とうぢかてい} ゆーばん つくらすん。
57	西銘(西)	とうじに ゆーばん つくらする。
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)
58	真謝	うとうや だきち かご {つくたん / つくゆたん} ろー。
58	比嘉	うとー らきっち ばーき つくたん。
58	儀間	うとうや だきさーに {かぐ / ばーき} つくたん 《ろー》。
58	西銘(西)	うとうや だきしゃーに かぐ {つくたー / つくたん / つくとーたん}。
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。(事実の報告/目撃過去)
59	真謝	じろーや うっとうぬ さぶろーとう {おーたん / おーゆたん}。
59	比嘉	ぢろーや うっとうぬ さぶろーとう おーいたん。
59	儀間	ぢろーや うっとうぬ さぶろーとう おーたん 《ろー》。
59	西銘(西)	ぢろーや うっとうぬ さぶろーとう {おーたん / おーいたん}。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。(事実の報告/目撃過去)
60	真謝	さぶろーや じろー{に / かけ} ぼーち {くるはりーたん / くるはったん}。
60	比嘉	さぶろーや ぢろーに ぼーち すぐらったん。
60	儀間	さぶろーや ぢろーに ぼーさーに {しぐらったん / くるさったん《ろー》}。
60	西銘(西)	さぶろーや ぢろーに ぼーさーに {すぐらったん / すぐらりーたん}。
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。(事実の報告/目撃過去)
61	真謝	じろーや {おじーかけ / おじーに} {ぬらりーたん / ぬらったん}。
61	比嘉	ぢろーや たんめーに ぬらーたん。
61	儀間	ぢろーや たんめーに ぬらったん。
61	西銘(西)	ぢろーや たんめーに {ぬらりーたん / ぬらったん}。
62	共通語	おれは きのは 新聞を よまなかった。
62	真謝	わのー きぬーや しんぶん ゆまなーたん。
62	比嘉	わんや きぬーや しんぶん ゆまなーたん。
62	儀間	{わんや / わのー} ちぬー しんぶん ゆまなーたん《ろー》。
62	西銘(西)	わんや ちんぬーや しんぶん {ゆまなー / ゆまなたん}。
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。きのは これは。
63	真謝	うぬ しんぶんや きーぬ むん れん ろー。 きぬーぬ むんや {くんれんろー / くりれんろー}。
63	比嘉	うぬ しんぶんや きーぬ むんろー。 きぬーぬ {むんや / むのー} くり れーる。
63	儀間	うぬ しんぶんや きーぬ {むぬ れんろー / むん}。 ちぬーぬ {むぬや / しんぶんや} くり れんろー。
63	西銘(西)	うぬ しんぶんや きーぬ むん れーる。 ちんぬーぬ むんや くり れーる。
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。(事実の報告/目撃過去)
64	真謝	あみぬ ふゆぬ ひーや おばーや やー おてい てれびがちゃー {んつおーん / んつえーつん}。
64	比嘉	あみぬ ふいぬー おばーや やーうてい てれびがちゃー んちよん。
64	儀間	あみ{が / ぬ} ふいぬ ひーや はんしーや やーとーてい てれびがっちゃー みちよーんろー。
64	西銘(西)	あみぬ ふいる ひーや はんぢーや やーうてい てれびばかー {みーちよーる / みーちよん}。
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。(事実の報告/目撃過去)
65	真謝	うゆへーぬ とうちに《や》 おばーさんまり {もーいたん / もーゆたん / もーたん}。
65	比嘉	すーぢぬ ばーねー おばーまりん もーたん。
65	儀間	{うすーぢ / うゆいえー}ねー はんしーまでい もーたんろー。
65	西銘(西)	{うゆいえーぬ / ぐすーじぬ / すーじぬ} とうちや はんぢーまり もーたん。
66	共通語	花子は きのはから 病気で ねている。(事実の報告/目撃過去)
66	真謝	はなこや きぬーから あんまはぬ にんとーん。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

66	比嘉	はなこや きぬーから びょーきち にんとん。
66	儀間	はなこや ちぬーから びょーき {かかやーに / さーに} にんとんろー。
66	西銘(西)	はなこや ちんぬーから ちぶる やーり にんとん。
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	真謝	はなこや おかーさんかち むぬ {かまはりーたん / かまはったん}。
67	比嘉	はなこや あんまーに むぬ かまはったん。
67	儀間	はなこや {あんまーに / あんまーかてい} むぬ かまち とうらはったん。
67	西銘(西)	はなこや おっかーに むぬ {かまさりーたん / かまさったん}。
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	真謝	いさが くだぬ くすい のみーねー のーゆぬ はじ ろー。
68	比嘉	いしゃが とうらっちゃん くすい ぬみねー のーゆる はぢ。
68	儀間	いしゃが くてーる くすい ぬみねー のーいぬ はぢろー。
68	西銘(西)	いしゃから いたる くすい ぬみーねー のーゆんろー。
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。(事実の報告/目撃過去)
69	真謝	おかーや まちやかち こーいむん しーが {いつたん / んざん}。
69	比嘉	あんまーや まちぐわーかち こーいむん しーが んぢゃん。
69	儀間	あんまーや まちぐわーかてい こーいむん しーが んぢゃん。
69	西銘(西)	おっかーや まちかてい こーゆむん しーが {いちゅたんろー / んぢゃんろー}。
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	真謝	みち よーてい がっこーぬ せんせーに いちゃたん。
70	比嘉	みちうてい がっこーぬ せんせーに いちゃたん。
70	儀間	みちとーてい がっこーぬ {せんせーとう / しんしーとう} いちゃたん。
70	西銘(西)	みちうてい がっこーぬ せんせー いちゃたん。
71	共通語	なにを 買おうか。
71	真謝	ぬー こーいがやー。
71	比嘉	ぬー こーいがやー。
71	儀間	ぬー こーいがやー。
71	西銘(西)	ぬー こーいがやー。
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	真謝	かずことう いぬ あしぎ はなこちろー こーてい くゆん。
72	比嘉	ぢゃ はなこにろー こーてい {きら (くれよう) / とうらさ (とらせよう)}。
72	儀間	うこーぬ むんとう ゆぬ あしぢゃ はなこにろー こーてい {きゅら / くら / きら}。
72	西銘(西)	かずこぬ むんとう ゆぬ あしぎ こーてい くら。
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	真謝	かずことう はなこや るしれん ろー。
73	比嘉	かづことう はなこや どうしぐわーろー。
73	儀間	かづことう はなこや どうしんちゃー {どー / やさ}。
73	西銘(西)	かづことう はなこや どうしんちゃーれーる。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	真謝	はなこや おかーかち ちらが ゆー につちよん。
74	比嘉	はなこや ちらが あんまーに ゆー にちよん。
74	儀間	あや はなこぬ ちらや あんまーとう {まったく にちよん / ちゅっつい 《れーる》}。
74	西銘(西)	はなこや ちらや おっかーに ゆー {にちよーる / にちよーん}。

～は発音のゆれ，{ / } は複数の言い方があること，() は説明，《 》は任意的であることを表す。

久米島・島ことば調査のつどい

久米島・島ことば調査のつどい

(司会：木部) 皆さん、こんばんは。今日はお忙しいところ、こんなにたくさんおいでくださりましてどうもありがとうございました。私どもは国立国語研究所というところから、久米島の言葉を調べにまいりました。おとといと昨日と4つの集落の方にお話を伺いました。おとといは比嘉と儀間の方にお世話になりました。ありがとうございました。昨日は真謝の方と西銘の方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

この方言の記録は、国立国語研究所のプロジェクトとしては今年で4年目になります。1年目は奄美の喜界島というところに行きました。2年目は沖縄の宮古島にまいりました。3年目は東京都の八丈島と奄美の与論島と沖永良部島にまいりました。今年が4年目で、場所としては6カ所目になり、久米島の皆さんにお世話になることになりました。もうご存じだと思いますけれども、今申し上げた地域は、ユネスコが2009年に消滅の危機にひんしているという言語を発表した、その中に含まれている地域です。

いろいろな社会的な事情があって、今、各地の方言がなくなりつつあります。方言が子供たちに伝承されなくなっています。今でも60歳以上くらいの方は、まだおそらく方言を話そうと思えば話せる方々が多いと思うんですね。それで、今、この方言をまず録音しておくことを私たちは第一に考えています。

久米島にも立派な方言辞典があると伺っております。拝見しました。とても立派な、とても素晴らしい仕事だと思います。私たちはできればそれに声を録音して、アクセントやイントネーションまで記録しておきたいという気持ちで、録音をしております。今日来てくださった方にも録音してよろしいですかとお伺いしたのはそういう事情です。

今日は私たちが学習したこと、あるいはそれ以前からこの久米島に縁があってここの調査をしているメンバーが勉強の発表会をしますので、その後で、そこは違うとか、こういうこともあるよというのを、ぜひどんどん教えていただけるとありがたいと思うんです。

最初に3人続けて発表をいたします。その後、全体についてディスカッションしたいと思いますので、そのときにぜひ質問といいますか、いや、こうじゃないよ、こうだよということをお伺いできれば、私たちももっといい仕事が、勉強ができると思いますので、ぜひ最後までご意見を伺えますように、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは最初の発表は「久米島方言について」という題で、琉球大学非常勤講師の仲原穰さん、お願ひします。

1 「久米島方言について」 仲原穰

(仲原) 皆さんこんばんは。よろしくお願ひします。

私は真謝の11番地というところで生まれまして、生まれてすぐに、2歳くらいまでに本島に引っ越したので久米島で育つことができなかったんですが、ずっと久米島の言葉に興味を持って、17～18年久米島の調査をしています。

これまでに勉強したことを中心に皆さんにご紹介しようと思ひまして、今回この短いペーパー

を作りました。こちらは帰ってから見ていただいて構いません。今日はスライドを用意しましたので、そのスライドを使ってご説明したいと思います。

まず、先ほども木部先生から今回のこのプロジェクトについての報告がございましたが、軽く紹介させていただくスライドです。世界各地からこの久米島の記録のために一線の研究者の方々が集まってくださり、また、非常にありがたいことに皆さんの協力を得まして、おかげでよい資料が4カ所取れたかなと思います。ありがとうございます。

その4カ所はこの4カ所です。1日目が比嘉と儀間、2日目が真謝と西銘の4カ所です。今回の調査の内容を何とか盛り込もうと画策していろいろやってきたんですが、今回私が準備したこととどうもうまくつながらなかったの、今回は国語研究所の調べたデータをお見せすることができません。それで、私がこれまで調べてきたものを中心に、久米島方言について考えていることとお話しさせていただくことにさせていただきます。よろしくお祈いします。

久米島の概況

最初に「久米島の概況」と書きました。皆さんにとっては当然のことですが、後ろに立っている先生方は久米島のことを知らない方もいますから、少しでも久米島の概況について説明します。面積が63.21キロ平方メートルです。そして集落は32集落、奥武が今は集落がありませんから、33から32に今は減っております。イーフは最近増えた集落ですね。

人口は平成25年3月現在で8,353人、10年前と比べると、65歳以上はほとんど同じ人数なんですが、64歳以下が何と1,000人も減っています。つまり若い世代がだいぶ減っているということですね。

それから集落についてですが、後でも触れますけれども、銭田と真我里とか、北原、大原なんというところは比較的古くから那覇などから入ってきた集落です。それから糸満の漁民の真泊の集落とか、オーハ島。これらは渡名喜などからの移住だと聞いていますが、間違っていたら教えてください。それから鳥島は奄美の硫黄島からの移住ですね。

次に、「久米島の言葉の位置」ということですが、プリントをご覧いただくと、1ページ目の真ん中あたりに、久米島の言葉には、こんな言葉がありますよというのが書いてあります。「沖縄系」とあるのは、久米島方言のグループと、その他の地域の沖縄語の影響を受けているものの2つです。沖縄方言系は、先ほど言った移住集落がそこに入ります。そして「その他」というところのオーハ島も、ここは首里、那覇ではないけれども、周辺の離島からの移住ということで書いてあります。それから国頭語系ですね。国頭語系というのは鳥島ということですね。

ここで言う沖縄語とか国頭語というものですが、沖縄語というのは北琉球諸語の中の1つです。北琉球諸語には奄美、国頭、沖縄があります。これは文章でプリントには書いてありますので、後で帰ってからお読みいただければ分かると思います。久米島方言はその中の沖縄語というやつに入っているんですが、沖縄語と国頭語というのが沖縄本島の中にある言葉です。沖縄本島の北部地域が国頭語と呼ばれています。これはユネスコの2009年の名付けによるものです。沖縄中南部の方言が沖縄語で、沖縄北部方言が国頭語ということですね。金武町よりも北、それから奄美諸島の南の方の与論と沖永良部も国頭語の中に入っております。鳥島方言はこの国頭語の傾向があるということですね。それから沖縄語系統のものが残りの集落ということですね。

先ほど言ったように沖縄本島には沖縄語と国頭語の2つのグループがあって、沖縄中南部に近い言葉ということで周辺の離島が沖縄語に入っております。その中の1つが久米島方言と思っていただければと思います。

今回、地図にした集落ですが、2010年あるいは2011年までの調査で得られた地点です。今回、

21 地点を地図化してあります。今回の資料を全部しゃべると 50 分か 1 時間かかってしまいます。そうすると皆さんの楽しみにしている残り 2 人の方々の話が聴けなくなってしまうので、「2. 沖縄語との共通性」というところは、今回は簡単にプリントで読み進めたいと思います。



図1 久米島言語地図 調査地点

沖縄語との共通性

1 ページ目の真ん中にあります「2. 沖縄語との共通性」というところですが、ここでは那覇方言と久米島方言の 2 つの方言、真謝方言と嘉手苺方言を比較して例に挙げております。

まず沖縄本島中南部と似たところは、エ段がイ段になったり、オ段がウ段になったりするということですね。「雨」が「アミ」になったり、「横」が「ユク」になったりする。

それから (2) の共通語の「ス・ズ・ツ」に当たるものは、「シ・ジ・チ」になまっている。これも中南部の言葉と一緒にですね。「臼」が「ウシ」、「綱」が「チナ」、「水」が「ミジ」のように、「ス」と「ズ」と「ツ」は「シ」と「ジ」と「チ」になまっております。

それから 3 番の「アイ」とか「アエ」は「エー」に、長い母音になまります。「アウ・アオ」も「オー」になっておりますね。「野菜」が「ヤセー」とか、「前」が「メー」、これも本島と似た特徴です。

次の 2 ページ目の (4) ですが、「キ」が「チ」になる、「ギ」が「ジ」になる。これも沖縄本島と同じですね。それからチャ行とかジャ行に変化する例が多いのもこの特徴です。例えば「肝」が「チム」になったり、「先」が「サチ」というふうに。また、額が「ヒチュー」、左が「ヒジャイ」のようになる。これも沖縄本島と似た特徴です。

(5) の「awa が aa になる」というところですが、「kawa」という連続が「カー」のように w が抜けちゃうということですね。それで、俵が「ターラ」、川原が「カーラ」となるような具合です。

(6) 語中の「リ」が「イ」になる。これは、雷が「カンナイ」になったり、ほこりが「フクイ」になったりする例です。

(7) のハ行は「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」。「パ・ピ・プ・ペ・ポ」でも、「ファ・フィ・フ・フェ・フォ」でもないという意味です。鼻が「ハナ」、刃物の「刃」が「ハー」。何でこんなことを書くんだと思っていらっしゃる方もいるかもしれませんが、沖縄本島北部方言では、鼻を「パナ」と言うところがありますね。つまり「パ・ピ・プ・ペ・ポ」のところがあるんですが、久米島は「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」の方言だということです。

それから (8) のダ行がラ行になる傾向がある。例えば特に嘉手苺の下の例を見ていただきたいんですが、毒が「ルク」とか、筆が「フリ」とか、道具は「ローグ」というふうになる例です。ただし単語によっては、真謝のように、ならない単語も出てきます。これに関しては、人によって、話者によって、ダ行を保持する人と保持してない人がいるという特徴も実はあったりするの

で、もうちょっと調査が必要かなと思っていますが、とにかく久米島はダ行がラ行になる傾向が強いかもしれません。

(9)の動詞の言い切りの形の「ン」。例えば真謝なんかでは、「下りる」が「ウリユン」、「褒める」が「フミユン」、「する」が「スン」ですが、嘉手苅方言など久米島西部方言の地域、今回我々が調査させていただいたところでいうと、儀間方言や西銘方言でも言い切りの形の「ン」が抜ける傾向があります。例えば嘉手苅方言では「下りる」が「ウリー」、「褒める」が「フミーン」、「する」は「ス」のように、「下りる」や「する」は「ン」が抜けています。しかし単語によっては抜けなかったりするんですね。何らかの要因で「ン」が抜けるんですけども、抜けない語形というのも聞かれる。じゃあ、これがなぜ抜けないのか。ここに関しては、まだ調査不足で材料を持ってないので、これが分かったらまた皆さんにご報告したいと思っています。

次の(10)ですが、形容詞の語尾は「サン」か「ハン」ということですね。例えば真謝方言で、「甘い」を「アマハン」、「悔しい」は「クチサン」と言いますが、嘉手苅方言では「アマハ」、「クチサン」のように、「アマハン」と言わずに「アマハ」と言い切ったりする。その意味では、動詞と同じように語尾の「ン」が省略される傾向があります。

ここまでのまとめを簡単にしてみると、ハ行がパ行で発音されないことや、ダ行がラ行化する現象を見てみると分かるように、久米島方言は首里方言よりも那覇方言に近い特徴を持っていると言えます。首里方言ではこのような現象は起きていません。ただし真謝方言には嘉手苅方言と異なる現象がわずかに見られます。これはところどころですね。

なお、ダ行のラ行音化は嘉手苅方言に顕著であり、方言によってダ行もラ行も使用されています。ちなみに真謝方言のダ行音は、元のダ行を保っているのではなく、例えば共通語などの再獲得、あるいは首里方言などの影響も考えられるかと思います。

その次の3ページの上ですが、「ウン」とか「アン」がくっついて動詞とか形容詞を作っているという点においては那覇方言と共通ですが、細かい部分では、以下に述べるように久米島方言特有のものがああります。これは次に細かく見ていきたいと思っています。これから先、久米島方言の独特の特徴という話については、スライドにしてあります。前を注目してください。

久米島方言の独特の特徴

のどを詰める音ですけれども、首里方言では、「お前」と言うときは「ッヤー」のように、のどを詰める音があります。「家」は「ヤー」、「お前」は「ッヤー」です。こののどを詰める音によって意味を区別しているんですね。だから「ッヤーヤ」と言うと「お前は」、「ヤーヤ」と言うと「家は」という区別があるんです。

しかし、久米島方言ではこの区別がない。どっちも「ヤー」、「あなた」は「ヤルー」、「ヤール」とかいろいろあると思うんですが、目下には「ヤー」ですよ。「家」も「ヤー」。つまりのどを詰めることによって「お前」と「家」を区別するということはしてない。文脈や場面によって区別をしている。

これを地図化するとこんな感じです。区別があるところは銭田、真我里。つまり銭田、真我里の人たちはこの区別がある可能性があるということですね。「上」のことも多くの地域では「ウィー」というところ、銭田とか真我里は「ツイー」のように、のどを詰めているんです。

それから「サン」とか「ハン」という話をしました。例えば本島の中心的な方言の1つ「サン」を書いておきましたが、「ひもじい」は「ヤーサン」と言うところが多いんですが、久米島では「ヤーハン」となる地域があります。「泥棒」のことを「ヌスブ」と言う地域があるんですが、真謝方言では「ヌフル」と言いますね。

これから先、スライドを何枚かお見せしますが、単語によってこのサ行がハ行になる度合いが違います。「サン」が「ハン」になる地域は北東部とか東部にあります。終助詞の「サ」が「ハ」になる地域は久米島全域、それから「ムスブ」(盗人)が「ヌフル」になる、「ナスン」(産む)が「ナフン」になる地域は、真謝、宇根、泊、謝名堂という地域に限定されているわけですね。つまり単語によって「サン」が「ハン」になるという地域が非常に異なるわけです。

地図で見た方が分かりやすいです。久米島の北東部、このあたりでは、甘いを「アマハン」と言う地域。しかしこの青く塗っている地域は「アマサン」と言う地域。つまり久米島の中でもこんなふうに「ハン」と言う地域と「サン」と言う地域が違っているということです。これについて地図化したのがほかにも何枚かあります。この線の説明をしておきます。

これは間違えて髪の毛を置いたわけじゃありません。例えば「ハン」の地域、「サン」の地域というふうに、言葉の特徴の区別がある地域を分ける線ですね。これを等語線と呼びます。地図に線が出てきたら等語線と思ってください。似たような特徴をする地域ということで線を引いています。例えば「広い」を「ヒルハン」と言う地域はこの地域。何と先ほどは全然仲間に加わらなかった山城が仲間になっちゃった。「ヒルサン」と言う地域が青の地域。ということで、等語線も単語ごとにばらつきがあるというわけです。

最もばらつきが少ないのが、「ヒーサン」(寒い)。ちょうど今の時期、今日は暖かかったですが、「ヒーサン」と言う地域が多いんですが、上阿嘉と比屋定は「ヒーハン」と言うんですね。「ヒーサン」が多いですよ。でも「ヒーハン」と言うんですね。この地域の人たちは、より「ハン」が好きなんです。

今度は「泥棒」のことを「ヌフル」と言う地域です(第3章 図7参照)。これも「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」になまっています。「ヌスル」と言う地域と比べると、「ヌフル」になっている地域がある。この地域もまたこうやって限られてきて、さっき上阿嘉は変化していたのに、ここは変化しない。こういうことですね。

そして「舌」が面白いですね(第3章 図4参照)。「シバ」と言う地域と「スバ」と言う地域。北の方の2集落では「チャンパー」と言います。「べろ」のことを「チャンパー」。「チャンパー」と言う人、いない? いますか。あ、いますね。「チャンパー」の地域がありますね。「べろ」のことを「チャンパー」と言ったりします。ただし両語形があるので、「スバ」とも言うし、「チャンパー」とも言うらしいんですが、「シバ」とも言うし、「チャンパー」とも言う。「シバ」と言うところと「スバ」と言うところはこんなふうに違って、さっきまで仲間じゃなかった島尻、比嘉、謝名堂まで仲間に入ってきます。

「行くよー」とか言うときに、「イチユサ」と言うか、「イチユハ」と言うかによって地図を作ってみました。「イチユハ」と言う地域は、今度は北の方が多くなっていて、南の方が「イチユサ」を多く使うというふうに分かれちゃうんですね。このようにサ行がハ行になる現象は、単語ごととか、いろいろな言語事象ごとに分かれているということが分かると思います。ちなみに「ナスン」、「産む」を「ナフン」と言う地域はこんな感じですね。今度は山城が入ってくるわけです。北の方は、この「ナスン」は「ナスン」のままですね。

ですから、北の地域は北の地域とか、西の地域は西の地域とか、東は東、南は南、みたいなまとまりがあると地域間の交流だけで説明できるんですけど、実は地域間の交流以外のところで何らかの影響があるかもしれないわけです。

もう1つ面白い現象で、「する」という動詞は「スン」で、ス系統を使うんですが、さっきも紹介したように、嘉手苺方言では「スン」と言わずに「スー」とか「スッ」と言ったりします。「し

ない」は「ハッ」と言ったり「ハー」と伸ばしたりします。要するに「ハン」とか「サン」とか「スン」と言わないんですね。こういう現象は嘉手苺，大田，西銘，仲地，山里などにあると思われます。それを地図化したのがこの地図ですね（第3章 図11参照）。しないを「ハン」と言うところ，あるいは「ハ」と言うところがあるんですが，ちょうど「ハ」となるところがこのあたり，嘉手苺から山里のあたりまでですね。「サン」が「サッ」となる，要するに語尾の「ン」が抜けている地域ですね。

それから島を右と左，東と西に大きく分ける地図もできます。例えば「冬瓜」のことを「ツブイ」と言うか，「シブイ」と言うか（第3章 図3参照）。「ツブイ」と言う地域はこの地域。ここは銭田，真我里なので気にしないでいいと思うんです。那覇方言系ですからね。ちなみに「シュブイ」と言うところもちょっとあるんですね。こういうふうには，ぱかっと分かります。

同じような分かれ方をするのが，昨日のことを「キヌー」と言うか，「チヌー」と言うかという地図ですね。これはさっきの地図でいうと，ここが違います。ちょうど仲地とかこのあたりでしょう。だいぶ変わってきていますよ。

もっと複雑になる地図をお見せしようと思って作ったのが，この「唾（つば）」ですね（第3章 図12参照）。「唾」は「トゥPPER」，「トゥンパー」と言うところと「トゥンパイ」と言うところと「トゥンペー」と言うところと「トゥッパイ」というふうには，「トゥ」から始まる地域が赤で塗ってあるところ，それに対して「ツPPER」と言うのが1カ所だけ出てきていますね。「トゥ」から始まるところで「トゥヘー」と言うところもありますね。「トゥ」から始まるところと「ツ」から始まるところを地図では片仮名系と平仮名系というふうに分けているんですが，このように似た語形が似た地域に隣接していると，「つばを何て言うの」と聞けば，だいたい住んでいる地域がばれちゃう。「チンペイ」と言う地域が青の地域ですから，「チンペイ」と言う人たちはここだとすぐ分かるんですね。「トゥ〜」と言う地域は，こんなふうにはいろいろなバリエーションがあるわけですね。

「鎌」（第3章 図3参照）。道具になると，またさらに人々の交流がよく分かります。道具というのは人から人へと伝わっていくものなので，人々の交流がよく分かる地図になるんですけども，このように「イレラ」と言う地域が東側に非常に多くありますが，儀間と嘉手苺は「イレナ」，それからここは大田とかですかね，「イリナ」。それから「イラナ」という，沖縄本島と同じ形を使う仲泊とかあの辺です。それから「エレナ」。これは昨日，西銘でも「エレナ」とおっしゃっていました。一部，「エレラ」と言う地域が，ここは具志川ですかね。具志川か仲村渠の辺です。

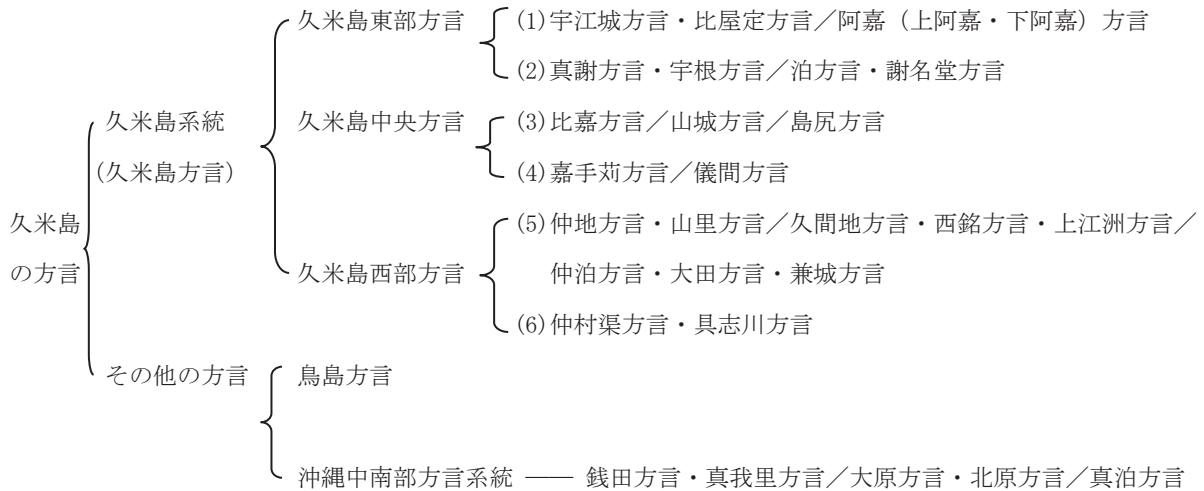
ということで，たくさん線を引いたんですが，この今までお見せした線を全部1枚の地図に落とし込むと，こんな線ができます。これも皆さんの資料の中に入れてあります。これを単純化すると，こんなふうには線が引けるのではないかということです。つまり1番から6番までの地域に分類できるんじゃないか，久米島方言はこんなふうには下位分類できないでしょうかという提案ですね。

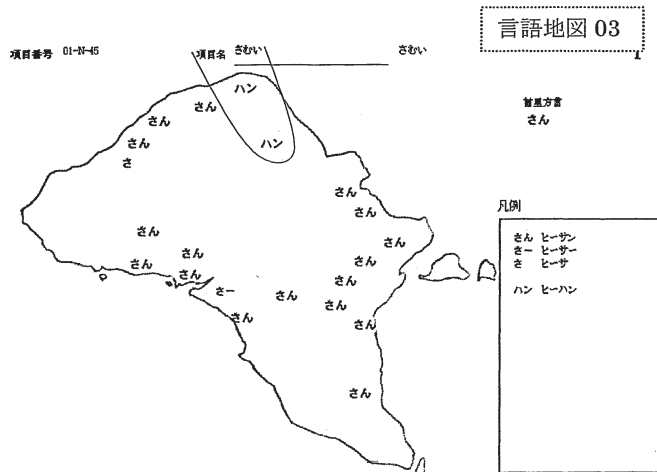
例えばこの1番の地域。ここから先はちょっとまゆつばで聞いてください。(1) 宇江城（ウエグスク），城（グスク）がある地域，その城下町。宇江城とか，比屋定とか，上阿嘉まで。(2) それから登部那覇（トンナハ）城がある宇根とか真謝，それからその隣にある泊，謝名堂，(3) 比嘉，山城まで，あるいは島尻までの地域。(4) それから伊敷索城（イシキナワグスク）がある，ちょうど今のこの場所ですが，儀間と嘉手苺。(5) それから港のある兼城，大田，仲泊，西銘。西銘は中心地ですからね。その港をがっちり押さえている。(6) それから具志川城のある，仲

地から仲村渠までの地域のあたりというのが結構近しいのかなと思います。

あとは北原とか大原は調べていませんから地図化していませんし、真泊も地図化していませんが、こういったものはその他という感じに分類できないかなということで、こういうふうの下位分類を考えてみたわけです。

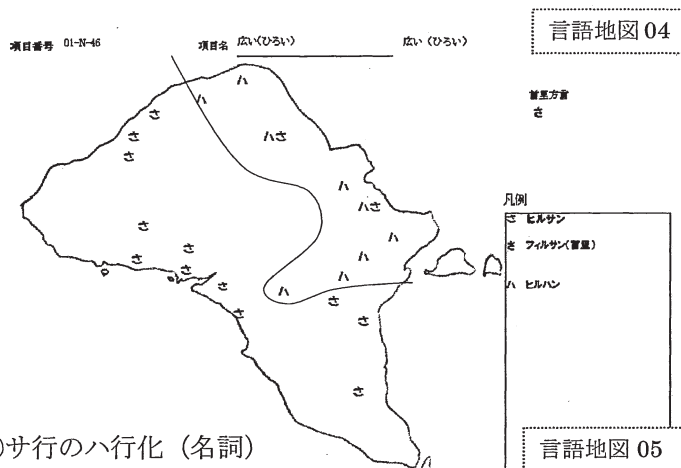
ということで、久米島方言の特徴と、それからどんな方言と近いのが久米島方言だという話、それから久米島方言を下位分類してみるとこんなふうになるんじゃないですかという提案までさせていただいて、今日の話をお閉じしたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)



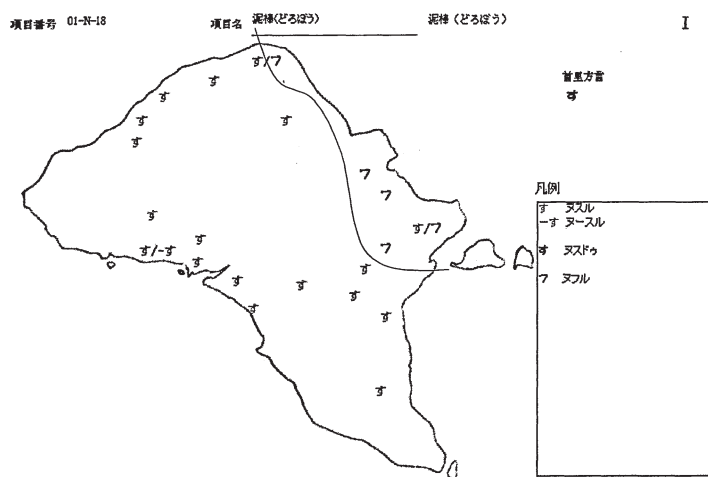


●「寒い」の言語地図

③サ行のハ行化が進んだ語例（形容詞語幹末尾「広い」）



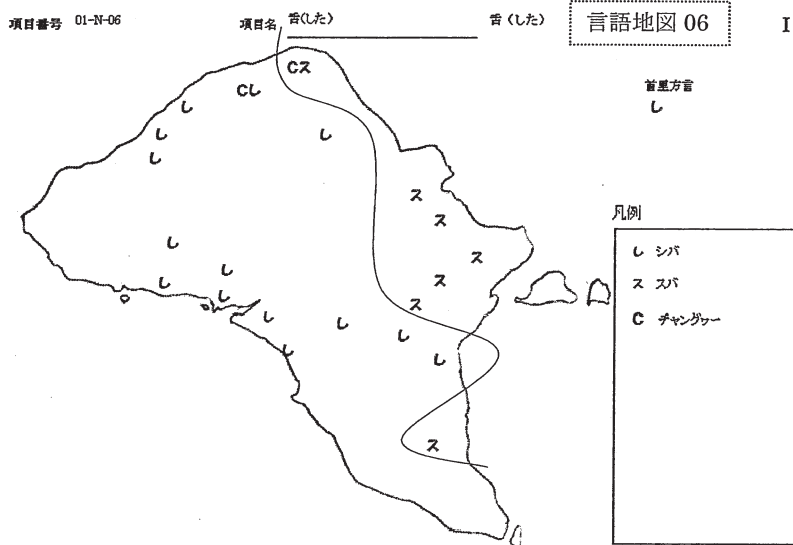
④サ行のハ行化（名詞）



●「泥棒(めすど)」の言語地図

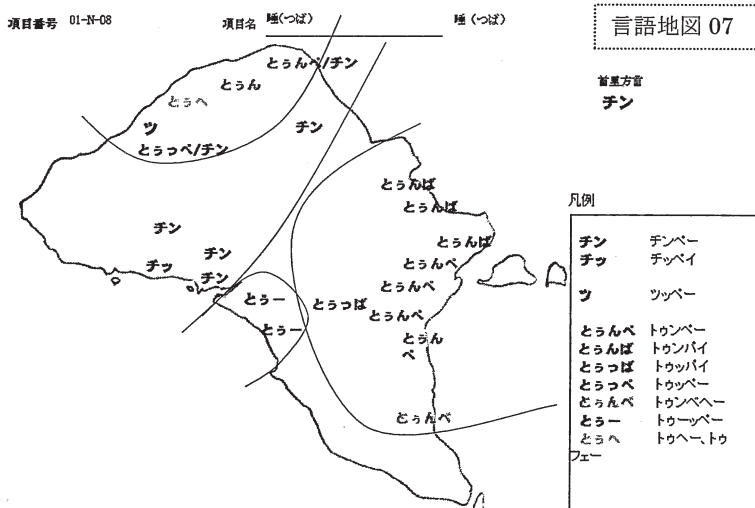
4.2 語彙的な違いによる言語区分

儀間と嘉手苺は隣り合わせの集落で、ジマ・カティカルなどと併称される集落です。真謝も隣の宇根とウチャム・マージャのうようにセットで呼ばれています。隣の集落との方言差で気になるのが、単語ごとの「差」です。ここでは、久米島のなかでも言語差がみられた言語地図を3枚挙げます。



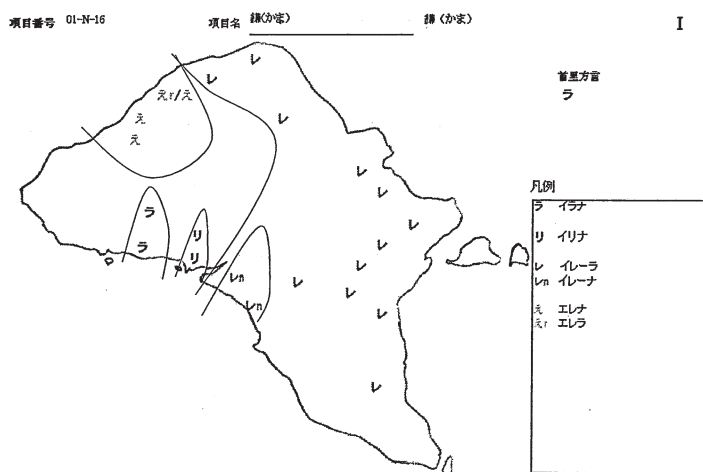
沖縄本島方言などで「シ」で発音される「シブイ(冬瓜)」が久米島では「シブイ」や「スブイ」で発音されます。その場合も、上に示した「舌」と同じく、久米島の西部では首里方言と同じ「シ～」になり、東部では「ス～」になります。なお、宇江城や比屋定で用いられている「チャングラー」は他の方言では聞くことができませんでした。この地域の人々の結び付きの強さを示す単語の一つでしょう。

●「舌」の言語地図



久米島方言のなかで、多くの語形を持つ単語の一つが「唾」です。真謝を含む久米島東部と北部地域では、語頭が「トウ」になる語形(トウンパイ、トウンペーなど)が多くみられます。儀間と嘉手苺は「トウツペー」という語形、久米島西部は「チンパー」を使っています。

●「唾(つば)」の言語地図



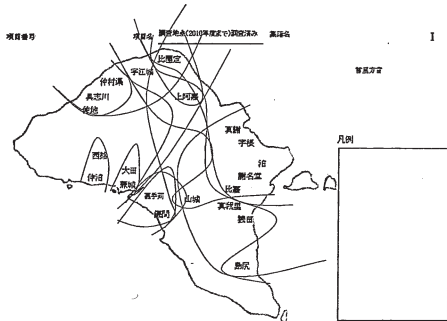
言語地図 08

最後に挙げたのは、生活必需品の「鎌」を示す地図です。自分で作ることでできない道具は、人から人へと受け渡され(買い求める、譲り渡すなど)、「もの」と「ことば」が一緒に伝わる可能性が高い単語の一つです。沖縄本島のやんばる方言や、西原方言でもそうですが、集落の結び付きがよくわかることがあります。上の地図の「イレーラ」は久米島の多くの集落で用いられています。それに比べて「イレーナ」は儀間・嘉手苺、「イリナ」は兼城・大田、「イラナ」は仲泊・西銘、「エレナ」や「エレラ」は仲地・具志川・仲村渠と、隣り合う集落で同じ語形を使っています。

●「鎌」の言語地図

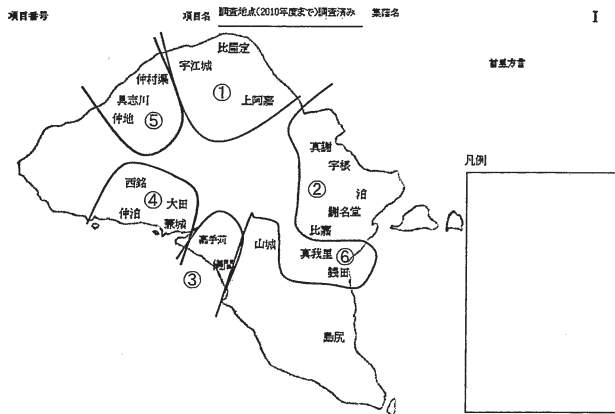
5. 等語線が示すものとは（まとめ）

これまで示した8枚の言語地図は久米島方言の特徴を示す重要な地図です。この8枚の言語地図に記した等語線を一枚の地図に重ねたものが以下の地図です。線が多く重なっている部分ほど隣の集落との「言語差」があることを示しています（※ただし、2011年までの調査結果のみ）。



左の地図の等語線の重なり具合により、久米島方言は①北側、②東側、③南側、④西側、⑤北西部、⑥その他、全部で六つのグループに分類できます。シンプルに線を引き直すと以下のようになります。

久米島方言の下位区分(等語線)



①北側（宇江城・比屋定・上阿嘉）

②東側（真謝・宇根・泊・謝名堂・比嘉・島尻・山城）

③南側（儀間・嘉手苅）

④西側（西銘・大田・兼城・仲泊）

⑤北西部（仲村渠・具志川・仲地）

⑥ その他（錢田・真我里）

① 北側と②東側は旧仲里村にゆかりのある

地域です。また、④西側と⑤北西部は旧具志川村にゆかりのある

地域です。やはり、間切時代から続く村（市町村）の区分は、言語にも大きな影響を与えています。特に比屋定と仲村渠との距離はやや離れており、人々の行動範囲にも影響を与えていたとも考えられます。このように、地理との関係も忘れてはならない情報です。ただし、単語によっては仲村渠や具志川が宇江城や比屋定と同じ特徴をもつものもあり、この区分も絶対ではありません。また、南の区分にも注意しなくてはなりません。嘉手苅と隣接する儀間は似た部分もあり、村落の分け目できれいに別れるわけではありません。人々の往来は集落内、となり通しの集落、村内の交流や小中学校の交流、高等学校の交流などさまざまです。

③のうち、嘉手苅は具志川間切の山城と交換された1744年までは仲里間切でした。沖縄本島中南部方言と北部方言との境界線に、読谷山間切と金武間切が関わっていたことは『名護市史 言語編』などに詳しく説明されていますが、この仲里間切と具志川間切の場合も、間切の境界線が言語の区分になる例の一つといえます。

また、さらに時代を遡って14-16世紀のグスク時代の久米島を重ねて考えてみると、①は中城城、②はトンナハ城、③はチナハ城、⑤が具志川城に比較的近い集落です。④は間切時代以降、具志川の中心地になりましたが、地理的にはやや傾斜地になっており、地形との関わりも関与しているかもしれません。

ただし、久米島の集落の多くは、もともとあったシマ（マキョ・クダ）から移動して現在の集落を形成しているため、今後は民俗学や歴史学などの成果などに学び、よりきめ細やかな分析が必要です。これについては今後の課題したいと思います。

2 「久米島のことばを語り継ぐこと」 當山奈那

(司会：木部) はい。どうもありがとうございました。それでは2番目の発表です。「久米島のことばを語り継ぐこと」という題で、琉球大学大学院博士後期課程の當山奈那さんをお願いします。

(當山) 初めまして。琉球大学の當山奈那と申します。那覇から来ました。よろしく申し上げます。今日は「久米島のことばを語り継ぐこと」というタイトルで、主に久米島紬の方言に見られる久米島の言葉の世界というものを見ていきたいと思えます。

私は5~6年前に琉大生みんなで久米島に方言調査をしに来たことがあります。そのときに私の2つ上の先輩、宮平飛鳥さんという方が久米島紬に関する調査をして、「久米島紬と方言」という卒業論文を書いています。これは、真謝を中心に、比屋定、宇江城で聞き取り調査を行って、久米島紬の作業工程、道具にかかわる語彙、および関連する民俗語彙を収集、記述したものです。具体的には、作業工程や、ムスングワー（織締め緋）の技法、久米島紬の模様など、さまざまな観点から久米島紬に関わる方言語彙の細かな記述を行っています。

この卒業論文は何年か前に本にして久米島役場の方に送ったので、もしかしたらどこかで見られるかもしれません。どこにあるのかちょっと分からないのですが、お送りしたのでどこかにあると思えます。ぜひご覧ください。

今日はこの先輩の論文から、久米島紬の方言語彙、そのうちの植物、動物、道具にかかわる語彙を取り上げて、久米島の文化と言葉の多様性とはどういうものかということについて具体的に考えてみたいと思えます。

言葉とはその土地の人間のアイデンティティーであるということ私達は直感的に知っていますが、それがどういうことかということ具体的に示す必要があるかと思えます。私は今日、言葉というものが人間の暮らしにどのように密接にかかわっているのかということ、この「久米島紬と方言」の論文を使わせてもらって、具体的な形で示してみたいと思えます。

これですけど、クレー ヌーチャンチョービーガ（これは なんというのでしょうか？）。これは久米島の多くの方言では「ムシグワー（蚕）」と言います。かわいいですね。このムシグワーにかかわる語彙ですけど、先輩の論文では300語彙くらい収集されています。こちらに映っている画像の文字は小さくて見えにくいと思えますが、例えばムシグワー自体を指す語彙には、ムシグワーとかウルジムシ（養蚕）があります。春に行う養蚕のことをウルジムシと言ったり、あるいはタネムシのことをサニムシと言います。また、養蚕に用いられる植物や、養蚕に用いられる道具、あとはムシグワー ニンジュン（蚕が 眠っている）とか、ムシグワー チカネーン（養蚕する）とか、ムシグワー フルイユン（蚕が 育つ）のように、作業工程に合わせていろいろな言い方、表現がたくさんあります。論文から抜き出してここにあげてみました。

そもそも、私の那覇の方言では、カイコのこと「カイグ」とか「イトウムシ」と言います。ですから、これを「ムシ（虫）」と表現するというのがとても面白いなと思っています。しかも、カイコの名前について、このようにたくさんの単語や表現の仕方がある地域は、私は沖縄島の中で結構いろいろな方言を調査させてもらっているのですが、これまで見たことがなかったので、すごく驚きました。久米島紬というものを通じて、カイコが久米島の人にとってとても身近で大切な存在だということが、このムシグワーという名前、愛称や表現の豊かさから伺い知ることができるのではないかなと思っています。

では、次は民具です。久米島紬の製作工程で、民具のミスガーミ（味噌がめ）を使うというものがありません。そういえば、「ミス（味噌）」といったら久米島は味噌づくりが盛んですよね。私も久米島のみそクッキーがすごく好きです、那覇でも売られているのでよく買うのですけれども。今は使用しているか分からないのですけれど、このミスガーミを久米島では紬の作業工程で使用していたそうですね。どういう作業で使用したかという、繭を広げて真綿にする工程で用いられたということです。

ミスガーミの縁を利用して、広げた繭をいくつか重ねて袋状の形に引き伸ばしました。さらにこのミスガーミを利用して作った袋状の真綿を、特に「チュボマヌ（壺真綿）」、つぼの真綿と呼んでいるそうです。真綿を袋状に引き伸ばすという製法はすごく古い方法だというふうに先輩の論文では指摘されていました。

暮らしの中では身近にあるミスガーミを久米島紬の工程で用いているというところがすごく面白いと思うと同時に、なぜミスガーミの口を使う必要があったかということにはちょっと不思議です。ミスガーミの形から考えると、湿気を防いだり、何か味噌にとって悪い菌とかが入らないように、この口が小さいということが重要だったと思います。ミスガーミに酒を入れたらサケガーミ（酒がめ）になってしまうのですけれど。この口が小さいというミスガーミの特徴が、チュボマヌを作るのに適していたのかなと思いました。でも、よく分からないので、皆さんに教えてほしいです。

次は植物ですね。これはヤブツバキ、「カタシ（ヤブツバキ）」と言うとのこと。これが久米島紬を作る過程でどのように使われるかという、実から油を絞ったものをカタシヌ アンダ（ツバキの油）と言って、ウムカシ（芋かす）と混ぜて久米島紬ののり付けの作業に用いたということです。

このカタシはもちろん久米島紬だけに用いたわけではなくて、カタシヌ アンダ（ツバキの油）は、料理や髪を洗うのにも用いられたとありました。さらにそれだけじゃないのです。あと1つ、ササ（魚毒）としての利用があります。これは油を取った後のカタシのかすを陰干しして乾燥させてから使います。これを袋に入れて、海水なのか、潮だまりなのかちょっとよく分からなかったのですけれど、その中で袋を振ると、魚が気絶しているのか、死んでいるのか、とにかく魚が浮いてくるのでそれを捕まえたらしいです。

私はこれを聞いて、また面白いなと思ったところがあります。沖縄におけるササの方言語彙はすごくバリエーションがあるのですよ。植物をササ、すなわち魚毒として利用することと、ササというこの語形自体は、沖縄島の多くの集落でも共通して現れています。でもどの植物のどの部位をササとして利用するかは集落によってかなり違います。バリエーションが豊富なのです。

例えば、私がいる那覇ではキリンソウの茎から出てくる液、読谷村の長浜ではサガリバナの葉、国頭村の奥ではイジュの木の花の皮、恩納村の恩納ではルリハコベ、名護市の汀間ではヤエムグラの草と伺っています。こんなに違いがあるのですね。

これがどういうことかというのをちょっと考えてみたのですけれど、こういうササという1つのものを取り上げて、その利用、どの植物のどの部位をどのようにどこで利用するのかという在り方を見たときに、沖縄の中でもかなりのバリエーションがあることが分かります。こういうことは、沖縄において生物と人間とのかかわり方の多様性が反映されているとても分かりやすい例だと言えます。

ちなみに、ここで、私が言う多様性というのは、ササのように、何か1つを取り上げて、たくさんの地点から観察してみたときに、広い地域でバリエーション豊かな、全部違うというような

バリエーションがあるという意味です。さっきの仲原穰先生の「唾」の方言のバリエーションと同じです。久米島の中でも「唾」の方言に地域ごとのバリエーションがあるように、ササを使う植物、それから利用の仕方に関しても、久米島や沖縄、あるいは、広い地域でたくさんのバリエーションがあるというすごく面白いことが見えてきました。

あと、不思議に思った研究者の方々がいるかなと思ってちょっと作ってみたのですが、なぜ植物を使うと、魚が浮いてくるのかということなんです。私もちょっと不思議に思って、話者の方たちからお話を伺ってみました。そうすると、「酔わせる」とか、「しびれさせる」とか、「このイジュの粉がえらに掛かって魚が呼吸できなくなって浮いてくるのだ」と言う方もいたんですね。えらにイジュの粉が掛かって魚が呼吸できなくなるというような物理的な原因なのか、それともイジュとか、キリンソウとか、ツバキのような植物に含まれる何らかの成分が魚にとってあまりよくないもので、それで魚が浮いてきちゃうのかな、どっちなのだろう、というのが気になりました。知り合いの生物の先生が論文を探してくれたようなのですが、実はあまりこういう、どうして浮いてくるのかのような、この植物の成分はいったい何かというような実験や研究はされていないようで、よく分かりませんでした。何ですかね。何か不思議ですよ。

あと、もう1つまた違う多様性の在り方を見るのに、ユウナという植物を見てみたいと思います。これは久米島紬を染めるときに利用するものですよ。幹を炭にして久米島紬の染料として用います。この写真がユウナの染料で染めたものです。

ユウナで染色することを「グズミ」と言います。また、ユウナにも、いろいろな部位をいろいろなことに利用したよという話を私は伺っています。例えば、ユウナの葉は緑肥に使ったとか、この葉の毛、「ハーヌ キー（葉の毛）」も、久米島紬では繭から糸口を探すのに利用したということです。ユウナの葉の裏は繊毛がびっしり生えているんですよ。これで繭をなでると糸口がそこにくっついてきて、こう伸ばして繭を紡ぐ。今日、私は久米島紬のユイマール会館の方に行ってきたんですけど、ビデオでユウナの葉を使って糸口を探している映像があったので、それを見て、あ、本当だ、ユウナを使っていると思って、ちょっとうれしかったです。ほかにもユウナの木の皮を、馬のムゲー（おもがい）を作るときに使ったという話もありました。

ここまでは久米島の話ですけど、私がちょっと皆さんにおたずねしたいのは、沖縄のほかの地域ではこの葉をトイレットペーパー代わりにして用いたよという話があったんです。那覇、うちのおじいちゃん、おばあちゃんとかはそんな感じだったんですよ。そのことについてですが、私は、表と裏のどっちを使うのだろうと気になったことがあって、琉大の民俗の先生に飲み会のときに聞いてみたことがあるんですよ。先生、これ、表と裏、どっちを使うのですか？毛が生えている方ですか？生えてない方ですか？と聞いたことがあって、そうしたら先生に、當山さん、自分で試してみなさいと言われたんですよ（笑）。私の家の周りにユウナがなかったので、探して使ってみました。私は裏かなと思ったんですけど、皆さん、どっちを使用したのか教えてください。

じゃあ、トイレットペーパー代わりにユウナの葉は使ったんですね。そうなんですよ。やっぱりユウナの木は必ずおうちにあるんですね。あとは旧盆のときにユウナの葉を仏壇に供えたという話とか、花も使って遊んだりするという話も聞いています。旧盆のときに仏壇に供える話は聞いたことはないですか？そういうば、旧盆のときに何を供えたかということなのですが、今はリンゴとか、バナナとか、パイナップルを置いているんですけど、よく考えたら、昔はそんなも

のはありませんよね。昔はアダンとか植物を供えていたんだよと聞いて、ああ、それもそうか、昔はパイナップルがあるはずがないと私はやっと気づいたのですけれど。

集落ごとに供えるものとか、何をどうやって供えたかは家々でもすごく違いがあつて、しかも何を供えていたかというのを調べようとしたときに、地域の方達にとっては当たり前のことすぎて、意外とどの本にも書かれていないのですよ。若い人はこういうことはわからないのですけれど。知りたいけど分からないという状況ですね。こういう皆さんにとって当たり前のことも私たちにはわからない、すごく大切なことだと思うので、ぜひ教えていただきたいです。

ユウナもとても身近な植物の1つです。必ず家に生えているような植物です。ユウナという1つの植物を取り上げても、利用の仕方がたくさんあるということが分かります。葉の繊毛、皮、幹、花など、あらゆる部位を利用しています。その利用目的も、染料とか、馬具とか、日常用品、遊び、緑肥、行事など、幅広いものなのではないかと思いました。このようなユウナという1つのものを取り上げて、いろいろな側面や要素、部分をさまざまなことに利用することは、多様性の世界のあらわれであると言えるのではないかと思います。さっきはササを取り上げて、広い範囲で見たらそれぞれ違いがあるという多様性でしたが、こっちはユウナというもの1つの中にいろいろな使い方という多様性があるという、さっきとは、ちょっと違う多様性ですね。

ここからまとめです。この久米島紬の工程で用いられた用具、それから植物や動物は、そのすべてが久米島紬のみに使用されているわけではないことを今までみてきました。生活に身近なものを使用すること。生活の一部としての久米島紬の存在がみえてきました。

久米島の紬には、貢納布制度という過酷な時代や戦争などを乗り越えて、産業として発展させた経緯があるかと思えます。ムシグラー、ミスガーミ、ユウナのように、生活の身近にあるものを利用してきた久米島紬には久米島の人々の暮らしが染め上げられ、織り上げられています。それが今日まで受け継がれてきたということです。それと同じように、地域の言葉、すなわち方言とは、その土地の人々の生活のありさまが、長い年月をかけて焼き付けられたものであるといえます。

久米島の方言を含めて琉球諸語のすべてが、書き言葉ではなく話し言葉であるという問題点があります。文字伝達ではなく、口承による知識の伝達のシステム。文字は残るものですが、言葉は発した瞬間に消えてしまうものです。特に今、お話したような植物や動物、民具をどのように利用したかという知識は、それを知っているおじいちゃんおばあちゃんが亡くなったときに一緒になくなってしまふものです。私たちが後で訪ねていっても、話に聞いたことはあるけれど、もう誰も知らないよというふうになってしまいます。現にそのようなことを調査に行つて言われることは多いのです。地域によって、あるいは地域ごとに、幅広い地域で、地域自体に多様な伝統言語と伝統知の記録や保存は緊急の課題であると考えます。

今は記録と保存の話でしたけど、継承にまつわる問題もちよつと考えてみます。今私は多様性という言葉は何度も使つたのですけれど、このような多様である琉球諸語や文化の在り方というもの、地域の子供たちが、「みんな違っているけど、いいことなんだよ」というような多様性を理解し互いを尊重し合うことを学んでいくために、久米島や沖縄はとてもいい場所、学んでいくのにとてもいい場所であると思えます。たくさんある、みんな違う、でもそれが面白くて素敵なことなんだよという大切なことを、久米島方言を学んでいくなかで子供たちに教えていくことができるのではないかと思います。

私は今回久米島に来るときに飛行機を利用したのですけれど、飛行機で、今日は私たちの飛行機を利用してありがとうございました、ニフェーデービタンというような首里那覇方言をアナウ

ンスしていました。あれはとても面白いなと思いました。とてもいい取り組みだなと思います。

でも、今回、私が久米島を調査して思ったことは、さっきの穰先生の話でありましたように、久米島の中でもこんなに違いがたくさんあって、沖縄の中でも違いがたくさんあるのに、それを「ウチナーグチ」、「シマクトゥバ」という言葉でくくって、結果として、首里那覇の誰が話しているのか見えてこないような言葉を推奨していくような取り組みは、特に久米島の方言事情をふまえたときに違和感がみえてきたのですが、慎重にならなければいけないかなと思いました。

飛行機のアナウンスの取り組みはすごく面白いと思うのですが、久米島路線ですから、例えば、今日は嘉手苺の方言でとか、今日は山城の方言でアナウンスしますとか、日ごとに変えてやったらすごく面白いし、みんなも、えっ、何、今日は山城の方言ってどういうこと？という感じで、観光客の人もびっくりしておもしろいかなと思いました。今行われているような、話者の顔もよくみえてこないウチナーグチを、第2の標準語であるかのように周辺の地域の方や生徒とか子供たちに押し付けるというか、そのようなことを無自覚にやっていくのはちょっと考えなければいけない問題なのではないかと、私はこの久米島の調査を通じて話者の皆様から教えられ、考えさせられるきっかけになりました。今後の課題にしていきたいと思います。

私の発表は以上です。ありがとうございました。(拍手)

3 「この島の宝」 吉田怜愛

(司会：木部) では、ディスカッションに入る前に、実は飛び入りがありました。明日、大分県でスピーチ大会があるんだそうですが、そこで久米島高校2年生の吉田怜愛さんが「この島の宝」というスピーチをなさるので、今日ここでお話をさせていただくことになりました。怜愛さん、よろしくをお願いします。

(吉田) このような大きな場ですごく緊張しているんですけど、発表させていただけるということで、本当にありがとうございます。

<歌う>

(吉田) 「イチャタルヤチョーデーグワー、イチャタルヤドゥシーグワー(行逢たるや兄弟小、行逢たるや友小)」。

「一度会えば皆兄弟、何の隔てがあろうか。語り合おうではないか」。この曲は沖縄の伝統的な民謡「兄弟小節(チョーデーグワブシ)」です。このように、民謡には教訓や人の情け、生活の知恵が盛り込まれていたため、多くのウチナンチュから愛されていました。いわば民謡は沖縄の心だったのです。民謡は子守歌にも、畑仕事のお供にも、家事の合間に一息入れるときも、子供を戒めるためにも大活躍だったといえます。

私はよく祖母に面倒を見てもらいましたが、瓦屋根のその家では、いつもラジオから民謡が流れていたのを覚えています。それをBGMに、おばあがしまくとうばで昔語りをして寝かしつけてくれる午後のひとときが大好きでした。その音色はいつしか私の体にも染み付いていました。

ところが現在、日常的に民謡を耳にすることはほとんどありません。ラジオから民謡が流れることは少なくなり、家でしまくとうばが交わされることはめったになくなりました。沖縄の心だった民謡は、長い年月を経て消え去りつつあるのです。

私は地域の三線教室で民謡を習っています。そこで気付いたのが、中高生で伝統文化を習っていることが恥ずかしいと考える人が多いということです。実際、習い始めたころは私もそう思っていました。民謡ははやりの曲と違って、テンポは遅いし、何か古くさくてかっこ悪いというのが当初の印象でした。

しかし練習していくにつれ、民謡のよさが分かってきました。表面的なものではなく、情に訴え掛ける歌詞の深さや温かみ、心に安らぎや力を与えるメロディー。私たちが忙しい現代を過ごしていく中で忘れていったものが、歌からにじみ出ていました。だからこそ昔を知る人は民謡を忘れられないのでしょう。

最近、老人ホームへ慰問公演に行きました。そこにいるおじい、おばあちは、ほとんどが車いすで、中にはぼーっと虚空を見つめているような人もいました。しかし私たちが三線を弾き民謡を歌うと、しっかりと焦点を合わせて歌に聴き入ってくれました。カチャーシーでは両手を上に上げてリズムに乗ってくれ、車いすのおじいさんが立ち上がって、よたよたと歩きながら一緒に踊ることもありました。歩けないはずなのにとスタッフの方が驚いていたほどです。昔から生活の一部だった民謡は、彼らの活力となっていたのです。地元で根付く文化の力を感じました。

中学3年生の夏、私はアメリカへホームステイに行きました。そこで聞こえる会話はすべて英語。方言どころか日本語にすら触れることのできない毎日。私は少しホームシックにかかっていました。

そんなとき、ふと思い出して沖縄から持ってきた三線を鳴らしてみました。アイ、シー、コー、と鳴ったときの、あの涙の出るようなうれしさは忘れられません。弾きながら歌っていると、ファミリーが集まってきました。これは何、と尋ねる彼らに三線について説明すると、ワオ、とすごく感心していたことを覚えています。

アメリカは多民族国家故に地域独自の文化というものが少ないといえます。彼らがあまりにも褒めるので、思わず、そんなすごいものでもないよと謙遜すると、逆に、何を言っているのとしられました。自分の故郷にあなたが誇りを持たないと、誰が文化を守ってくれるの、という言葉は私の胸に染みしました。そこには民謡が古くさくてかっこ悪いという考えはまったく感じられませんでした。周りに流されていつの間にかつくられていた民謡への偏見が消え去っていった瞬間でした。

民謡はウチナーンチュの誇り。沖縄の歴史の結晶。そして文化はこの島の宝なのです。現在、沖縄で民謡が消え去りつつあるのと同じように、しまくとぅばの話者が少ないことが危惧されています。確かに私の年代でしまくとぅばを流ちょうに話せる人はあまりいません。このままではしまくとぅばが消えてしまうのも時間の問題。

私は、その打開策となり得るのが民謡だと考えます。沖縄の民謡はすべてしまくとぅばなので、民謡を歌えば自然にしまくとぅばを話すことになるからです。そうすればしまくとぅばはずっと生き続けるでしょう。

地元の文化の大切さは、故郷を離れてみないと分からないものなのかもしれません。しかし、ようやく気付いたときに、もう廃れてしまっていては意味がないのです。私は後悔しないためにも民謡を歌い続けます。伝え続けます。まずは沖縄に、日本に、そして世界まで。この広い世界に1つ、沖縄という小さな地域にしかない尊い文化、民謡。多くの人にその素晴らしさ、大切さを知ってほしいです。いつかこの沖縄に民謡の歌声があふれるその日を願って。ありがとうございました。(拍手)

(木部) はい。素晴らしい。どうもありがとうございました。明日、頑張ってくださいね。

(吉田) ありがとうございます。(拍手)

(木部) はい。素晴らしかったと思います。今日、今の怜愛さんのスピーチ、ぜひお孫さんの世代に、やっぱり方言で語り掛けてほしいよね。ですから、ぜひ年配の方が高校生に、あるいは小学生にもっと方言で語り掛けていただき、島言葉で語り掛けていただきたいと本当に思いました。どうもありがとうございました。

国立国語研究所共同研究
消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究
久米島方言調査報告書

2017年3月31日発行

編集 木部暢子（国立国語研究所言語変異研究領域）


発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4538（木部研究室）

<http://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/institute/endangered-languages/>

©国立国語研究所



**General Study for Research and Conservation of
Endangered Dialects in Japan
Research Report on Kumejima Dialect**

**Edited by
KIBE Nobuko
March 2017**